

平成 29 年度 医療科学部 学生活・学修実態調査結果報告書



藤田保健衛生大学 I R 推進センター
医療科学部 I R 分室

平成 29 年 10 月 31 日

「平成 29 年度 藤田保健衛生大学 学生生活・学修実態調査」の実施について

この調査は、医療職を目指している本学の学生の皆さんとの日常生活の状況や学修状況に関して、学部又は学科ごとに選定した学年の方々に実施するものです。調査の目的は、皆さんのが将来、医療職の professional になるための基礎づくりとして、学生生活や学修状況等について全 36 項目により実態を把握し、本学のカリキュラム等教育に関する問題を検討する資料とするものです。また、36 項目のアンケートに統いて、以下の設問により、学生の皆さんから本学に対する率直なご意見等も併せて頂きたく思います。

本調査への参加は強制ではありません。また、参加・不参加は成績等の評価に影響することもありません。いずれも無記名で、回答用紙及び本書の提出をもって参加の同意とさせていただきます。提出いただいた回答並びにご意見等は、本調査の目的以外に使用することはありませんので、皆さんのご協力をお願いいたします。

平成 29 年 7 月 1 日

藤田保健衛生大学
学長 星長清隆

「平成 29 年度 藤田保健衛生大学 学生生活・学修実態調査」の分析について

本学の教育目標を達成するため、教育及び学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田保健衛生大学 I R (Institutional Research) 推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部 I R 分室では、I R 推進センターが実施した H29 年度の学生アンケート（学生生活・学修実態調査）結果について報告いたします。

平成 29 年 10 月 31 日

藤田保健衛生大学学長

星長清隆

藤田保健衛生大学副学長・医療科学部長

金田嘉清

I R 推進センター長

濱子二治

I R 推進センター

山田晃司、鈴木康司、西村里佳、近藤宏美

平成 29 年度 藤田保健衛生大学 I R 推進センター・医療科学部 I R 分室メンバー

濱子二治、山田晃司、鈴木康司、世古留美、寺本篤司、

田辺茂雄、日比谷 信、武藤晃一、西村里佳

アンケート 内容

【基本属性】

(F 1) 所属は

- 1. 医学部医学科 2. 医療科学部臨床検査学科 3. 医療科学部看護学科 4. 医療科学部放射線学科
- 5. 医療科学部リハビリテーション学科 理学療法専攻 6. 医療科学部リハビリテーション学科 作業療法専攻
- 7. 医療科学部臨床工学科 8. 医療科学部医療経営情報学科 9. 看護専門学校

(F 2) 学年は

- 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 5年生 6. 6年生

(F 3) 本年度（※来年の3月末時点：平成28年3月31日時点）の満年齢は

[] 歳

(F 4) 性別は

- 1. 男 2. 女

【大学（又は看護専門学校）全体について】

(1) 大学（又は看護専門学校）の入学方法は（1つ選んでください）

- 1. 推薦 2. 一般 3. センター試験利用（大学のみ）

(2) 希望の大学（又は看護専門学校）へ入学できましたか（1つ選んでください）

- 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない

(3) 授業の出席状況について（1つ選んでください）

- 1. よく出席する（出席率98%以上） 2. 出席する方である（出席率90%以上）
- 3. どちらともいえない（出席率80%程度） 4. あまり出席しない（出席率70%程度）
- 5. ほとんど出席しない（無資格科目が散見）

(4) 学生生活の充実度について・・・学習面では（1つ選んでください）

- 1. 大変充実している 2. 充実している 3. 普通 4. あまり充実していない 5. 全く充実していない

(5) 学生生活の充実度について・・・クラブ活動や学外での活動などの面では（1つ選んでください）

- 1. 大変充実している 2. 充実している 3. 普通 4. あまり充実していない 5. 全く充実していない

(6) 総合的にみて学生生活に満足していますか（1つ選んでください）

- 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない

【通学について】

(7) 通学の住居について（1つ選んでください）

- 1. 自宅から通学 2. 自宅外（下宿）から通学 3. その他（具体的に記述してください）

(8) 通学手段は何ですか（複数選択可）

- 1. 公共交通機関（バス・電車等） 2. 自転車 3. 単車（バイク） 4. 自動車 5. 徒歩
- 6. その他（ ）※自動車での送り迎えなどがあれば記述してください

(9) 通学の所要時間（片道）について（1つ選んでください）

- 1. 20分以内 2. 30～45分程度 3. 1時間程度 4. 1時間半程度 5. 2時間（以上）

【経済面について】

(10) あなたの1か月の趣味や娯楽費等に掛ける費用はいくらですか（1つ選んでください）

1. 10,000円未満 2. 10,000～20,000円未満 3. 20,000～30,000円未満 4. 30,000～40,000円未満
5. 40,000～50,000円未満 6. 50,000～100,000円未満 7. 100,000円以上

(11) 奨学金を受けていますか（複数回答可）

1. 受けていない 2. 日本学生支援機構の奨学金を受けている 3. 地方公共団体の奨学金を受けている
4. 民間育英団体等の奨学金を受けている 5. その他（具体的に記述してください）

【アルバイトについて】

(12) 現在の学生生活におけるアルバイト経験の有無と目的について

（「ある」と回答した場合は最も多い理由を2～8から1つ選んでください）

ない→1. していない（したことがない）

ある→2. 学費を得るため

3. 生活費・教養費を得るため
4. クラブ活動費を得るため
5. 旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため
6. 耐久消費財（電化用品、家具など）を購入するため
7. 貯金をするため
8. その他（具体的に記述して下さい）

※注：(12) で「ある」を回答した人への設問（2～8を選択した人のみ回答）

(13) アルバイトは1週間に何日しますか（していましたか）1つ選んでください

1. 7日（毎日） 2. 5～6日 3. 3～4日 4. 1～2日 5. ごくたまに

※注：(12) で「ある」を回答した人への設問（2～8を選択した人のみ回答）

(14) アルバイトをしている（したことがある）と答えた人で主に一日あたり何時間していますか（していましたか）1つ選んでください

1. 2時間未満 2. 2～3時間未満 3. 3～4時間未満 4. 4～5時間未満 5. 5～6時間未満 6. 6時間以上

(15) アルバイトの主な職種を1つ選んでください

1. フード・飲食 2. 各種販売 3. アミューズメント 4. 事務・デスクワーク 5. 警備・清掃・土木・建築
6. 製造系作業員 7. 医療・介護・福祉 8. 教育（家庭教師・塾講師等） 9. その他（具体的に記述してください）

【クラブ活動/ボランティア活動等について】

(16) あなたはクラブ活動に参加していますか（1つ選んでください）

1. 一つのクラブ活動に参加している 2. 複数のクラブ活動に参加している 3. 参加していない

※注：(16) で「1又は2」と回答した人のみ記入してください

(17) あなたがクラブ活動に参加した理由やきっかけは何ですか（複数回答可）

1. 活動が楽しそう 2. 他学の学生と交流をもちたい 3. 友人に誘われて 4. 友人との交流をもちたい
6. 学内で誘われて何となく 7. 活動が自由 8. その他（具体的に記述してください）

※注：(16) で「3」と回答した人のみ記入してください

(18) クラブ活動に参加しない主な理由を1つ選んでください

1. 勉学に打ち込むため
2. 集団や他人に拘束されるのがいやだから
3. 自分の関心にあうものがないから
4. 通学に時間をとられるため
5. 上下の人間関係がいやだから
6. 費用がかかり過ぎるから
7. アルバイトのため時間がない
8. 自分のやりたいことを自由にしたいから
9. その他（具体的に記述してください）

(19) ボランティア活動（学内美化、社会奉仕、親切運動、福祉活動等の無償の奉仕）をしたことがありますか（1つ選んでください）

1. 定期的に活動している
2. 不定期に（ときどき）活動している
3. 活動したいがチャンス、時間的余裕がない
4. ボランティアには関心がない

【学習及び学校生活について】

(20) 1日の平均予習時間はどれくらいですか（1つ選んでください）

1. ほとんどなし
2. 1時間未満
3. 約1時間
4. 約2時間
5. 約3時間
6. 約4時間
7. 4時間以上

(21) 1日の平均復習時間（課題・レポート等の作成時間を含む）はどれくらいですか（1つ選んでください）

1. ほとんどなし
2. 1時間未満
3. 約1時間
4. 約2時間
5. 約3時間
6. 約4時間
7. 4時間以上

(22) 自主学習をする場所について学習することが最も多い場所はどこですか（1つ選んでください）

1. 自宅
2. 学内
3. 友達の家
4. ファストフード店
5. ファミリーレストラン
6. その他（具体的に記述してください）

(23) 自主学習の方法について最もよく行う学習方法は何ですか（1つ選んでください）

1. 自分のノートを中心に学習
2. 講義用教材を中心に学習
3. 教科書・参考書を中心に学習
4. 同級生、先輩が作った資料を中心に学習
5. 視聴覚教材を利用
6. インターネットを利用

(24) 誰と一緒に学習していますか（1つ選んでください）

1. 1人の時が多い
2. 友人達との時が多い
3. 教員と一緒に時が多い

(25) 講義・実習には満足していますか（1つ選んでください）

1. 全般的に満足している
2. 満足しているものが多い
3. 不満であるものが多い
4. 全般的に不満

(26) 教育面や制度面で不十分であると感じることはどのようなことですか。あてはまる番号を3つ選んでください。

1. カリキュラム
2. 時間割
3. 資格取得講座（対策授業）
4. 就職等サポート
5. 奨学金等経済的支援
6. 国際交流
7. 課外活動支援
8. 学友会組織
9. ボランティア活動支援
10. その他（具体的に記述してください）

(27) キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいのはどれですか。あてはまる番号を3つ選んでください。

1. 教室
2. 図書館
3. 情報系教室
4. 体育館
5. 食堂
6. 駐輪場（自転車置場）
7. 駐車場
8. 学生ホール・ラウンジ
9. その他（具体的に記述してください）

(28) 大学（又は看護専門学校）に対して要望したいことや期待することは何ですか（優先順位の高い順に3つ選択してください）

1. 優秀な教師がそろっていること
2. 教室の設備など現在の施設・設備の改善
3. 図書館の充実と整備
4. 運動施設の充実と整備
5. 課外活動の設備の充実と整備

6. 食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実
7. 資格取得講座（対策授業）の充実
8. 奨学金の新設や増額
9. 学内において「いこいの場」を増すこと
10. 学生自治活動（学友会組織）の尊重
11. 期待することは何もない
12. その他（具体的に記述してください）

【健康について】

- (29) 平均睡眠時間はどれくらいですか（1つ選んでください）
1. 10時間以上 2. 約8時間 3. 約7時間 4. 約6時間 5. 約5時間 6. 約4時間 7. 4時間未満
- (30) 食事は主にどのようにして摂っていますか（朝食・昼食・夕食それぞれについて1つ選んでください）
- 朝食（ ） 昼食（ ） 夕食（ ）
1. 自宅・下宿での自炊 2. 持参した弁当やおにぎり 3. 学内の食堂 4. 学外の飲食店等
5. 店舗（コンビニやファーストフード等）で弁当等購入 6. 残り食はない 7. その他（具体的に記述してください）

【その他】

- (31) 現在何か悩みごとを持ってていますか（複数回答可）
1. 金銭面 2. 学習面 3. クラブ関係 4. 健康上の問題 5. 性格や能力について
6. 就職・将来の進路 7. 友人関係 8. 異性問題 9. 性の問題 10. 家庭の問題 11. 特に悩んでいない
12. その他（具体的に記述してください）
- (32) 学生生活上の悩みや不安、困ったときに相談し易いのはどなたですか（複数回答可）
1. 親 2. 兄弟 3. 同級生 4. 先輩・後輩 5. 学外の友人 6. 恋人 7. 教員
8. 職員 9. 保健室（カウンセラー含む） 10. 特に相談相手がない 11. その他（具体的に記述してください）

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

I 学生生活・学修実態調査結果報告の分析

1. 学生生活・学修実態調査報告の総括及び考察

臨床検査学科は「臨床検査」、看護学科は「看護」、放射線学科は「放射」、リハビリテーション学科理学療法専攻は「リハ・理学」、リハビリテーション学科作業療法専攻は「リハ・作業」、臨床工学科は「臨床工学」、医療経営情報学科は「医療経営」と略しています。

＜医療科学部・学生生活・学習調査報告書の6学科 7 専攻の総括＞

臨床検査	<p>希望の大学に入学できたと回答した学生の割合は学部内で最も低かったことから、高校時代は国公立を第一希望として目指していた等、本大学が第1希望ではないが、入学後は気持ちを切り替えて大学生活を送っている学生が多いと考えられる。通学時間が2時間以上かかる学生の割合が学部平均より高く、地元ではあるが遠方から通学している学生が多い傾向があった。朝食には持参した弁当やおにぎりを食べる学生の割合が多いのも、遠方から通う学生が多いためと思われる。アルバイトは約90%の学生が行っているものの、その半数は週1~2回、4~6時間程度のアルバイトであった。ほとんどの学生は学業に影響を与えない程度にアルバイトを行うよう心掛けていることが推察された。</p> <p>大学生活に満足していない理由について、大きく2つの要因があった。ひとつは、設備等に関する不満である。学生ホール等のアメニティ関連および図書館や食堂等に関する要望については、大学全体として引き続き改善策を考えていく必要がある。もうひとつは、時間割やカリキュラムに対する不満である。今年度2年生から抜本的な見直しを行った新カリキュラムとなっており、時間割のスリム化も行った。しかし時間割やカリキュラムに対する意見は依然多い。学習面に不安を持つ学生が多くいる反面、予習・復習をしっかり行う学生は少ない。臨床検査技師養成のための時間割は広範な医療の知識・技術を習得しなければならず、必然的に講義・実習は多くなる。学生に対して、本学科の教育目標やポリシー等に関する説明を十分行い、学生が日頃から能動的に学習し、地道な努力ができるよう指導するとともに、学生が相談しやすい教職員の体制強化が必要であると考える。今後も学生生活がより良いものとなるよう、具体的な改善案を検討し、計画的に改善を行っていく必要がある。</p>
看護	<p>生涯教育研修センター2号館へ移転して2年目である。希望の大学に入学できたと回答した学生は、約5割であり、半分は他大学を志望していた。学習生活充実度の学習面では充実していると回答した学生は、学部平均より低いが、クラブ学外活動には充実していると回答した学生が多かった。総合的には充実している結果であった。自宅から通学している学生が約8割弱で、自宅からの通学者が多いためか、通学時間は1時間30分かかる学生が多かった。一ヶ月のお小遣いは1万~3万であり、アルバイトをしている目的は、旅行、レジャー・洋服代などである。生活費のためと回答した学生は少なかったが、自宅生が多いためと推察できる。奨学金を利用している学生は学部の中では少なかった。6割の学生はクラブ活動に参加し、他学科との交流を持ちたいという希望が見られている。学習面では予習にかける時間はほとんどなく、復習に時間を費やしているが、それにかかる時間は1時間程度であり、学修に十分な時間がかけられているわけではない。学習する場所は自宅、次いで学内であるが、学内での学習環境が整備されていないと感じている。新校舎になり、設備面ではよくなっているが、学生数に見合った学習環境とは感じられていない。試験前などは学内での学習環境に対する要望は強くなっている現状がある。講義実習満足度は学生の約9割は満足しているが、学部平均より低い。満足度が低い要因としては時間割・カリキュラムであるが、看護系免許取得に関するカリキュラムの過密さが要因と思われる。科目履修登録の時期について意見が多く、時間割を見てから選択したいという希望があり、現状では対応できない状況である。キャンパス設備については、依然教室への要望があった。教室については、新校舎には3学年の教室のみで、合同校舎に1学年分の教室と演習室があり、移動などの距離や建物の構造上のものが満足ではない理由であげられた。学生ホールなど学生が休憩する場所が少ないことも要因の一つとなっている。生活面では、自宅学生が多いため朝食を含め3食摂取し、保護者などによりきちんと生活環境が整えられている様子がうかがわれた。悩み事は</p>

	金銭面や学習面に関する悩み事が多いが、就職に関しては他学科より少なかった。現時点では看護職に関する求人は問題ないためと思われるが、ここ数年希望病院に必ずしも就職できない学生も見られてきたため、動向を観察していく必要がある。
放射	<p>下宿をしている学生が他学科に比べ多いのが本学科の特色である。この特徴を活かして今後も全国から広く学生を募集する努力を続ける必要がある。</p> <p>入学した学生の約7割は高倍率な一般入試を合格しているが、本学を第一志望として受験し入学した学生は約4割であり、満足度も学部内で最も低い。学生のモチベーションを向上させ、本来持っている高い学力をさらに伸ばすための改善を行う必要がある。</p> <p>満足度が低い原因として、放射線学科棟(5号館)の立地が悪いことや、教室や実験設備の充実度で他大学・他学科に見劣りしていることなどが挙げられる。現在1・2年生は生涯教育研修センター2号棟にて講義を受けており、教室設備に関する不満は少ない。また5号館についても本アンケート後に教室や照明の改修が行われた。そのため設備面に関する不満の多くは減少するものと思われるが、放射線学科棟の立地条件の悪さは変わらない。学園内の動線の改善、実験・研究設備の更新、事務手続きの利便化などが、本学科の取り組むべき喫緊の課題である。</p> <p>さらに、実習時期や時間割に対して不満を抱く学生が多いことが明らかとなった。教員の都合に合わせた時間割編成ではなく、学生にとって学習効率の高い時間割やカリキュラムの検討が必要であるといえる。</p>
リハ・理学	「総合的にみて大学生活に満足していますか」の設問において、作業療法専攻よりは「はい」が高値を示した。しかしその人数は72名(60.5%)と6割どまっており、更なる対策が必要と考えられる。理学療法専攻については、クラブ活動や学外活動の充実、図書館、学生ホール・ラウンジ、および体育館の改善、就職・将来の進路、金銭面、学習面について学生が持つ要望または悩みごとに対して、きめ細かく対応することが有効であると考えられる。特に「教室の設備など現在の施設・設備の改善」については6割以上の学生から要望が挙がっており、早急な具体的な改善策が必要と考える。悩みごとについては、今後の学科会議および担任会議において本結果を共有し、学生面談等に生かしていきたい。
リハ・作業	「総合的にみて大学生活に満足していますか」の設問において、「はい」が49名(55.7%)と低値にとどまっており、同様に更なる対策が必要と考えられる。作業療法専攻については、クラブ活動や学外活動の充実、図書館、学生ホール・ラウンジ、および体育館の改善、就職・将来の進路学習面、金銭面について学生が持つ要望または悩みごとに対して、きめ細かく対応することが有効であると考えられる。特に「教室の設備など現在の施設・設備の改善」については6割以上の学生から要望が挙がっており、早急な具体的な改善策が必要と考える。悩みごとについては、今後の学科会議および担任会議において本結果を共有し、学生面談等に生かしていきたい。
臨床工学	<p>回答した学生の約6割が本学を希望して入学している状況から、この医療国家資格を取得する目的の強い学生が入学してきている。医学系であるため授業コマ数の2/3以上、実習は全コマ数を出席する必要から出席状況は良好で、出席率は9割を超えていた。講義・実習には満足しているが予習・復習がともに少ない。シラバスを活用できていないのかもしれない。学習は一人で行う傾向が強い。このような状況で、カリキュラム・時間割・教室・食堂などに対する改善要求が高く、新築した校舎と比較して古く感じる部分・設置されていない設備などの要求が強い。</p> <p>クラブ参加は積極的であるが、ボランティア活動はマッチングが必要な状況で、マッチングの仕組みができれば活動率は上がると見込まれる。</p> <p>アルバイトは、9割ほどが行っており、平日も行っている様子が窺われる。通学時間は90分以内の学生が多く、講義終了後にクラブ活動し帰宅、あるいは、帰宅途中にアルバイトをするものも多いようである。睡眠と食事は取れているが、中には、朝食や夕食を欠食し</p>

	<p>ている学生が散見される。</p> <p>趣味や娯楽に支出する金額は月に2万円程度と常識的な範囲内の学生が多いがアルバイト目的の多くが、レジャーや被服に使うための就労であるため、アルバイトで得られる賃金とほぼ同じ程度ではないかと考える。</p> <p>4年生への調査が含まれるため、就職や進路に関する不安を訴えた様子が窺える。悩みの多くは、学友や学外の友人といった交友関係にあるものへの相談が多く、家族と同じように信頼関係が築かれているようである。</p>
医療経営	<p>希望大学に入学したとの回答は学部平均より低くなっている、昨年に比べ「センター試験利用」の割合が高く、「推薦入試」の割合が低いことが要因のひとつと考えられる。希望でない学科に入学したため、出席率が学部で最も低く、学習面の大学生活も充実していないと明確に答える学生の比率が学部内で最も高くなっていると推察できる。自宅通学者は学部平均より若干多い比率となっており、2時間以上の通学者が約15%と他学科に比べ多くなっている。奨学金を受給する学生の比率は学部平均と同様であり、趣味・娯楽等にあてられる小遣いの金額は「1~2万円」が多い傾向であった。学生家庭の経済状況は特に問題がある状況でない。アルバイトをしている学生も平均的であり、クラブ活動に参加している学生も平均的な割合であった。</p> <p>以上より、学科教育に興味が持てない学生がある程度存在し、遠距離通学で通学時間が長く、経済状況は特に悪くなく趣味・娯楽に当てられる小遣いを月に1,2万円貰っており、アルバイトもクラブ活動も他学科の学生と同様に行っている、という学生像が浮かび上がる。その結果、講義・実習に満足している学生は約70%にとどまり、全般的に不満と訴える学生は約11%と他学科に比して突出し、予習・復習にあてる自主学習時間が学部中もつとも少なく、睡眠時間5時間以下の割合が学部中もつとも高くなっていると考えられる。</p> <p>悩みについても「就職・将来の進路」の割合が高く、卒業後の明確なイメージが持っていないことがうかがわれる。本学科のカリキュラムや時間割の改善を求める声は他学科に比べて低く、優秀な教員を求める割合も低い反面、学習面での要望は「資格取得講座(対策授業)の充実」が特に高く、安易に資格試験にパスできる知識を効率的に提示してもらいたい学生が多くなっている状況がある。</p> <p>この状況に対し、学科教員全員が連携して、本学科で医療経営情報学を学ぶ意義、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーに対する理解を促進させ、入学後早期に学習に対するモチベーションを学生に持たせるような対策を継続的に実施していく必要があろう。これは国家資格を得て医療従事者になるという明確な目標設定がない本学科特有の課題であり、本学科が養成する人材像や社会からの要求事項なども学生に周知していく必要がある。さらに問題の根本には、受験生に対する本学科の教育理念の広報不足がある。難問であるが、学力的に入学できるとして本学科に入学てくる学生を少なくし、医療経営情報学に興味を持つ学生の入学を増やす施策を考案する必要がある。</p> <p>喫緊の課題は学生に自主学習を行わせることである。予習・復習の自主学習時間が少なく、自宅で学習の割合が高いため、授業科目にて予習・復習に該当する学習内容を宿題として提示し、自主学習を促す対策が有効であろう。ただし、課題が過剰となれば返つて学習のモチベーションを下げかねないため、授業科目間での調整が必要である。また、自宅学習にeラーニングを活用すれば、学習結果等を統合的に把握することができる。</p>

＜大学全体についての考察＞

臨床検査	<p>希望する大学に入学できた学生の割合は学部内で最も低かったが、総合的にみて大学生活に満足している学生の割合は54.1%であり、学部平均とほぼ同じであった。昨年度と比較すると、いずれの設問もほぼ同じ割合であった。学生の多くは高校時代、国公立を第一希望として目指していた等、本大学が第1希望ではない学生が半分以上いるが、入学後は気持ちを切り替えて大学生活を送っ</p>
------	--

	ていると推察する。平成 28 年度からは新しい建物で講義等を行っているが、昨年度より学習面で充実していると回答した学生の割合が低下しており、またクラブ活動や学外活動などが充実していると回答した学生の割合も低いことから、さらに改善する余地があると思われる。
看護	「推薦入試」の割合が学部で一番多くみられる。希望する大学に入学できた学生の割合は半数に満たなかつたが、総合的にみて大学生活に満足している学生の割合は 57.3%であり、学部平均より高かった。出席率 90%以上の学生は 92.6%みられるが、学部全体からみると少し改善が見られるとよい。本大学が第 1 希望ではない学生が半分以上いるが、入学後は気持ちを切り替えて大学生活を送っていると推察する。平成 28 年度からは新しい校舎で講義等を行っているが、昨年度より学習面で充実していると回答した学生の割合が低下しており、またクラブ活動や学外活動などが充実していると回答した学生の割合も低く、設備面以外の事で満足できていない状況がうかがえる。
放射	放射線学科は高倍率の一般入試で入学する学生が最も多い。一方、大学受験時に目指していた国公立大学等には入学できずに、本学に来ている学生が学部内で 2 番目に多い。その結果、成績は優秀だがあまり現状に満足していない学生が一定数存在していることとなり、それは講義欠席数等の調査結果にも表れている。学生のモチベーションを向上させ、本来持っている高い学力をさらに伸ばすための改善を継続的に行う必要がある。
リハ・理学	「希望の大学へ入学しましたか」の設問において、「はい」が 71 名 (59.7%) と高値を示しており、このことが「授業の出席状況」の設問における「出席率 98%以上」が 110 名 (92.4%)、「同 90%以上」が 7 名 (5.9%) という高値につながったと考えられる。一方で、「学生生活の充実度について（クラブ活動や学外活動などの面）」の設問において「大変充実している」が 19 名 (16.0%)、「あまり充実していない」が 21 名 (17.6%) と学生の捉え方が様々であり、「総合的にみて大学生活に満足していますか」の設問において「はい」が 72 名 (60.5%) と低値にとどまったことに影響したものと考えられる。
リハ・作業	理学療法専攻と同様に、「希望の大学へ入学しましたか」の設問において、「はい」が 54 名 (60.7%) と高値を示しており、このことが「授業の出席状況」の設問における「出席率 98%以上」が 78 名 (87.6%)、「同 90%以上」が 10 名 (11.2%) という高値につながったと考えられる。一方で、「学生生活の充実度について（クラブ活動や学外活動などの面）」の設問において「あまり充実していない」が 29 名 (32.6%)、「全く充実していない」が 7 名 (7.9%) と高値を示しており、「総合的にみて大学生活に満足していますか」の設問において「はい」が 49 名 (55.7%) と低値にとどまったことに影響したものと考えられる。
臨床工学	希望する大学に入学できた学生の割合は 63%と高く、そうではなかった学生の割合の約 3 倍であった。臨床工学技士を養成する大学が東海地区には少なく、国公立大学での養成課程がなく、また、自宅から通学する学生が多いことから、選択肢が少なかったことが影響していると考えられる。授業出席率は 90%以上が全体の 87%を占め、出席率 80%以上が全体の 98%を占めていた。大学内での生活充実満足度は 60%が満足しており、学習面、クラブ・学外活動で充実していると答えた割合とほぼ同じであった。一方、約 10%が満足していないと答え、学習面、クラブ・学外活動で充実していないと答えた割合とほぼ同じであった。医療科学部全体の集計結果と比較して、同様な数値を示しており、目的意識を持って生活が充実している様子が窺える。要望としては教室や設備の改善が最も多く 84%に

	達した。
医療経営	希望大学に入学したとの回答は学部平均より低い値となっている。昨年より「センター試験利用」の割合が高く、「推薦入試」の割合が低いことが要因のひとつと考えられる。希望大学に入れなかつたと回答する学生が多いことから、出席率も学部で最も低くなり、学習面の大学生活も充実していないと明確に答える学生の比率が学部内で最も多くなる結果となっている。クラブ・学外活動については平均的な回答を示したが、総合的な大学生活の満足度には、明確に満足していないと回答する学生の比率が他学科に比して高くなつたと考えられる。本学科で学ぶ意義、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーに対する理解を促進させ、学習に対するモチベーションを学生に持たせるよう指導していく必要がある。問題の根本には、受験生に対する本学科の教育理念の広報不足があろう。難問であるが、学力的に入学できるとして本学科に入学してくる学生を少なくし、医療経営情報学に興味を持つ学生の入学を増やす施策を考案する必要がある。

＜経済面についての考察＞

臨床検査	何らかの奨学金を受けている学生の割合は学部平均とほぼ同じであったが、昨年度と比較するとやや高かった。趣味や娯楽等に掛ける費用の分布は、学部平均とほぼ同じであるが、1万円未満の割合が学部内で二番目に高かった。アルバイトをしている学生としていない学生、下宿の学生と地元の学生などによっても異なるものと思われる。
看護	奨学金を受けていない学生は、学部の中で一番多かった。奨学金を受けている学生のうち9割は日本学生支援機構の奨学金だった。お小遣いについては、学部全体では多いほうであるが、女子の平均と同じであり、看護学科の特徴として女子学生の占める割合に影響されていると思われる。
放射	趣味や娯楽に掛ける金額は学部の平均よりも低い傾向にあった。奨学金を受けている学生の割合は学部平均よりも低く下宿生が多いため、収入・支出を抑え質素な生活をしている学生が多いことが明らかとなった。
リハ・理学	約3割の学生が「日本学生支援機構」からの奨学金を受けており、概ね他学科と同様であった。また、「あなたの1か月の趣味や娯楽費等に掛ける費用はいくらですか」の設問についても、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	約3割の学生が「日本学生支援機構」からの奨学金を受けており、概ね他学科と同様であった。一方で「あなたの1か月の趣味や娯楽費等に掛ける費用はいくらですか」の設問については比較的低額帯に多くの学生が分布しており、家庭の経済状況によるものか、学費の違いによるものか、など奨学金以外に追加の調査が必要と考えられる。
臨床工学	1ヶ月に趣味・娯楽に費やす費用は2万円未満が61%、2万円以上4万円未満が31%で、もっとも費やす費用がおおい場合でも5万円未満であった。常識的な範囲で楽しんでいる学生が多い一方で、経済観念の成長ができていないと思われる学生もいるように思われる。また、何らかの奨学金に相当する制度を利用した学

	生割合は 36%と学部内でもっとも多い割合となっていた。
医療経営	奨学金を受給する学生の比率は学部平均と同様であり、昨年度も同様の傾向であった。趣味・娯楽等にあてられる小遣いの金額も、昨年度と同様の傾向で「1～2万円」が多い傾向であった。今年度の調査では、10万円以上遊興等に使用する学生が1名あった。在学生の経済的な状況は、下宿やアルバイトの有無により状況は変化しうるが、概ね学部平均的な状態であると推察される。

＜アルバイトについての考察＞

臨床検査	88.9%の学生がアルバイトを行っており、そのうち約半数（48.4%）が週に1～2日程度のアルバイトであった。1日あたりのアルバイト時間は、4～6時間未満である学生が多くいた。多くの学生は学業に影響を与えない程度のアルバイトを行うよう心掛けていることが推察された。
看護	95%の学生がアルバイトをしている。アルバイトしている中で半数以上の学生は週3日以上アルバイトをしており、1日4～5時間以上働いている。アルバイトの目的の6割は「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るために」であり、学科の特徴として女子学生が多いのも影響していると思われる。
放射	82.8%の学生がアルバイトを行っており、アルバイトの頻度は週に3～4回が最も多かった。主たるアルバイト内容は飲食や販売に関するものだが、教育関係のアルバイトを行う学生も他学科に比べ多いことが明らかとなった。
リハ・理学	「アルバイトは1週間に何日しますか」、「一日あたり何時間していますか」の設問について概ね他学科と同様であった。「3-4日」が最多であったが、平日は夕刻まで講義等があることから、その後アルバイトを行っていると考えられる。
リハ・作業	「アルバイトは1週間に何日しますか」の設問については少ない日数を、「一日あたり何時間していますか」の設問については長い時間を回答する学生が多く、学業またはクラブ活動に影響しない日程でまとめてアルバイトを行っていると考えられる。
臨床工学	アルバイトの経験のある学生割合は約90%で、約50%がレジャーや被服購入の為で、学費・生活費のためと答えたものの約2倍であった。アルバイト日数は週に1・2日がもっとも多く約50%、次いで3・4日が約40%であった。1日あたりの労働時間は6時間以上が最も多く約30%で、次いで4・5時間、3・4時間であった。職種は、フード・飲食関係が約60%、次いで、各種販売、家庭教師・塾講師であった。土日・祝祭日を利用してアルバイトしている学生が多いが、平日の夜間から深夜にかけてアルバイトをしている学生がいることが窺われる。
医療経営	アルバイトをしている学生は85.7%あり、他学科に比べてアルバイトの傾向が大きく異なる点はみられなかった。しかし、通学時間に2時間以上かかる学生が多く、生活費のためにバイトする学生の比率が若干高いため、授業外学習時間が圧迫されている学生が居る可能性があり注意が必要であろう。

＜クラブ活動/ボランティア活動等についての考察＞

臨床検査	クラブ活動に参加している学生の割合は 68.1%であり、学部平均より高く、比較的多くの学生がクラブ活動に参加していた。また本学科の学生の特徴として複数のクラブに参加する学生が多くなった。またボランティア活動を行っている学生の割合は学部平均より高く、ボランティアには関心がないと答えた学生が学部平均により低かった。クラブ活動やボランティア活動から得るものは多く、クラブ活動やボランティア活動に学生が積極的に参加できるよう、学内のさらなる支援・取り組みが必要であると思われる。
看護	クラブ活動に参加している学生の割合は 6 割であった。クラブ活動参加のきっかけは、「活動が楽しそう」、「他学の学生と交流をもちたい」「友人との交流をもちたい」であった。参加できない理由の中に「アルバイトで時間がない」も見られた。ボランティア活動においては、2 割の学生は不定期も含め実施しているが、活動できない理由として「活動したいが時間的に余裕がない」が最も高かった。アルバイト時間、通学時間に時間がかかることが、ボランティ活動を積極的にできないことが推測された。
放射	クラブ活動に参加している学生は全体の 69.6%であり、学部の平均よりも若干高い値であった。アルバイトと両立させるため、2 つ以上の部活に所属する学生は少なかった。約 20.8%の学生がボランティア活動に参加経験があるが、残りは関心がないことや時間が無いことを理由に活動をしたことがなく、ボランティアの重要性や楽しさを理解させる機会の提供が必要である。
リハ・理学	他学科の傾向と同様に、約 6 割の学生がクラブ活動をしており、その理由は「活動が楽しそう」が 40 名 (57.1%)、次いで「他学の学生と交流をもちたい」が 20 名 (28.6%) であった。また、「ボランティア活動をしたことがありますか」の設問について「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」と回答する学生が多い点も同様であった。
リハ・作業	他学科より若干少なく約 4 割の学生がクラブ活動をしており、その理由は「活動が楽しそう」が 18 名 (48.6%)、次いで「友人に誘われて」が 8 名 (21.6%) であった。また、「ボランティア活動をしたことがありますか」の設問について「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」と回答する学生が多い点は他学科の傾向と同様であった。
臨床工学	クラブ活動に参加する学生の割合は約 8 割で、学部内で最も高くなかった。参加きっかけは学部全体の集計と同様であり、主体的に参加している学生が多い様子である。また、クラブ活動に参加しない学生の割合は、学部内で最も少なかった。参加しない理由では、自由な時間を求める割合が約 25%と最も多く、次いで関心がない、通学に時間がかかるが約 21%であった。ボランティア活動参加率は 12%程度と最も低く、関心がない割合は 3 割を超えた。活動したいと回答した割合は 55%を超えておりことから、ニーズに対するマッチングができれば参加率が上がるを考える。
医療経営	

	<p>クラブ活動に参加している学生は 61.6%と学部平均的な割合であった。本学科の特徴として、クラブ活動に参加しない理由に、経済的理由を挙げる学生が多い傾向があった。ボランティア活動については、学部平均よりも、関心を高くもっていることがわかった。経済的理由でクラブ活動ができないとする学生に対して、クラブ活動に参加できるよう支援することは難しい課題である。ボランティアについては比較的興味が高く、情報提供などの支援が有効かもしれない。</p>
--	--

＜学習及び学校生活についての考察＞

臨床検査	<p>予習より復習を行っている学生が多く、学習時間も復習に多く費やしていた。その学習内容は、先輩や友達のノートや資料等を当てにすることなく、講義用教材や自らの講義中のノートを中心に学習している割合が高かった。学習に対し意欲が高い学生が多いと考えられる。また、自主学習の場所として学内を利用している学生が多かった。</p> <p>講義・実習の満足度については、「全体的に満足している」と「満足しているものが多い」を合わせた割合は 90.0%で、学部平均より高かった。しかし「時間割」や「カリキュラム」に対して意見を有する学生の割合が高かった。医療系の学科であることから、時間割にゆとりが少ないことは否めない。現在の 2 年生は新しいカリキュラムとなり、旧カリキュラムの問題点等の一部は改善される予定であるが、新カリキュラムにおける問題点についても整理して今後のカリキュラム・時間割の改善に反映する予定である。</p> <p>昨年度から生涯教育研修センター 2 号館に移ったことから教室等の設備に関する不満等に関しては減少したが、学生ホール・ラウンジを整備・充実してほしいと回答した学生の割合が、学部内で最も高かった。自己学習スペースの不足などの意見を反映していると思われる。</p> <p>大学に対しての要望として、「教室の整備など現在の施設・設備の改善」と「優秀な教師がそろっていること」に関する要望が多かった。今回の調査のみでは施設・設備の改善希望の詳細は不明であるが、満足度の低い講義・実習を行っている教員に対しては、授業評価アンケートを参考に授業改善を求めていく。</p>
看護	<p>予習より復習を行っている学生が多くみられるが、学部の平均からするとどちらも割合は少ない結果となった。学習する環境は自宅が最も多く、次いで学内も多くみられる。学生からは学内で自由に学修する環境を整えてほしいという要望も見られる。新校舎になり、学生が学修できる環境も整えているが、4 学年すべての学生が満足できるものではない。学修方法としては、一人で学習する学生がほとんどであった。</p> <p>講義・実習の満足度は他学科と比べ低い結果であり、講義については黒板の字の大きさなどが問題として挙がっていた。実習に対しての教育指導方法には多くのコメントが記載された。実習という小グループの特性上もあり、指導教員や指導者の指導体制に対する意見が多くみられた。医療系の学科ということもあり、カリキュラムの内容や時間割の構成、履修科目の登録時期に対する意見が見られた。キャンパス内の施設に対する要望としては、図書館に対する希望が多くみられたが、建物の老朽化などの設備面での内容であった。</p> <p>大学に対しての要望としては、「教室の整備など現在の施設・設備の改善」と「優秀な教師がそろっていること」に関する要望が多かった。教室の設備については、新校舎にはなったが 1 学年と演習室は合同校舎となり、移動距離などでの意見が新たに出されるようになった。指導体制については、実習などで教員間の差が無いように指導体制を整えていく必要がある。</p>
放射	予習よりも復習を行っている学生のほうが多く、自分のノートなどを利用して一

	人で学習している学生の割合が高かった。大学への要望に教室の設備などの改善や優秀な教師を挙げていることから、教室等の建物の再整備と教員の教育力向上の両面から改善していく必要がある。5号館はアンケート後に改修が行われており、新カリキュラムが上級生まで適用されていくため、どのように意識が変化していくか注視したい。
リハ・理学	「1日の平均予習時間はどれくらいですか」の設問について「ほとんどなし」が約6割と高値を示し、「1日の平均復習時間はどれくらいですか」の設問についても「ほとんどなし」、「1時間未満」が多くを占めていた。平日は5時限目まで実施されることが多いため、自主学習時間が短くなっている可能性が考えられる。「講義・実習には満足していますか」の設問について、9割の学生が「全般的に満足している」「満足しているものが多い」と回答しているものの、「不満であるものが多い」も1割弱あり講義評価アンケートなどを用いた追加の検討が必要と考えられる。「キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいもの」の設問について、「図書館」、「学生ホール・ラウンジ」、「体育館」が高値を示しており、学生にとって改善を感じられる対策が必要である。「大学に対して要望したいことや期待すること」の設問について、「運動施設の充実と整備」が高値を示したが、専攻内にスポーツ経験者の学生が多いことが要因と考えられる。
リハ・作業	「1日の平均予習時間はどれくらいですか」の設問について「ほとんどなし」が約6割と高値を示し、「1日の平均復習時間はどれくらいですか」の設問についても「ほとんどなし」、「1時間未満」が多くを占めていた。平日は5時限目まで実施されることが多いため、自主学習時間が短くなっている可能性が考えられる。「講義・実習には満足していますか」の設問について、9割の学生が「全般的に満足している」「満足しているものが多い」と回答しているものの、「不満であるものが多い」も1割弱あり講義評価アンケートなどを用いた追加の検討が必要と考えられる。「キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいもの」の設問について、「図書館」、「学生ホール・ラウンジ」、「体育館」が高値を示しており、学生にとって改善を感じられる対策が必要である。
臨床工学	予習をほとんどしない学生の割合は42%で学部内で最も低く、また、1時間未満の割合を含めて約70%であった。1時間以上予習する学生の割合は、約3割であった。復習をほとんどしない学生の割合は16%で学部内では最も低く、1時間以上復習する学生の割合は約65%であった。自主学習する場所は、自宅か学内がほとんどで同数になった。その学習内容は講義用教材を中心にしている割合が約6割で、一人で学習する割合が約7割あった。講義・実習に満足している割合は約9割であった。教育制度面が不十分と感じているものは時間割が最も多く約7割で、次いでカリキュラムであった。この傾向はどの学科も同じような傾向を示しており、医療資格者養成制度の理解ができていないように思われる。キャンパス内で設備改善の要望は、教室が最も高く76%に達した。次いで食堂41%、学生ホール・ラウンジ39%であった。
医療経営	本学科の学生は、予習・復習など自主学習時間が他学科に比して最も少ない状況にあることが明らかとなった。その上で、講義・実習に満足している学生は約70%にとどまり、全般的に不満とする学生は約11%と他学科に比して突出している。しかし、制度面での改善については「カリキュラム」、「時間割」を指摘する回答は学部平均的であり、大学への要望で「優秀な教員を求める」割合は他学科より低いという状況である。入試関連のアンケート結果からも、本学科の入学生に、本学科の教育目的にそって学修するモチベーションをうまく持てていない者が多く居るであろうことが推察でき、「資格取得講座（対策授業）の充実」に特に高い要望が寄せられることから、学問として医療経営情報学を学ぼうとするのでな

く、安易に資格試験にパスできる知識を効率的に提示してもらいたいとする学生が多くなっている状況があると考えられる。国家資格を得て医療従事者になると明確な目標設定がない本学科特有の課題であり、学科教員全員が連携して、本学科が養成する人材像や社会からの要求事項などを学生に周知していく必要があろう。

自主学習の場所は自宅が多く、学内が少ない傾向にあるのは、通学時間が比較的長い学生が多く、アルバイトで生活費を貯うとする学生も多い状況が反映されていると考えられる。予習・復習の自主学習時間が少なく、自宅で学習の割合が高いため、授業科目にて予習・復習に該当する学習内容を宿題として提示し、自主学習を促す対策が必要であろう。その際、e ラーニングを活用すれば、自宅学習の場合でも学習結果等を統合的に把握することができる。

＜健康についての考察＞

臨床検査	睡眠時間は 76% の学生が約 5~6 時間であった。朝食として持参した弁当やおにぎりを食べる学生の割合が他学科に比べ多かった。睡眠時間が 4 時間以下や朝食を摂らない学生がおり、体調を崩さないためにも、生活リズムを整え、適切な睡眠時間と 1 日 3 食の規則的な食事をとすることが望ましい。
看護	睡眠時間は 78% の学生が約 5~6 時間であった。朝食を摂らない学生は 10% 見られたが、他学科よりは多くの学生が朝食を食べていた。「自宅・下宿での自炊」や「持参した弁当やおにぎり」が多く、自宅通学生が多く、保護者若しくは各自で生活リズムを整え、規則正しく食生活を送っていると推測できる。
放射	睡眠時間は 5~6 時間の学生が最も多かった。食事については、朝食を摂る学生の割合は高く、自宅で食事していることから、比較的バランスよく栄養を摂っていると思われる。
リハ・理学	睡眠時間および食事の項目については他学科と同程度の結果であり、大きな問題点はないと考えらえる。
リハ・作業	睡眠時間および食事の項目については他学科と同程度の結果であり、大きな問題点はないと考えらえる。
臨床工学	睡眠時間は約 6 時間が最も多く 45% で、次いで約 5 時間が 30% と学部全体の傾向と同じであった。朝食は自宅・下宿で摂っている割合が 70% と最も多く、何らかの食事を摂っている学生割合は約 8 割を超えた。昼食は全員摂っており、弁当・おにぎりが最も多く約 46% であった。また学内の食堂を利用する割合が約 35% と学内で最も高く、食堂が隣接されていることが影響していると思われる。夕食はほぼ全員が摂っており、自宅・下宿で摂っている割合が 90% であった。多くの学生が睡眠時間を取り、摂食もできているようである。
医療経営	睡眠時間が 5 時間以下の割合が学部中もっとも高い状況にあるが、自主学習時間は最も短い結果となっており、アルバイトや遊興の時間が睡眠時間を圧迫している状況が推察される。十分な睡眠時間を取りよう、指導が必要である。朝食については、食べないとする学生が 26% と他学科に比べて多く、これも健康維持や午

	前中の学修にも影響する可能性があることから、朝食を取るよう指導する必要がある。
--	---

＜その他悩み事の考察＞

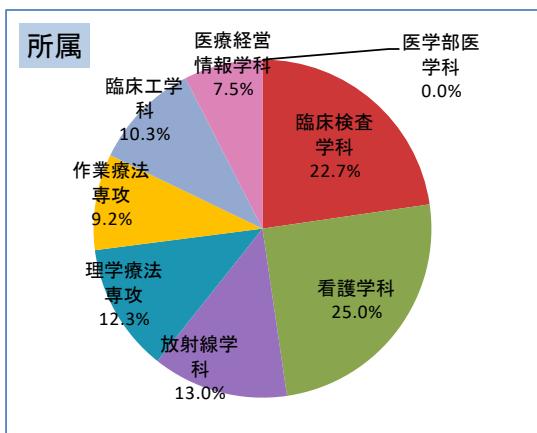
臨床検査	就職や進路および学習面について悩んでいる学生が多かった。就職率は毎年ほぼ100%であるが、就職や進路について不安を持っている学生がいる。4年生担任を中心としてキャリア支援課との連携を強化しつつ、今後も学生に対してサポートを行っていく。就職や進路および学習面の悩みが多いにもかかわらず、教員や職員に相談する学生が非常に少ないことが懸念される。予習・復習時間が少なく、日々の努力不足が学習面の悩みにつながっていると推察するが、授業の分からなかつた点など気軽に相談できるような教職員側の体制作りが必要であると考えられる。また臨床検査学科は女子学生の割合が高くなってきており、女性教員の数が少なく、女性教員の増員についても、今後の体制作りの1つであると考える。
看護	悩みごとの中では「学習面」に関する内容が最も多く、「金銭面」「性格や能力」「将来の進路」などであった。ほとんどの項目で他学科より高くみられ、多くの悩み事を抱えながら大学生活を送っているのがうかがえた。アルバイトをしている学生も多くみられることから、学業だけではなくアルバイトやその他のことに対応していることが推察された。他学科でみられた「就職・将来の進路」について低いという結果は、看護学科の就職のしやすさと関連していると思われる。ただ、自分の志望する病院に必ずしも就職できない場合も増えてきたため、今後は経過を観察していく必要がある。
放射	進路や学習面について悩みを持っている学生が多い。留年や国試不合格を心配する学生が多く、安心して学習できる環境作りをする必要がある。4年生では就職に関する悩みが増えるが、キャリア支援課と協力しながら履歴書添削や面接練習などを行い、学生の就職活動を支える必要がある。また、教職員に悩み事を相談する学生が少なく、気軽に相談できる信頼関係の構築や雰囲気作りが望まれる。
リハ・理学	「現在何か悩みごとを持っていますか」の設問について、「就職・将来の進路」が53名(44.9%)、次いで「金銭面」が44名(37.3%)、「学習面」が34名(28.8%)で、特に「就職・将来の進路」が高値を示しており、早期の学生面談からこの点を意識した対応が必要と考えられる。
リハ・作業	「現在何か悩みごとを持っていますか」の設問について、「就職・将来の進路」が39名(44.3%)、次いで「学習面」が31名(35.2%)、「金銭面」が22名(25.0%)で、特に「就職・将来の進路」が高値を示しており、早期の学生面談からこの点を意識した対応が必要と考えられる。
臨床工学	学習や進路に悩んでいる割合が高くなかった。一部の学科を除き同様の傾向が見られた。金銭面で悩む割合も3割ほどであった。相談相手は同級生が最も多く5割を超える、次いで親・学外の友人であった。2年生では専門科目が多くなり、4年生では就職活動が盛んになるため、これを反映した結果と思われる。こうした悩みは、同じ悩みを持つ者同士で話す機会が多い事に繋がっているように思われる。

医療経営

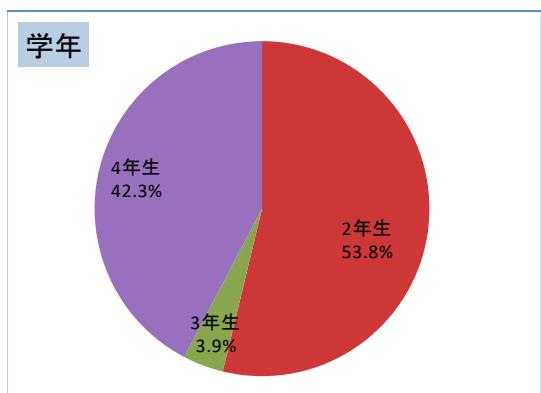
「就職・将来の進路」で悩む率が高い結果であった。本学科は医療事務系の人材を養成する全国的に珍しい学科であるため、そのイメージがつかみにくいことが不安の原因となり悩んでいる、また、入試状況から希望でなく入学してきている学生が多いと考えられ、余計にイメージが掴めず、悩んでいることが推察される。継続的に、1年次の早期に、職業イメージや資格についての説明機会を持つようにしていく必要がある。また、悩みがないという学生も多く、危機感のなさの現れと考えられる。担任制において、今後も面談などを定期的に行うようにしていく必要があろう。相談相手として教員を選ぶ学生が少なく、学科への不満が教員の不審感に繋がり、相談相手とされないのであれば、今後早急に対処していく必要がある。

2. 学生生活・学修実態調査報告の全データ分析

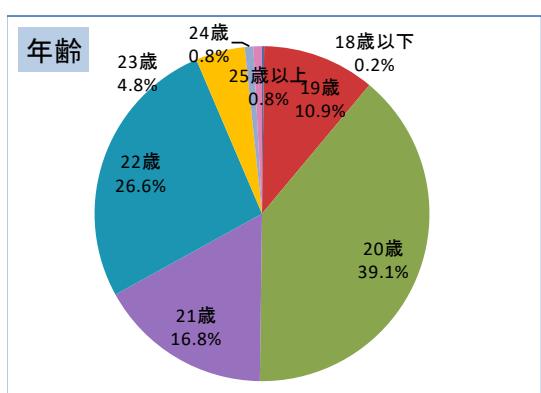
F1～4. 【基本属性】



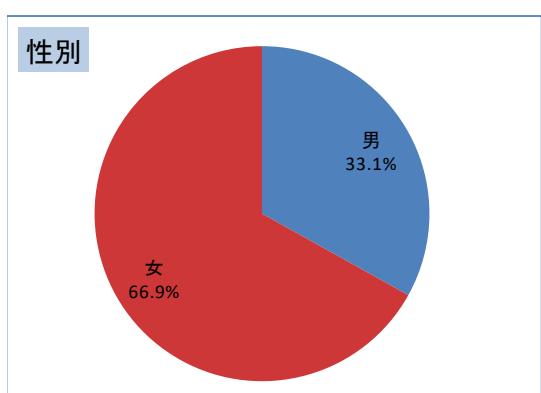
F1 : 所属	件数	割合
医学部医学科	0	0.0%
臨床検査学科	220	22.7%
看護学科	242	25.0%
放射線学科	126	13.0%
理学療法専攻	119	12.3%
作業療法専攻	89	9.2%
臨床工学科	100	10.3%
医療経営情報学科	73	7.5%
合計	969	100.0%



F2 : 学年	件数	割合
1年生	0	0.0%
2年生	521	53.8%
3年生	38	3.9%
4年生	410	42.3%
5年生	0	0.0%
6年生	0	0.0%
合計	969	100.0%

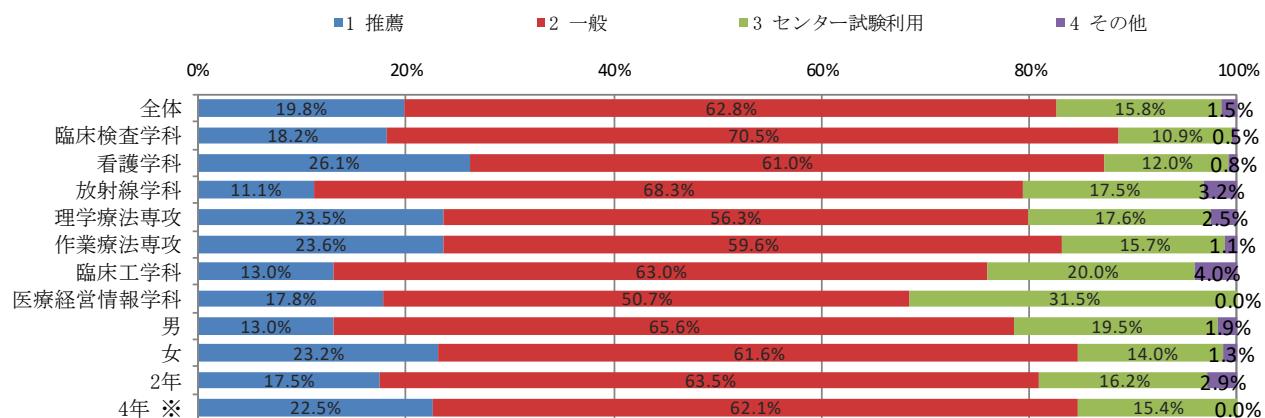


F3 : 年齢	件数	割合
18歳以下	2	0.2%
19歳	105	10.9%
20歳	378	39.1%
21歳	162	16.8%
22歳	257	26.6%
23歳	46	4.8%
24歳	8	0.8%
25歳以上	8	0.8%
合計	966	100.0%



F4 : 性別	件数	割合
男	308	33.1%
女	623	66.9%
合計	931	100.0%

1. 入試区分



※「センター試験利用」は大学のみ回答

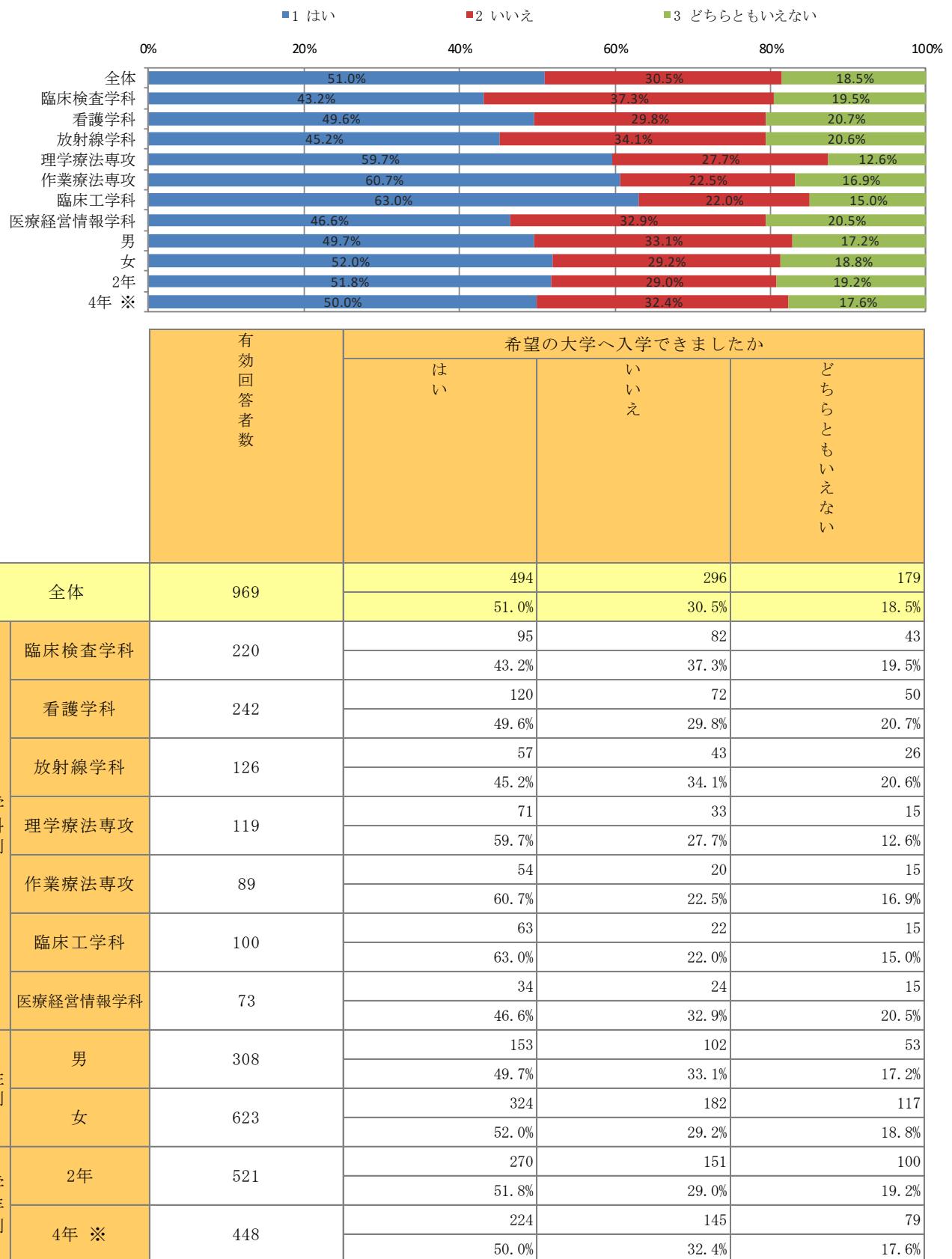
属性	有効回答者数	大学の入学方法は			
		推薦	一般	センター試験利用	その他
全体	968	192	608	153	15
		19.8%	62.8%	15.8%	1.5%
学科別					
臨床検査学科	220	40	155	24	1
看護学科	241	63	147	29	2
放射線学科	126	14	86	22	4
理学療法専攻	119	28	67	21	3
作業療法専攻	89	21	53	14	1
臨床工学科	100	13	63	20	4
医療経営情報学科	73	13	37	23	0
性別					
男	308	40	202	60	6
女	622	13.0%	65.6%	19.5%	1.9%
学年別					
2年	520	91	330	84	15
4年 ※	448	17.5%	63.5%	16.2%	2.9%

※以後の表も全て医療経営情報学科は3年生

(1) 大学の入学方法: 1. 入試区分

臨床検査	「一般入試」による入学者の割合が70.5%あり、学部内で最も高かった。次いで、「推薦」18.2%、「センター試験利用」10.9%、「その他」0.5%であった。その他は2年前から始まったアセンブリ入試利用である。
看護	「一般入試」による入学者の割合が61.0%であり、次いで「推薦」26.1%、「センター試験利用」12.0%、「その他」0.8%であった。その他は2年前から始まったアセンブリ入試利用である。「推薦入試」の定員数が学部で一番多いため、学部平均(19.8%)より高値である。
放射	「一般入試」による入学者の割合は68.3%で最も高かった。次いで「センター試験利用」17.5%、「推薦」11.1%であった。
リハ・理学	一般入試が67名(56.3%)、次いで推薦入試が28名(23.5%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	一般入試が53名(59.6%)、次いで推薦入試が21名(23.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「一般入試」が63%、ついで「センター試験利用入試」が20%、「推薦入試」が13%であった。学部全体の割合と比較し、「センター試験利用入試」の割合が高く、「推薦入試」の割合が低くなかった。
医療経営	「一般入試」による入学者の割合は50.7%と学部内で最も低い割合であった。次いで、「センター試験利用」が31.5%となり学部内で最も高い割合であった。次いで「推薦入試」が17.8%であり、「その他」はゼロであった。昨年度も「センター試験利用」が学部内では高かったが(37.0%)、「推薦入試」の割合は平均以上(24.7%)であった。

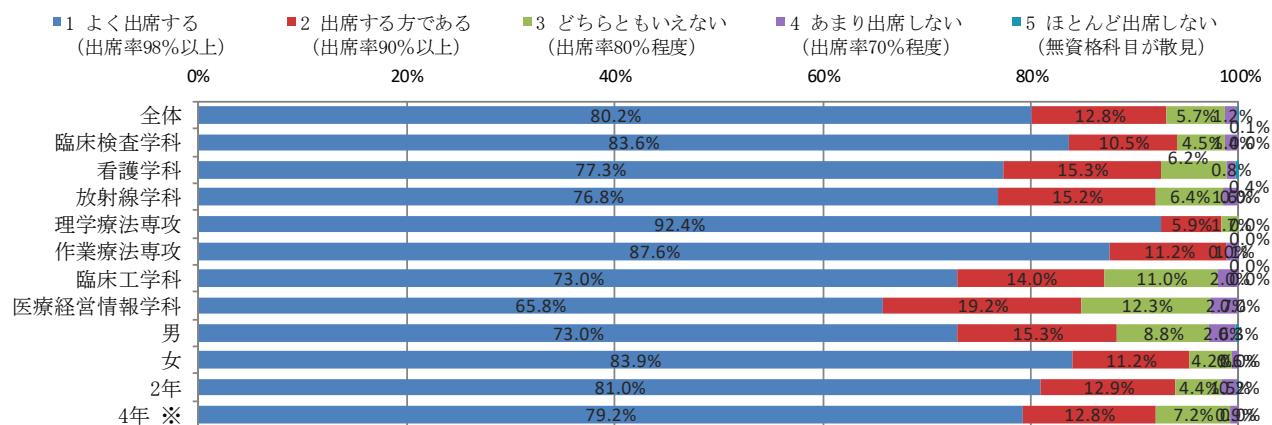
2. 入学時希望順位



(2) 希望の大学へ入学しましたか 2. 入学時希望順位

臨床検査	希望大学であると回答した学生の割合が43.2%であり、学部内で最も低かったが、昨年度(40.8%)とほぼ同様の結果であった。
看護	希望大学であると回答した学生の割合が49.6%であり、昨年度(42.6%)より上昇した。学部の平均よりは低い結果であった。
放射	希望大学であると回答した学生の割合は45.2%であり、学部で2番目に低かった。
リハ・理学	「はい」が71名(59.7%)、「どちらとも言えない」が33名(27.7%)であり、併せた割合は学部内平均値と比較し高値であった。
リハ・作業	「はい」が54名(60.7%)、「どちらとも言えない」が20名(22.5%)であり、併せた割合は学部内平均値と比較し高値であった。
臨床工学	「はい」が63%、「いいえ」が22%、そして、「どちらとも言えない」が15%であった。学部全体の割合と比較し、「はい」の割合が高く、残る2つの回答の割合が低かった。
医療経営	希望大学に入学したとの回答は46.6%で平均より低い値となった。昨年度は54.3%であり平均値以上の値であったことから、第一志望ではなく入学してきたケースが多くなっている。昨年より「センター試験利用」の割合が高く「推薦入試」の割合が低いことが要因か。

3. 授業出席率

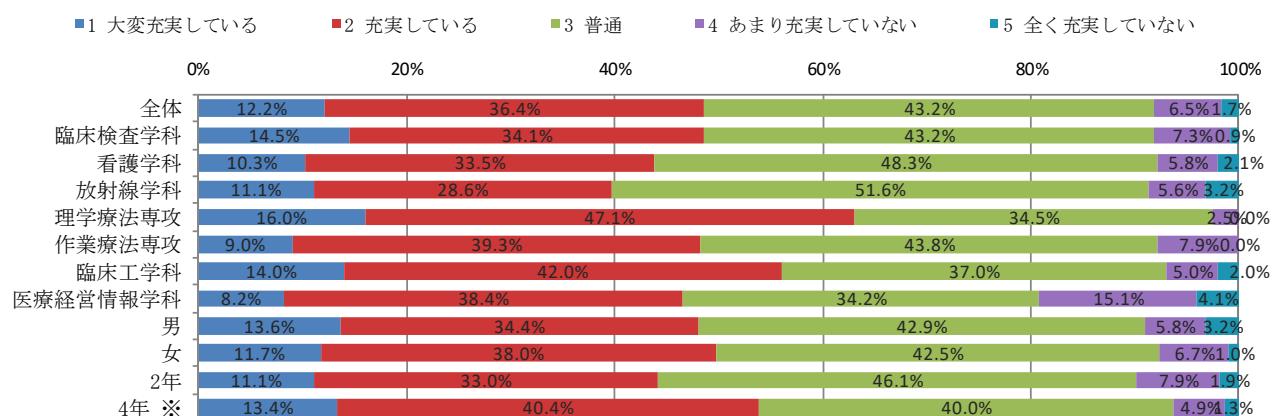


有効回答者数	授業の出席状況について					
	(よく出席する率)	(出席する率)	(どちらともいえない率)	(あまり出席しない率)	(ほとんど出席しない率)	
全体	968	776	124	55	12	1
		80.2%	12.8%	5.7%	1.2%	0.1%
学科別	臨床検査学科	184	23	10	3	0
		83.6%	10.5%	4.5%	1.4%	0.0%
	看護学科	187	37	15	2	1
		77.3%	15.3%	6.2%	0.8%	0.4%
	放射線学科	96	19	8	2	0
		76.8%	15.2%	6.4%	1.6%	0.0%
	理学療法専攻	110	7	2	0	0
		92.4%	5.9%	1.7%	0.0%	0.0%
	作業療法専攻	78	10	0	1	0
		87.6%	11.2%	0.0%	1.1%	0.0%
	臨床工学科	73	14	11	2	0
		73.0%	14.0%	11.0%	2.0%	0.0%
	医療経営情報学科	48	14	9	2	0
		65.8%	19.2%	12.3%	2.7%	0.0%
性別	男	224	47	27	8	1
		73.0%	15.3%	8.8%	2.6%	0.3%
	女	523	70	26	4	0
		83.9%	11.2%	4.2%	0.6%	0.0%
学年別	2年	422	67	23	8	1
		81.0%	12.9%	4.4%	1.5%	0.2%
	4年 ※	354	57	32	4	0
		79.2%	12.8%	7.2%	0.9%	0.0%

(3) 授業の出席状況について: 3. 授業出席率

臨床検査	「よく出席する(出席率98%以上)」と回答した学生の割合が83.6%であり、学部平均より高かった。次いで、「出席するほうである(出席率90%以上)」が10.5%であり、出席率90%以上の学生の割合は94.1%であった。他学科と比較しても特に問題のない数値であるが、より高い出席率が望まれる。
看護	「よく出席する(出席率98%以上)」と回答した学生の割合が77.3%であり、学部平均より低かった。次いで、「出席するほうである(出席率90%以上)」が15.3%であり、出席率90%以上の学生の割合は92.6%であった。他学科と比較してやや低い数値であり、高い出席率が望まれる。
放射	「よく出席する(出席率98%以上)」と回答した学生の割合が76.8%であり、学部平均よりも低い割合であった。次いで、「出席するほうである(出席率90%以上)」が15.2%であり、出席率90%以上と回答した学生の割合は92%であった。「ほとんど出席しない(無資格科目が散見)」はゼロだが、出席率70~80%の学生が全体の8%であった。この中には無資格にならないように計算しながら欠席している学生もふくまれているようである。
リハ・理学	「出席率98%以上」が110名(92.4%)、「同90%以上」が7名(5.9%)であり、併せた割合は学部内平均値と比較し高値であった。
リハ・作業	「出席率98%以上」が78名(87.6%)、「同90%以上」が10名(11.2%)であり、併せた割合は学部内平均値と比較し高値であった。
臨床工学	出席率80%程度以上は98%で、出席率98%以上は72%であった。出席率70%程度以下が2%あるが、出席状況は良好であった。
医療経営	「よく出席する(出席率98%以上)」との回答は65.8%であり、学部で最も低い値であった。昨年度も75.3%と最も低値であったが、今年度はさらに低下していた。「出席するほうである(出席率90%以上)」は19.2%であり、「よく出席する」まで含めると85%となるが、他学科に比べて欠席は多い傾向である。

4. 学生生活充実度…学習面

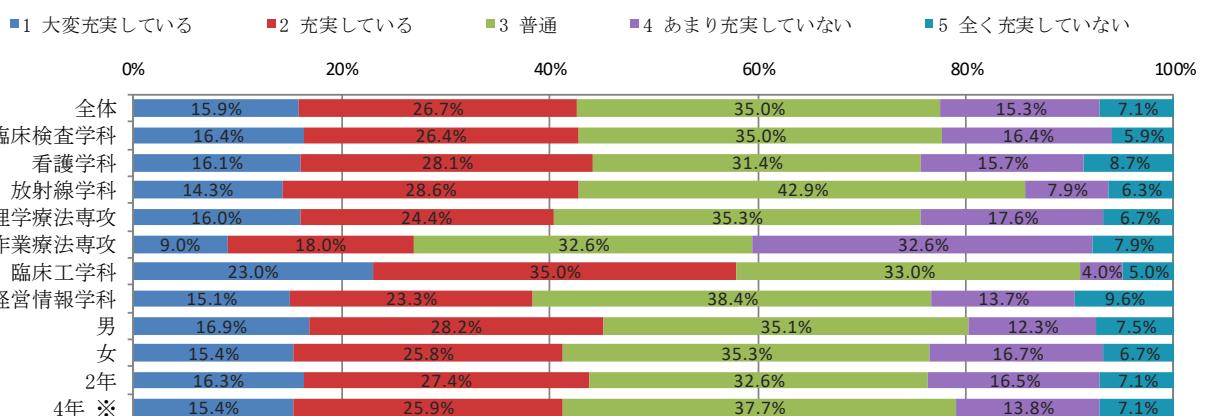


		有効回答者数	学生生活の充実度について…学習面では				
			大変充実している	充実している	普通	あまり充実していない	全く充実していない
全体		969	118	353	419	63	16
			12. 2%	36. 4%	43. 2%	6. 5%	1. 7%
学科別	臨床検査学科	220	32	75	95	16	2
			14. 5%	34. 1%	43. 2%	7. 3%	0. 9%
	看護学科	242	25	81	117	14	5
			10. 3%	33. 5%	48. 3%	5. 8%	2. 1%
	放射線学科	126	14	36	65	7	4
			11. 1%	28. 6%	51. 6%	5. 6%	3. 2%
	理学療法専攻	119	19	56	41	3	0
			16. 0%	47. 1%	34. 5%	2. 5%	0. 0%
性別	作業療法専攻	89	8	35	39	7	0
			9. 0%	39. 3%	43. 8%	7. 9%	0. 0%
	臨床工学科	100	14	42	37	5	2
学年別			14. 0%	42. 0%	37. 0%	5. 0%	2. 0%
	医療経営情報学科	73	6	28	25	11	3
			8. 2%	38. 4%	34. 2%	15. 1%	4. 1%
性別	男	308	42	106	132	18	10
			13. 6%	34. 4%	42. 9%	5. 8%	3. 2%
学年別	女	623	73	237	265	42	6
			11. 7%	38. 0%	42. 5%	6. 7%	1. 0%
性別	2年	521	58	172	240	41	10
			11. 1%	33. 0%	46. 1%	7. 9%	1. 9%
学年別	4年 ※	448	60	181	179	22	6
			13. 4%	40. 4%	40. 0%	4. 9%	1. 3%

(4) 学生生活の充実度について(学習面): 4. 学生生活充実度

臨床検査	「大変充実している」が14.5%、「充実している」が34.1%で合計48.6%であり、学部平均とほぼ同じであったが、昨年度(56.9%)と比較すると低下していた。「あまり充実していない」と「全く充実していない」の合計は8.2%であり、昨年度(7.6%)とほぼ同じであった。
看護	「大変充実している」が10.3%、「充実している」が33.5%で合計43.8%であり、学部平均より低い結果となった。「普通」と答えるものが上昇した。「あまり充実していない」と「全く充実していない」の合計は7.9%であり、昨年度(8.2%)より低かった。
放射	「大変充実している」が11.1%、「充実している」が28.6%で合計39.7%であり、学部平均より10%程度低かった。「普通」と回答した学生は51.6%と学部で最も多く、学習面の充実度という観点では特に良くはないが特に問題はないような状況であるといえる。
リハ・理学	「充実している」が56名(47.1%)、次いで「普通」が41名(34.5%)であり、併せた割合は学部内平均値と比較し高値であった。
リハ・作業	「普通」が39名(43.8%)、次いで「充実している」が35名(39.3%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「大変充実している」が14%、「充実している」が42%と全体の56%であり、学部平均を上回っていた。また、「あまり充実していない」以下が7%と学部平均よりやや低いことから、学生生活が充実していると考えられる。
医療経営	「大変充実している」が8.2%と学部内で最も低値を示しているが、「充実している」は38.4%で合計46.6%となり、学部平均とほぼ同じであった。ただし、昨年度(53.1%)と比較すると低下している。「あまり充実していない」15.1%、「全く充実していない」4.1%と合計19.2%となっており、これは学部内で突出して大きな値となっている。昨年度は12.3%であり、学部内の平均より高いものの突出した値ではなかった。

5. 学生生活充実度…クラブ等

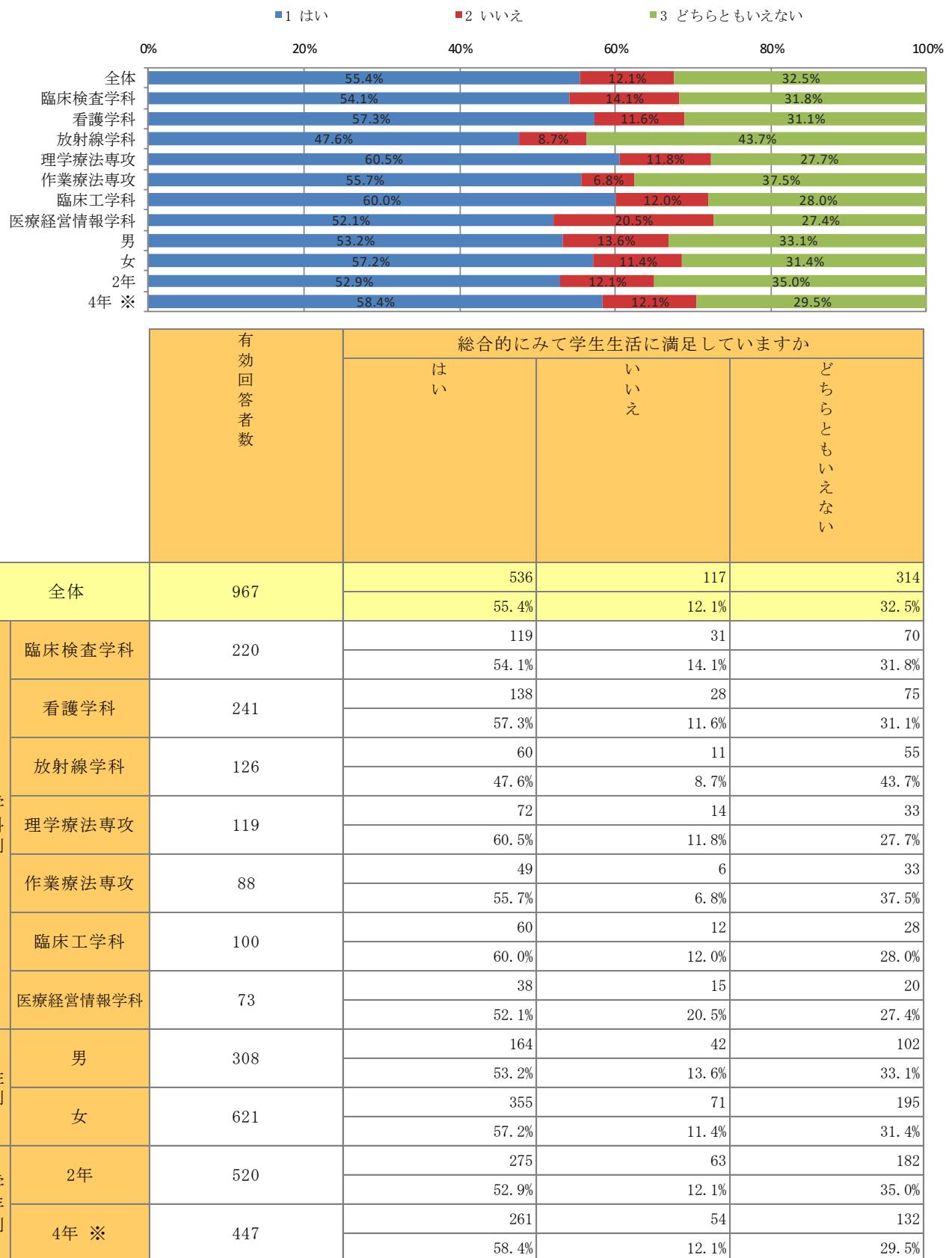


学科別	性別	学年別	有効回答者数	学生生活の充実度について…クラブ・学外活動など				
				大変充実している	充実している	普通	あまり充実していない	全く充実していない
全体			969	154	259	339	148	69
				15.9%	26.7%	35.0%	15.3%	7.1%
臨床検査学科			220	36	58	77	36	13
				16.4%	26.4%	35.0%	16.4%	5.9%
看護学科			242	39	68	76	38	21
				16.1%	28.1%	31.4%	15.7%	8.7%
放射線学科			126	18	36	54	10	8
				14.3%	28.6%	42.9%	7.9%	6.3%
理学療法専攻			119	19	29	42	21	8
				16.0%	24.4%	35.3%	17.6%	6.7%
作業療法専攻			89	8	16	29	29	7
				9.0%	18.0%	32.6%	32.6%	7.9%
臨床工学科			100	23	35	33	4	5
				23.0%	35.0%	33.0%	4.0%	5.0%
医療経営情報学科			73	11	17	28	10	7
				15.1%	23.3%	38.4%	13.7%	9.6%
男			308	52	87	108	38	23
				16.9%	28.2%	35.1%	12.3%	7.5%
女			623	96	161	220	104	42
				15.4%	25.8%	35.3%	16.7%	6.7%
2年			521	85	143	170	86	37
				16.3%	27.4%	32.6%	16.5%	7.1%
4年 ※			448	69	116	169	62	32
				15.4%	25.9%	37.7%	13.8%	7.1%

(5) 学生生活の充実度について(クラブ活動や学外活動などの面): 5. 学生生活充実度

臨床検査	「大変充実している」が16.4%、「充実している」が26.4%で合計42.8%であり、学部平均(42.6%)とほぼ同じであった。「あまり充実していない」と「全く充実していない」を合わせると22.3%を占め、学習面の充実度に比べ、低い結果であった。改善の余地があると考える。
看護	「大変充実している」が16.1%、「充実している」が28.1%で合計44.2%であり、学部平均より高かった。「あまり充実していない」と「全く充実していない」を合わせると24.4%であり、満足できていない様子がうかがえた。
放射	「大変充実している」が14.3%、「充実している」が28.6%で合計42.9%であり、学部平均(42.6%)に近い割合であった。「あまり充実していない」と「全く充実していない」の合計が14.2%と学部内で2番目に低かった。
リハ・理学	「普通」が42名(35.3%)、次いで「充実している」が29名(24.4%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「普通」と「あまり充実していない」が同数の29名(32.6%)であり、「あまり充実していない」の割合は学部内平均値と比較し約2倍であった。
臨床工学	「大変充実している」・「充実している」の割合は58%と、学部平均を上回っていた。また、「あまり充実していない」・「全く充実していない」が9%と学部平均より低かった。
医療経営	「大変充実している」11.1%、「充実している」が23.3%、合計38.4%であり、学部平均(42.6%)より若干低値であった。「あまり充実していない」13.7%、「全く充実していない」9.6%で合計23.3%となっており、ほぼ学部の平均値(22.4%)と同様であった。

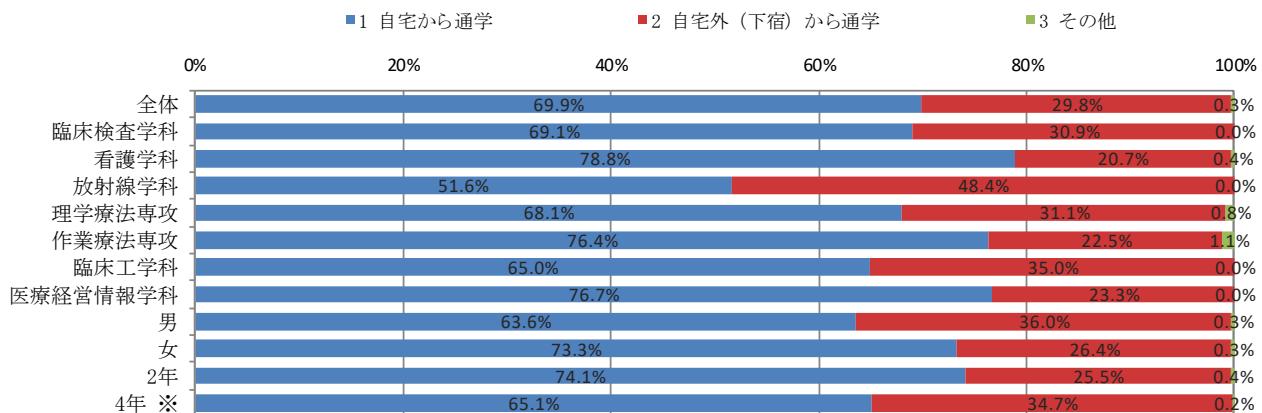
6. 学生生活充実度…総合



(6) 総合的にみて大学生活に満足していますか: 6. 学生生活充実度

臨床検査	「はい」が54.1%で、学部平均(55.4%)とほぼ同じであった。「いいえ」は14.1%で、学部内で二番目に高かった。
看護	「はい」が57.3%で、学部平均(55.4%)より高かった。「いいえ」は11.6%で、学部平均より低く、概ね満足できていると思われる。
放射	「はい」が47.6%で、学部内で最も低かった。他方で「いいえ」は8.7%で学部内で2番目に低く、大きな不満を抱えている学生も少ない結果となった。
リハ・理学	「はい」が72名(60.5%)、次いで「どちらともいえない」が33名(27.7%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「はい」が49名(55.7%)、次いで「どちらともいえない」が33名(37.5%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「はい」が60%、「いいえ」が12%、そして、「どちらとも言えない」が28%で学部平均と同じ傾向を示した。
医療経営	「はい」は52.1%で学部平均(55.4%)より若干低値を示し、「いいえ」は20.5%と学部内で一番大きな値となった。昨年度の調査では、「はい」50.6%、「いいえ」14.8%とも学部平均とほぼ同様の値であり、今年度では明確に「どちらともいえない」が減り、「いいえ」が増加していた。

7. 通学形態

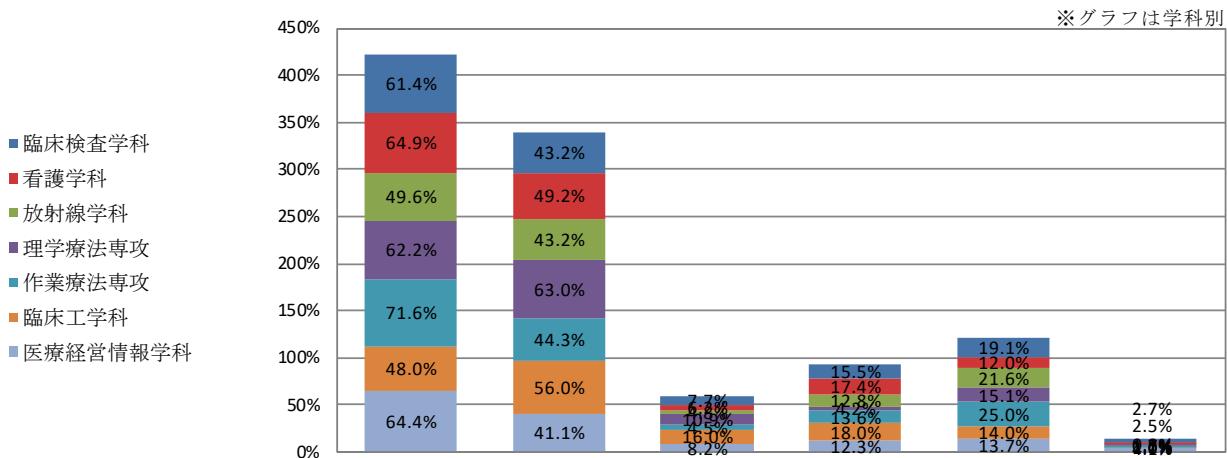


学科別	性別	学年別	有効回答者数	通学の住居について		
				自宅から通学	自宅外(下宿)から通学	その他
全体			968	677	288	3
				69.9%	29.8%	0.3%
臨床検査学科			220	152	68	0
				69.1%	30.9%	0.0%
看護学科			241	190	50	1
				78.8%	20.7%	0.4%
放射線学科			126	65	61	0
				51.6%	48.4%	0.0%
理学療法専攻			119	81	37	1
				68.1%	31.1%	0.8%
作業療法専攻			89	68	20	1
				76.4%	22.5%	1.1%
臨床工学科			100	65	35	0
				65.0%	35.0%	0.0%
医療経営情報学科			73	56	17	0
				76.7%	23.3%	0.0%
男			308	196	111	1
				63.6%	36.0%	0.3%
女			622	456	164	2
				73.3%	26.4%	0.3%
2年			521	386	133	2
				74.1%	25.5%	0.4%
4年 ※			447	291	155	1
				65.1%	34.7%	0.2%

(7) 通学の住居について: 7. 通学形態

臨床検査	「自宅から通学」が69.1%で、「自宅外(下宿)から通学」が30.9%であり、学部平均とほぼ同じであった。
看護	「自宅から通学」が78.8%で、「自宅外(下宿)から通学」が20.7%であり、学部全体で自宅通学者が一番多かった。
放射	「自宅から通学」が51.6%で、「自宅外(下宿)から通学」が48.4%であった。自宅外から通学する学生の割合が学部内で最も多かった。放射線学科を擁する大学はまだ少なく、他学科より広範囲の地域から(全国から)学生が集まっていることを意味している。
リハ・理学	「自宅」が81名(68.1%)、次いで「自宅外(下宿)」が37名(31.1%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「自宅」が68名(76.4%)、次いで「自宅外(下宿)」が20名(22.5%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「自宅から通学」が65%で、学部平均より若干少なかった。また、「自宅外(下宿)から通学」は35%で学部平均より多かった。
医療経営	「自宅から通学」76.7%であり、学部平均69.9%より6.8ポイント多くなっている。看護・リハ作業と同様の傾向であった。

8. 通学手段 (複数回答) - 学科別 -

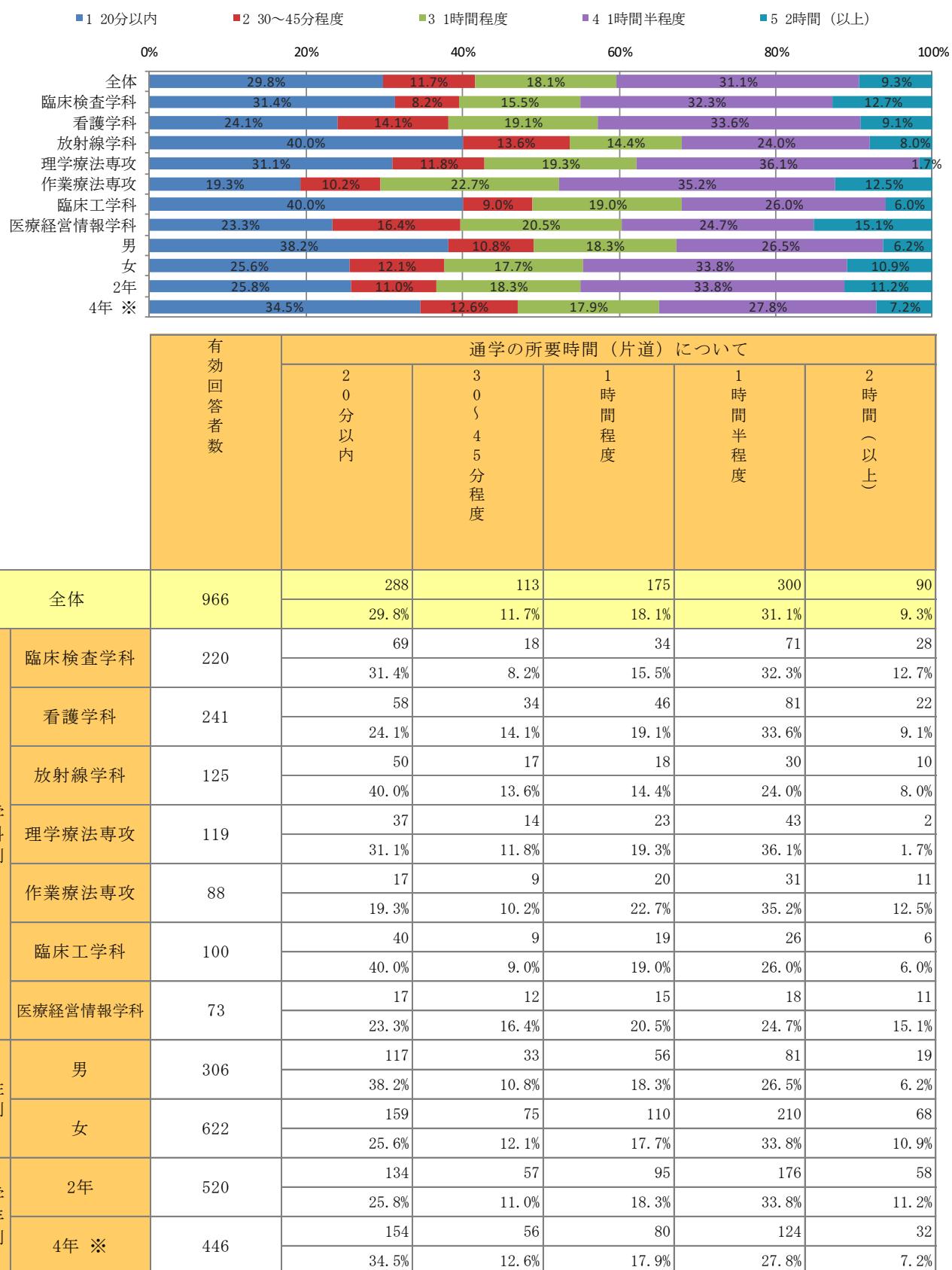


学科別	有効回答者数	通学手段はですか					
		電気自動車	自転車	単車(バイク)	自動車	徒歩	その他
全体	967	586 60.6%	468 48.4%	77 8.0%	136 14.1%	162 16.8%	20 2.1%
臨床検査学科	220	135 61.4%	95 43.2%	17 7.7%	34 15.5%	42 19.1%	6 2.7%
看護学科	242	157 64.9%	119 49.2%	15 6.2%	42 17.4%	29 12.0%	6 2.5%
放射線学科	125	62 49.6%	54 43.2%	6 4.8%	16 12.8%	27 21.6%	1 0.8%
理学療法専攻	119	74 62.2%	75 63.0%	13 10.9%	5 4.2%	18 15.1%	2 1.7%
作業療法専攻	88	63 71.6%	39 44.3%	4 4.5%	12 13.6%	22 25.0%	1 1.1%
臨床工学科	100	48 48.0%	56 56.0%	16 16.0%	18 18.0%	14 14.0%	1 1.0%
医療経営情報学科	73	47 64.4%	30 41.1%	6 8.2%	9 12.3%	10 13.7%	3 4.1%
性別	男	156 50.8%	162 52.8%	45 14.7%	35 11.4%	52 16.9%	4 1.3%
	女	409 65.8%	288 46.3%	28 4.5%	98 15.8%	104 16.7%	15 2.4%
学年別	2年	345 66.3%	273 52.5%	35 6.7%	57 11.0%	78 15.0%	16 3.1%
	4年 ※	241 53.9%	195 43.6%	42 9.4%	79 17.7%	84 18.8%	4 0.9%

(8) 通学手段はですか: 8. 通学手段

臨床検査	「公共交通機関(バス・電車等)」が61.4%と最も高く、次いで自転車(43.7%)、「徒歩」(19.1%)であった。いずれも学部平均とほぼ同じであった。
看護	「公共交通機関(バス・電車等)」が64.9%と最も高く、次いで自転車(49.2%)、「徒歩」(12.0%)であった。自宅通学生が多いのが影響していると思われる。
放射	公共交通機関が49.6%と最も高く、次いで自転車(43.2%)であった。徒歩と自転車通学を合わせた割合は64.8%と高く、大学周辺に下宿している学生が多いことが推測される。
リハ・理学	「自転車」が75名(63.0%)、次いで「公共交通機関(バス・電車等)」が74名(62.2%)であり、学部内平均値と比較し「自転車」が高値であった。
リハ・作業	「公共交通機関(バス・電車等)」が63名(71.6%)、次いで「自転車」が39名(44.3%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「自転車」が56%で最も多く、次いで「公共交通機関(バス・電車)」が48%で他学科と同様であった。一方「単車」が16%、「自動車」が18%と学部平均を大きく上回った。
医療経営	「公共交通機関(バス・電車等)」が64.4%と最も高く、次いで「自転車」(41.1%)、「徒歩」(13.7%)、「自動車」(12.3%)であった。いずれも学部平均とほぼ同様であった。

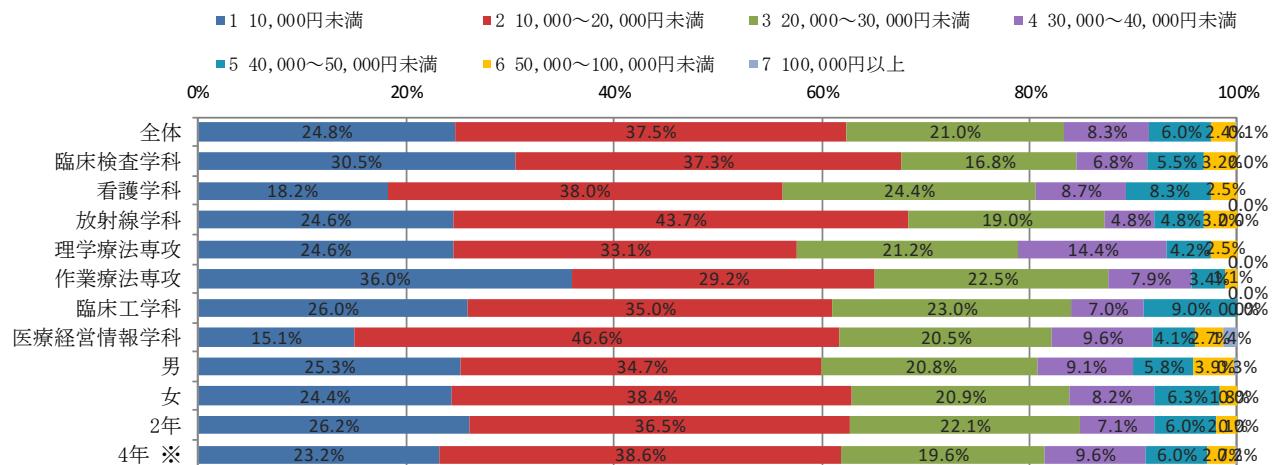
9. 通学時間



(9) 通学の所要時間(片道)について: 9. 通学時間

臨床検査	「1時間半程度」が32.3%と最も多く、次いで「20分以内」31.4%、「1時間程度」15.5%であった。「2時間以上」の学生の割合は12.7%で、学部平均より高かった。
看護	「1時間半程度」が33.6%と最も多く、次いで「20分以内」24.1%、「1時間程度」19.1%であった。「2時間以上」の学生の割合は9.1%であった。61.8%の学生は通学に1時間以上費やしている。
放射	20分以内が40.0%と学部内で最も多く、次いで1時間半程度が30.6%と高かった。これは下宿している学生と名古屋近郊から通学している学生が多いことを示している。
リハ・理学	「1.5時間程度」が43名(36.1%)、次いで「20分以内」が37名(31.1%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「1.5時間程度」が31名(35.2%)、次いで「1時間程度」が20名(22.7%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	通学時間が1時間以上かかっていた学生の割合は約32%で、学部内で最も低かった。また、1時間半以内の学生が学科内の94%以上を占めた。
医療経営	「1時間半程度」が24.7%と最も多く、次いで「20分以内」23.3%であった。1時間以上の通学者が60.3%あり、学部平均58.5%より若干多い状況である。また、「2時間以上」の学生の割合は15.1%で、学部で一番多い割合であった。

10. お小遣い



有効回答者数	1か月の趣味や娯楽費等に掛ける費用はいくらですか						
	1 0	2 0	3 0	4 0	5 0	1 0	1 0
円未満	円未満	円未満	円未満	円未満	円未満	円未満	円以上
1	2	3	4	5	1	5	1
0	0	0	0	0	0	0	0
,	,	,	,	,	,	,	,
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
円未満	円未満	円未満	円未満	円未満	円未満	円未満	円以上

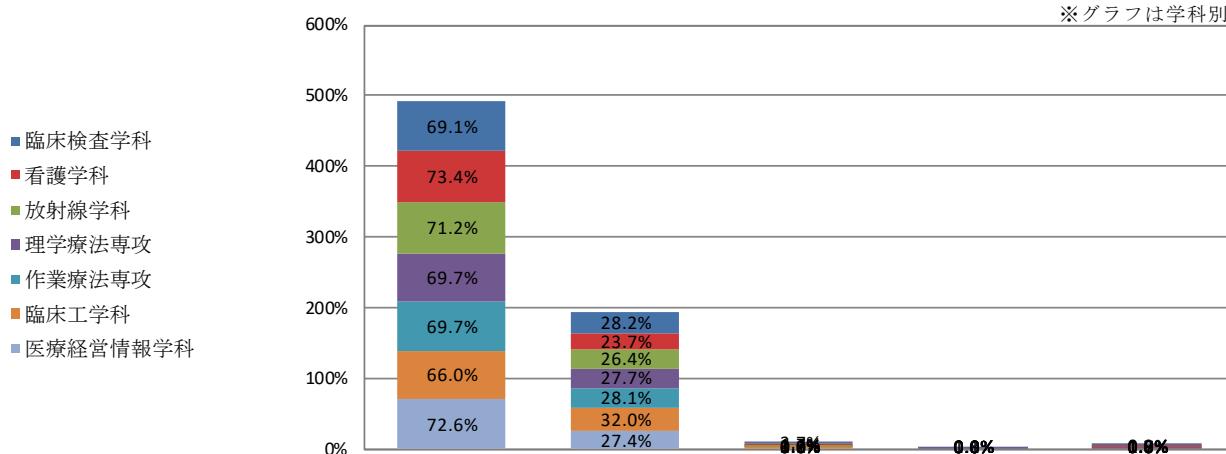
学科別	全体	968	240	363	203	80	58	23	1
			24.8%	37.5%	21.0%	8.3%	6.0%	2.4%	0.1%
臨床検査学科		220	67	82	37	15	12	7	0
			30.5%	37.3%	16.8%	6.8%	5.5%	3.2%	0.0%
看護学科		242	44	92	59	21	20	6	0
			18.2%	38.0%	24.4%	8.7%	8.3%	2.5%	0.0%
放射線学科		126	31	55	24	6	6	4	0
			24.6%	43.7%	19.0%	4.8%	4.8%	3.2%	0.0%
理学療法専攻		118	29	39	25	17	5	3	0
			24.6%	33.1%	21.2%	14.4%	4.2%	2.5%	0.0%
作業療法専攻		89	32	26	20	7	3	1	0
			36.0%	29.2%	22.5%	7.9%	3.4%	1.1%	0.0%
臨床工学科		100	26	35	23	7	9	0	0
			26.0%	35.0%	23.0%	7.0%	9.0%	0.0%	0.0%
医療経営情報学科		73	11	34	15	7	3	2	1
			15.1%	46.6%	20.5%	9.6%	4.1%	2.7%	1.4%
性別	男	308	78	107	64	28	18	12	1
			25.3%	34.7%	20.8%	9.1%	5.8%	3.9%	0.3%
性別	女	622	152	239	130	51	39	11	0
			24.4%	38.4%	20.9%	8.2%	6.3%	1.8%	0.0%
学年別	2年	520	136	190	115	37	31	11	0
			26.2%	36.5%	22.1%	7.1%	6.0%	2.1%	0.0%
学年別	4年 ※	448	104	173	88	43	27	12	1
			23.2%	38.6%	19.6%	9.6%	6.0%	2.7%	0.2%

(10) あなたの1か月の趣味や娯楽費等に掛ける費用はいくらですか: 10. お小遣い

臨床検査	「1～2万円」が37.3%と最も高く、次いで「1万円未満」30.5%、「2～3万円」6.8%であった。「1万円未満」の割合が学部平均より高かった。
看護	「1～2万円」が38.0%と最も高く、次いで「2～3万円」24.4%、「1万円未満」18.2%であった。で「2～3万円」の割合が学部平均より高かった。女子の平均に準じていた。
放射	「1万円未満」および「1～2万円」が68.3%を占め、全体的に学部平均よりも若干割合が高い。下宿生も多く生活費が嵩むことから、趣味や娯楽に掛ける費用は少ないと推測される。
リハ・理学	「1～2万円」が39名(33.1%)、次いで「1万円未満」が29名(24.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「1万円未満」が32名(36.0%)、次いで「1～2万円」が26名(29.2%)であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が低額帯に分布していた。
臨床工学	趣味・娯楽に掛ける費用は1月あたり2万円以内が7割ほどで、学部全体の割合とほぼ同じであった。5万円以上はいなかった。
医療経営	「1～2万円」が46.6%と学部内で最も高い比率であり、「1万円未満」は15.1%と学部内で最も低い比率であった。「1～2万円」の小遣いが多い傾向は昨年度も同様であった。より高額な小遣いについては、ほぼ学部平均と同様であるが、本学科のみ「10万円以上」の学生が1.4%(1名)あった。

11. 奨学金 (複数回答) - 学科別 -

※グラフは学科別



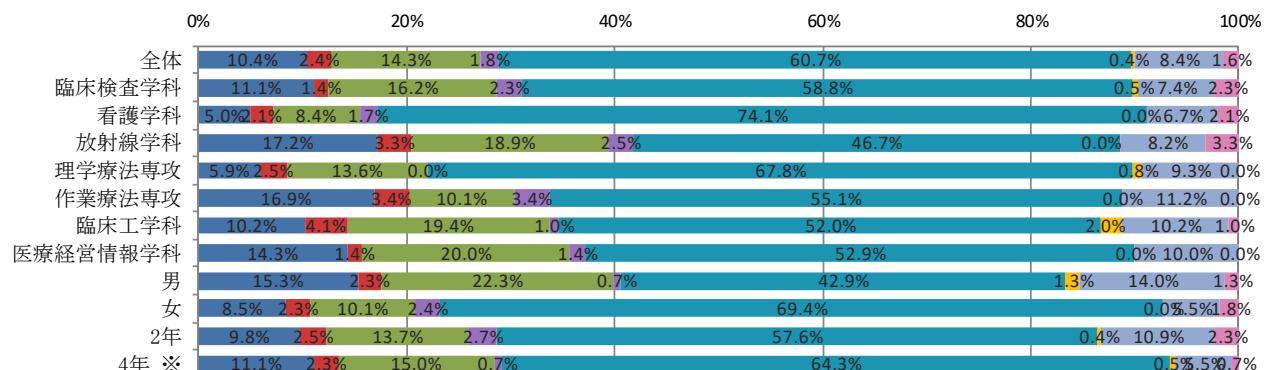
学科別	有効回答者数	奨学金を受けていますか				
		受け て い な い	学日本を学生受け支援機構の奨	を地方で公て共い団る体の奨学金	民間を育英して団体等の奨学	その 他
全体	967	682	262	17	2	10
		70.5%	27.1%	1.8%	0.2%	1.0%
臨床検査学科	220	152	62	6	0	2
		69.1%	28.2%	2.7%	0.0%	0.9%
看護学科	241	177	57	4	0	4
		73.4%	23.7%	1.7%	0.0%	1.7%
放射線学科	125	89	33	2	0	1
		71.2%	26.4%	1.6%	0.0%	0.8%
理学療法専攻	119	83	33	1	1	2
		69.7%	27.7%	0.8%	0.8%	1.7%
作業療法専攻	89	62	25	1	1	0
		69.7%	28.1%	1.1%	1.1%	0.0%
臨床工学科	100	66	32	3	0	1
		66.0%	32.0%	3.0%	0.0%	1.0%
医療経営情報学科	73	53	20	0	0	0
		72.6%	27.4%	0.0%	0.0%	0.0%
性別	男	210	90	3	1	4
		68.2%	29.2%	1.0%	0.3%	1.3%
	女	448	158	14	1	6
		72.1%	25.4%	2.3%	0.2%	1.0%
学年別	2年	378	132	10	1	3
		72.7%	25.4%	1.9%	0.2%	0.6%
	4年 ※	304	130	7	1	7
		68.0%	29.1%	1.6%	0.2%	1.6%

(11) 奨学金を受けていますか: 11. 奨学金

臨床検査	何らかの奨学金を「受けている」と答えた学生は31.8%であり、学部平均とほぼ同じであり、昨年度の臨床検査学科の割合(29.2%)と比べると、やや高かった。奨学金を受けている学生のうち、約86%が日本学生支援機構の奨学金を受けている学生であった。
看護	「受けていない」と答えた学生は、学部で最も多く73.4%であった。何らかの奨学金を「受けている」と答えた学生は26.6%であった。奨学金を受けている学生のうち、89.1%が日本学生支援機構の奨学金を受けている学生であった。
放射	奨学金を受けていない学生は全体の71.2%、日本学生支援機構の奨学金を受けている学生は 26.4%であり、奨学金を受けている学生は学部平均よりも低い。
リハ・理学	「日本学生支援機構」が33名(27.7%)、次いで「地方公共団体」と「民間育英団体」がそれぞれ1名(0.8%)、その他の学生は奨学金を受けておらず、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「日本学生支援機構」が25名(28.1%)、次いで「地方公共団体」と「民間育英団体」がそれぞれ1名(1.1%)、その他の学生は奨学金を受けておらず、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	奨学金等の公的補助制度を利用しない学生の割合は66%だった。奨学金を受けている学生のほとんどは日本学生支援機構からの受給であった。
医療経営	奨学金を受けていない学生が72.6%、「受けている」学生が27.4%であり、学部平均とほぼ同じであった。奨学金は全て学生支援機構より受給している。

12. アルバイト有無と目的

- 1 していない
 ■3 生活費・教養費を得るため
 ■5 旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため
 ■7 貯金をするため
 ■2 学費を得るため
 ■4 クラブ活動費を得るため
 ■6 耐久消費財（電化用品、家具など）を購入するため
 ■8 その他

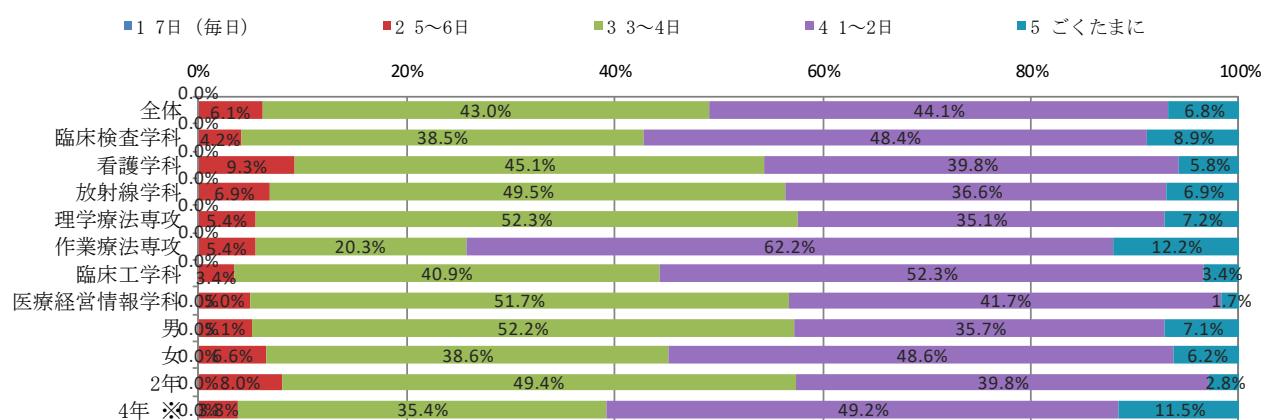


有効回答者数		現在の学生生活におけるアルバイト経験の有無と目的について							
		していな い	学費を得 るため	た生 め活 費・ 教養 費を得 る	めク ラブ 活動 費を得 るた	な旅 どの等 資レ ジを得 る・ た洋 め服	す品 耐 る、 た家 消 費 具 な ど を化 購 入	貯 金 を す る た め	そ の 他
全体		99	23	136	17	578	4	80	15
		10.4%	2.4%	14.3%	1.8%	60.7%	0.4%	8.4%	1.6%
学科別	臨床検査学科	216	24	3	35	5	127	1	16
		11.1%	1.4%	16.2%	2.3%	58.8%	0.5%	7.4%	2.3%
	看護学科	239	12	5	20	4	177	0	16
		5.0%	2.1%	8.4%	1.7%	74.1%	0.0%	6.7%	2.1%
	放射線学科	122	21	4	23	3	57	0	10
		17.2%	3.3%	18.9%	2.5%	46.7%	0.0%	8.2%	3.3%
	理学療法専攻	118	7	3	16	0	80	1	11
		5.9%	2.5%	13.6%	0.0%	67.8%	0.8%	9.3%	0.0%
	作業療法専攻	89	15	3	9	3	49	0	10
		16.9%	3.4%	10.1%	3.4%	55.1%	0.0%	11.2%	0.0%
	臨床工学科	98	10	4	19	1	51	2	10
		10.2%	4.1%	19.4%	1.0%	52.0%	2.0%	10.2%	1.0%
	医療経営情報学科	70	10	1	14	1	37	0	7
		14.3%	1.4%	20.0%	1.4%	52.9%	0.0%	10.0%	0.0%
性別	男	301	46	7	67	2	129	4	42
		15.3%	2.3%	22.3%	0.7%	42.9%	1.3%	14.0%	1.3%
	女	615	52	14	62	15	427	0	34
		8.5%	2.3%	10.1%	2.4%	69.4%	0.0%	5.5%	1.8%
学年別	2年	512	50	13	70	14	295	2	56
		9.8%	2.5%	13.7%	2.7%	57.6%	0.4%	10.9%	2.3%
	4年 ※	440	49	10	66	3	283	2	24
		11.1%	2.3%	15.0%	0.7%	64.3%	0.5%	5.5%	0.7%

(12) 現在の学生生活におけるアルバイト経験の有無と目的について: 12. アルバイトの目的

臨床検査	アルバイトについて「していない」と回答した学生は11.1%であり、学部平均とほぼ同じであった。ほとんどの学生は何らかのアルバイトをしており、アルバイトの目的としては「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が58.8%、次いで「生活費・教養費を得るため」16.2%であり、学部平均とほぼ同じ分布であった。昨年度の調査結果と比較してもほぼ同じであった。
看護	アルバイトについて「していない」と回答した学生は5.0%であり、ほとんどの学生は何らかのアルバイトをしている。アルバイトの目的としては「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が74.1%と他学科に比べ最も高い、次いで「生活費・教養費を得るため」8.4%であった。
放射	アルバイトを「していない」と回答した学生の割合は17.2%であり、学部内で最も高かった。アルバイトの目的としては「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が最も多く46.7%であった。18.9%の学生は生活費・教養費を得るためにアルバイトを行なっている。
リハ・理学	94.1%の学生がアルバイトをしており、「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が80名(67.8%)、次いで「生活費・教養費を得るため」が16名(13.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	83.1%の学生がアルバイトをしており、「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が49名(55.1%)、次いで「生活費・教養費を得るため」が9名(10.1%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	89%の学生がアルバイトをしていた。目的の52%は「旅行レジャー・洋服等の資金」で、ついで「生活費・教養費」が19%であった。また、「貯金」が10%あった。
医療経営	アルバイトしていない学生は14.3%であり学部平均より若干多いものの、アルバイトの目的が「生活費・強要費を得るため」が20.0%と他学科より多く、「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」は52.9%と学部平均の60.7%より低い結果であり、若干ではあるが家庭の経済状況がよくない学生の割合が多い傾向があると考えられる。しかし、昨年度よりは「学費を得るため」にアルバイトしている学生は少なく、「していない」学生も多い状況である。

13. アルバイト日数

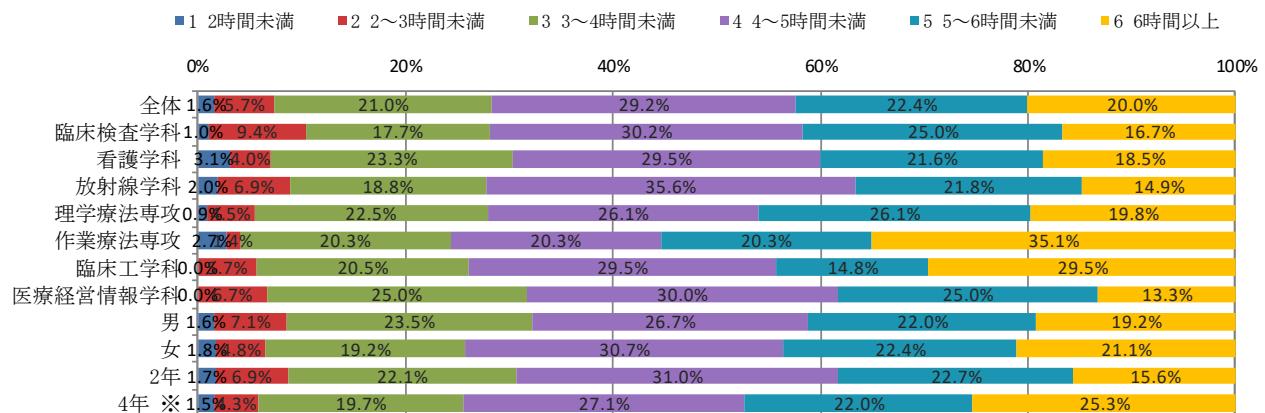


学科別	性別	学年別	有効回答者数	アルバイトは1週間に何日しますか（ていましたか）				
				7日（毎日）	5日	3日	1日	ごくたまに
全体			852	0	52	366	376	58
				0.0%	6.1%	43.0%	44.1%	6.8%
臨床検査学科			192	0	8	74	93	17
				0.0%	4.2%	38.5%	48.4%	8.9%
看護学科			226	0	21	102	90	13
				0.0%	9.3%	45.1%	39.8%	5.8%
放射線学科			101	0	7	50	37	7
				0.0%	6.9%	49.5%	36.6%	6.9%
理学療法専攻			111	0	6	58	39	8
				0.0%	5.4%	52.3%	35.1%	7.2%
作業療法専攻			74	0	4	15	46	9
				0.0%	5.4%	20.3%	62.2%	12.2%
臨床工学科			88	0	3	36	46	3
				0.0%	3.4%	40.9%	52.3%	3.4%
医療経営情報学科			60	0	3	31	25	1
				0.0%	5.0%	51.7%	41.7%	1.7%
男			255	0	13	133	91	18
				0.0%	5.1%	52.2%	35.7%	7.1%
女			562	0	37	217	273	35
				0.0%	6.6%	38.6%	48.6%	6.2%
2年			462	0	37	228	184	13
				0.0%	8.0%	49.4%	39.8%	2.8%
4年 ※			390	0	15	138	192	45
				0.0%	3.8%	35.4%	49.2%	11.5%

(13) アルバイトは1週間に何日しますか: 13. アルバイト日数

臨床検査	週に「1～2日」と答えた学生の割合が48.4%と最も高く、次いで「3～4日」38.5%であった。学部平均と比べると、「1～2日」と答えた学生の割合が高く、3日以上と答えた学生の割合は低かった。学習面への影響がないように、アルバイト日数を制限していることが推察された。
看護	週に「3～4日」と答えた学生の割合が45.1%と最も高く、次いで「1～2日」39.8%であった。「5～6日」と答えた学生も9.3%あり、学部で一番高かった。学部平均と比べると、3日以上と答えた学生の割合は高かった。学習面への影響が懸念される。
放射	週に「3～4日」と答えた学生の割合が49.5%が最も高く、次いで「1～2日」が36.6%であった。学部内で比較すると、「3～4日」と答えた学生の割合が学部平均よりも高く、「1～2日」と答えた学生の割合は学部内で2番目に低かった。
リハ・理学	「3-4日」が58名(52.3%)、次いで「1-2日」が39名(35.1%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「1-2日」が46名(62.2%)、次いで「3-4日」が15名(20.3%)であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が低値帯に分布していた。
臨床工学	「1～2日」が52%と半数を超えていた。次いで「3～4日」が41%で、「5～6日」と「ごくたまに」がそれぞれ3%であった。毎日を選択したものはいなかった。
医療経営	週に「3～4日」の学生が51.7%と学部平均43.0%より多くなっているが、アルバイトの実態はほぼ学部平均的であった。

14. アルバイト時間

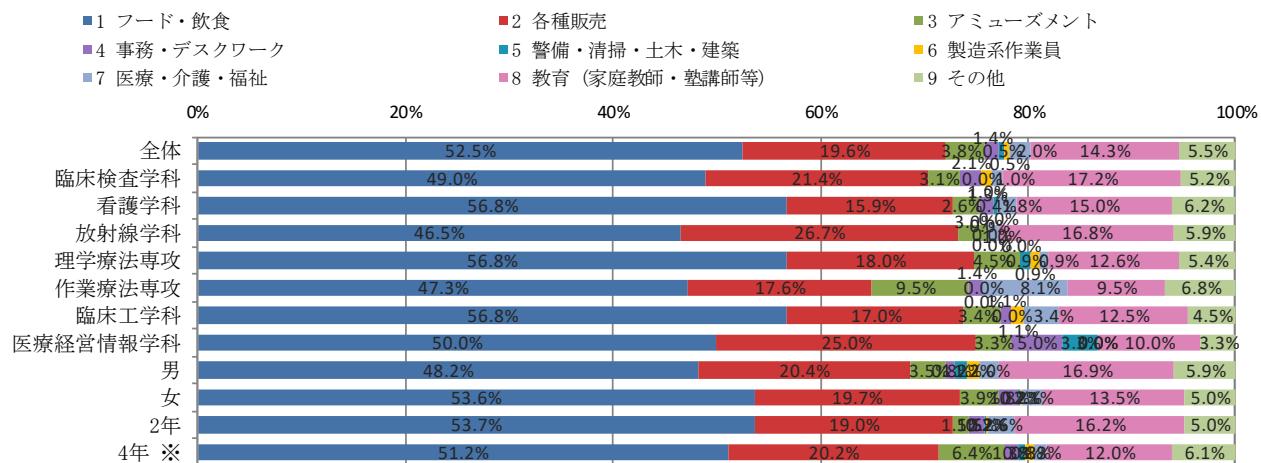


学科別	性別	学年別	有効回答者数	アルバイトは、主に一日あたり何時間していますか					
				2時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	5時間未満	6時間以上
全体			853	14	49	179	249	191	171
				1.6%	5.7%	21.0%	29.2%	22.4%	20.0%
臨床検査学科			192	2	18	34	58	48	32
				1.0%	9.4%	17.7%	30.2%	25.0%	16.7%
看護学科			227	7	9	53	67	49	42
				3.1%	4.0%	23.3%	29.5%	21.6%	18.5%
放射線学科			101	2	7	19	36	22	15
				2.0%	6.9%	18.8%	35.6%	21.8%	14.9%
理学療法専攻			111	1	5	25	29	29	22
				0.9%	4.5%	22.5%	26.1%	26.1%	19.8%
作業療法専攻			74	2	1	15	15	15	26
				2.7%	1.4%	20.3%	20.3%	20.3%	35.1%
臨床工学科			88	0	5	18	26	13	26
				0.0%	5.7%	20.5%	29.5%	14.8%	29.5%
医療経営情報学科			60	0	4	15	18	15	8
				0.0%	6.7%	25.0%	30.0%	25.0%	13.3%
男			255	4	18	60	68	56	49
				1.6%	7.1%	23.5%	26.7%	22.0%	19.2%
女			563	10	27	108	173	126	119
				1.8%	4.8%	19.2%	30.7%	22.4%	21.1%
2年			462	8	32	102	143	105	72
				1.7%	6.9%	22.1%	31.0%	22.7%	15.6%
4年 ※			391	6	17	77	106	86	99
				1.5%	4.3%	19.7%	27.1%	22.0%	25.3%

(14) 一日あたり何時間していますか: 14. アルバイト時間

臨床検査	1日あたり「4～5時間」と答えた学生の割合が30.2%と最も高く、次いで「5～6時間」25.0%、「3～4時間」17.7%であった。昨年度調査では「6時間以上」が28.1%と最も高く、昨年度より1日当たりのアルバイト時間が短くなっていた。
看護	1日あたり「4～5時間」と答えた学生の割合が29.5%と最も高く、次いで「3～4時間」23.3%、「5～6時間」21.6%であった。アルバイトの時間は短い結果となった。
放射	1日あたり「4～5時間」、「5～6時間」、「6時間以上」と答えた学生の割合が72.3%と最も高かった。1回で半日以上アルバイトしている学生が多いことがわかる。
リハ・理学	「4～5時間」と「5～6時間」がそれぞれ29名(26.1%)、次いで「3～4時間」が25名(22.5%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「6時間以上」が26名(35.1%)、次いで「5～6時間」、「4～5時間」、「3～4時間」がそれぞれ15名(20.3%)であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が長時間帯に分布していた。
臨床工学	1日当たり「4～5時間」、「6時間以上」がそれぞれ30%で、次いで「3～4時間」が21%、2時間未満はいなかった。半日以上アルバイトしている割合が3/4を占めている。
医療経営	1日あたり「2時間未満」である学生はいなかったが、それ以外のアルバイト時間については学部平均とほぼ同様の傾向であった。「4～5時間」が30.0%で最も多くなっていた。「6時間以上」の学生は13.3%であり、学部内で一番小さな比率であった。

15. アルバイト職種



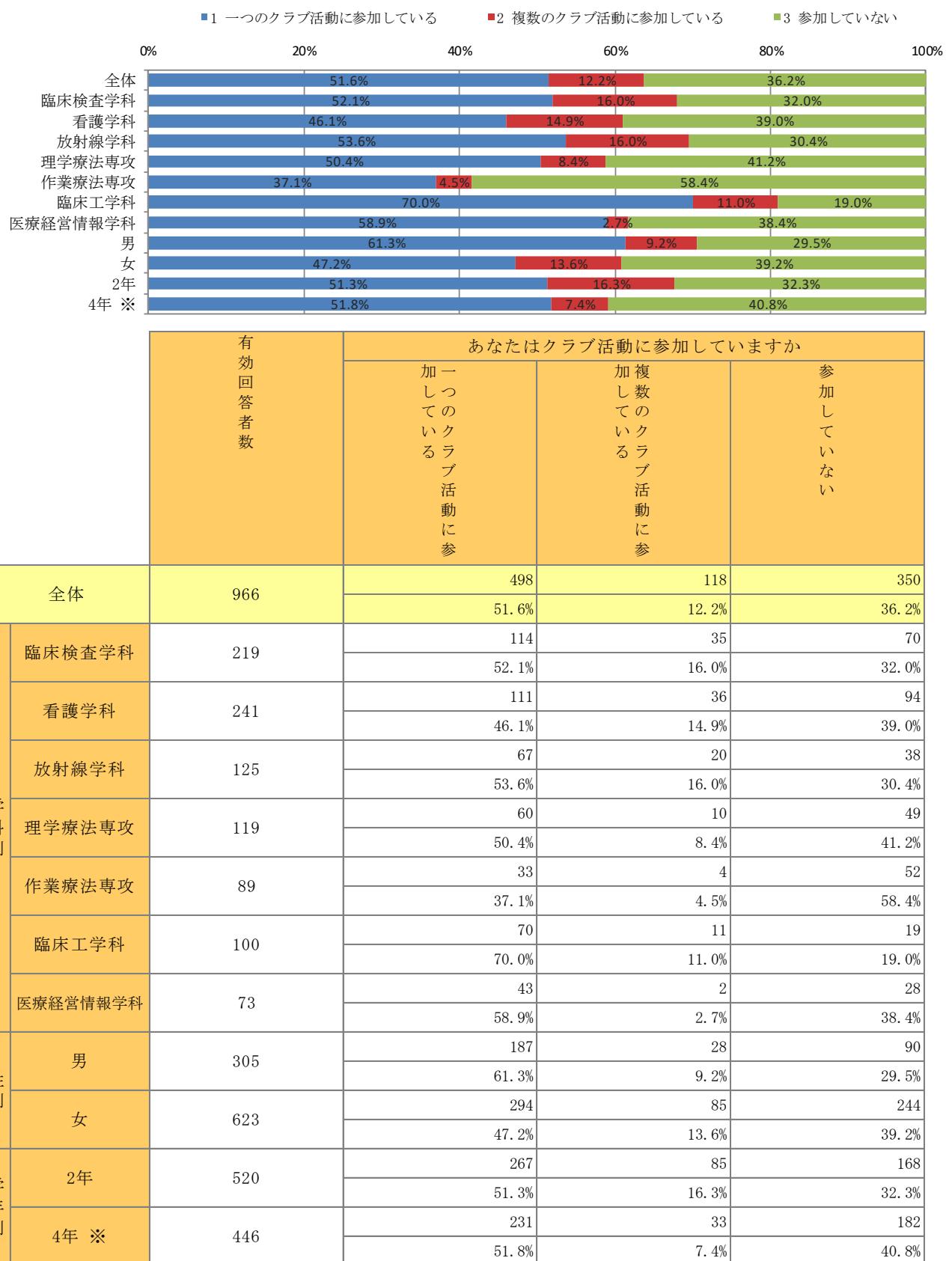
学科別	性別	学年別	有効回答者数	アルバイトの主な職種								
				フード・飲食	各種販売	アミューズメント	事務・デスクワーク	警備・清掃・土木・建築	製造系作業員	医療・介護・福祉	教育(家庭教師・塾講師)	その他
臨床検査学科	全般	2年	853	448	167	32	12	4	4	17	122	47
				52.5%	19.6%	3.8%	1.4%	0.5%	0.5%	2.0%	14.3%	5.5%
看護学科	女	4年 ※	192	94	41	6	4	0	2	2	33	10
				49.0%	21.4%	3.1%	2.1%	0.0%	1.0%	1.0%	17.2%	5.2%
放射線学科	全般	4年 ※	227	129	36	6	3	1	0	4	34	14
				56.8%	15.9%	2.6%	1.3%	0.4%	0.0%	1.8%	15.0%	6.2%
理学療法専攻	男	4年 ※	101	47	27	3	0	0	0	1	17	6
				46.5%	26.7%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	16.8%	5.9%
作業療法専攻	全般	4年 ※	111	63	20	5	0	1	1	1	14	6
				56.8%	18.0%	4.5%	0.0%	0.9%	0.9%	0.9%	12.6%	5.4%
臨床工学科	女	4年 ※	74	35	13	7	1	0	0	6	7	5
				47.3%	17.6%	9.5%	1.4%	0.0%	0.0%	8.1%	9.5%	6.8%
医療経営情報学科	全般	4年 ※	88	50	15	3	1	0	1	3	11	4
				56.8%	17.0%	3.4%	1.1%	0.0%	1.1%	3.4%	12.5%	4.5%
性別	男	2年	60	30	15	2	3	2	0	0	6	2
				50.0%	25.0%	3.3%	5.0%	3.3%	0.0%	0.0%	10.0%	3.3%
性別	女	4年 ※	255	123	52	9	2	3	3	5	43	15
				48.2%	20.4%	3.5%	0.8%	1.2%	1.2%	2.0%	16.9%	5.9%
学年別	女	4年 ※	563	302	111	22	10	1	1	12	76	28
				53.6%	19.7%	3.9%	1.8%	0.2%	0.2%	2.1%	13.5%	5.0%
学年別	全般	4年 ※	462	248	88	7	7	1	1	12	75	23
				53.7%	19.0%	1.5%	1.5%	0.2%	0.2%	2.6%	16.2%	5.0%
学年別	男	4年 ※	391	200	79	25	5	3	3	5	47	24
				51.2%	20.2%	6.4%	1.3%	0.8%	0.8%	1.3%	12.0%	6.1%

※アルバイトをしている人のみ回答

(15) アルバイトの主な職種: 15. アルバイトの種別

臨床検査	「フード・飲食」が49.0%と最も高く、次いで「各種販売」21.4%、「教育(家庭教師・塾講師等)」17.2%であり、「教育(家庭教師・塾講師等)」の割合は学部内で最も高かった。
看護	「フード・飲食」が56.8%と最も高く、次いで「各種販売」15.9%、「教育(家庭教師・塾講師等)」15.0%であった。
放射	「フード・飲食」が46.5%と最も高かった。次いで、「各種販売」が26.7%であり、学部内で最も高い割合であった。また「教育(家庭教師・塾講師等)」は16.8%であり、学部内で2番目に高かった。
リハ・理学	「フード・飲食」が63名(56.8%)、次いで「各種販売」が20名(18.0%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「フード・飲食」が35名(47.3%)、次いで「各種販売」が13名(17.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	職種では、「フード・飲食」関係が57%、次いで「各種販売業」が17%であった。学科平均とほぼ同じ傾向であった。
医療経営	「フード・飲食」及び「各種販売」で75.0%となり、ほぼ学部平均72.1%と同様であった。他学科と比べ「事務・デスクワーク」が5.0%と多くなかった。

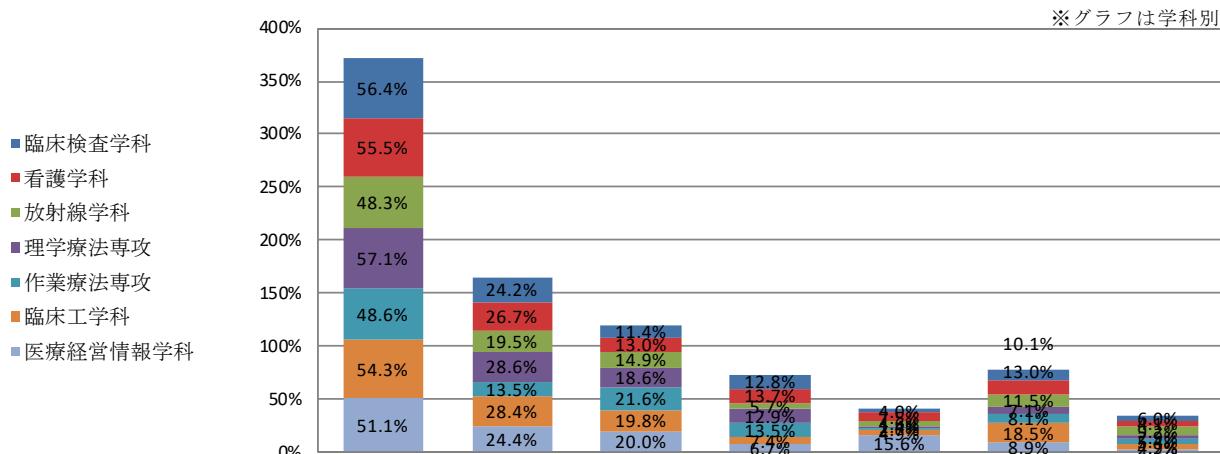
16. クラブ活動参加有無



(16) あなたはクラブ活動に参加していますか: 16. クラブ活動参加

臨床検査	何らかのクラブ活動に参加している学生は68.1%であり、学部平均(63.8%)より高かった。「複数のクラブに参加している」学生は16.0%であり、学部内で放射線学科とならんで最も高かった。本学科の学生が積極的にクラブ活動に参加していることが明らかとなった。
看護	何らかのクラブ活動に参加している学生は61%であり、学部平均より低かった。「複数のクラブに参加している」学生は14.9%であり、学部平均より高かった。平均以上ではないが、比較的クラブ活動に参加している。
放射	クラブ活動に参加している学生は69.6%であり、学部平均よりも若干高い割合であった。殆どの学生は「1つのクラブ活動に参加している」と回答しており、部活動の掛け持ちは勉強やアルバイトとの両立が難しく、活動を絞り込んでいることが明らかとなった。
リハ・理学	58.8%の学生がクラブ活動をしており、「1つ」が60名(50.4%)、「複数」が10名(8.4%)であり、学部内平均値と比較し「参加していない」学生が高値であった。
リハ・作業	41.6%の学生がクラブ活動をしており、「1つ」が33名(37.1%)、「複数」が4名(4.5%)であり、学部内平均値と比較し「参加していない」学生が高値であった。
臨床工学	クラブ参加率は81%で、その約9割は「1つのクラブ所属」であった。活動に参加していない割合は学部平均の1/2であった。
医療経営	「複数のクラブ活動に参加している」学生は2.7%と他学科に比して少ないが、「1つのクラブ活動に参加している」学生は58.9%あり、何らかのクラブ活動をしている学生は61.6%となり、学部平均63.8%とほぼ同様であった。

17. クラブ活動参加きっかけ (複数回答) - 学科別 -



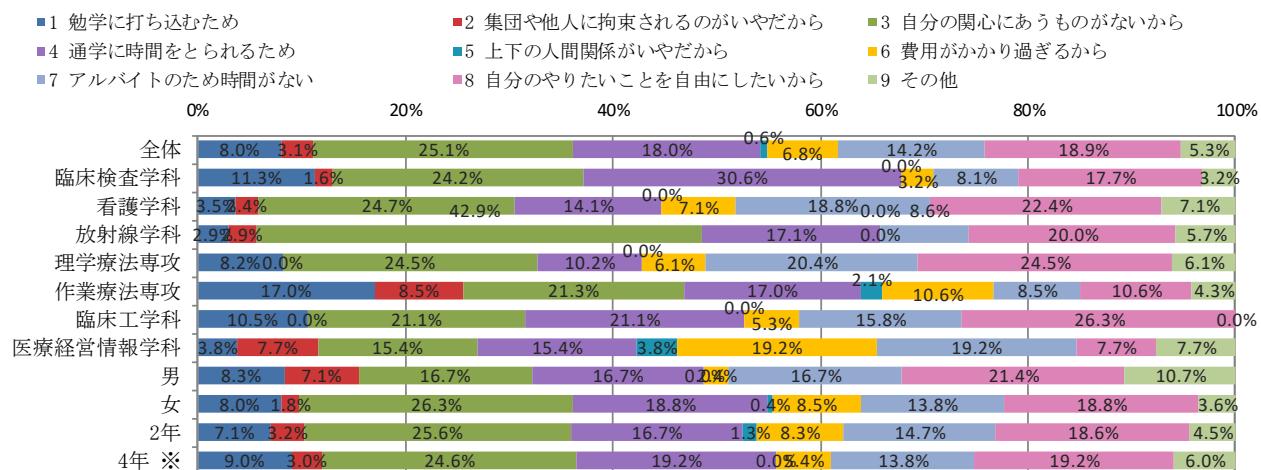
※グラフは学科別

		有効回答者数	あなたがクラブ活動に参加した理由やきっかけは何ですか						
			活動が楽しそう	ち他学いの学生と交流をも	友人に誘われて	い友人と交流をもちた	く学内で誘われて何とな	活動が自由	その他
※クラブ参加者のみ回答									
全体		615	332	151	95	67	34	71	32
			54.0%	24.6%	15.4%	10.9%	5.5%	11.5%	5.2%
学科別	臨床検査学科	149	84	36	17	19	6	15	9
			56.4%	24.2%	11.4%	12.8%	4.0%	10.1%	6.0%
	看護学科	146	81	39	19	20	11	19	6
			55.5%	26.7%	13.0%	13.7%	7.5%	13.0%	4.1%
	放射線学科	87	42	17	13	5	4	10	8
			48.3%	19.5%	14.9%	5.7%	4.6%	11.5%	9.2%
	理学療法専攻	70	40	20	13	9	1	5	2
			57.1%	28.6%	18.6%	12.9%	1.4%	7.1%	2.9%
性別	作業療法専攻	37	18	5	8	5	1	3	2
			48.6%	13.5%	21.6%	13.5%	2.7%	8.1%	5.4%
	臨床工学科	81	44	23	16	6	4	15	4
			54.3%	28.4%	19.8%	7.4%	4.9%	18.5%	4.9%
学年別	医療経営情報学科	45	23	11	9	3	7	4	1
			51.1%	24.4%	20.0%	6.7%	15.6%	8.9%	2.2%
性別	男	215	113	50	38	16	12	25	17
			52.6%	23.3%	17.7%	7.4%	5.6%	11.6%	7.9%
学年別	女	379	209	94	56	49	20	45	15
			55.1%	24.8%	14.8%	12.9%	5.3%	11.9%	4.0%
学年別	2年	351	184	86	47	40	22	50	16
			52.4%	24.5%	13.4%	11.4%	6.3%	14.2%	4.6%
学年別	4年 ※	264	148	65	48	27	12	21	16
			56.1%	24.6%	18.2%	10.2%	4.5%	8.0%	6.1%

(17) あなたがクラブ活動に参加した理由やきっかけは: 17. 参加のきっかけ

臨床検査	「活動が楽しそう」が56.4%と最も高く、次いで「他学の学生と交流をもちたい」24.2%、「友人との交流をもちたい」12.8%であった。学部平均とほぼ同じ割合であった。
看護	「活動が楽しそう」が55.5%と最も高く、次いで「他学の学生と交流をもちたい」26.7%、「友人との交流をもちたい」13.7%であった。
放射	「活動が楽しそう」が48.3%と最も高く、次いで「他学の学生と交流をもちたい」が19.5%と高かった。傾向は学部平均の分布とほぼ同じであった。
リハ・理学	「活動が楽しそう」が40名(57.1%)、次いで「他学の学生と交流をもちたい」が20名(28.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「活動が楽しそう」が18名(48.6%)、次いで「友人に誘われて」が8名(21.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	参加きっかけが「楽しそう」が54%、「他学の学生と交流を持ちたい」が29%で、学部全体の割合と同じ傾向であった。一方、「活動が自由」が19%あり、他学科より比較的高かった。
医療経営	参加のきっかけは、「友人に誘われて」が20.0%、「学内で誘われてなんとなく」が15.6%と、それぞれ学部平均の15.4%、5.5%と比べ高い値となっていた。クラブ活動参加の理由は他学科に比べて消極的で、誘われたので参加した学生が多くなっている。

18. クラブ活動参加しない理由

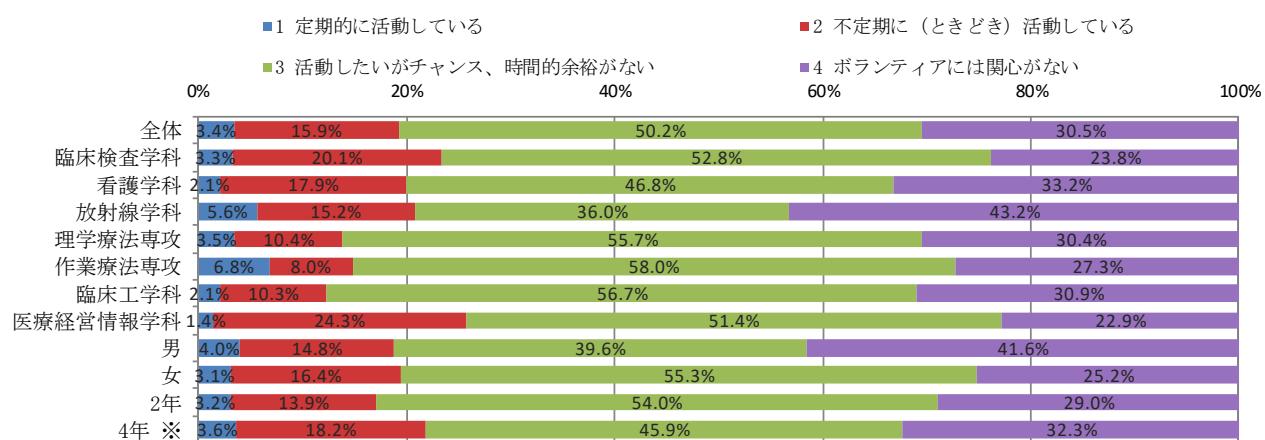


有効回答者数	クラブ活動に参加しない主な理由										
	勉学に打ち込むため	る集団がやい他や人だにか拘束され	が自分ないのか関心にあうもの	た通學に時間を持たれる	だ上か下らの人に間関係がいや	ら費用がかかり過ぎるか	がアルバイトのため時間	自由にしやたりいたいことを	その他の		
※クラブ不参加者のみ回答											
全体	323	26	10	81	58	2	22	46	61	17	
		8.0%	3.1%	25.1%	18.0%	0.6%	6.8%	14.2%	18.9%	5.3%	
学科別	臨床検査学科	62	7	1	15	19	0	2	5	11	2
		11.3%	1.6%	24.2%	30.6%	0.0%	3.2%	8.1%	17.7%	3.2%	
	看護学科	85	3	2	21	12	0	6	16	19	6
		3.5%	2.4%	24.7%	14.1%	0.0%	7.1%	18.8%	22.4%	7.1%	
	放射線学科	35	1	1	15	6	0	0	3	7	2
		2.9%	2.9%	42.9%	17.1%	0.0%	0.0%	8.6%	20.0%	5.7%	
	理学療法専攻	49	4	0	12	5	0	3	10	12	3
		8.2%	0.0%	24.5%	10.2%	0.0%	6.1%	20.4%	24.5%	6.1%	
性別	作業療法専攻	47	8	4	10	8	1	5	4	5	2
		17.0%	8.5%	21.3%	17.0%	2.1%	10.6%	8.5%	10.6%	4.3%	
	臨床工学科	19	2	0	4	4	0	1	3	5	0
		10.5%	0.0%	21.1%	21.1%	0.0%	5.3%	15.8%	26.3%	0.0%	
	医療経営情報学科	26	1	2	4	4	1	5	5	2	2
		3.8%	7.7%	15.4%	15.4%	3.8%	19.2%	19.2%	7.7%	7.7%	
	男	84	7	6	14	14	0	2	14	18	9
		8.3%	7.1%	16.7%	16.7%	0.0%	2.4%	16.7%	21.4%	10.7%	
学年別	女	224	18	4	59	42	1	19	31	42	8
		8.0%	1.8%	26.3%	18.8%	0.4%	8.5%	13.8%	18.8%	3.6%	
	2年	156	11	5	40	26	2	13	23	29	7
		7.1%	3.2%	25.6%	16.7%	1.3%	8.3%	14.7%	18.6%	4.5%	
	4年 ※	167	15	5	41	32	0	9	23	32	10
		9.0%	3.0%	24.6%	19.2%	0.0%	5.4%	13.8%	19.2%	6.0%	

(18) クラブ活動に参加しない主な理由: 18. 不参加の理由

臨床検査	32.0%の学生がクラブ活動に参加していないが、昨年度調査とほぼ同じ割合であった。クラブ活動に参加しない理由として「通学に時間をとられるため」が30.6%と最も高く、次いで「自分の関心にあうものがないから」24.2%、「自分のやりたいことを自由にしたいから」17.7%であった。「通学に時間をとられるため」の割合が学部内で最も高かった。
看護	4割の学生がクラブ活動に参加していない。クラブ活動に参加しない理由として「自分の関心にあうものがないから」が24.7%と最も高く、次いで「自分のやりたいことを自由にしたいから」22.4%、「アルバイトのため時間がない」18.8%であった。
放射	30.4%の学生がクラブ活動に参加していないが、その理由として最も多いのが「自分の関心にあうものがないから」が42.9%と最も高く、次いで20%が「自分のやりたいことを自由にしたいから」と回答した。学生生活をより充実させるためには、クラブ活動の多様性をもたせるなどの対策が必要である。
リハ・理学	「自分の関心にあうものがないから」と「自分のやりたいことを自由にしたいから」がそれぞれ12名(24.5%)となり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「自分の関心にあうものがないから」が10名(21.3%)、次いで「通学に時間をとられるため」と「勉学に打ち込むため」がそれぞれ8名(17.0%)となり、学部内平均値と比較し「勉学に打ち込むため」の学生が高値であった。
臨床工学	参加していない学生の26%が「自分のやりたいことを自由にしたい」と回答し、ついで「自分の関心に合うものがない」・「通学に時間が取られる」がそれぞれ21%回答していた。
医療経営	参加しない理由として、「費用がかかり過ぎる」19.2%、「アルバイトのための時間がない」19.2%が他学科と比較して高い値を示した。本学科の場合、クラブ活動に参加しない学生は経済的理由を挙げる傾向が強い。

19. ボランティア活動参加有無

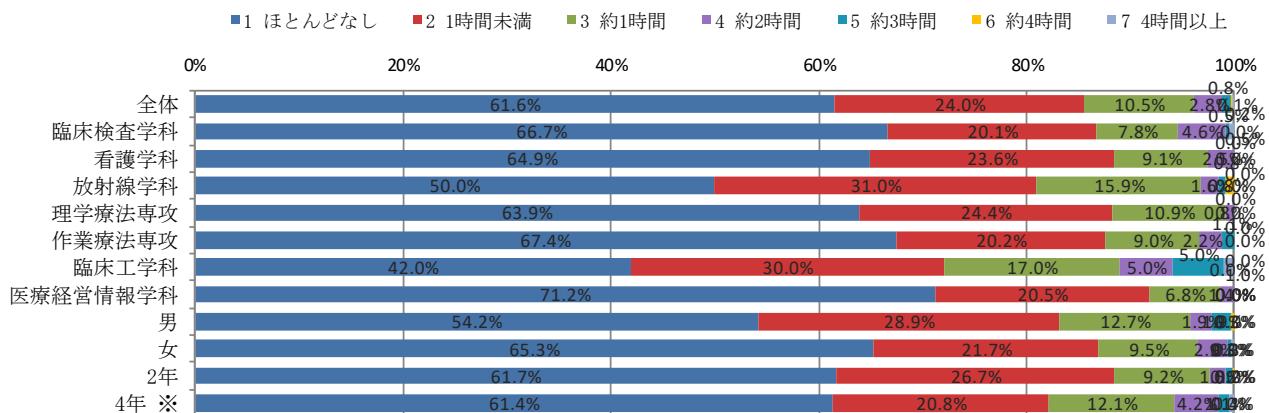


学科別	性別	学年別	有効回答者数	ボランティア活動をしたことがありますか			
				定期的に活動している	活動定期的に活動していない（ときどき）	活動時間たてにいへる（ときどき）	ボランティアには関心がない
全体	男	2年	944	32	150	474	288
				3. 4%	15. 9%	50. 2%	30. 5%
学科別	臨床検査学科	2年	214	7	43	113	51
				3. 3%	20. 1%	52. 8%	23. 8%
	看護学科	2年	235	5	42	110	78
				2. 1%	17. 9%	46. 8%	33. 2%
	放射線学科	2年	125	7	19	45	54
				5. 6%	15. 2%	36. 0%	43. 2%
性別	理学療法専攻	2年	115	4	12	64	35
				3. 5%	10. 4%	55. 7%	30. 4%
	作業療法専攻	2年	88	6	7	51	24
				6. 8%	8. 0%	58. 0%	27. 3%
	臨床工学科	2年	97	2	10	55	30
				2. 1%	10. 3%	56. 7%	30. 9%
学年別	医療経営情報学科	2年	70	1	17	36	16
				1. 4%	24. 3%	51. 4%	22. 9%
	男	4年 ※	298	12	44	118	124
				4. 0%	14. 8%	39. 6%	41. 6%
	女	4年 ※	611	19	100	338	154
				3. 1%	16. 4%	55. 3%	25. 2%
	2年	4年 ※	504	16	70	272	146
				3. 2%	13. 9%	54. 0%	29. 0%
				16	80	202	142
				3. 6%	18. 2%	45. 9%	32. 3%

(19) ボランティア活動をしたことがありますか：19. ボランティア活動への参加の有無

臨床検査	「定期的に活動している」と「不定期に活動している」を合わせた割合は23.4%であり、何らかのボランティア活動を行っている学生の割合は学部平均より高かった。活動していない学生については、「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」52.8%、「ボランティアには関心がない」23.8%であり、学部平均と比べ、ボランティアに関心がない学生の割合は低かった。
看護	「定期的に活動している」と「不定期に活動している」と回答した学生は2割であり、何らかのボランティア活動を行っている学生の割合は学部平均より高かった。活動していない学生については、「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」46.8%、「ボランティアには関心がない」33.2%であり、学部平均と比べ、ボランティアに関心がない学生の割合は低かった。
放射	20.8%の学生は何らかのボランティア活動の経験がある。最も割合の高かったものは「ボランティアには関心がない」の43.2%であり、学部内で最も高かった。ボランティア活動に理解のない学生が多いことがわかった。
リハ・理学	「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」が64名(55.7%)、次いで「ボランティアには関心がない」が35名(30.4%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」が51名(58.0%)、次いで「ボランティアには関心がない」が24名(27.3%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	ボランティア活動には12%が参加していた。これは他学科よりも低かった。「チャンス・時間的余裕がない」が57%を占めた。また、「関心がない」は31%だった。
医療経営	ボランティアに「関心がない」とする学生は22.9%と学部内で最も低く、「定期的」「ときどき」活動しているとする学生は25.7%と学部内で最も高い割合を示した。

20. 予習時間

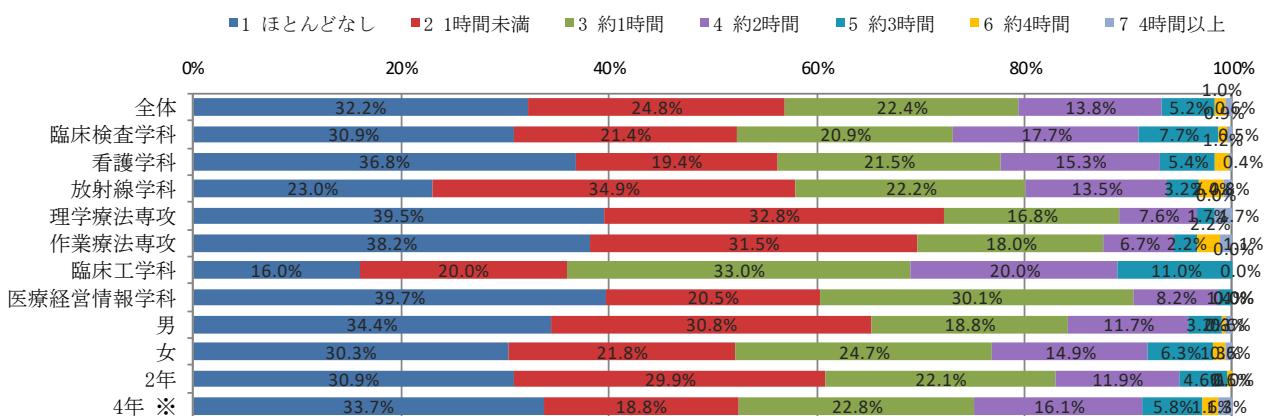


学科別	性別	学年別	有効回答者数	1日の平均予習時間はどれくらいですか						
				ほとんどのなし	1時間未満	約1時間	約2時間	約3時間	約4時間	4時間以上
臨床検査学科	男	2年	968	596	232	102	27	8	1	2
				61.6%	24.0%	10.5%	2.8%	0.8%	0.1%	0.2%
看護学科	女	4年 ※	219	146	44	17	10	1	0	1
				66.7%	20.1%	7.8%	4.6%	0.5%	0.0%	0.5%
放射線学科	男	2年	126	157	57	22	6	0	0	0
				64.9%	23.6%	9.1%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%
理学療法専攻	女	4年 ※	119	63	39	20	2	1	1	0
				50.0%	31.0%	15.9%	1.6%	0.8%	0.8%	0.0%
作業療法専攻	男	4年 ※	89	76	29	13	1	0	0	0
				63.9%	24.4%	10.9%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
臨床工学科	女	2年	100	60	18	8	2	1	0	0
				67.4%	20.2%	9.0%	2.2%	1.1%	0.0%	0.0%
医療経営情報学科	男	4年 ※	73	42	30	17	5	5	0	1
				42.0%	30.0%	17.0%	5.0%	5.0%	0.0%	1.0%
性別	女	2年	308	52	15	5	1	0	0	0
				71.2%	20.5%	6.8%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
学年別	男	4年 ※	622	167	89	39	6	6	1	0
				54.2%	28.9%	12.7%	1.9%	1.9%	0.3%	0.0%
学年別	女	4年 ※	448	406	135	59	18	2	0	2
				65.3%	21.7%	9.5%	2.9%	0.3%	0.0%	0.3%
学年別	男	2年	520	321	139	48	8	3	1	0
				61.7%	26.7%	9.2%	1.5%	0.6%	0.2%	0.0%
学年別	女	4年 ※	448	275	93	54	19	5	0	2
				61.4%	20.8%	12.1%	4.2%	1.1%	0.0%	0.4%

(20) 1日の平均予習時間はどれくらいですか: 20. 予習時間

臨床検査	予習時間に関して、「ほとんどなし」と回答した学生の割合は66.7%であり、学部平均(61.6%)より高かった。予習を行っている学生の平均予習時間は「1時間未満」が20.1%と最も高く、次いで「約1時間」7.8%、「約2時間」4.6%であった。
看護	予習時間に関して、「ほとんどなし」と回答した学生の割合は64.9%であり、学部平均(61.6%)より高かった。予習を行っている学生の平均予習時間は「1時間未満」が23.6%と最も高く、次いで「約1時間」9.1%、「約2時間」2.5%であった。
放射	「ほとんどなし」と回答した学生の割合は50%であり、「1時間未満」と合わせると81%の学生が予習にほとんど時間を割いていないことが明らかとなった。
リハ・理学	「ほとんどなし」が76名(63.9%)、次いで「1時間未満」が29名(24.4%)であり、学部内平均値と比較し「ほとんどなし」が高値であった。
リハ・作業	「ほとんどなし」が60名(67.4%)、次いで「1時間未満」が18名(20.2%)であり、学部内平均値と比較し「ほとんどなし」が高値であった。
臨床工学	「ほとんどなし」が42%で、他学科よりも低かった。「1時間未満」が30%、「約1時間」が17%と他学科より高かった。
医療経営	「ほとんどなし」の回答が71.2%と学部中もっとも高い割合となった。予習するとした学生も、「1時間未満」が20.5%で最大であり、予習時間を取りっていない学生が多いことがわかった。

21. 復習時間

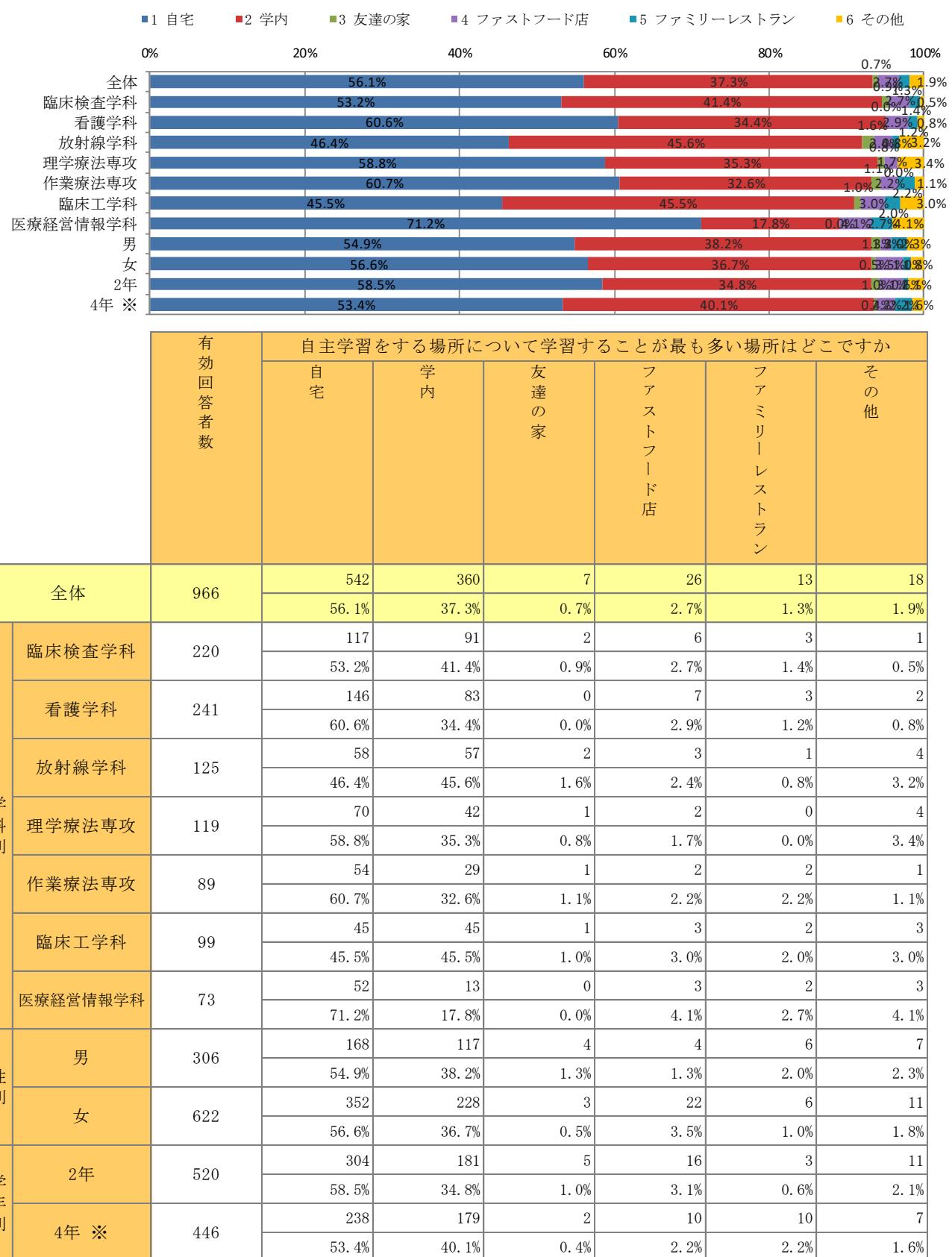


学科別	性別	学年別	有効回答者数	1日の平均復習時間はどれくらいですか						
				ほとんどのなし	1時間未満	約1時間	約2時間	約3時間	約4時間	4時間以上
臨床検査学科	男	2年	969	312	240	217	134	50	10	6
				32.2%	24.8%	22.4%	13.8%	5.2%	1.0%	0.6%
看護学科	女	4年 ※	220	68	47	46	39	17	2	1
				30.9%	21.4%	20.9%	17.7%	7.7%	0.9%	0.5%
放射線学科	男	4年 ※	242	89	47	52	37	13	3	1
				36.8%	19.4%	21.5%	15.3%	5.4%	1.2%	0.4%
理学療法専攻	女	4年 ※	126	29	44	28	17	4	3	1
				23.0%	34.9%	22.2%	13.5%	3.2%	2.4%	0.8%
作業療法専攻	男	4年 ※	119	47	39	20	9	2	0	2
				39.5%	32.8%	16.8%	7.6%	1.7%	0.0%	1.7%
臨床工学科	女	4年 ※	89	34	28	16	6	2	2	1
				38.2%	31.5%	18.0%	6.7%	2.2%	2.2%	1.1%
医療経営情報学科	男	4年 ※	100	16	20	33	20	11	0	0
				16.0%	20.0%	33.0%	20.0%	11.0%	0.0%	0.0%
医療経営情報学科	女	4年 ※	73	29	15	22	6	1	0	0
				39.7%	20.5%	30.1%	8.2%	1.4%	0.0%	0.0%
性別	女	2年	448	106	95	58	36	10	1	2
				34.4%	30.8%	18.8%	11.7%	3.2%	0.3%	0.6%
学年別	男	4年 ※	521	189	136	154	93	39	8	4
				30.3%	21.8%	24.7%	14.9%	6.3%	1.3%	0.6%
学年別	女	4年 ※	448	161	156	115	62	24	3	0
				30.9%	29.9%	22.1%	11.9%	4.6%	0.6%	0.0%

(21) 1日の平均復習時間はどれくらいですか 21. 復習時間

臨床検査	復習時間に関して、「ほとんどなし」と回答した学生の割合は30.9%であり、学部平均(32.2%)より低かった。復習を行っている学生の平均復習時間は「1時間未満」が21.4%と最も高く、次いで「約1時間」20.9%、「約2時間」17.7%、「約3時間」7.7%であった。
看護	復習時間に関して、「ほとんどなし」と回答した学生の割合は36.8%であり、学部平均(32.2%)より高かった。復習を行っている学生の平均復習時間は「約1時間」が21.5%と最も高く、次いで「1時間未満」19.4%、「約2時間」15.3%、「約3時間」5.4%であった。
放射	「ほとんどなし」と回答した学生の割合は23%であり、学部内で2番目に低かった。「1時間未満」は34.9%と学部内で最も高く、「約1時間」が22.2%、「約2時間」が13.5%、「約3時間」は3.2%であった。
リハ・理学	「ほとんどなし」が47名(39.5%)、次いで「1時間未満」が39名(32.8%)、「約1時間」が20名(16.8%)であり、学部内平均値と比較し「1時間未満」が多い傾向であった。
リハ・作業	「ほとんどなし」が34名(38.2%)、次いで「1時間未満」が28名(31.5%)、「約1時間」が16名(18.0%)であり、学部内平均値と比較し「1時間未満」が多い傾向であった。
臨床工学	「約1時間」が33%と最も多く、次いで「1時間未満」・「約2時間」が20%で、「ほとんどなし」が16%であった。
医療経営	復習時間は「ほとんどなし」が39.7%と学部中でもっとも高い割合を示したが、予習時間に比べれば学部平均に近い割合であった。傾向としては、看護・リハ(理学・作業)と同様である。復習をするとした学生では「約1時間」が30.1%で最も多くなった。2時間以上の復習時間を持つ学生は9.7%であり学部中もっとも低い割合であった。

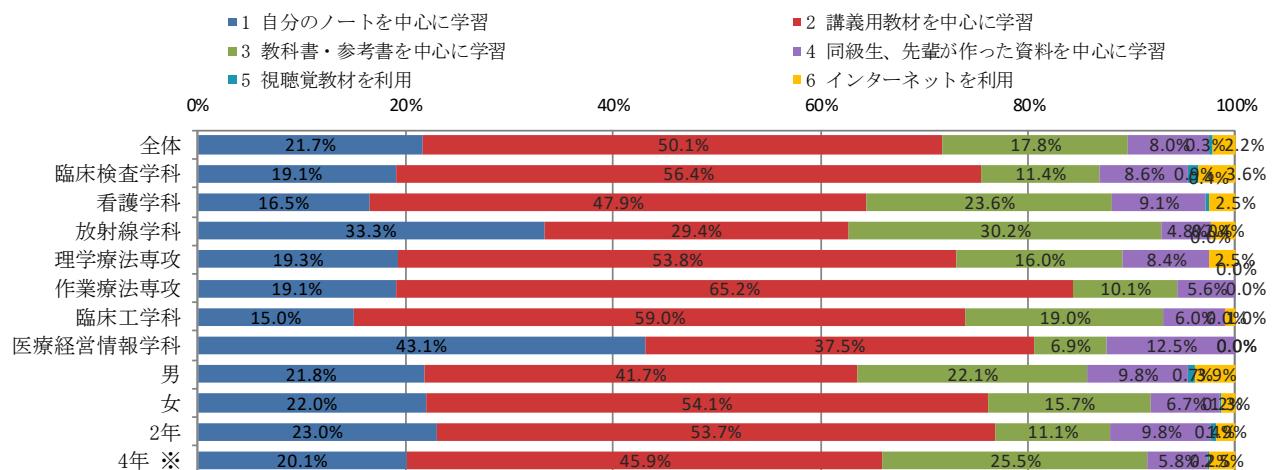
22. 自主学習場所



(22) 自主学習の主な場所はどこですか: 22. 自主学習場所

臨床検査	「自宅」と回答した学生の割合は53.2%、次いで「学内」41.4%であり、「ファストフード店」と「ファミリーレストラン」を足すと4.1%であった。学部平均と比較すると、学内で学習する学生の割合が高かった。
看護	「自宅」と回答した学生の割合は60.6%、次いで「学内」34.4%であり、「ファストフード店」と「ファミリーレストラン」を足すと4.1%であった。学部平均と比較すると、「自宅」で学習する学生の割合が高かった。
放射	最も割合が高かったのは「自宅」の46.4%であった。次いで「学内」と回答した学生が45.6%であり学部内で最も高かった。
リハ・理学	「自宅」が70名(58.8%)、次いで「学内」が42名(35.3%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「自宅」が54名(60.7%)、次いで「学内」が29名(32.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「学内」・「自宅」がそれぞれ46%と最も高かった。他学科は「自宅」の割合が高かった。
医療経営	自主学習の場所は「自宅」とする学生が71.2%で学部中もっとも高い割合を示した。「学内」は17.8%で学部中もっとも低い割合を示している。 予習・復習の自主学習時間が少なく、自宅で学習の割合が高いため、授業科目にて予習・復習に該当する学習内容を宿題として提示し、自主学習を促す対策が必要であろう。その際、eラーニングを活用すれば、自宅学習の場合でも学習結果等を統合的に把握することができる。

23. 自主学習方法

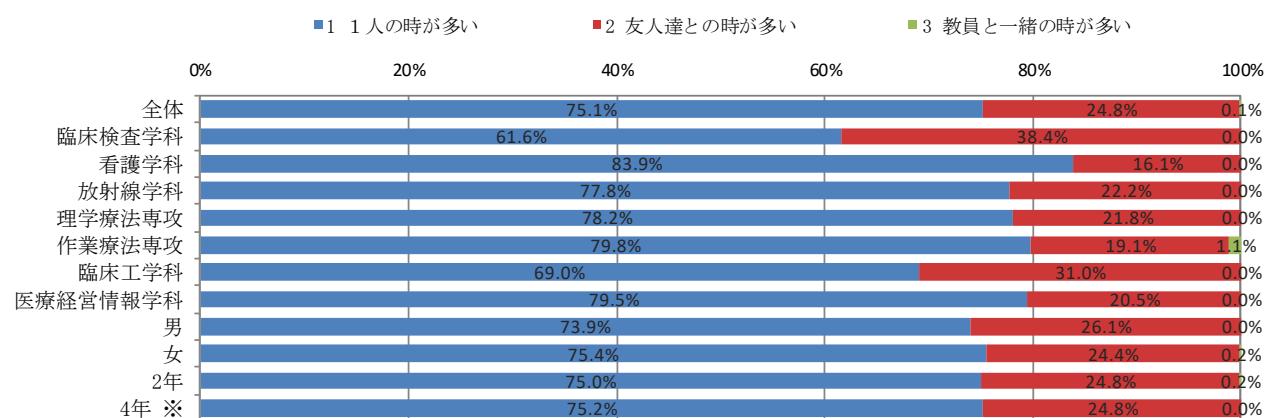


学科別	性別	学年別	有効回答者数	自主学習の方法について最もよく行う学習方法は何か					
				1. 自分のノートを中心に学習	2. 講義用教材を中心に学習	3. 教科書・参考書を中心に学習	4. 同級生、先輩が作った資料を中心に学習	5. 視聴覚教材を利用	6. インターネットを利用
全体	男	2年	968	210 21.7%	485 50.1%	172 17.8%	77 8.0%	3 0.3%	21 2.2%
全体	女	2年	623	42 19.1%	124 56.4%	25 11.4%	19 8.6%	2 0.9%	8 3.6%
臨床検査学科	男	2年	220	40 19.1%	116 54.1%	57 23.6%	22 9.1%	1 0.4%	6 2.5%
看護学科	男	2年	242	42 33.3%	37 29.4%	38 30.2%	6 4.8%	0 0.0%	3 2.4%
看護学科	女	2年	242	17 19.1%	58 65.2%	9 10.1%	5 5.6%	0 0.0%	0 0.0%
放射線学科	男	2年	126	23 19.3%	64 53.8%	19 16.0%	10 8.4%	0 0.0%	3 2.5%
放射線学科	女	2年	126	15 15.0%	59 59.0%	19 19.0%	6 6.0%	0 0.0%	1 1.0%
理学療法専攻	男	2年	119	17 19.1%	58 65.2%	9 10.1%	5 5.6%	0 0.0%	0 0.0%
理学療法専攻	女	2年	119	15 15.0%	59 59.0%	19 19.0%	6 6.0%	0 0.0%	3 2.5%
作業療法専攻	男	2年	89	31 43.1%	27 37.5%	5 6.9%	9 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
作業療法専攻	女	2年	89	15 19.1%	59 65.2%	9 10.1%	5 5.6%	0 0.0%	0 0.0%
臨床工学科	男	2年	100	67 21.8%	128 41.7%	68 22.1%	30 9.8%	2 0.7%	12 3.9%
臨床工学科	女	2年	100	137 22.0%	337 54.1%	98 15.7%	42 6.7%	1 0.2%	8 1.3%
医療経営情報学科	男	4年※	72	27 43.1%	5 6.9%	9 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
医療経営情報学科	女	4年※	72	31 43.1%	27 37.5%	5 6.9%	9 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
4年※	男	4年※	307	67 21.8%	128 41.7%	68 22.1%	30 9.8%	2 0.7%	12 3.9%
4年※	女	4年※	307	137 22.0%	337 54.1%	98 15.7%	42 6.7%	1 0.2%	8 1.3%
4年※	男	4年※	521	120 23.0%	280 53.7%	58 11.1%	51 9.8%	2 0.4%	10 1.9%
4年※	女	4年※	521	90 20.1%	205 45.9%	114 25.5%	26 5.8%	1 0.2%	11 2.5%

(23) 自主学習の方法は何ですか: 23. 自主学習方法

臨床検査	「講義用教材を中心に学習」と回答した学生の割合は56.4%と最も高く、次いで「自分のノートを中心に学習」19.1%、「教科書・参考書を中心に学習」11.4%、「同級生、先輩が作った資料を中心に学習」8.6%であった。学部平均と比べ、「講義用教材を中心に学習」の割合が高く、「教科書・参考書を中心に学習」の割合が低かった。
看護	「講義用教材を中心に学習」と回答した学生の割合は47.9%と最も高く、次いで、「教科書・参考書を中心に学習」23.6%、「自分のノートを中心に学習」16.5%、「同級生、先輩が作った資料を中心に学習」9.1%であった。学部平均と比べ「教科書・参考書を中心に学習」の割合が高かった。
放射	「自分のノートを中心に学習」が33.3%で最も高く、次いで29.4%の学生が「講義用教材を中心に学習」と回答した。
リハ・理学	「講義用教材を中心に学習」が64名(53.8%)、次いで「自分のノートを中心に学習」が23名(19.3%)であり、学部内平均値と比較し「講義用教材を中心に学習」が多い傾向であった。
リハ・作業	「講義用教材を中心に学習」が58名(65.2%)、次いで「自分のノートを中心に学習」が17名(19.1%)であり、学部内平均値と比較し「講義用教材を中心に学習」が多い傾向であった。
臨床工学	「講義用教材」が59%で最も高く、次いで「教科書・参考書を中心に」が19%、「自分のノートを中心に」が15%であった。
医療経営	自主学習は「自分のノートを中心に学習」が43.1%と学部中もっとも高い割合を示し、「講義用教材を中心に学習」は37.5%にとどまり、「同級生、先輩が作った資料を中心に学習」が12.5%と他学科に比べてもっとも高い割合を示した。

24. 誰と自主学習

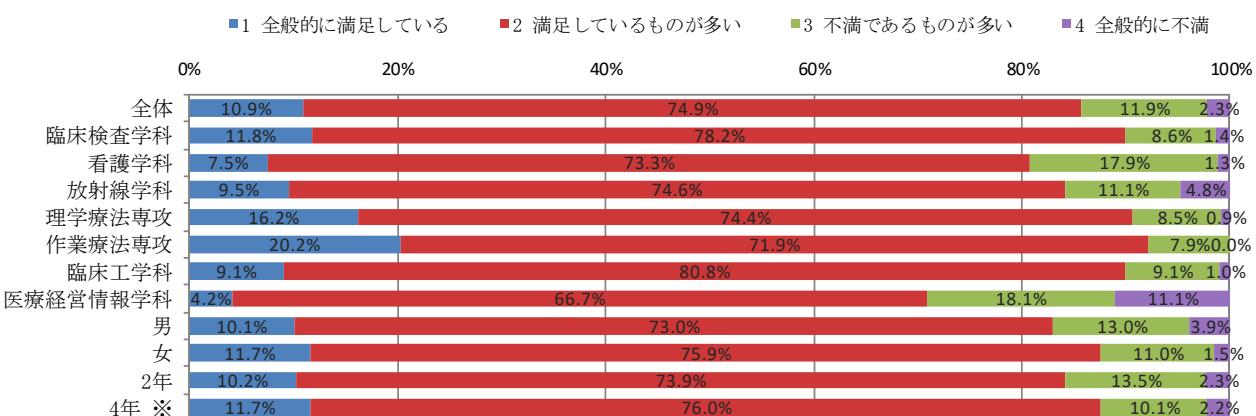


	有効回答者数	誰と一緒に学習していますか		
		1人の時が多い	友人達との時が多い	教員と一緒に学習が多い
全体	968	727	240	1
		75.1%	24.8%	0.1%
学科別	臨床検査学科 219	135	84	0
		61.6%	38.4%	0.0%
	看護学科 242	203	39	0
		83.9%	16.1%	0.0%
	放射線学科 126	98	28	0
		77.8%	22.2%	0.0%
	理学療法専攻 119	93	26	0
		78.2%	21.8%	0.0%
	作業療法専攻 89	71	17	1
		79.8%	19.1%	1.1%
	臨床工学科 100	69	31	0
		69.0%	31.0%	0.0%
	医療経営情報学科 73	58	15	0
		79.5%	20.5%	0.0%
性別	男 307	227	80	0
		73.9%	26.1%	0.0%
	女 623	470	152	1
		75.4%	24.4%	0.2%
学年別	2年 520	390	129	1
		75.0%	24.8%	0.2%
	4年 ※ 448	337	111	0
		75.2%	24.8%	0.0%

(24) 誰と一緒に学習していますか: 24. 誰と自主学習

臨床検査	「一人の時が多い」と回答した学生の割合は61.6%と最も高く、次いで「友人達との時が多い」38.4%であった。他学科と比べ、「一人の時が多い」の割合は最も低く、「友人達との時が多い」の割合は最も高かった。
看護	「一人の時が多い」と回答した学生の割合は83.9%と最も高く、次いで「友人達との時が多い」16.1%であった。他学科と比べ、「一人の時が多い」の割合は最も高かった。
放射	77.8%の学生が「一人の時が多い」と回答し学部平均と同程度であった。次いで「友人達との時が多い」の割合が22.2%であった。
リハ・理学	「1人の時が多い」が93名(78.2%)、次いで「友人達との時が多い」が26名(21.8%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「1人の時が多い」が71名(79.8%)、次いで「友人達との時が多い」が17名(19.1%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「1人の時が多い」が69%で、残りは「友人達との時が多い」であった。
医療経営	「一人の時が多い」が79.5%、「友人達との時が多い」が20.5%であった。放射・リハと同様の傾向である。

25. 講義実習満足度



学科別	性別	学年別	有効回答者数	講義・実習には満足していますか			
				全般的に満足している	い満足しているものが多い	不満であるものが多い	全般的に不満
全体			963	105	721	115	22
				10. 9%	74. 9%	11. 9%	2. 3%
臨床検査学科			220	26	172	19	3
				11. 8%	78. 2%	8. 6%	1. 4%
看護学科			240	18	176	43	3
				7. 5%	73. 3%	17. 9%	1. 3%
放射線学科			126	12	94	14	6
				9. 5%	74. 6%	11. 1%	4. 8%
理学療法専攻			117	19	87	10	1
				16. 2%	74. 4%	8. 5%	0. 9%
作業療法専攻			89	18	64	7	0
				20. 2%	71. 9%	7. 9%	0. 0%
臨床工学科			99	9	80	9	1
				9. 1%	80. 8%	9. 1%	1. 0%
医療経営情報学科			72	3	48	13	8
				4. 2%	66. 7%	18. 1%	11. 1%
男			307	31	224	40	12
				10. 1%	73. 0%	13. 0%	3. 9%
女			618	72	469	68	9
				11. 7%	75. 9%	11. 0%	1. 5%
2年			518	53	383	70	12
				10. 2%	73. 9%	13. 5%	2. 3%
4年 ※			445	52	338	45	10
				11. 7%	76. 0%	10. 1%	2. 2%

(25) 講義・実習には満足していますか: 25. 講義実習満足度

臨床検査	「全体的に満足している」と「満足しているものが多い」を合計した割合は90.0%であり、学部平均(85.8%)より高かった。新しい講義室で講義等を行っていることが一要因であると思われる。
看護	「全体的に満足している」と「満足しているものが多い」を合計した割合は80.8%であり、学部平均(85.8%)より低く満足できていない結果となった。
放射	「全体的に満足している」と「満足しているものが多い」を合計した割合は84.1%であり、学部平均(85.8%)と同じレベルであった。
リハ・理学	「満足しているものが多い」が87名(74.4%)、次いで「全般的に満足している」が19名(16.2%)であり、学部内平均値と比較し「全般的に満足している」が多い傾向であった。
リハ・作業	「満足しているものが多い」が64名(71.9%)、次いで「全般的に満足している」が18名(20.2%)であり、学部内平均値と比較し「全般的に満足している」が多い傾向であった。
臨床工学	「全般的に満足している」が9%、「満足しているものが多い」が81%で、全体の9割を占めていた。「不満であるものが多い」は9%で、「全体的に不満」はなかった。
医療経営	「全体的に満足している」と「満足しているものが多い」で合計70.9%であり、学部平均85.8%より約15ポイント低い結果となった。「全般的に不満」が11.1%あり、他学科に比べ突出して多くなっている。

26. 教育制度不十分点 (複数回答3つ) - 学科別 -

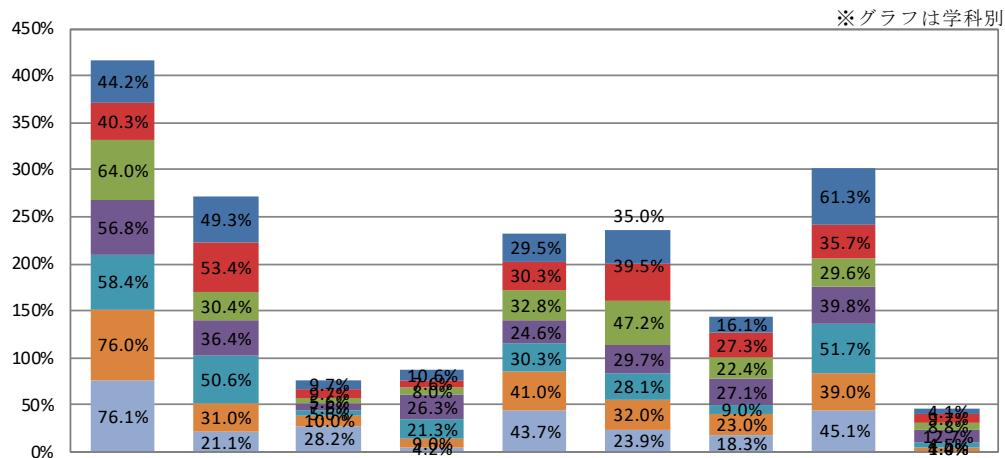
※グラフは学科別



(26) 教育面や制度面で不十分であると感じること: 26. 教育制度不十分点

臨床検査	「時間割」が75.9%と最も高く、次いで「カリキュラム」51.9%、「資格取得講座(対策授業)」25.5%、「国際交流」25.0%、「課外活動支援」25.0%、「就職等サポート」22.7%、「ボランティア活動支援」16.2%、「学友会組織」12.5%、「奨学金等経済的支援」10.2%であった。学部平均と比べ、「時間割」や「国際交流」に不十分であると感じている学生の割合が高かった。時間割やカリキュラムに対する割合が高いことは、医療系であるため時間割やカリキュラムがタイトであることに対する意見であると推察する。
看護	「時間割」が72.8%と最も高く、次いで「カリキュラム」59.0%、「資格取得講座(対策授業)」25.5%、「奨学金等経済的支援」20.9%、「就職等サポート」20.5%、「課外活動支援」17.6%、「国際交流」15.9%、「ボランティア活動支援」13.0%、「学友会組織」7.9%であった。学部平均と比べ、「カリキュラム」に不十分であると感じている学生の割合が高かった。時間割やカリキュラムに対する割合が高いことは、医療系であるため時間割やカリキュラムが決められており、5限目や土曜日開講の科目に対しての意見であると思われる。
放射	「時間割」が65.6%と最も高く、次いで「カリキュラム」56.6%、「資格取得講座(対策授業)」46.7%、「就職等サポート」29.5%であった。時間割(曜日の偏りや科目の偏り)が問題視されていることが推察された。
リハ・理学	「時間割」が83名(70.3%)、次いで「カリキュラム」が49名(41.5%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「時間割」が59名(67.0%)、次いで「カリキュラム」が38名(43.2%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「カリキュラム」が53%、「時間割」が70%と学生の半数以上がこの2つの選択肢を選択していた。この2つの選択肢の回答率の高さは学部平均とほぼ同じ傾向であった。
医療経営	講義・実習の満足度が他学科に比べて低い結果となっているが、「カリキュラム」40.3%、「時間割」62.5%と授業科目に関する事項については、学部平均より低い値を示している。反面、「資格取得講座(対策授業)」は41.7%と高い割合を示している。また、「奨学金等の経済的支援」が23.6%、「ボランティア活動支援」が25.0%と、いずれも学部中もっとも高い割合を示している。資格取得講座は、医経ではチャレンジする民間の認定資格が多数あるため相対的に時間が少なくなっていることが原因と考えられる。ボランティアについてはほぼ対応が実施できておらず、他のアンケート項目より、ボランティアに興味を持つ学生の比率は高いと考えられることから、このような結果となったと考えられる。

27. キャンパス設備改善要望点 (複数回答3つ) - 学科別 -

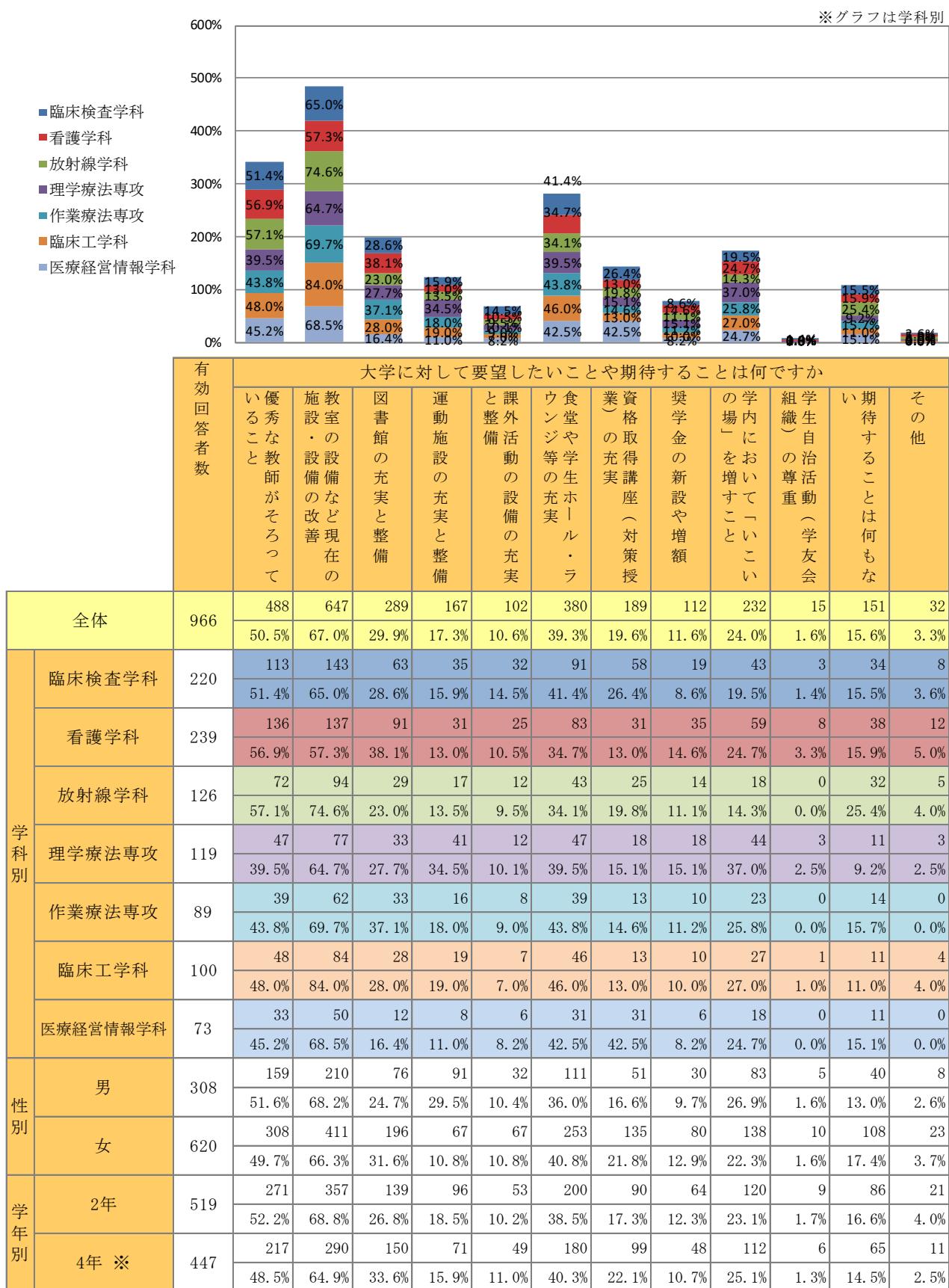


学科別	有効回答者数	キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいのはどれですか								
		教室	図書館	情報系教室	体育館	食堂	駐輪場（自転車置場）	駐車場	学生ホール・ラウンジ	その他
全体	958	521	406	95	113	305	338	204	419	67
		54.4%	42.4%	9.9%	11.8%	31.8%	35.3%	21.3%	43.7%	7.0%
臨床検査学科	217	96	107	21	23	64	76	35	133	9
		44.2%	49.3%	9.7%	10.6%	29.5%	35.0%	16.1%	61.3%	4.1%
看護学科	238	96	127	23	18	72	94	65	85	23
		40.3%	53.4%	9.7%	7.6%	30.3%	39.5%	27.3%	35.7%	9.7%
放射線学科	125	80	38	7	10	41	59	28	37	11
		64.0%	30.4%	5.6%	8.0%	32.8%	47.2%	22.4%	29.6%	8.8%
理学療法専攻	118	67	43	9	31	29	35	32	47	15
		56.8%	36.4%	7.6%	26.3%	24.6%	29.7%	27.1%	39.8%	12.7%
作業療法専攻	89	52	45	5	19	27	25	8	46	4
		58.4%	50.6%	5.6%	21.3%	30.3%	28.1%	9.0%	51.7%	4.5%
臨床工学科	100	76	31	10	9	41	32	23	39	4
		76.0%	31.0%	10.0%	9.0%	41.0%	32.0%	23.0%	39.0%	4.0%
医療経営情報学科	71	54	15	20	3	31	17	13	32	1
		76.1%	21.1%	28.2%	4.2%	43.7%	23.9%	18.3%	45.1%	1.4%
男	307	183	97	33	63	108	120	69	99	26
		59.6%	31.6%	10.7%	20.5%	35.2%	39.1%	22.5%	32.2%	8.5%
女	613	319	294	54	46	186	203	128	305	39
		52.0%	48.0%	8.8%	7.5%	30.3%	33.1%	20.9%	49.8%	6.4%
2年	515	290	199	50	70	168	191	99	201	44
		56.3%	38.6%	9.7%	13.6%	32.6%	37.1%	19.2%	39.0%	8.5%
4年 ※	443	231	207	45	43	137	147	105	218	23
		52.1%	46.7%	10.2%	9.7%	30.9%	33.2%	23.7%	49.2%	5.2%

(27) キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいもの：27. キャンパス設備改善要望

臨床検査	「学生ホール・ラウンジ」が61.3%と最も高く、次いで「図書館」49.3%、「教室」44.2%、「駐輪場(自転車置場)」35.0%であった。「学生ホール・ラウンジ」と答えた学生の割合が学部平均(43.7%)と比べ、きわめて高く、学生数に比して学生ホールの不足が推察された。しかし昨年度「食堂」と答えた学生の割合が47.4%であったが、今年度は29.5%と減少しており、食堂のリニューアル効果であると思われる。
看護	「図書館」が53.4%と最も高く、次いで「教室」40.3%、「駐輪場(自転車置場)」39.5%であった。「教室」については新校舎になり改善されたが、1学年分の教室と演習室は合同校舎にあり、移動や建物の老朽化による不満も見られるためと思われる。図書館については、明るさ等の設備上の記載が見られた。
放射	「教室」が64%と最も高く、建物の古さや5号館の立地に起因すると考えられる。次いで「駐輪場」47.2%、「食堂」32.8%、「図書館」30.4%が高かった。
リハ・理学	「教室」が67名(56.8%)、次いで「学生ホール・ラウンジ」が47名(39.8%)、「図書館」が43名(36.4%)であった。学部内平均値と比較し、「図書館」、「学生ホール・ラウンジ」、「体育館」が高値であった。
リハ・作業	「教室」が52名(58.4%)、次いで「学生ホール・ラウンジ」が46名(51.7%)、「図書館」が45名(50.6%)であった。学部内平均値と比較し、「図書館」、「学生ホール・ラウンジ」、「体育館」が高値であった。
臨床工学	「教室」が76%で、次いで「食堂」が41%、「学生ホール・ラウンジ」が39%、「駐輪場」が32%、「図書館」が31%であった。この他、「駐車場」が23%要望していた。
医療経営	「教室」が76.1%と最も高い値をしめした。臨工も76.1%であり、アンケート対象の2年生では医療科学部8、9号館が最も古い建物かつ面積の小さい建物であることから不満が募っていることが伺える。「食堂」については昨年度は60.8%を示したが、今回は43.7%となり学生食堂リニューアルにより不満が解消されている。しかし、依然として高い値である。「情報系教室」が28.2%で高い値を示している。他学科に比べPC室が2室整備されるなど格段に良好な環境が整備されているが、利用環境があるゆえに更なる要望もあると考えられる。

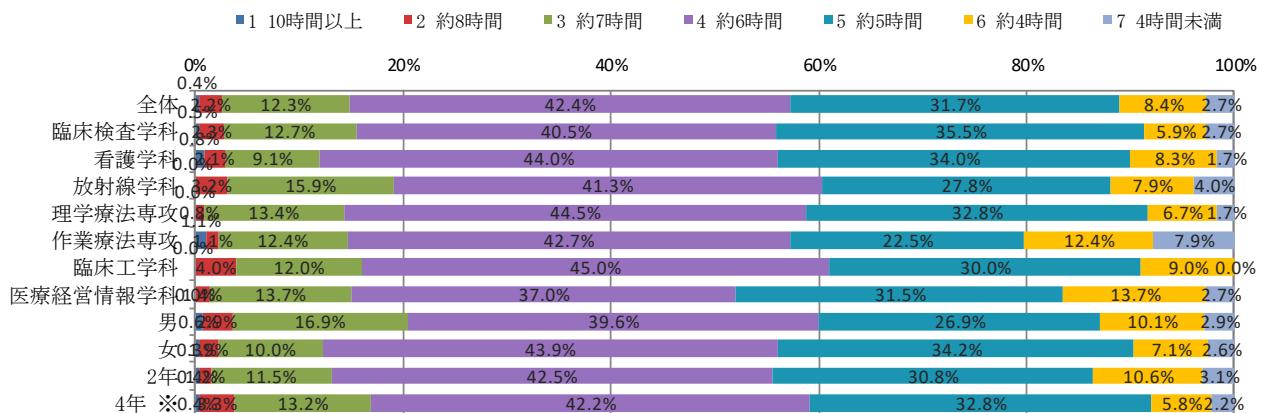
28. 大学全体要望点 (複数回答3つ) - 学科別 -



(28) 大学に対して要望したいことや期待すること: 28. 大学全体要望

臨床検査	「教室の設備など現在の施設・設備の改善」が65.0%と最も高く、次いで「優秀な教師がそろっていること」51.4%、「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」41.4%、「図書館の充実と整備」28.6%、「資格取得講座(対策授業)の充実」26.4%、「学内において「いこいの場」を増すこと」19.5%が高かった。学部平均と比べると、「資格取得講座(対策授業)の充実」と回答した学生の割合が高く、「学内において「いこいの場」を増すこと」と回答した学生の割合は低かった。
看護	「教室の設備など現在の施設・設備の改善」が57.3%と最も高く、次いで「優秀な教師がそろっていること」56.9%、「図書館の充実と整備」38.1%、「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」34.7%、「学内において「いこいの場」を増すこと」24.7%、「資格取得講座(対策授業)の充実」「運動施設の充実と整備」13.0%となった。「期待することは何もない」15.9%という意見も見られた。
放射	「教室の設備など現在の施設・設備の改善」と答えた学生の割合が74.6%と最も高く、次いで「優秀な教師が揃っていること」57.1%が高かった。「優秀な教師が揃っていること」を挙げた割合が学部内でも最も高く、教員の教育力向上が必要である。
リハ・理学	「教室の設備など現在の施設・設備の改善」が77名(64.7%)、次いで「優秀な教師がそろっていること」、「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」がそれぞれ47名(39.5%)であった。学部内平均値と比較し、「運動施設の充実と整備」、「学内において「いこいの場」を増やすこと」が高値であった。
リハ・作業	「教室の設備など現在の施設・設備の改善」が62名(69.7%)、次いで「優秀な教師がそろっていること」、「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」がそれぞれ39名(43.8%)であった。学部内平均値と比較し、「図書館の充実と整備」が高値であった。
臨床工学	「教室の設備など現在の施設・設備の改善」が84%と最も高かった。次いで「優秀な教師が揃っていること」が48%、「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」が46%であった。運動施設・憩いの場・図書館の充実が多数要望されていた。
医療経営	講義・実習の満足度が他学科に比べて低い結果となっているが、「カリキュラム」40.3%、「時間割」62.5%と授業科目に関する事項については、学部平均より低い値を示している。反面、「資格取得講座(対策授業)」は41.7%と高い割合を示している。また、「奨学金等の経済的支援」が23.6%、「ボランティア活動支援」が25.0%と、いずれも学部中もっと高い割合を示している。資格取得講座は、医経ではチャレンジする民間の認定資格が多数あるため相対的に時間が少なくなっていることが原因と考えられる。ボランティアについてはほぼ対応が実施できておらず、他のアンケート項目より、ボランティアに興味を持つ学生の比率は高いと考えられることから、このような結果となったと考えられる。

29. 睡眠時間



学科別	性別	学年別	有効回答者数	平均睡眠時間はどれくらいですか						
				10時間以上	約8時間	約7時間	約6時間	約5時間	約4時間	4時間未満
臨床検査学科	男	2年	968	4	21	119	410	307	81	26
				0.4%	2.2%	12.3%	42.4%	31.7%	8.4%	2.7%
看護学科	女	4年	220	1	5	28	89	78	13	6
				0.5%	2.3%	12.7%	40.5%	35.5%	5.9%	2.7%
放射線学科	男	4年*	241	2	5	22	106	82	20	4
				0.8%	2.1%	9.1%	44.0%	34.0%	8.3%	1.7%
理学療法専攻	女	4年	126	0	4	20	52	35	10	5
				0.0%	3.2%	15.9%	41.3%	27.8%	7.9%	4.0%
作業療法専攻	男	4年*	89	0	1	16	53	39	8	2
				0.0%	0.8%	13.4%	44.5%	32.8%	6.7%	1.7%
臨床工学科	女	4年	119	1	1	11	38	20	11	7
				1.1%	1.1%	12.4%	42.7%	22.5%	12.4%	7.9%
医療経営情報学科	男	4年	100	0	4	12	45	30	9	0
				0.0%	4.0%	12.0%	45.0%	30.0%	9.0%	0.0%
医療経営情報学科	女	4年	73	0	1	10	27	23	10	2
				0.0%	1.4%	13.7%	37.0%	31.5%	13.7%	2.7%
性別	女	2年	308	2	9	52	122	83	31	9
				0.6%	2.9%	16.9%	39.6%	26.9%	10.1%	2.9%
学年別	男	4年	622	2	12	62	273	213	44	16
				0.3%	1.9%	10.0%	43.9%	34.2%	7.1%	2.6%
学年別	女	4年	448	2	6	60	221	160	55	16
				0.4%	1.2%	11.5%	42.5%	30.8%	10.6%	3.1%
学年別	男	4年	448	2	15	59	189	147	26	10
				0.4%	3.3%	13.2%	42.2%	32.8%	5.8%	2.2%

(29) 平均睡眠時間はどれくらいですか：29. 睡眠時間

臨床検査	「約6時間」が40.5%と最も高く、次いで「約5時間」35.5%であり、学部平均とほぼ同じであった。睡眠時間が約4時間以下の学生の割合が8.6%であることから、これらの学生の寝不足による体調不良が懸念される。
看護	「約6時間」が44.0%と最も高く、次いで「約5時間」34.0%であり、5～6時間の睡眠がとれている学生が多い。睡眠時間が約4時間以下の学生の割合が10.0%であることから、これらの学生の寝不足による体調不良が懸念される。
放射	「約6時間」が41.3%と最も高く、次いで「約5時間」27.8%であり、他学科とほぼ同様の傾向であった。
リハ・理学	「約6時間」が53名(44.5%)、次いで「約5時間」が39名(32.8%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「約6時間」が38名(42.7%)、次いで「約5時間」が20名(22.5%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	最多が「6時間」で45%、次いで「5時間」が30%であった。学部平均と大きな違いはなかった。
医療経営	睡眠時間を8時間以上とする割合は1.4%と他学科に比べ低い値であり、5時間以下の割合は47.9%と学部中もっとも高くなっている。 自主学習時間は最も短い結果となっていることから、アルバイトや遊興の時間が睡眠時間を圧迫している状況があるかもしれない。

30. 食事について…朝食

■1 自宅・下宿での自炊

■3 学内の食堂

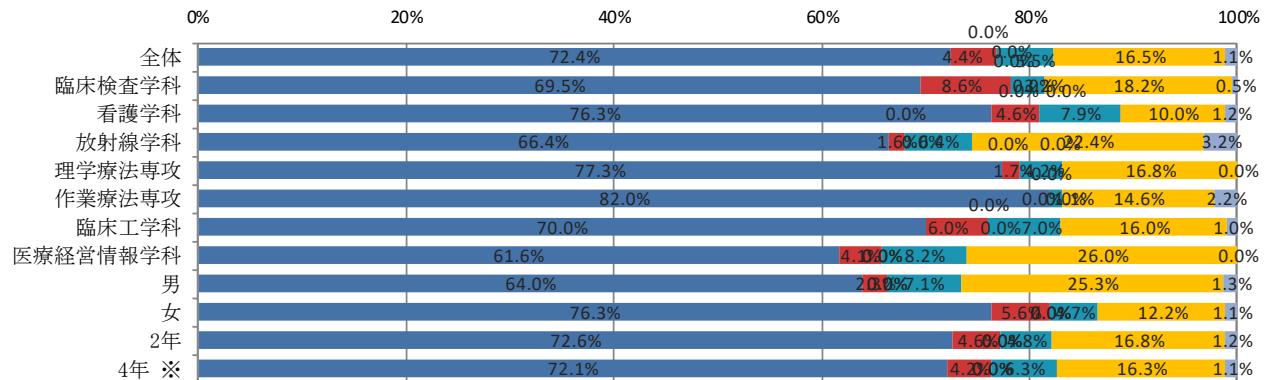
■5 店舗（コンビニやファーストフード等）で弁当等購入

■7 その他

■2 持参した弁当やおにぎり

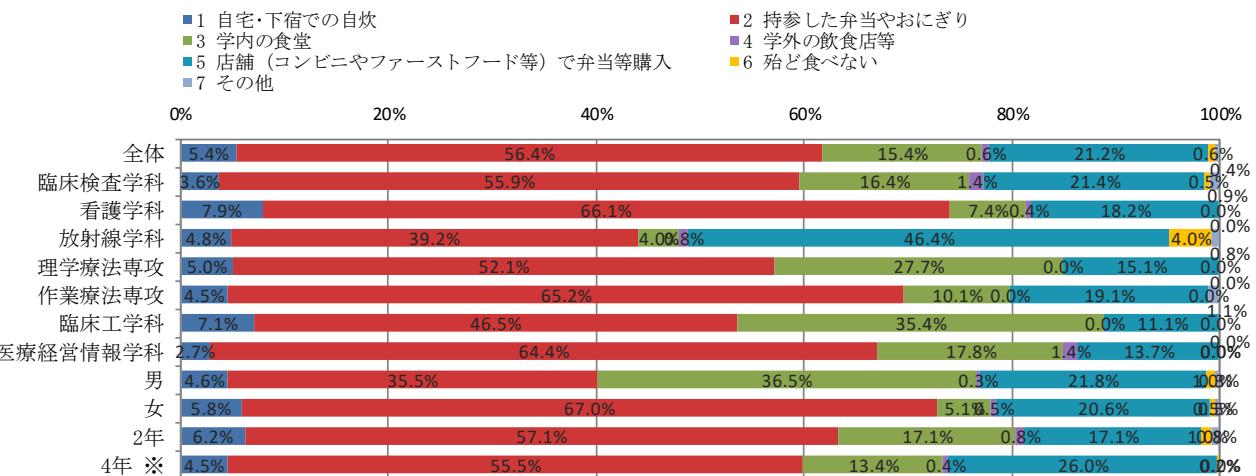
■4 学外の飲食店等

■6 殆ど食べない



学科別	性別	学年別	有効回答者数	食事は主にどのようにして摂っていますか…朝食						
				自宅・下宿での自炊	持参した弁当やおにぎり	学内の食堂	学外の飲食店等	店舗（コンビニやファーストフード等）で弁当等購入	殆ど食べない	その他
臨床検査学科	男	2年	967	700	43	0	0	53	160	11
				72.4%	4.4%	0.0%	0.0%	5.5%	16.5%	1.1%
看護学科	女	4年 ※	220	153	19	0	0	7	40	1
				69.5%	8.6%	0.0%	0.0%	3.2%	18.2%	0.5%
放射線学科	男	2年	241	184	11	0	0	19	24	3
				76.3%	4.6%	0.0%	0.0%	7.9%	10.0%	1.2%
理学療法専攻	女	4年 ※	125	83	2	0	0	8	28	4
				66.4%	1.6%	0.0%	0.0%	6.4%	22.4%	3.2%
作業療法専攻	男	4年 ※	119	92	2	0	0	5	20	0
				77.3%	1.7%	0.0%	0.0%	4.2%	16.8%	0.0%
臨床工学科	女	2年	89	73	0	0	0	1	13	2
				82.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	14.6%	2.2%
医療経営情報学科	男	4年 ※	100	70	6	0	0	7	16	1
				70.0%	6.0%	0.0%	0.0%	7.0%	16.0%	1.0%
2年	女	4年 ※	73	45	3	0	0	6	19	0
				61.6%	4.1%	0.0%	0.0%	8.2%	26.0%	0.0%
4年 ※	男	2年	308	197	7	0	0	22	78	4
				64.0%	2.3%	0.0%	0.0%	7.1%	25.3%	1.3%
4年 ※	女	4年 ※	621	474	35	0	0	29	76	7
				76.3%	5.6%	0.0%	0.0%	4.7%	12.2%	1.1%
4年 ※	男	4年 ※	519	377	24	0	0	25	87	6
				72.6%	4.6%	0.0%	0.0%	4.8%	16.8%	1.2%
			448	323	19	0	0	28	73	5
				72.1%	4.2%	0.0%	0.0%	6.3%	16.3%	1.1%

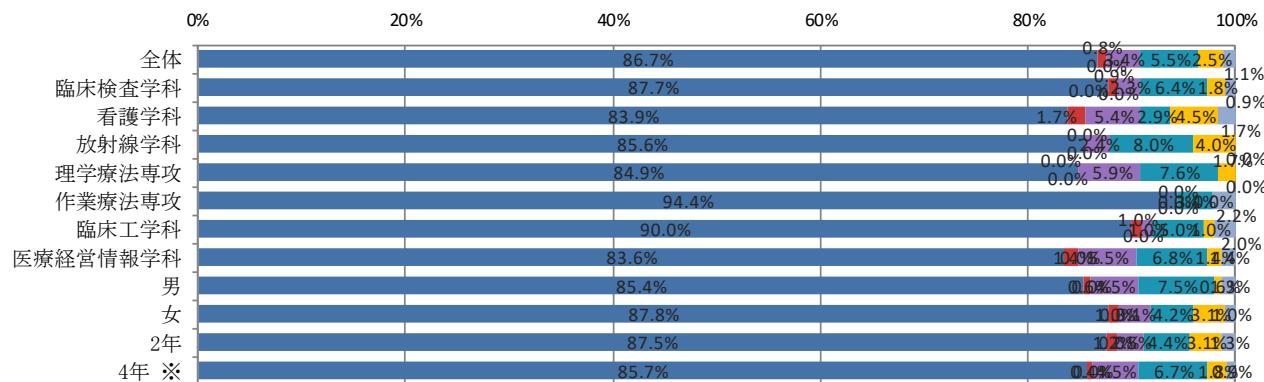
30. 食事について…昼食



有効回答者数	食事は主にどのようにして摂っていますか…昼食							
	自宅・下宿での自炊	持参した弁当やおにぎり	学内の食堂	学外の飲食店等	店舗で弁当等購入	殆ど食べない	その他	
全体	967	52 5.4%	545 56.4%	149 15.4%	6 0.6%	205 21.2%	6 0.6%	4 0.4%
学科別	臨床検査学科	220 3.6%	123 55.9%	36 16.4%	3 1.4%	47 21.4%	1 0.5%	2 0.9%
	看護学科	242 7.9%	160 66.1%	18 7.4%	1 0.4%	44 18.2%	0 0.0%	0 0.0%
	放射線学科	125 4.8%	49 39.2%	5 4.0%	1 0.8%	58 46.4%	5 4.0%	1 0.8%
	理学療法専攻	119 5.0%	62 52.1%	33 27.7%	0 0.0%	18 15.1%	0 0.0%	0 0.0%
	作業療法専攻	89 4.5%	58 65.2%	9 10.1%	0 0.0%	17 19.1%	0 0.0%	1 1.1%
	臨床工学科	99 7.1%	46 46.5%	35 35.4%	0 0.0%	11 11.1%	0 0.0%	0 0.0%
	医療経営情報学科	73 2.7%	47 64.4%	13 17.8%	1 1.4%	10 13.7%	0 0.0%	0 0.0%
性別	男	307 4.6%	109 35.5%	112 36.5%	1 0.3%	67 21.8%	3 1.0%	1 0.3%
	女	622 5.8%	417 67.0%	32 5.1%	3 0.5%	128 20.6%	3 0.5%	3 0.5%
学年別	2年	520 6.2%	297 57.1%	89 17.1%	4 0.8%	89 17.1%	5 1.0%	4 0.8%
	4年 ※	447 4.5%	248 55.5%	60 13.4%	2 0.4%	116 26.0%	1 0.2%	0 0.0%

30. 食事について…夕食

- 1 自宅・下宿での自炊
 ■ 3 学内の食堂
 ■ 5 店舗（コンビニやファーストフード等）で弁当等購入
 ■ 7 その他
 ■ 2 持参した弁当やおにぎり
 ■ 4 学外の飲食店等
 ■ 6 殆ど食べない



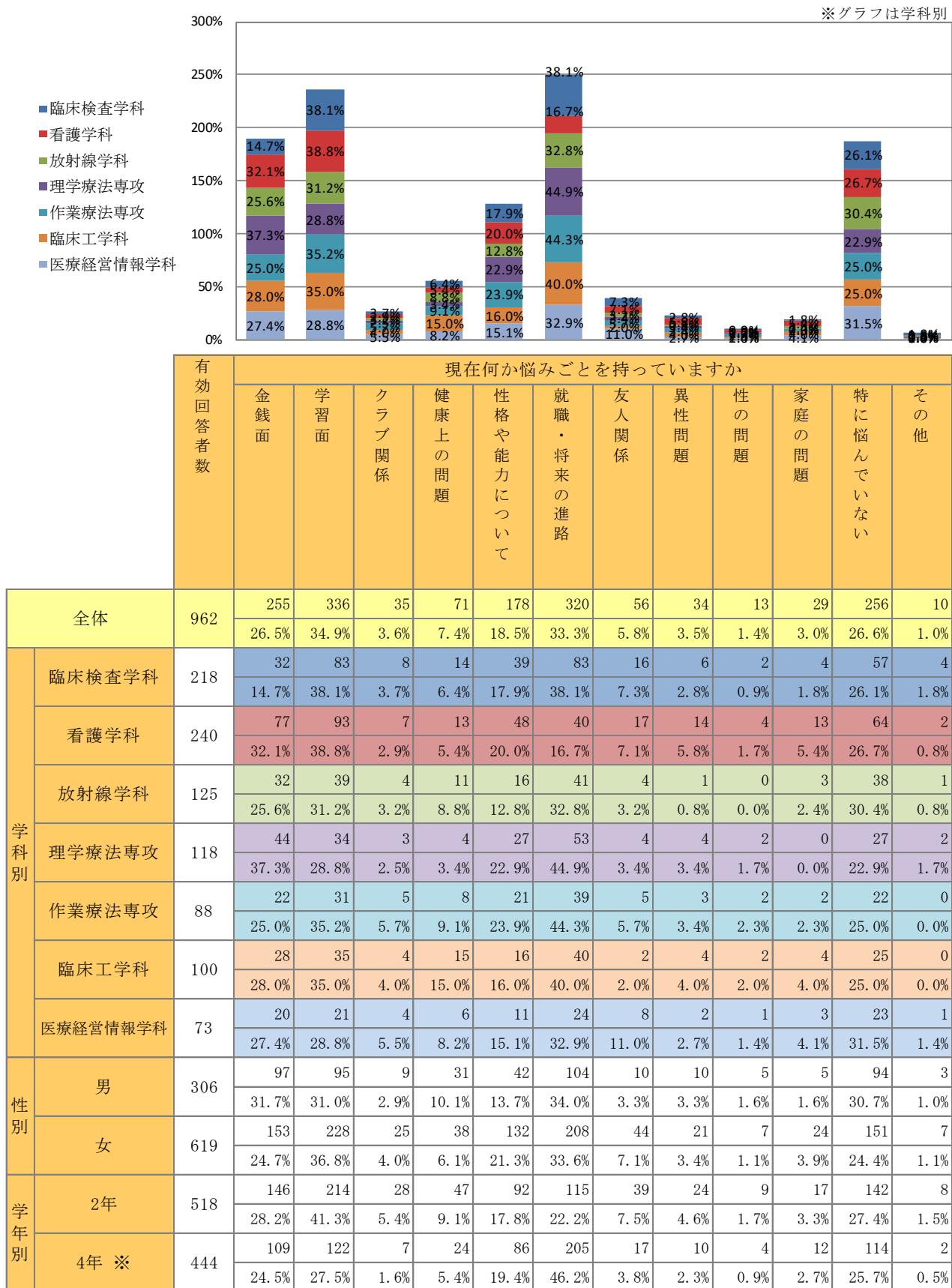
有効回答者数	食事は主にどのようにして摂っていますか…夕食							
	自宅・下宿での自炊	持参した弁当やおにぎり	学内の食堂	学外の飲食店等	店舗(コンビニやファーストフード等)で弁当等購入	殆ど食べない	その他	
全体	968	839	8	0	33	53	24	11
		86.7%	0.8%	0.0%	3.4%	5.5%	2.5%	1.1%
学科別	臨床検査学科	193	2	0	5	14	4	2
		87.7%	0.9%	0.0%	2.3%	6.4%	1.8%	0.9%
	看護学科	203	4	0	13	7	11	4
		83.9%	1.7%	0.0%	5.4%	2.9%	4.5%	1.7%
	放射線学科	107	0	0	3	10	5	0
		85.6%	0.0%	0.0%	2.4%	8.0%	4.0%	0.0%
	理学療法専攻	101	0	0	7	9	2	0
		84.9%	0.0%	0.0%	5.9%	7.6%	1.7%	0.0%
	作業療法専攻	84	0	0	0	3	0	2
		94.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	2.2%
	臨床工学科	90	1	0	1	5	1	2
		90.0%	1.0%	0.0%	1.0%	5.0%	1.0%	2.0%
	医療経営情報学科	61	1	0	4	5	1	1
		83.6%	1.4%	0.0%	5.5%	6.8%	1.4%	1.4%
性別	男	263	2	0	14	23	2	4
		85.4%	0.6%	0.0%	4.5%	7.5%	0.6%	1.3%
	女	546	6	0	19	26	19	6
		87.8%	1.0%	0.0%	3.1%	4.2%	3.1%	1.0%
学年別	2年	455	6	0	13	23	16	7
		87.5%	1.2%	0.0%	2.5%	4.4%	3.1%	1.3%
	4年 ※	384	2	0	20	30	8	4
		85.7%	0.4%	0.0%	4.5%	6.7%	1.8%	0.9%

(30) 食事は主にどのようにして摂っていますか：30. 食事について

臨床検査	朝食は「自宅・下宿での自炊」が69.5%と最も多かったが、「持参した弁当やおにぎり」と回答した学生の割合は、他学科に比べ高かった。通学時間が長い学生の割合が他学科より多く、これらの学生が大学に持参した弁当やおにぎりを朝食としていると推察する。朝食を摂っていない学生の割合は18.2%であり、昨年度調査結果(14.3%)よりやや高かった。1日の生活リズムや体調を整えるためにも朝食は摂るべきである。昼食は「持参した弁当やおにぎり」が55.9%と最も高く、次いで「店舗(コンビニやファーストフード等)で弁当等購入」21.4%であった。夕食については「自宅・下宿での自炊」が87.7%と最も高かった。学部平均とほぼ同様の傾向であった。
看護	朝食は「自宅・下宿での自炊」が76.3%と最も多かった。朝食を摂っていない学生は1割であり、他学科の平均を大きく下回り、9割の学生は朝食を摂取している。昼食は「持参した弁当やおにぎり」が66.1%と最も高く、次いで「店舗(コンビニやファーストフード等)で弁当等購入」18.2%であった。昼食を食べない学生はいなかった。夕食については「自宅・下宿での自炊」が83.9%と最も高かった。夕食をほとんど食べない学生は4.5%見られた。比較的3食摂取している学生が多かった。
放射	朝食は「自宅・下宿での自炊」が66.4%と最も高かった。朝食を摂っていない学生の割合は22.4%であった。昼食は「店舗(コンビニやファーストフード等)で弁当等購入」が46.4%と最も高かった。夕食については「自宅・下宿での自炊」が85.6%で最も高かったが、「店舗(コンビニやファーストフード等)で弁当等購入」の割合は学部内で最も高く、8%であった。
リハ・理学	朝食については、「自宅・下宿での自炊」が92名(77.3%)、次いで「殆ど食べない」が20名(16.8%)であり、概ね他学科と同様であった。昼食については、「持参した弁当やおにぎり」が62名(52.1%)、次いで「学内の食堂」が33名(27.7%)であり、学部内平均値と比較し、「学内の食堂」が高値であった。夕食については、「自宅・下宿での自炊」が101名(84.9%)、次いで「店舗(コンビニやファーストフード等)で弁当等購入」が9名(7.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	朝食については、「自宅・下宿での自炊」が73名(82.0%)、次いで「殆ど食べない」が13名(14.6%)であり、概ね他学科と同様であった。昼食については、「持参した弁当やおにぎり」が58名(65.2%)、次いで「店舗(コンビニやファーストフード等)で弁当等購入」が17名(19.1%)であり、概ね他学科と同様であった。夕食については、「自宅・下宿での自炊」が84名(94.4%)、次いで「店舗(コンビニやファーストフード等)で弁当等購入」が3名(3.4%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	朝食を取らない学生割合は16%程度であった。昼食は持参する弁当が最も多く約半数であった。次いで、食堂が35%を占めた。夕食は、自宅あるいは下宿で食事を摂る割合が約90%と学部全体の割合とほぼ同じであった。
医療経営	朝食は「自宅・下宿での自炊」が61.6%と一番高い比率であったが、「殆ど食べない」が26.0%と他学科に比べ高い値を示した。朝食抜きの学生は午前の授業をまとめて受けられると考えられず、指導が必要である。また、通学時間が長いために自宅での朝食でなく、「持参した弁当やおにぎり」6.0%、「店舗で弁当等購入」7.0%という選択をしている学生があると推察できる。 昼食については「持参した弁当やおにぎり」が64.4%と学部平均より高く、学生食堂が隣接している割に「学内の食堂」は17.8%と低値を示している。食堂に対する要望が高く、それがクリアされない限り、食堂の利用は伸びないと考えられる。 夕食は「自宅・下宿での自炊」が83.6%と高くものの、学部中もっとも低値を示した。しかし、全体的な比率は学部平均とほぼ同様であった。

31. 悩み事（複数回答） - 学科別 -

※グラフは学科別

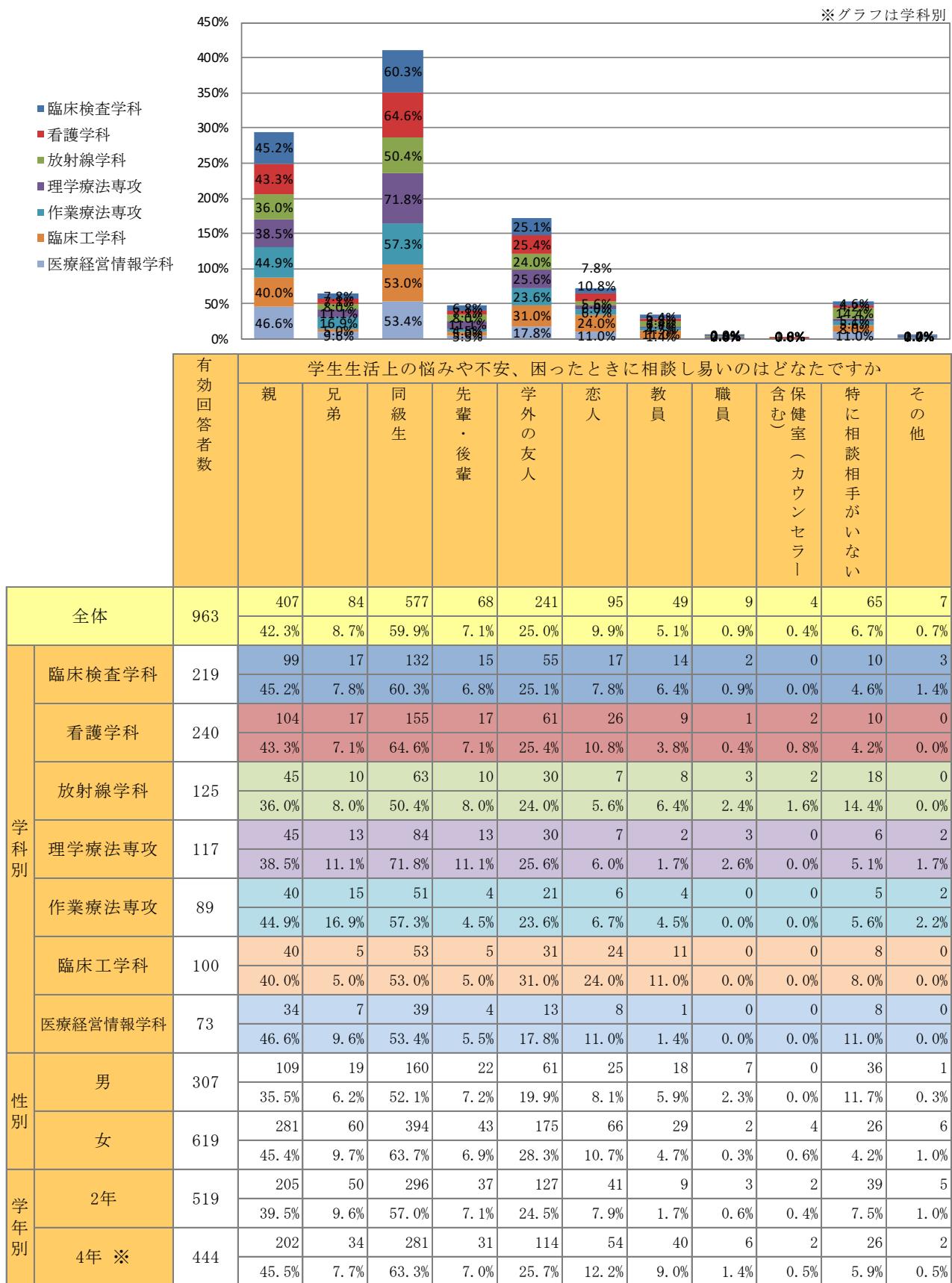


(31) 現在何か悩みごとを持っていますか：31. 憂み

臨床検査	「就職・将来の進路」と「学習面」が38.1%と最も高く、それぞれ学部平均(34.9%、33.3%)より高かった。昨年度調査と比較すると、「就職・将来の進路」は昨年度(48.2%)より減少したが、「学習面」は昨年度(35.1%)とほぼ同じ割合であった。次いで「特に悩んでいない」26.1%、「性格や能力について」17.9%、「金銭面」14.7%であった。「金銭面」で悩んでいる学生は、他学科と比べ最も低かった。
看護	「学習面」が38.8%と最も高く、次いで「金銭面」32.1%、「性格や能力について」20.0%、「就職・将来の進路」16.7%であった。「特に悩んでいない」は26.7%であった。他学科と比べて高かったのは「金銭面」「学習面」「性格や能力について」「友人関係」「異性問題」「性の問題」「家庭問題」と多くの内容で悩んでいる結果となった。他学科と比べて低かったのは「就職・将来の進路」で学部平均(33.3%)に比べ大幅に低かった。
放射	「就職・将来の進路」が32.8%と最も高く、学部平均より若干高かった。次いで「学習面」が31.2%と高かった。全体的な傾向は他学科と大きな相違は無かった。
リハ・理学	「就職・将来の進路」が53名(44.9%)、次いで「金銭面」が44名(37.3%)、「学習面」が34名(28.8%)であった。学部内平均値と比較し、「就職・将来の進路」が高値であった。
リハ・作業	「就職・将来の進路」が39名(44.3%)、次いで「学習面」が31名(35.2%)、「金銭面」が22名(25.0%)であった。学部内平均値と比較し、「就職・将来の進路」が高値であった。
臨床工学	「就職・将来の進路」が最も多く40%、ついで、「学習面」が35%、「金銭面」が28%だった。「特に悩んでいない」が25%であった。
医療経営	「就職・将来の進路」が32.9%と最も高く、本学科の事務系医療専門職を養成するという教育目標の理解が進んでいないことが推察される。また、他学科と比較し「友人関係」が11.0%と高い値を示している。これは、少人数学科ゆえの問題と考えられる。講義・実習に不満がある学生が多い反面、自ら「学習面」で悩んでいる者は28.8%と学部平均34.9%より低い結果となっている。種々のアンケート項目から不満や要望の声が上がっているものの、本人の自覚としては「特に悩んでいない」とする学生が31.5%と他学科に比べて高い割合を示している。これらは、教員の立場より実感している『学生の危機感のなさ』が反映されている結果と考えられる。

32. 相談相手 (複数回答) - 学科別 -

※グラフは学科別



(32) 学生生活上の悩みや不安、困ったときに相談し易いのはどなたですか：32. 相談相手

臨床検査	「同級生」が60.3%と最も高く、次いで「親」45.2%、「学外の友人」25.1%であった。「教員」と回答した学生の割合は6.4%であった。
看護	「同級生」が64.6%と最も高く、次いで「親」43.3%、「学外の友人」25.4%であった。「教員」と回答した学生の割合は0.4%であった。
放射	「同級生」が50.4%と最も高く、次いで「親」36%、「学外の友人」24%であった。
リハ・理学	「同級生」が84名(71.8%)、次いで「親」が45名(38.5%)、「学外の友人」が30名(25.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「同級生」が51名(57.3%)、次いで「親」が40名(44.9%)、「学外の友人」が21名(23.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「同級生」が53%と最も高く、次いで「親」が40%、「学外の友人」が31%であった。一方、「相談相手がいない」は8%と学部内ではやや高い傾向にあった。
医療経営	「同級生」が53.4%と最も高く、次いで「親」46.6%、「学外の友人」17.8%であった。全体として学部平均と同様の傾向であった。また、「教員」と回答した学生は1.4%(1名)と学部中もつとも低い値となった。

II　自由記載の分析

1. 臨床検査学科

臨床検査学科における平成 28 年度調査と平成 29 年度調査の概要及び比較

1) 対象学生について

学生数（単位：人）

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
学生数	33	73	16	76	29	95	20	76
計		106		92		124		96

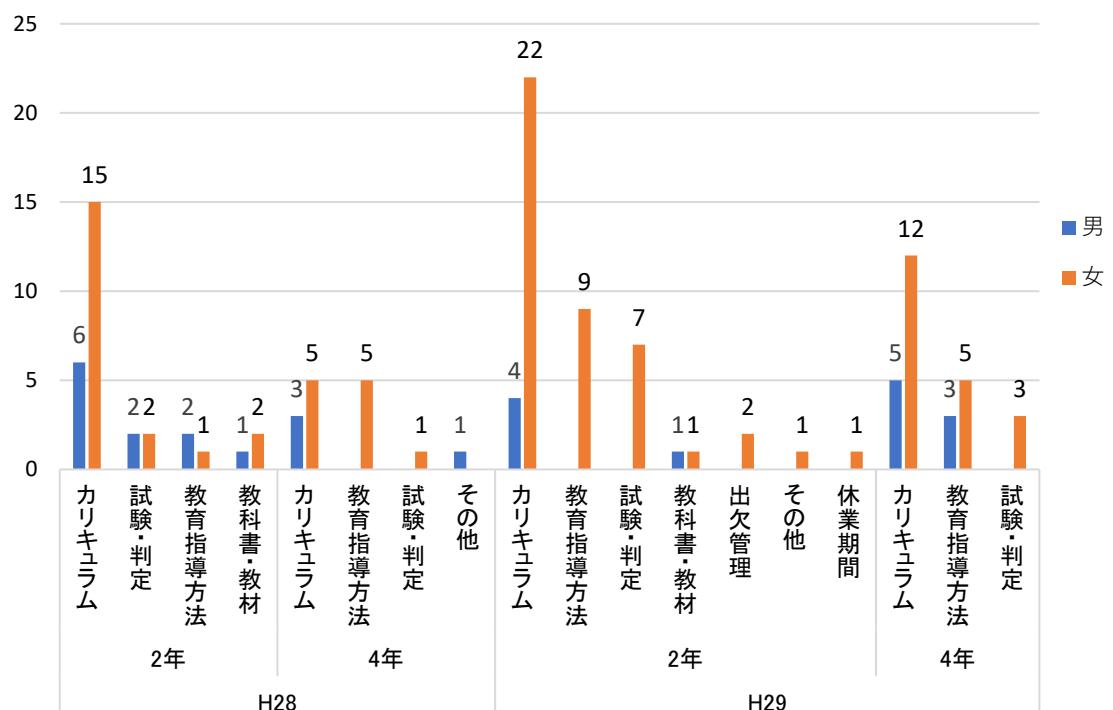
2) 教育内容

2-1) 回答率

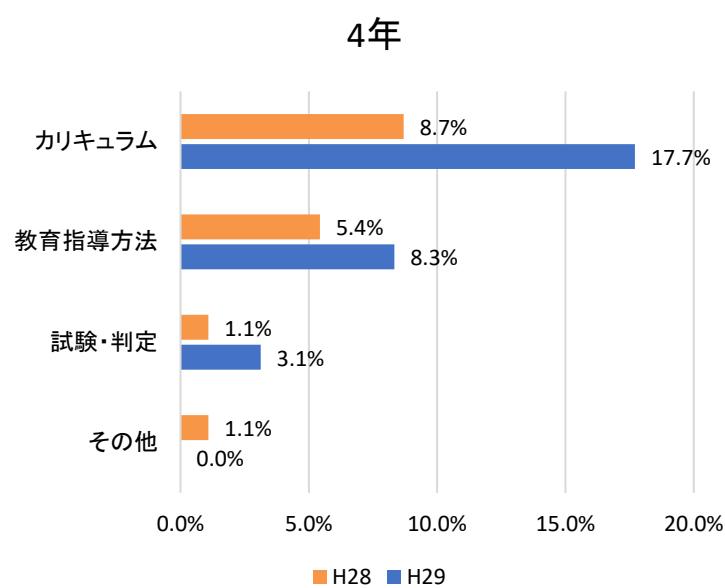
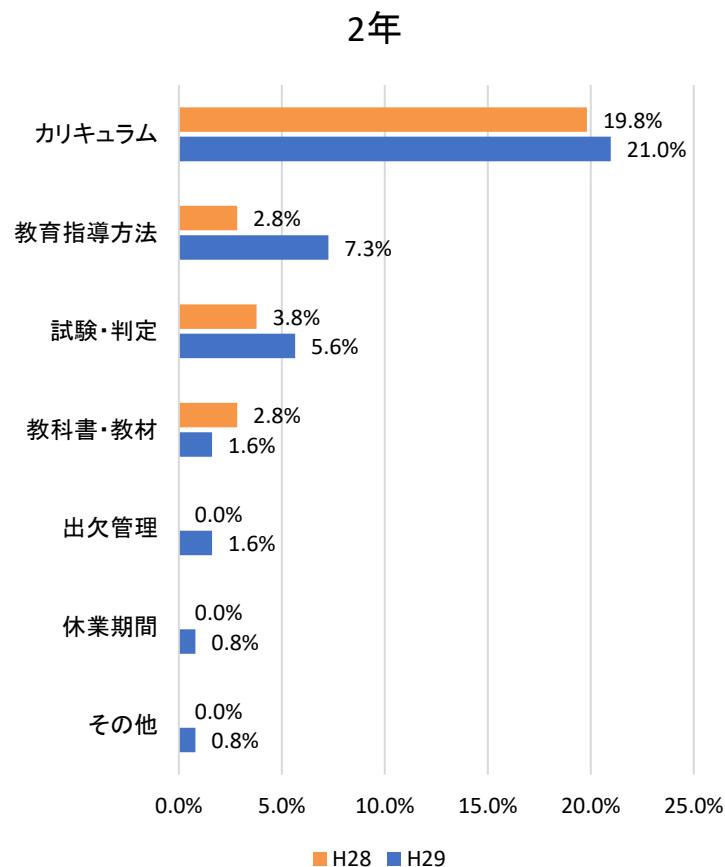
	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数	11	20	4	11	5	43	8	20
回答率	33.3%	27.4%	25.0%	14.5%	17.2%	45.3%	40.0%	26.3%
学年回答率	29.2%		16.3%		38.7%		29.2%	

2-2) 教育内容に関する回答内容の内訳

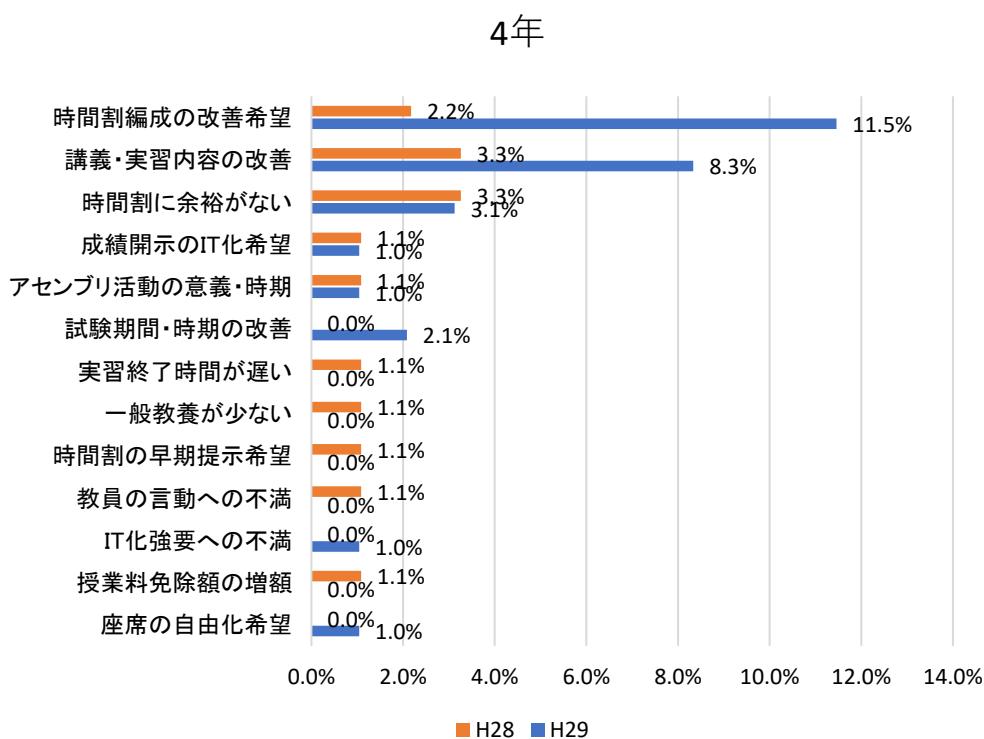
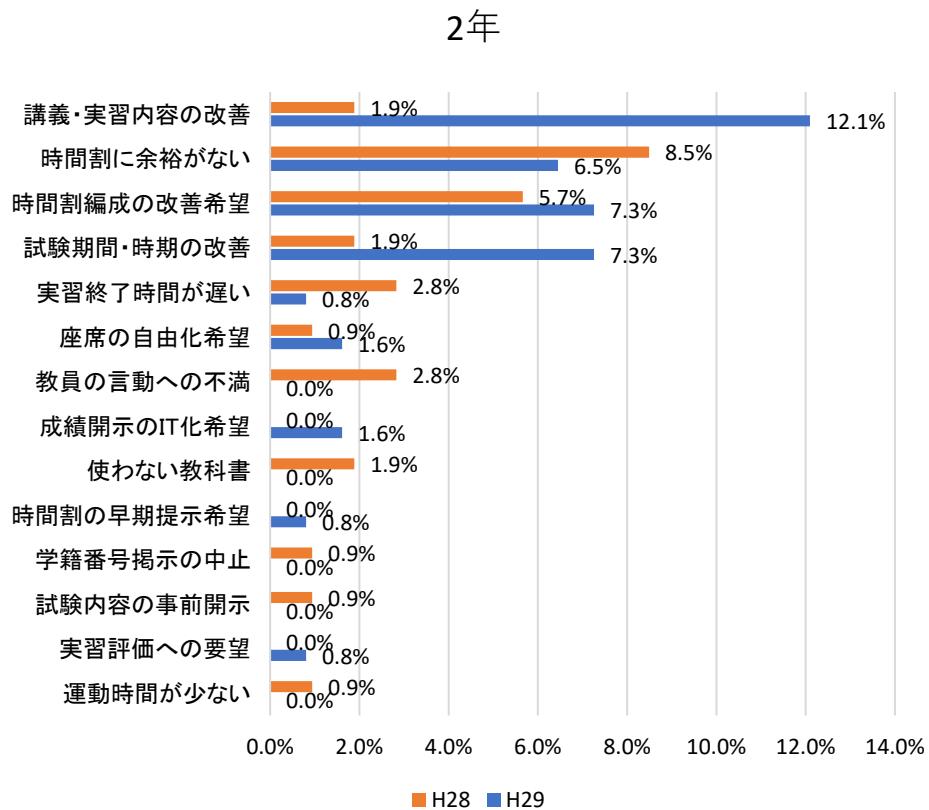
(単位:人)



2-3) 教育内容に関する回答内容の平成 28 年度と平成 29 年度の比較



2-4) 教育内容に関する回答内容の詳細について平成 28 年度と平成 29 年度の比較



2-5) 小括

平成 29 年度の回答率は、平成 28 年度と比較すると、2 年生、4 年生ともに上昇した。回答率が上昇した理由は不明であるが、改善に期待を込めて記載した学生が多くかったのではないかと推察する。平成 29 年度で回答が多かったのは、2 年生、4 年生ともに「カリキュラム」に関する内容であり、平成 28 年度と同じであった。次いで多か

ったのは両学年ともに「教育指導方法」、「試験・判定」に関する内容であった。

平成 29 年度の教育内容に関する回答の詳細についてみると、2 年生では「講義・実習内容の改善」が 12.1% と最も多く、次いで「時間割編成の改善希望」と「試験期間・時期の改善」が 7.3%、「時間割に余裕がない」6.5% であった。4 年生では「時間割編成の改善希望」が 11.5% と最も多く、次いで「講義・実習内容の改善」8.3%、「時間割に余裕がない」3.1%、「試験期間・時期の改善」2.1% であった。医療系の学科であるため、講義や実習が多く、空き時間が少ないことを反映しているものである。

今年度 2 年生は、社会的要請に応じた講義・演習等を新たに加えるなど、講義や実習について抜本的な見直しを実施したカリキュラムで授業が行われている。新カリキュラムの時間割は旧カリキュラムよりスリム化したが、依然として時間割やカリキュラムの改善に関する意見が多くかった。2 年生の意見として気になるのは、「講義・実習内容の改善」や「試験期間・時期の改善」に関する意見の割合が、平成 28 年度の旧カリキュラムの 2 年生と比較して増加していることである。「講義・実習内容の改善」に関する主な意見としては、講義資料の改善や講義方法に関する内容が多い。講義資料に頼りすぎている講義や講義資料が分かりにくい等の意見が上がっている。パワーポイントを用いて講義を行う場合、講義資料は学生に膨大な情報を与えてしまうことになり、逆に分かりにくくしてしまうことが起こりうる。教員が学生の授業評価アンケートの結果等を参考にして、講義資料内容や講義内での資料の使い方などを改善すべきである。「試験期間・時期の改善」に関する主な意見は、テスト直前まで授業があることに対する改善要求であったが、医療系の学科として講義・実習が多いため、どうしてもテスト週間前まで授業が入ってしまう学期がある。学生はテスト前の勉強だけではなく、日頃から学習する習慣を身に着ける必要性を理解すべきである。4 年生の回答についても内容は 2 年生とほぼ同じ内容であった。

講義や実習が多いことが根源となっている意見が多いことから、臨床検査学科のカリキュラムについて、その目標やポリシー等を学生に対して十分な説明を行い、学生が日ごろから地道な努力が必要であることを認識することが重要であり、また学習面で不安を抱えている学生に対する教員の相談体制の強化も必要であると考える。

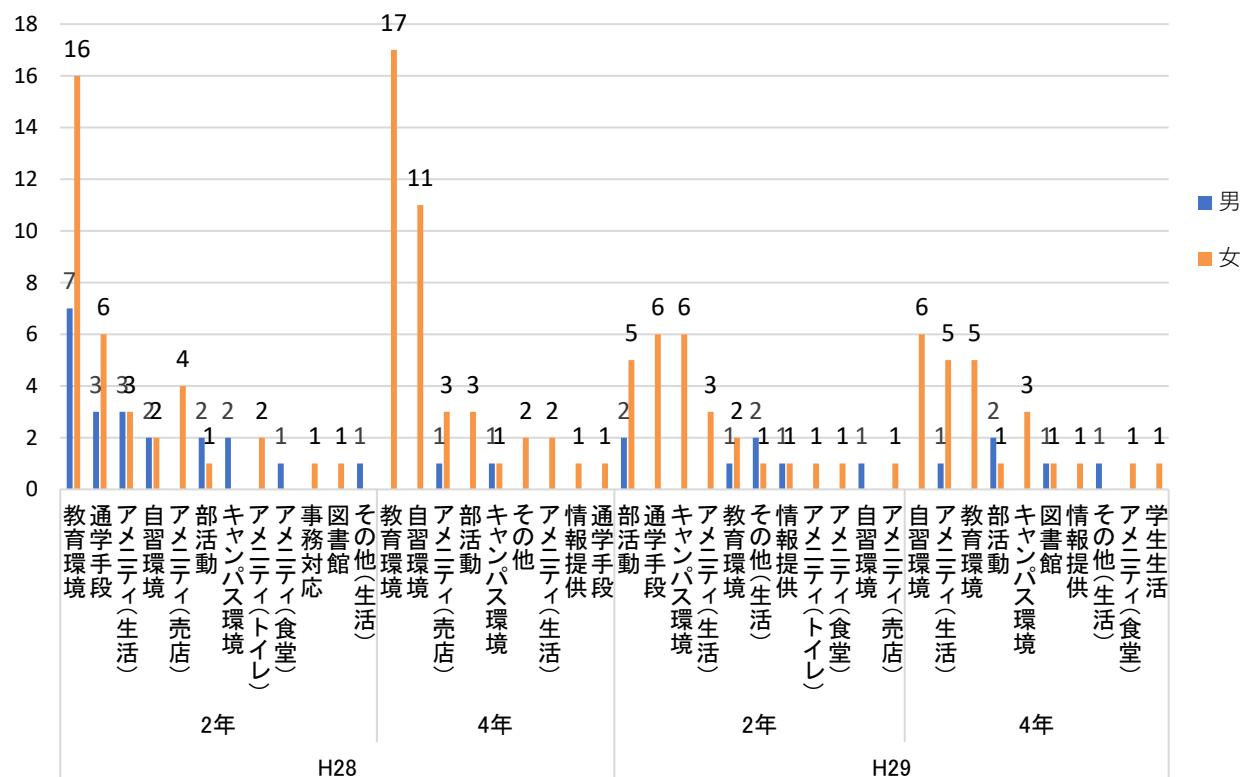
3) 生活環境

3-1) 回答率

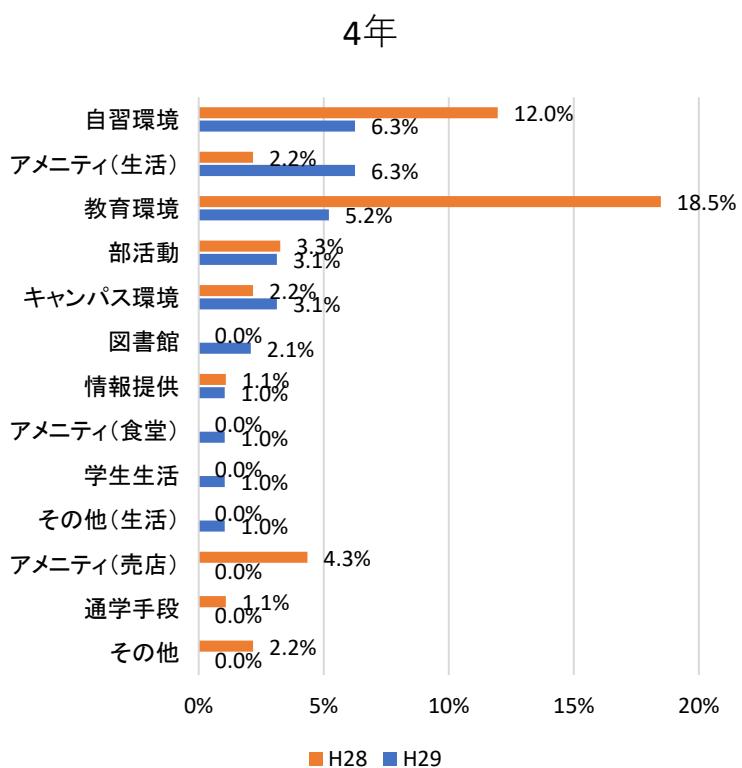
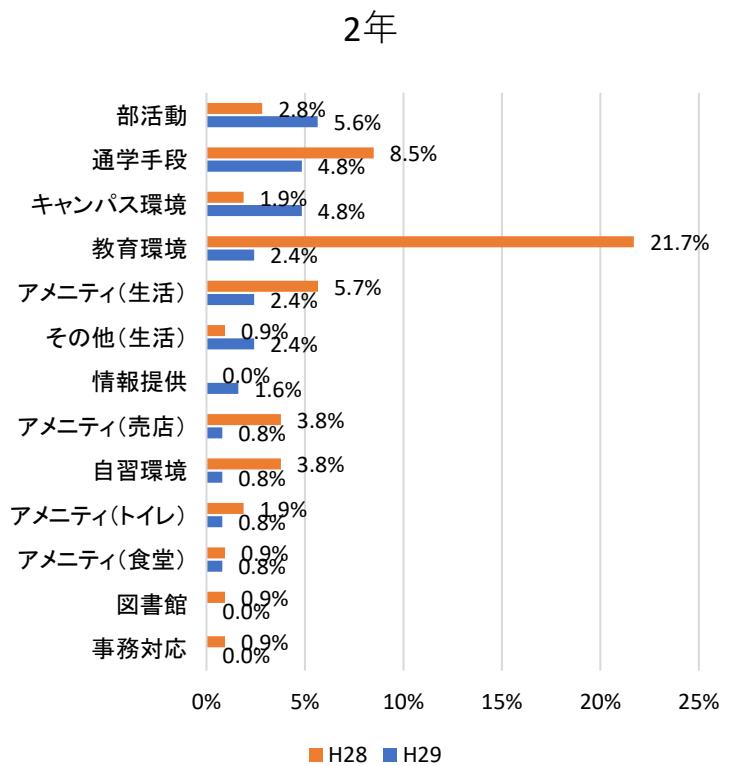
	H28				H29			
	2 年		4 年		2 年		4 年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数	21	36	2	41	7	27	5	24
回答率	63.6%	49.3%	12.5%	53.9%	24.1%	28.4%	25.0%	31.6%
学年回答率	53.8%		46.7%		27.4%		30.2%	

3-2)生活環境に関する回答内容の内訳

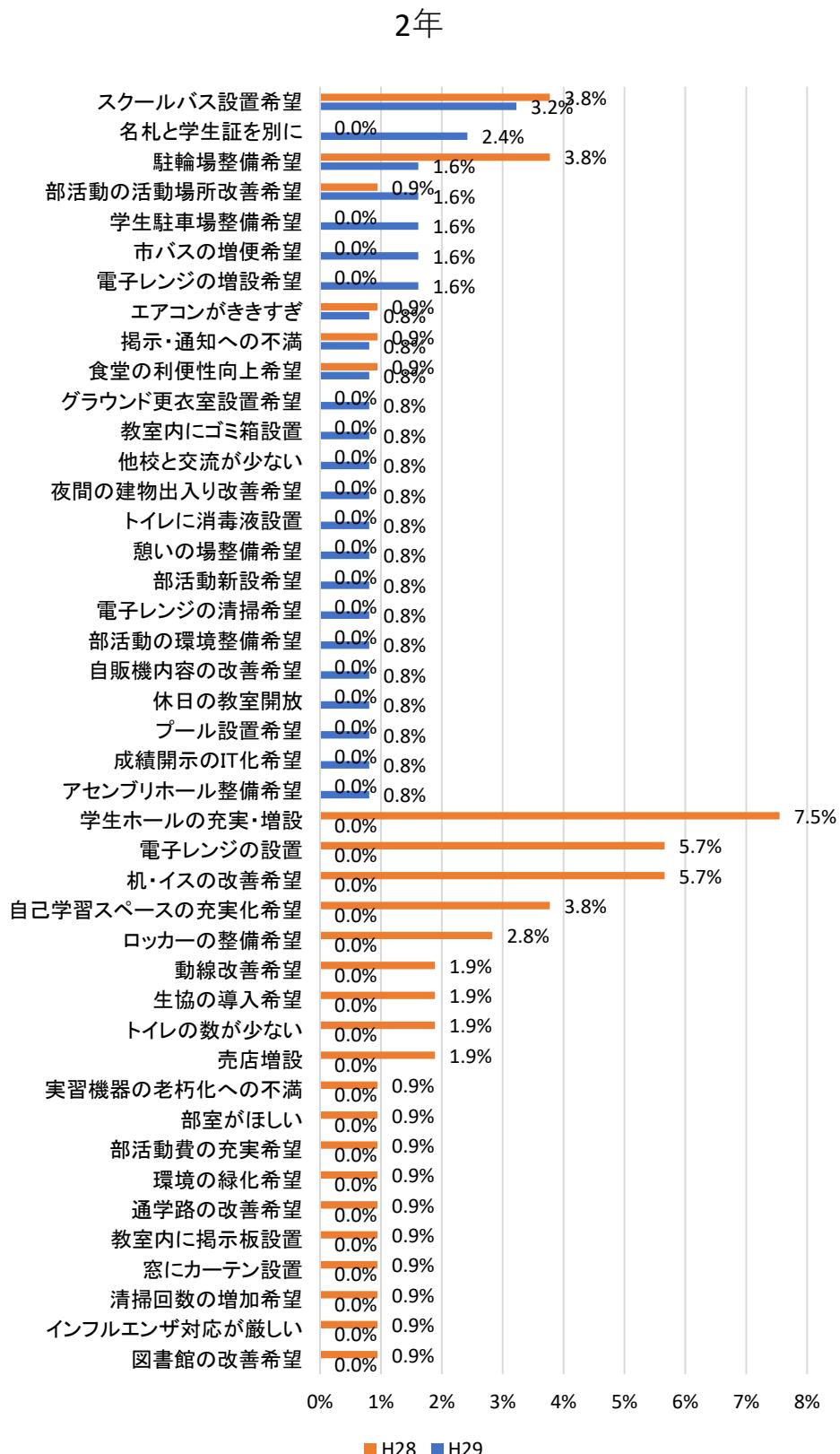
(单位:人)

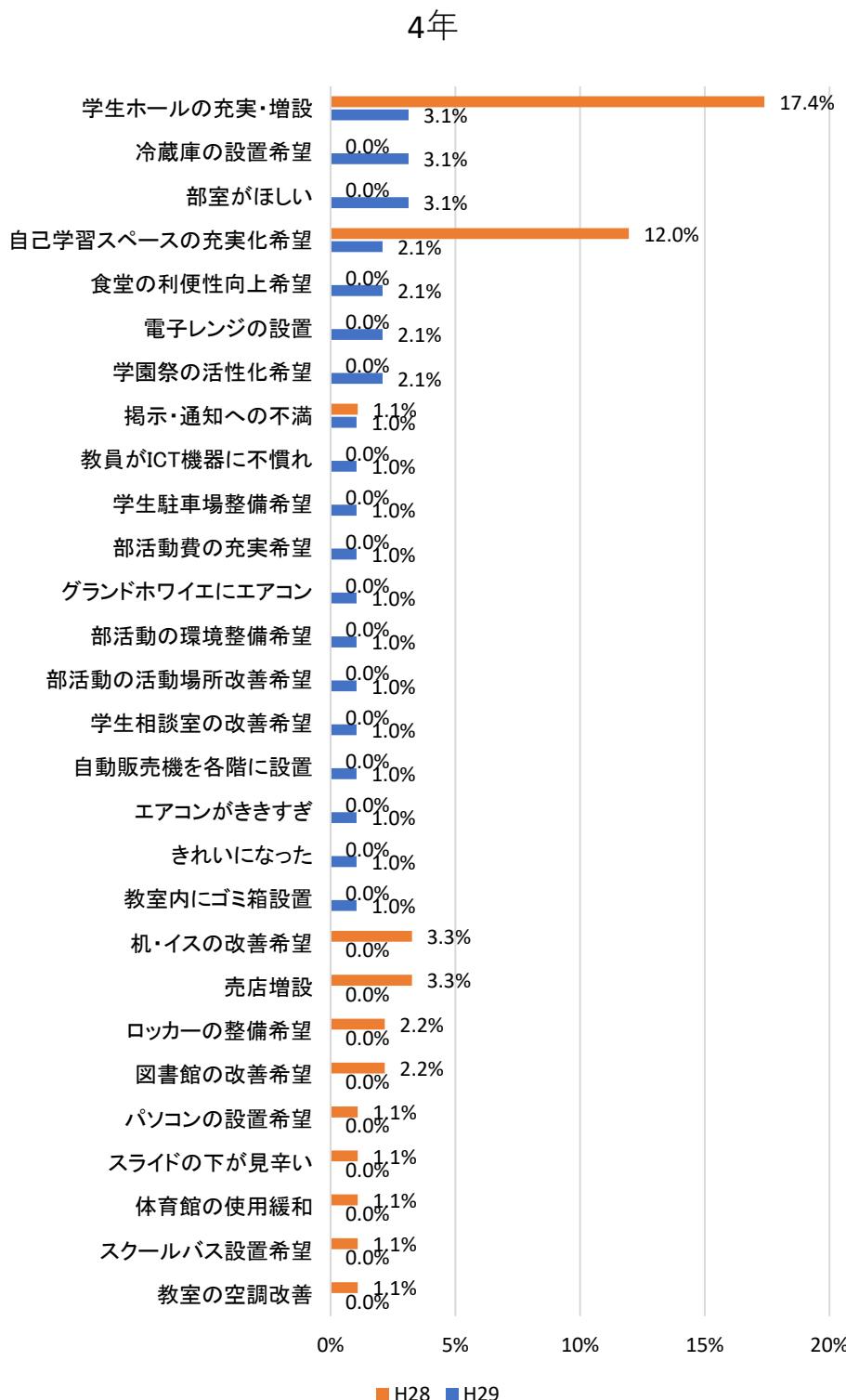


3-3) 生活環境に関する回答内容の平成 28 年度と平成 29 年度の比較



3-4) 生活環境に関する回答内容の詳細について平成 28 年度と平成 29 年度の比較





3-5)小括

平成 29 年度の回答率は、平成 28 年度と比較すると、2 年生、4 年生ともに減少していた。減少した理由は、昨年度より生涯教育研修センター 2 号館に臨床検査学科が移動し、館内のアメニティも引越しして間もない時期と比べると充実してきたことが要因の一つではないかと推察する。平成 29 年度で回答が最も多いかったのは、2 年生が「部活動」に関する意見、4 年生が「自習環境」と「アメニティ(生活)」に関する意見であった。平成 28 年度に最も多かった「教育環境」に関する意見は減少した。

内容の詳細についてみると、平成 28 年度と比べ、平成 29 年度の意見の内容は異なっていた。平成 28 年度で最も多かった「教育環境」に関する意見は、2 年生、4 年生ともに「学生ホールの充実・増設」であった。昨年度の学生生活・学習実態調査が実施された時期は、まだ生涯教育研究センター 2 号館のアメニティが完全に設置されていない時期であったことが大きく影響している。調査後に、各階の学生ホールの机・イス、電子レンジの設置を行っており、こうした環境についてはすでに改善されているため、今年度は教育環境に関する意見が減少したと思われる。

2 年生では「部活動」に関する回答が最も多かったが、各部活で不足しているものや必要を感じているものが主な内容であった。教育上、部活動から得られるものも多く、学生が積極的に部活動に参加し活動できるよう、大学として部活動の環境整備など、さらなる支援・取り組みが必要であると思われる。また「通学手段」に関する意見も多く、ほとんどは「スクールバスの設置希望」であった。この意見は毎年上がっている。バス停での学生のマナーについて度々問題にあがっていることもあり、今後、学園として検討してほしい内容である。また 2 年生では今年度新たに名札と学生証を別にしてほしいという意見が多く上がった。現在、学生証と名札が一体となっているため、学生にとって使いづらいことがあるようである。

4 年生では「自習環境」に関する意見として、自己学習スペースの充実化を希望する意見が多かった。IT 試験のための勉強などで、学習スペースが欲しいという学生が多い。学生ホールはオープンスペースであるため、集中して自己学習をすることができないという学生の意見があるが、こうした意見の割合は平成 28 年度より減少している。「アメニティ(生活)」に関する意見としては、冷蔵庫が欲しいというものが主な意見であった。自分で持ってきたお弁当などを食中毒予防のために冷蔵庫に入れておきたいという意見のようである。

生活環境については臨床検査学科が生涯教育研究センター 2 号館に移動し、かなり改善された。今後も学生生活がより良いものとなるよう、学生の意見を慎重に精査し、具体的な改善案を検討し、計画的に改善を行っていく必要がある。

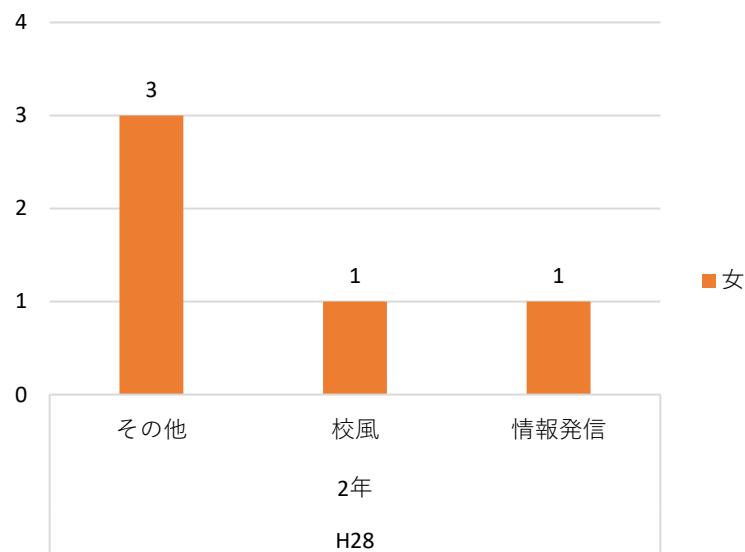
4) 特色

4-1) 回答率

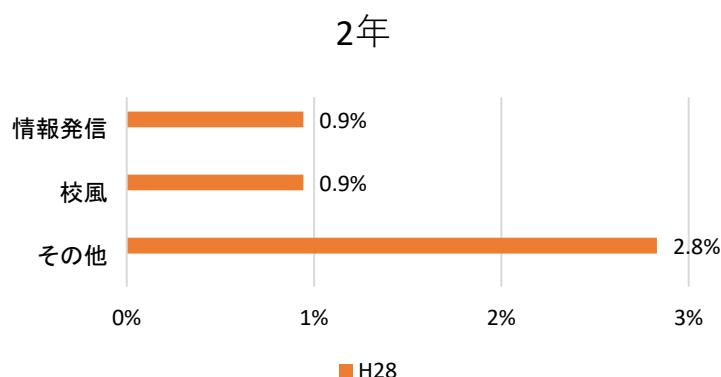
	H28				H29			
	2 年		4 年		2 年		4 年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数	0	5	0	0	0	0	0	0
回答率	0.0%	6.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
学年回答率	4.7%		0.0%		0.0%		0.0%	

4-2) 特色に関する回答内容の内訳

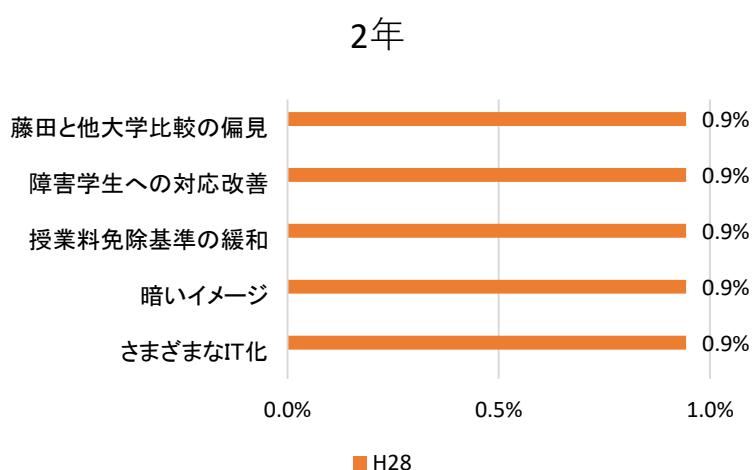
(単位:人)



4-3) 特色に関する回答内容の平成 28 年度と平成 29 年度の比較



4-4) 特色に関する回答内容の詳細について平成 28 年度と平成 29 年度の比較



4-5) 小括

平成 29 年度は特色に関する学生からの意見はなかった。平成 28 年度の学生の意見は「校風」、「情報発信」、「特色」等に関する内容であった。「障害学生への対応改善」、「藤田と他大学比較の偏見」、「授業料免除基準の緩和」、「暗いイメージ」、「さまざまな IT 化」について意見があつたが、いずれも少数意見であった。IT 化に関する意見は、平成 29 年度も教育内容で上がっている意見である。成績結果提示や他の情報伝達の IT 化は今後学園として計画的な改善を行っていくことが望まれる。

5) 総括

平成 29 年度の回答率は、平成 28 年度と比較すると、教育内容の分野については上昇し、生活環境の分野は減少した。平成 29 年度は特色に関して学生からの意見はなかった。教育内容に関する回答率が上昇した理由は、自分たちの意見が将来の大学や臨床検査学科に反映されることを期待した学生が多かった結果であると推察する。生活環境に関する回答率が減少した理由は、臨床検査学科が昨年度より生涯教育研修センター 2 号館に移動し、環境が改善したことが要因の一つであると思われる。

教育内容については、カリキュラムや時間割に関する内容の意見が多く、試験週間前に空き時間がほとんどない時間割に関する内容が主なものであった。今年度 2 年生は講義・実習等の抜本的な見直しを行った新カリキュラムですすんでおり、時間割も以前よりスリム化したが、依然として時間割や講義・実習内容の改善に関する意見が多い。医療系の学科であるため、講義や実習は必然的に多くなるため、試験週間前に空き時間を作ることが難しい学期がある。教員は講義や実習の必要性について初回の授業等で学生に対して説明をしっかりと行い、また勉強は試験前のみ行うのではなく、日々の学習成果が試験結果に反映することを学生が理解することが重要と思われる。講義資料については分かりにくいものがあると回答した学生が比較的多かったことから、特にパワーポイントを使用した講義に用いる講義資料は、膨大な情報を学生に与え混乱させてしまうことがないよう注意を払い、授業評価アンケートの結果等を参考にして、資料内容や講義での資料の用い方等について各教員が改善していかなければならない。

生活環境については、平成 29 年度の調査結果は全体的に意見が減少していたが、その中でも平成 28 年度に多かった教育環境に関する意見が激減した。昨年度は臨床検査学科が医療科学部 1 号館から生涯教育研修センター 2 号館へ移動したばかりに行つたため、アメニティ等が整っていない状況であったことに対する意見が多かった。その後、各階の学生ホールに机、椅子が増設され、さらに各階に電子レンジも設置されたため、こうした教育環境に関する意見が減少したと考える。「通学手段」に関する意見としてスクールバスの設置希望は毎年上がっている意見である。今後、学園として検討してほしい内容である。また今年度新たに名札と学生証を別にしてほしいという意見が多く上がった。現在、学生証と名札が一体となっているが、学生にとって使いづらいことがあるようである。

今年度は特色に関する学生からの意見はなかった。平成 28 年度の回答も教育環境や生活環境と重複している意見が多く、教育内容や生活環境を中心とした改善策を検討していくことが適切であると思われる。

臨床検査学科が生涯教育研修センター 2 号館に移動し、教育環境、生活環境等の面で改善されたことが、今年度の回答内容に大きく変化が生じる結果となった。昨年度の調査で多かった生活環境に関する意見については改善がすすみ、その結果、意見の数は減少した。今後も本調査で得られた教育内容、生活環境、特色に関する学生からの貴重な意見については今後検討を行い、計画的な改善を行い、より良い学生環境にしていくことが望まれる。

2. 看護学科

看護学科における平成 28 年度調査と平成 29 年度調査の概要及び比較

1) 対象学生について

学生数（単位：人）

年度	H28				H29			
	学年		2年	4年	学年		2年	4年
性別	男	女	男	女	男	女	男	女
学生数(人)	7	101	9	100	12	120	12	87
計		108		109		132		99

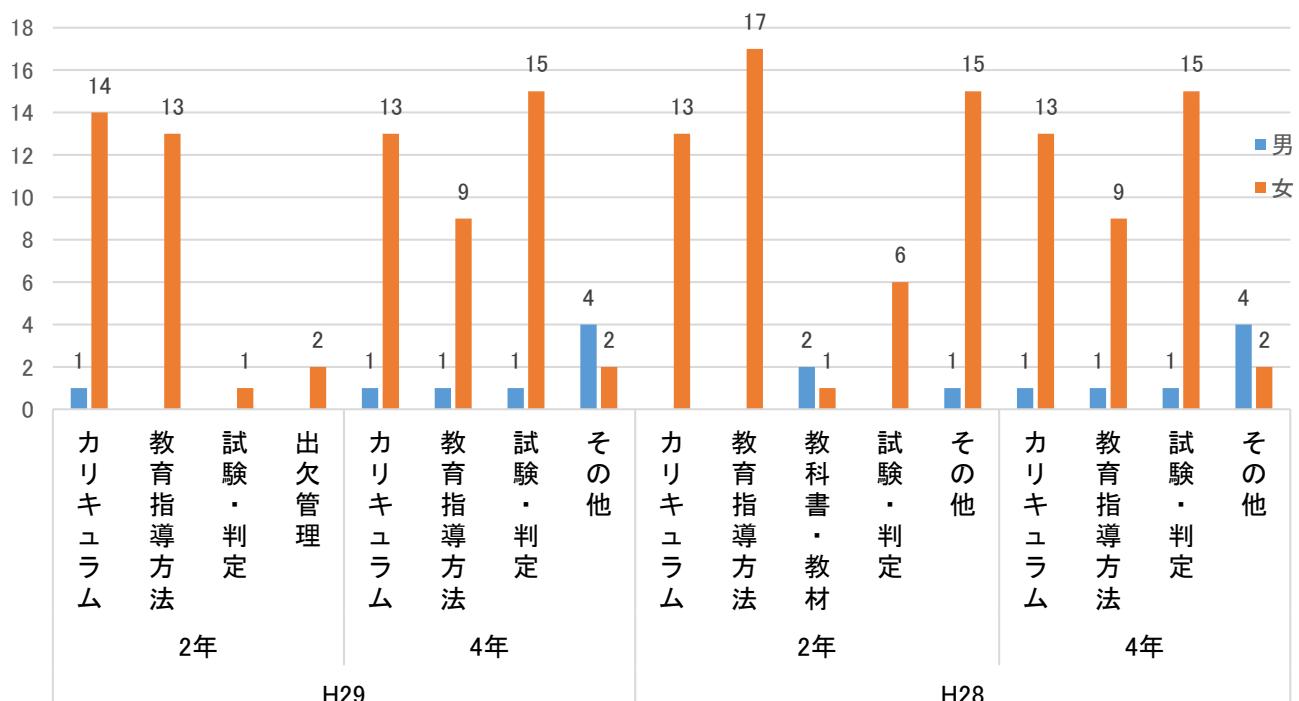
2) 教育内容

2-1) 回答率

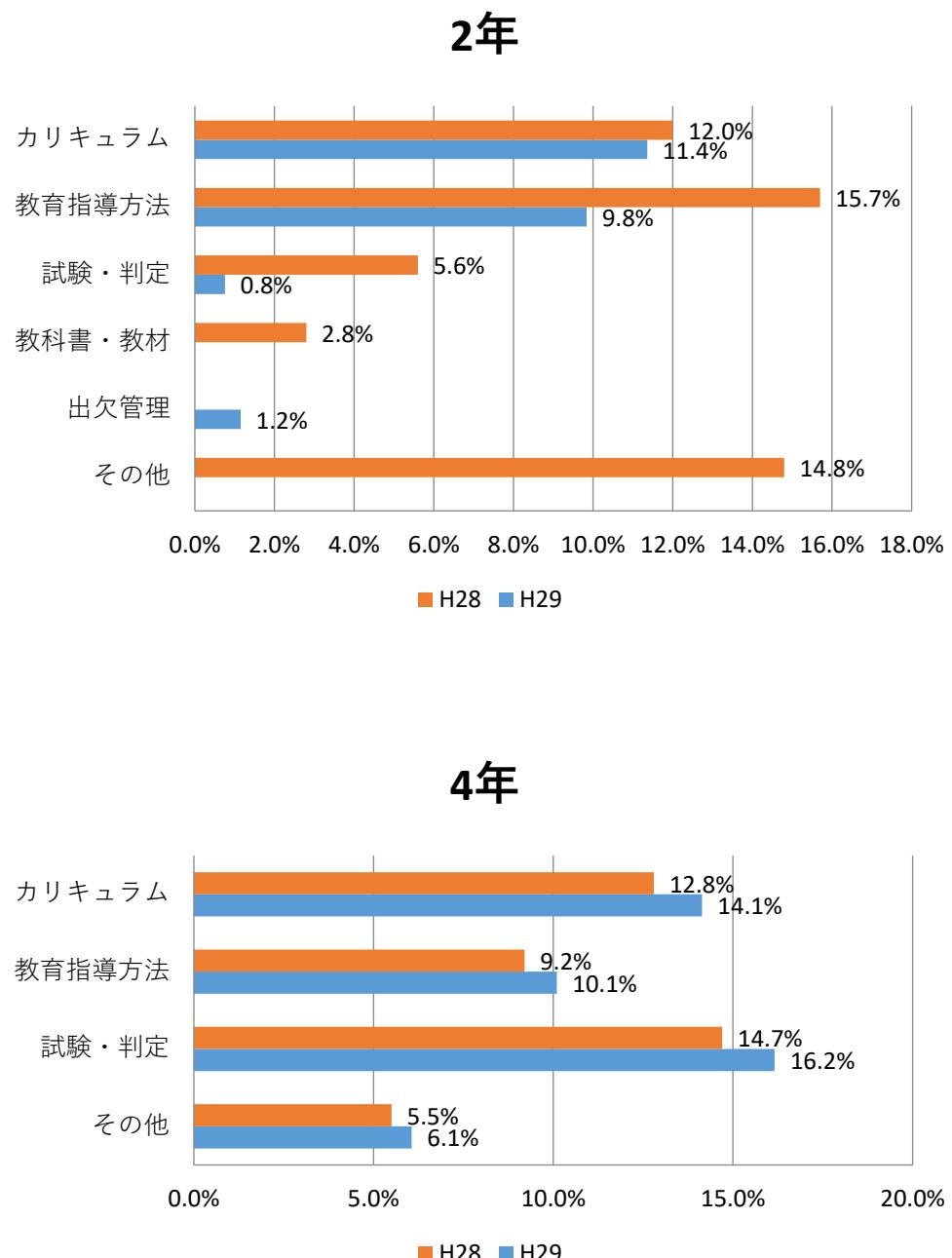
年度	H28				H29			
	学年回答率		2年	4年	学年回答率		2年	4年
性別	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数(人)	3	52	5	41	1	33	3	49
回答率	42.9%	51.5%	55.6%	41.0%	8.3%	27.5%	25.0%	56.3%
学年回答率	51.0%		42.2%		25.8%		52.5%	

2-2) 教育内容に関する回答内容の内訳

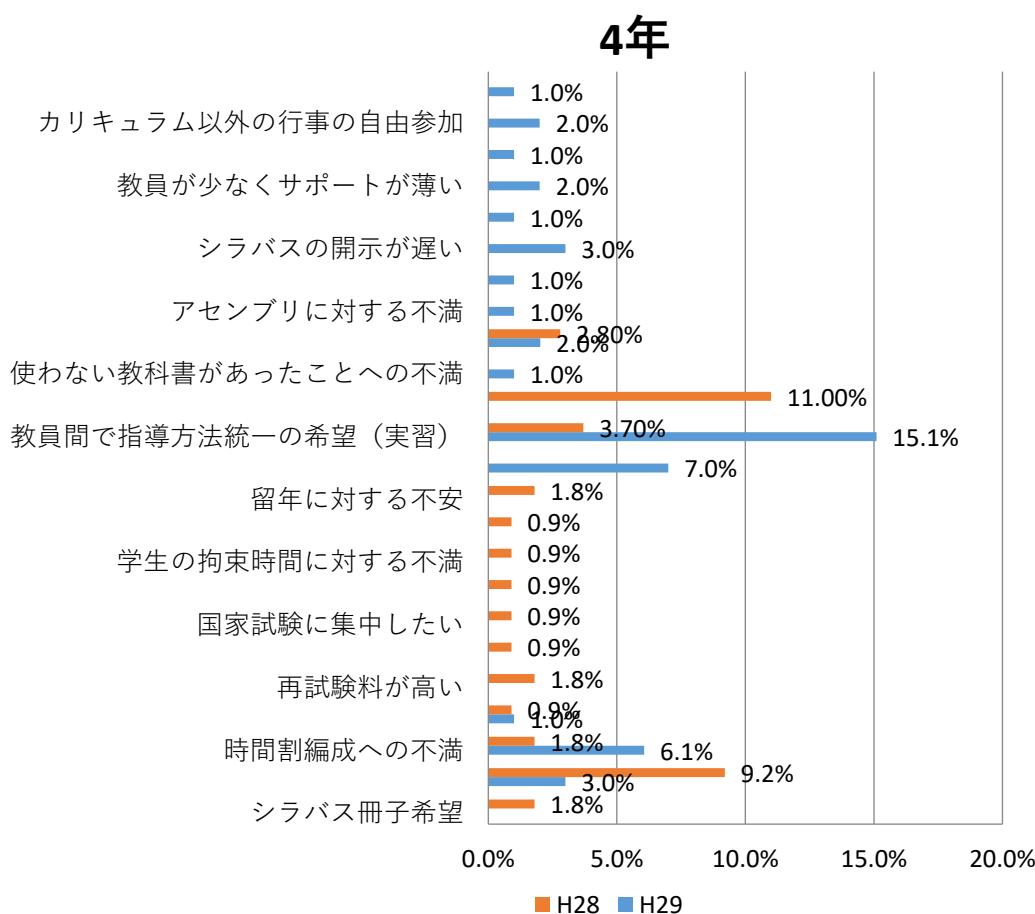
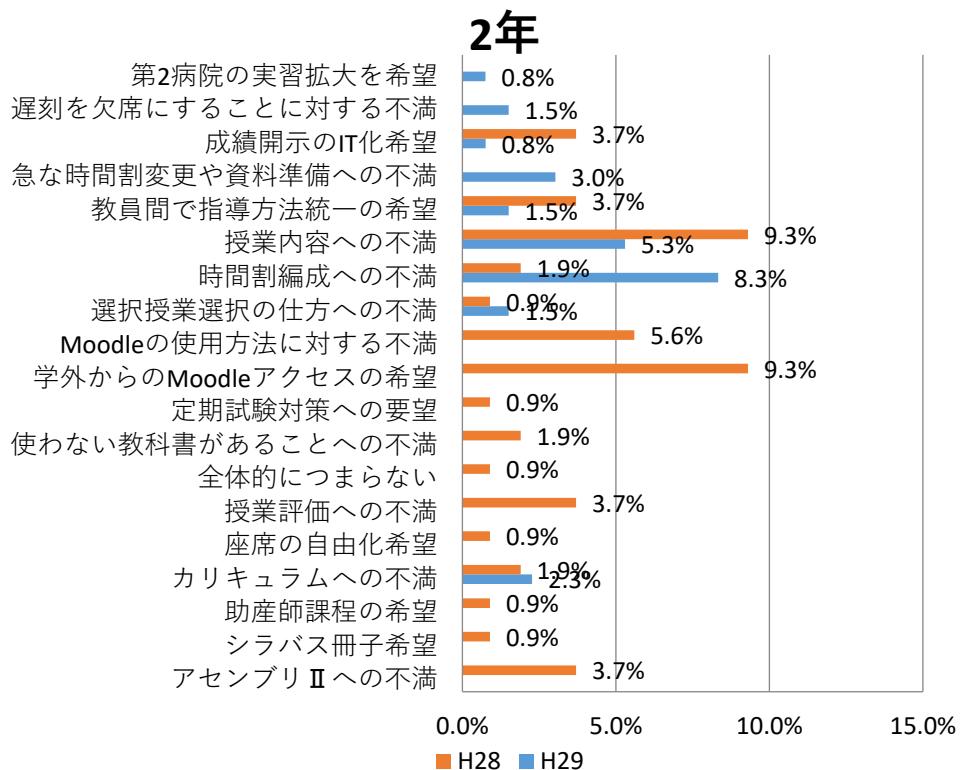
(単位：人)



2-3) 教育内容に関する回答内容の平成28年度と平成29年度の比較



2-4) 教育内容に関する詳細項目における平成28年度と平成29年度の比較



2－5) 小括

平成29年度の回答率を平成28年度と比較すると、2年生では減少し4年生では増加した。2年生は、「試験・判定」「教科書・教材」「その他」の回答がなかったか少なかった。4年生は「カリキュラム」「教育指導方法」「試験・判定」等ほぼすべての項目が増加した。

内容の詳細をみてみると、2年生は、「時間割の編成」「授業内容」「急な時間割変更」に対しての不満が見られた。4年生では「教員間での指導方法統一の希望」が多く、一人以外は実習指導者に対しての意見が多くみられた。実習は6-7人の小グループで実施し、グループごとに臨地指導者と教員指導者が担当するが、教員間での指導内容に差があると学生は感じている。「時間割の編成」に対しては、科目履修の時期は前年度の1月頃に実施するが、この時期には次年度のシラバスや時間割がまだ提示されていない。多くの学生は、時間割を見て選択したい希望があると思われる。その理由としては、シラバスを見て科目の内容を理解したいという意見もある。または土曜日や5限目開講の科目を敬遠されることもあり、そのことも考慮の材料とされていると思われる。実習に対しては、記録物の多さ、カリキュラムの過密さが課題にあがるが、看護師・保健師免許を取得するうえでのカリキュラム上ある程度の過密さはある。現在は選択科目の裏に別の科目を立てることはしていないが、5限目や土曜日の開講を少なくするために、時間割の工夫は必要になってくる。教員間の指導内容の違いについては、実習用の教員評価アンケートなども参考に評価していくこと課題となる。

生涯教育研修センター2号館ではWi-Fi環境があり、Moodleも学外からのアクセスが可能となった。ICTに向けての環境は整ってきていたため、昨年度あった不満について今年度は見られていない。

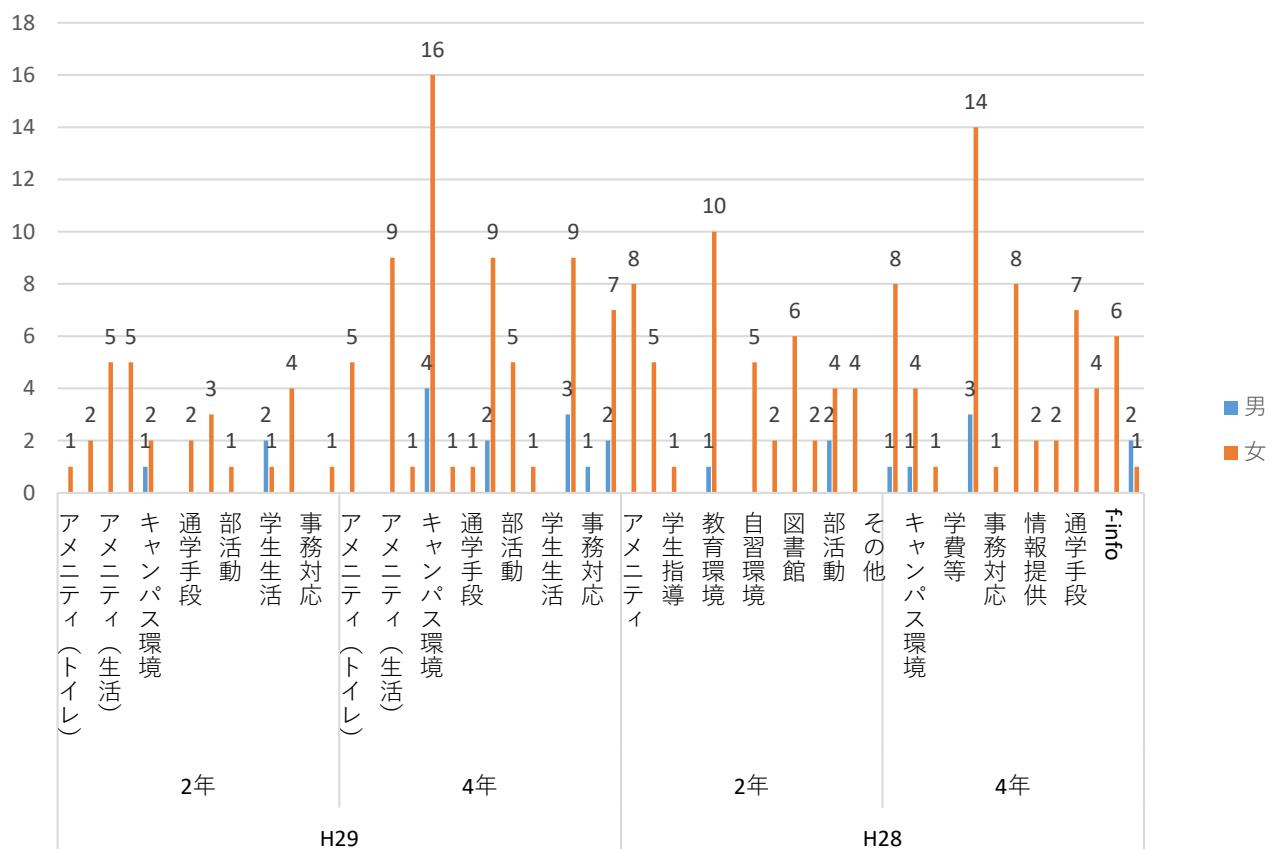
3) 生活環境

3 - 1) 回答率

年度 学年回答率	H28					H29				
	2年		4年			2年		4年		
	性別	男	女	男	女	男	女	男	女	
回答数(人)	4	46	6	61	3	27	12	65		
回答率	57.1%	45.6%	66.7%	61.0%	25.0%	22.5%	100.0%	74.7%		
学年回答率	46.3%		61.5%			22.7%		77.7%		

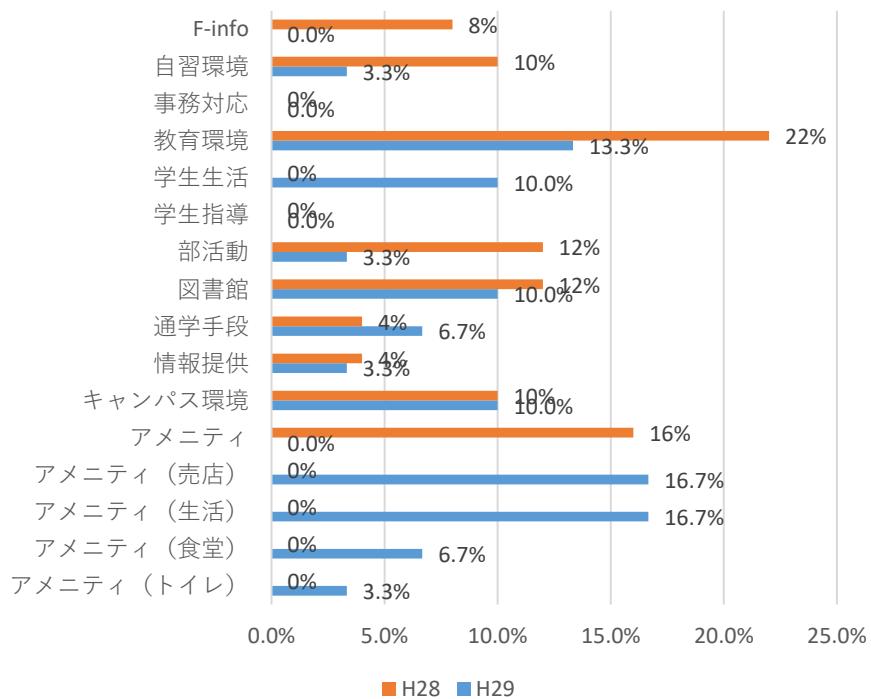
3 - 2)

生活環境に関する回答内容の内訳

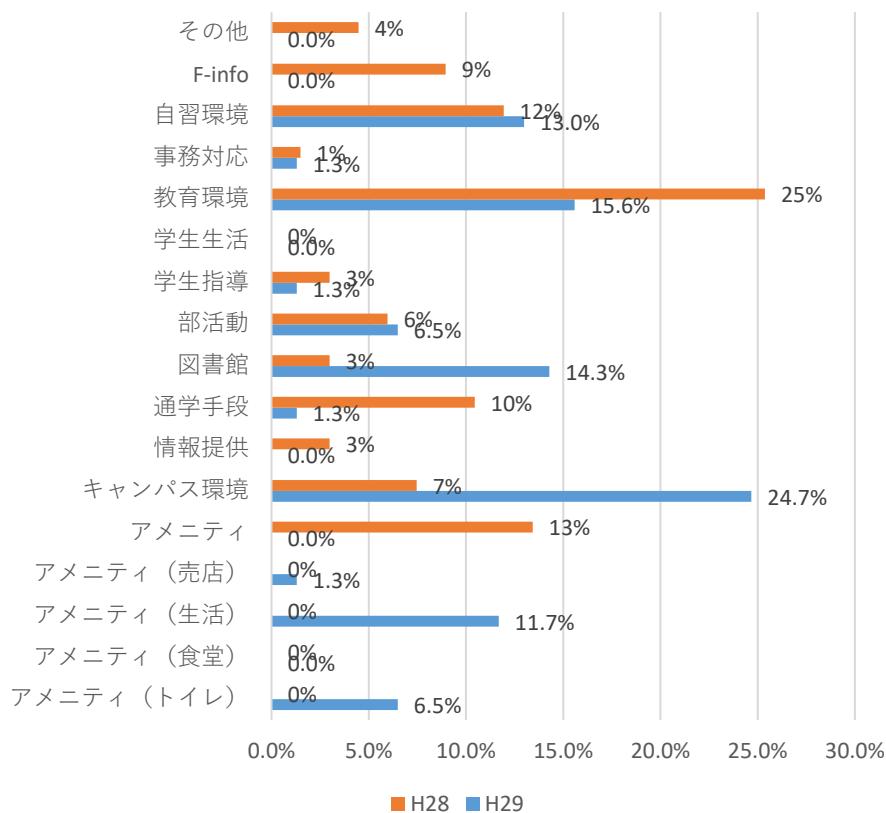


3-3) 生活環境に関する回答内容の平成28年度と平成29年度の比較

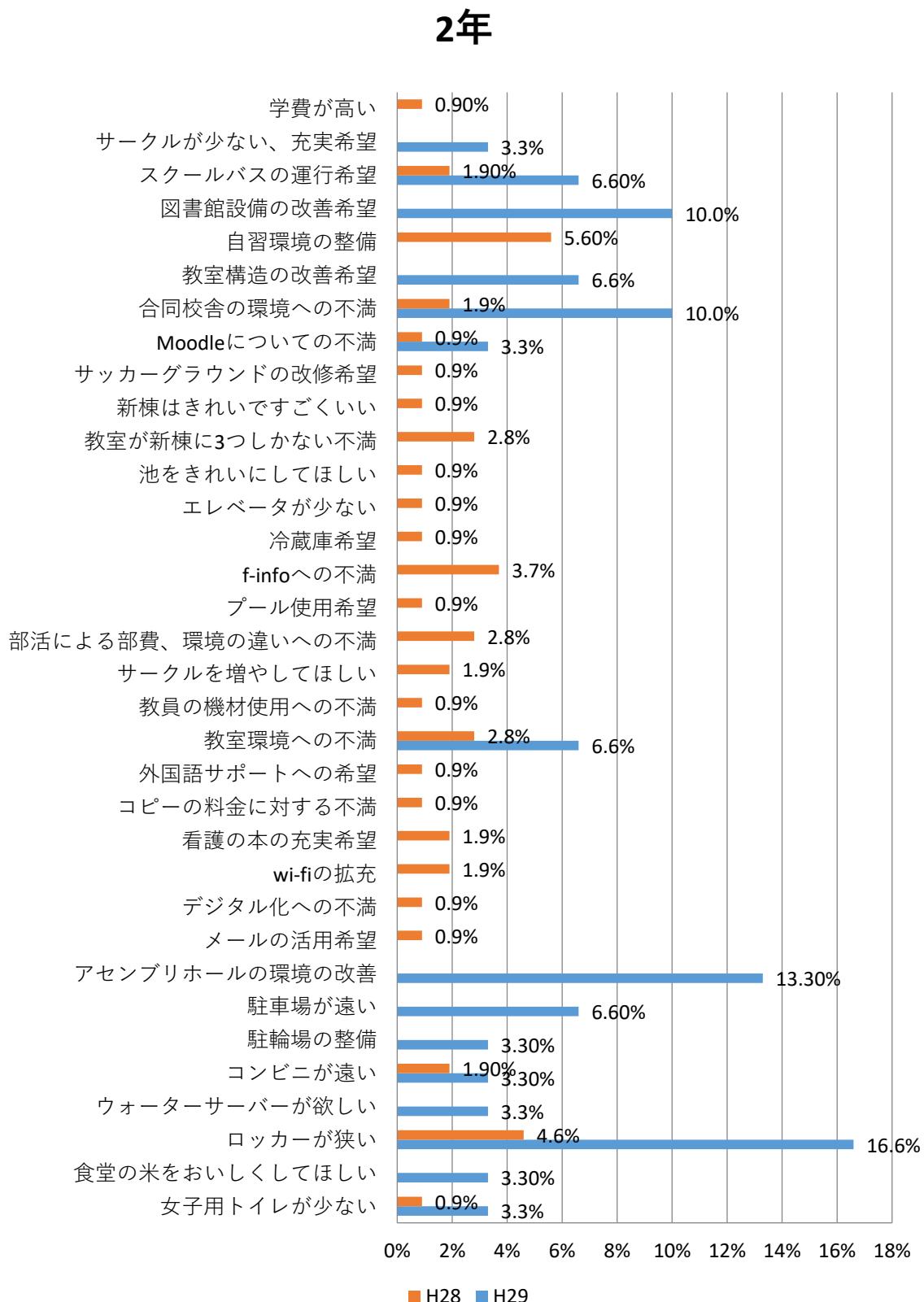
2年



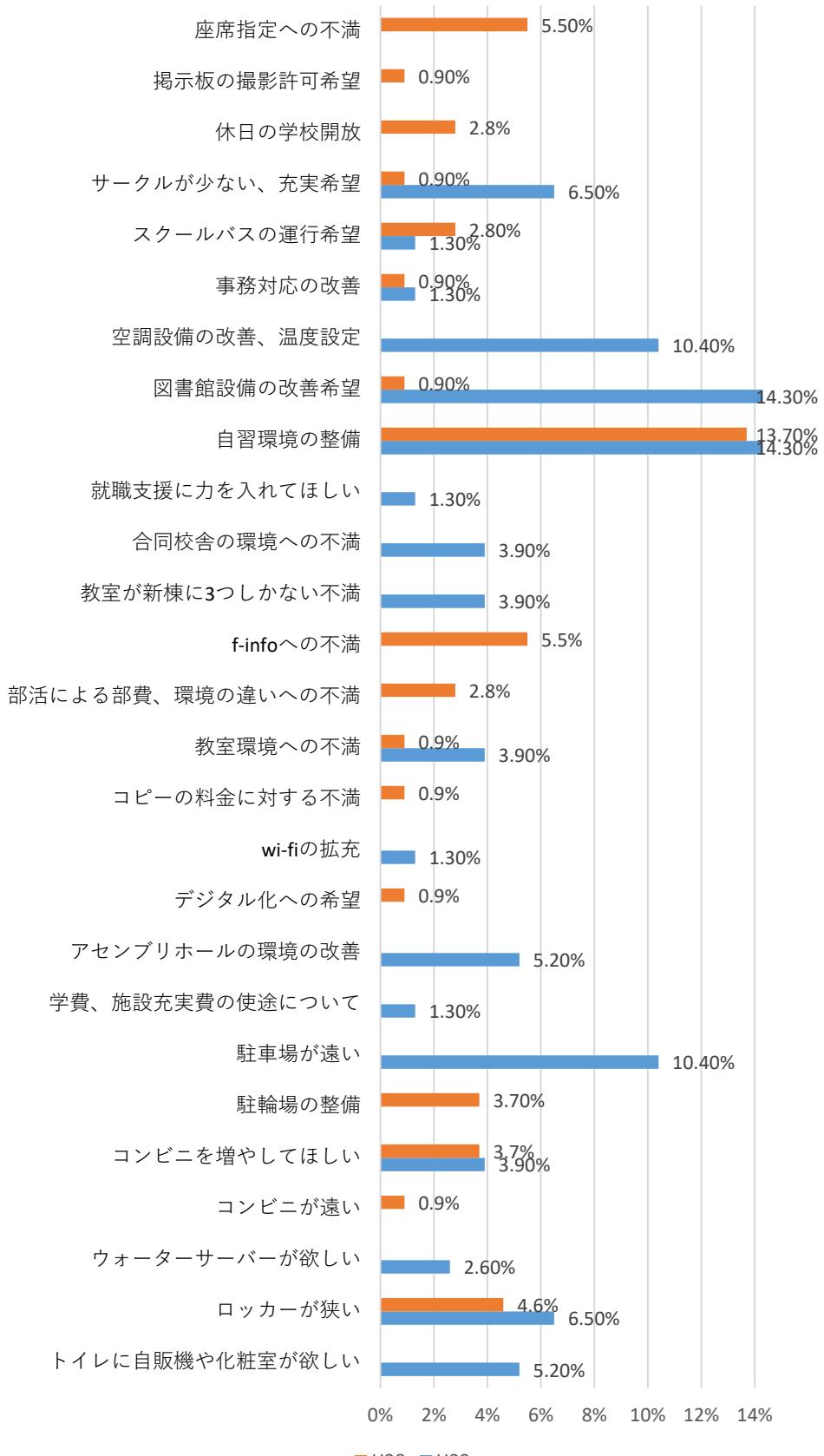
4年



3-4) 生活環境に関する詳細項目における平成28年度と平成29年度の比較



4年



3-5) 小括

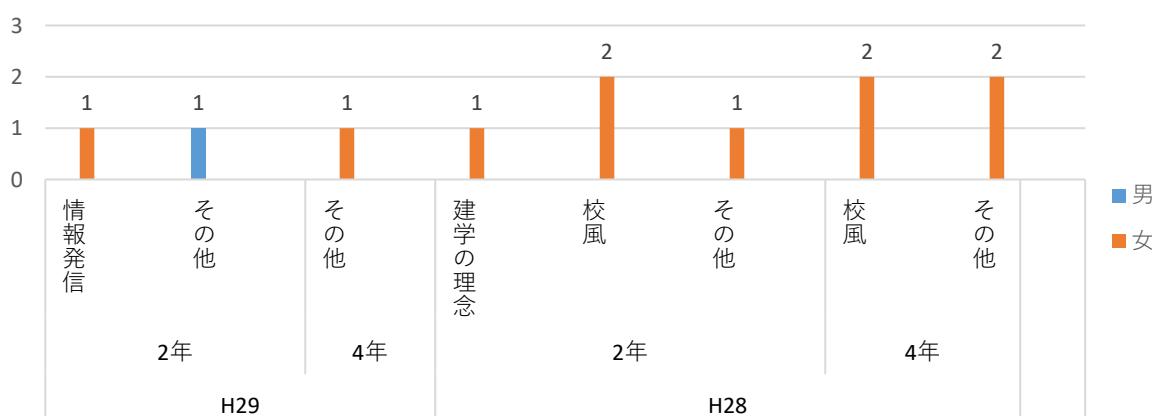
生活環境の回収率は、2年生 22.7%、4年生 77.7%であり、昨年に比べ2年生は減少したが、4年生は増加した。生活環境に関する要望は多かった。生涯2号館の移転により「建物老朽化への不満」「教室構造の改善希望」は大幅に減少した。しかし、生涯教育研修センター2号館5階、6階は小教室がないこと、学生数に見合った自習室や演習室、グループワーク室が不足していると感じていることから、空き時間を過ごす場所や自主学習する場所についての要望が多くみられた。キャンパス環境で多くの意見が出されたのは、生涯2号館に看護学科の教室が3学年しかないこと、また多くの演習室が合同校舎にあり、合同校舎の老朽化や移動の時間などの要望が多くみられた。また、ロッカーの狭さについては毎回要望にあがるが、今回も多くの意見が出された。図書館については、建物自体の老朽化もあり、明るくない等環境に対する意見と、自主学習する場所としての席の少なさが意見に出された。自主学習室においては、試験期間など多くの学生が必要としている様子がうかがえた。アメニティに関しては、トイレ内に自販機を置いてほしいという要望が数件見られた。「スクールバスの運行希望」については、根強く希望が出されている。交通公共機関によるアクセスの悪さから、今後も要望が出されることが予測されるが、PSA委員会においても要望として挙げられている内容であり、把握できている。4年生からは学生駐車場への不満が多く出された。現在学生駐車場は立体駐車場であるが、構造上複雑で満車・空車のランプも故障している。また、移動距離が長いことが不満の原因となっている。駐車場内のマナーも問題に上がることもあり、時々駐車場内のトラブルの報告もされている。

4) 特色

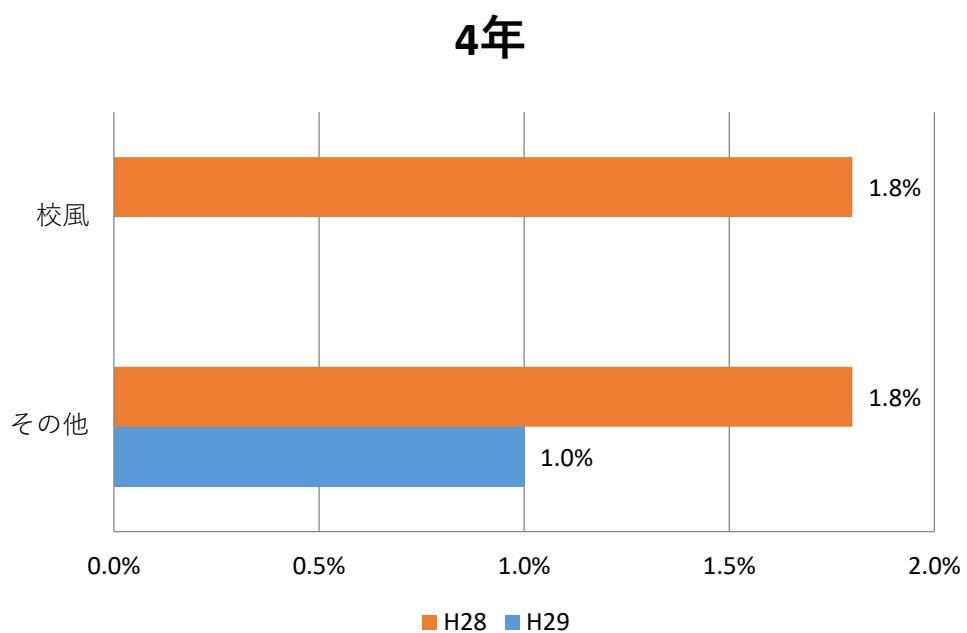
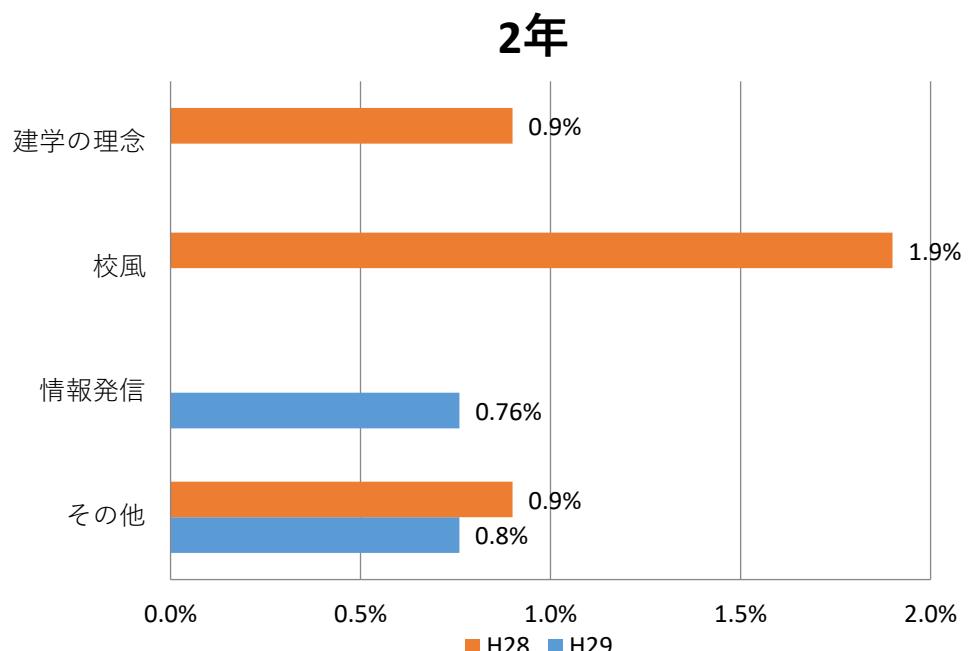
4-1) 回答率

年度	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
学年回答率	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数(人)	0	4	0	4	1	1	0	1
回答率	0.0%	4.2%	0.0%	4.3%	8.3%	0.8%	0.0%	1.1%
学年回答率	3.6%		3.7%		1.5%		1.0%	

4-2) 特色に関する回答内容の内訳

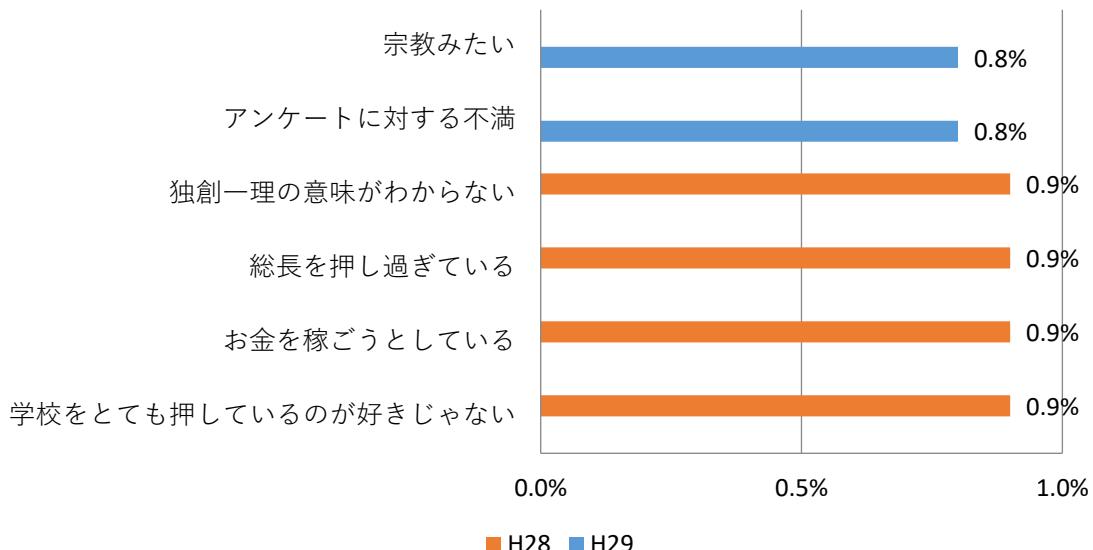


4-3) 特色に関する回答内容の平成28年度と平成29年度の比較

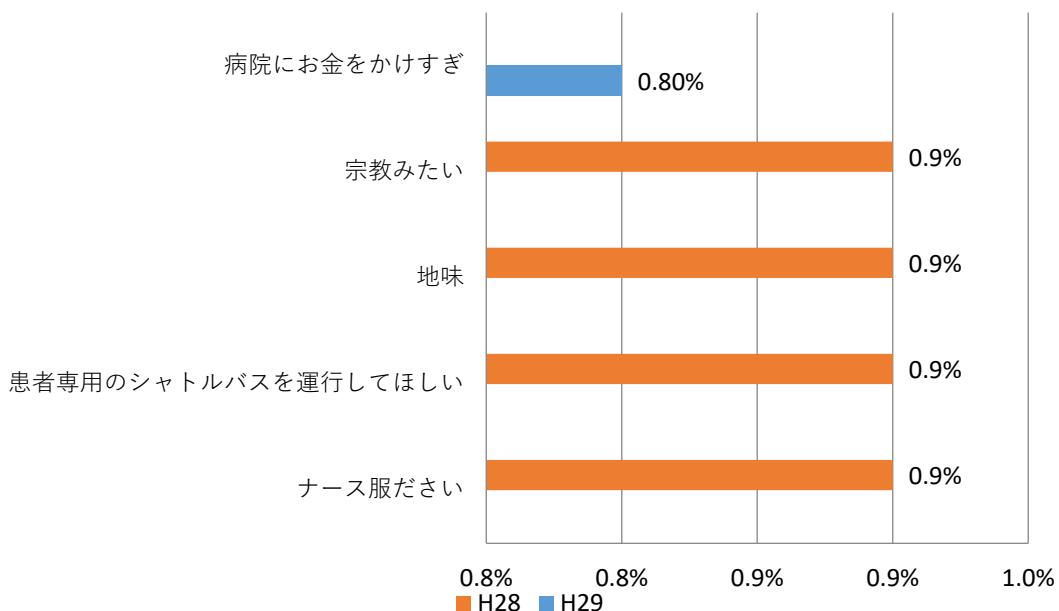


4-4) 特色に関する回答内容の詳細について平成27年度と平成28年度の比較

2年



4年



4-5) 小括

特色についての回答率は低く、平成29年度は3件であり、2年生は2件、4年生は1件であった。2年生は「情報発信」「その他」、4年生は「その他」であった。内容を見ると、特色に対する意見ではなく、アンケートに対する不満や、「宗教みたい」等であった。本学の建学の理念である「独創一理」を理解していない者がいた。また病院に対する考え方も十分に理解はできていないため、併せて教育を通して示していく必要があると思われる。

5) 総括

平成 29 年度の回答率は学年によって違いが見られた。2 年生は昨年より少ないが、4 年生からの意見は多く見られた。多くの意見は「不満」であり、肯定的な意見は見られなかつたことから、何らかの不満の意見がある学生が回答していると推察される。教育内容については、科目履修登録時の際に、時間割とシラバスがないことに対する意見が多く出された。科目履修登録時期は前年度に実施するが、現状では時間割とシラバスの提示は年度初めのガイダンスの際である。履修登録の時期と時間割が完成前の段階でも開示できれば学生の不満はいくらか解消できるかもしれない。現在手作業で行われてきたいいろいろな作業が、Wi-Fi が整備されてきており Moodle を利用することで、手間が改善されれば可能になる。事務部と協力し検討していく必要がある。教育内容で多くの課題が出された「教員間での指導方法統一の希望」については、今回は 4 年生を中心に実習に関連した内容が多く出された。グループ間での教育の学びに差はできるだけ生じないように、教員間での指導体制の共通理解が必要にある。また、学生個々の学びのレベルの違いもあり、教員からの指導内容が理解できていない、実習態度について注意しても改善されない学生もいるのが事実であり、個々に応じた教育体制も課題にあげられる。

生活環境については、生涯 2 号館移転に伴い、「建物老朽化への不満」「教室構造の改善希望」が大幅に減少した。学生の自主学習の場所としては、学生の人数に応じた容量は確保できていないため、そのことが学生の不満となつた。また、看護学科の学生のエリア内にも他学科、他学部の学生が自主学習をしに来ており、試験期間中などは特に場所が少ないとに対する苦情が意見として出された。生涯 2 号館にすべての教室と多くの演習室は入らず、合同校舎の 2 か所になったことが、新たな学生の不満の原因となった。これについては、解決するのは難しく、カリキュラムや時間割の見直しなどで軽減していく必要がある。

特色については、平成 29 年度は回答が 3 件だけだった。回答の内容は、設問とは関係ないことや、内容を理解できていないため、今後建学の理念も含めて、学生に伝承していく必要があると思われた。

3. 放射線学科

放射線学科における平成 28 年度調査と平成 29 年度調査の概要及び比較

1) 対象学生について

学生数（単位：人）

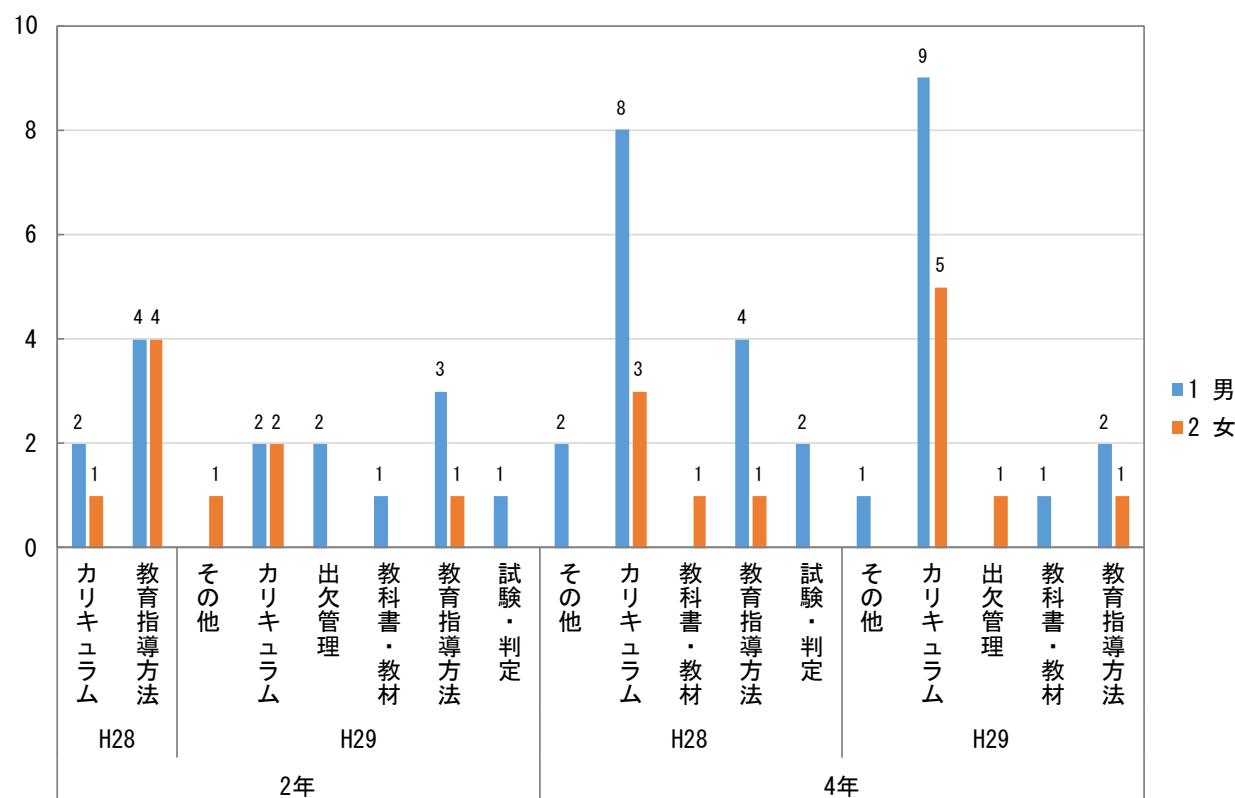
	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	34	25	35	28	37	31	33	26
計	59		63		68		59	

2) 教育内容

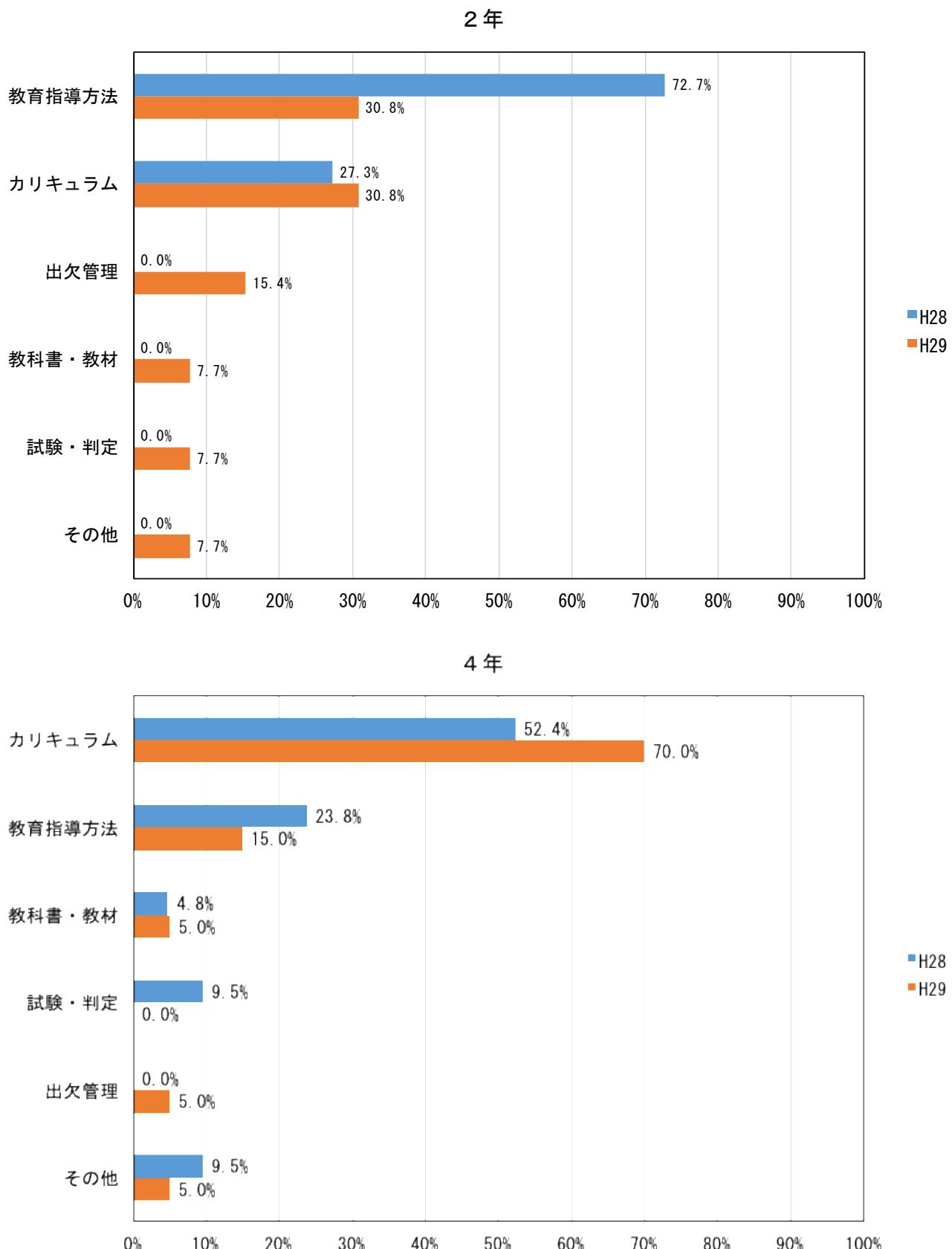
2-1) 回答率

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	34	25	35	28	37	31	33	26
回答数	6	5	16	5	9	4	13	7
回答率	17.6%	20.0%	45.7%	17.8%	24.3%	12.9%	39.3%	26.9%
学年回答率	18.6%		33.3%		19.1%		33.8%	

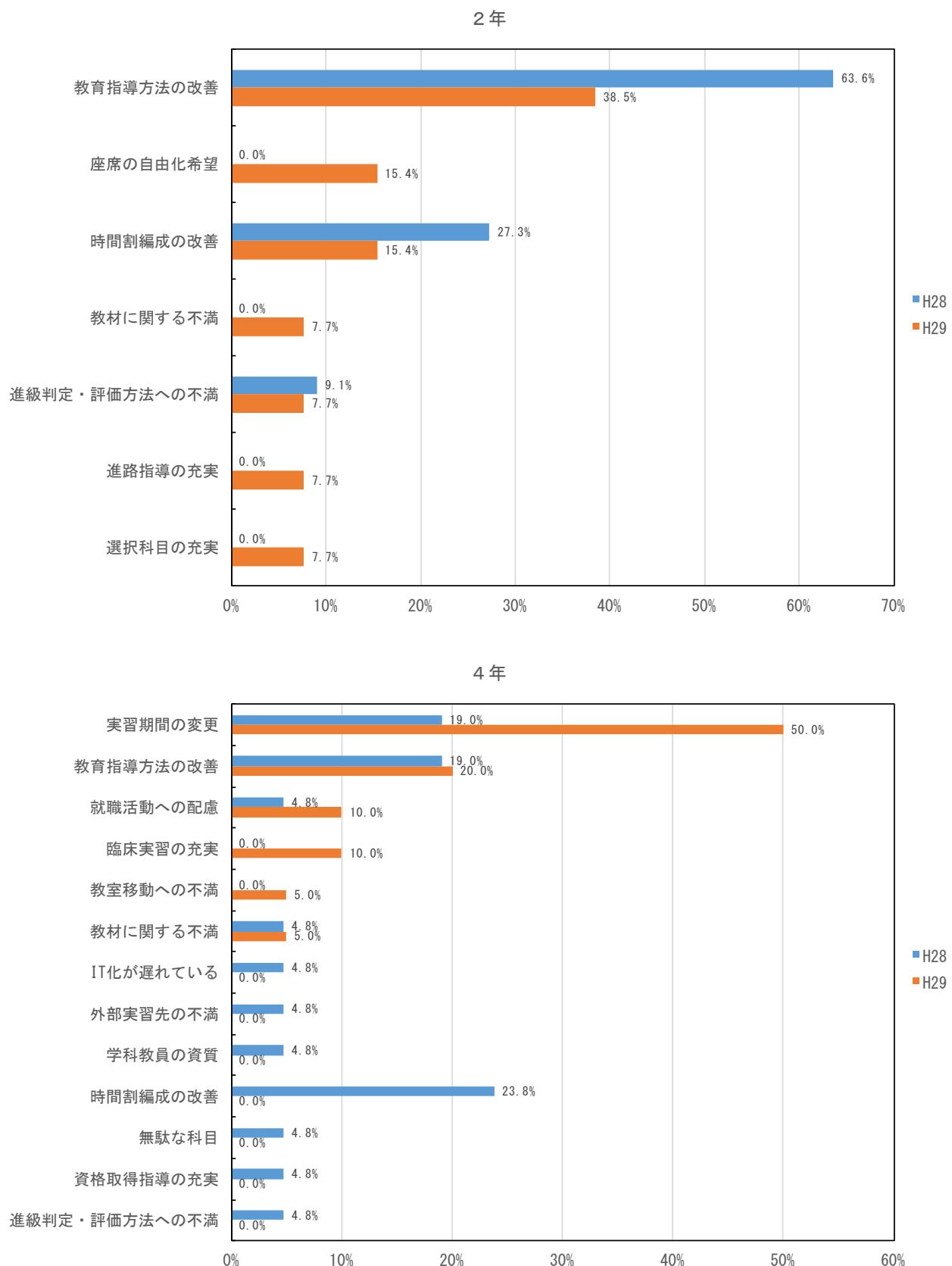
2-2) 教育内容に関する回答内容の内訳(単位:人)



2-3) 教育内容に関する回答内容の平成 28 年度と平成 29 年度の比較



2-4) 教育内容に関する詳細項目における平成 28 年度と平成 29 年度の比較



2-5)小括

平成29年度の回答率は平成28年度と大きな差は無かった。男女差でみると2年生、4年生ともに男子の方が女子よりも回答率が高く、男子は過去の学生生活を振り返って、満足度が低く感じる可能性が高い。年度や学年に関係なく回答の多かったカテゴリーは、主にカリキュラムと教育指導方法に関する内容であった。

回答の詳細項目については、2年生は教育指導方法に関する要望が最も多く、次いで時間割に関する不満が多くかった。スライドや教科書を読むだけの講義方法に関する不満や、特定の領域(臨床系)の講義が特定の曜日に集中しており疲弊している様子が窺える。一方で昨年度まで不満の多かった第二外国語に関するコメントが無くなっていることから、何らかの対策が講じられた可能性がある。

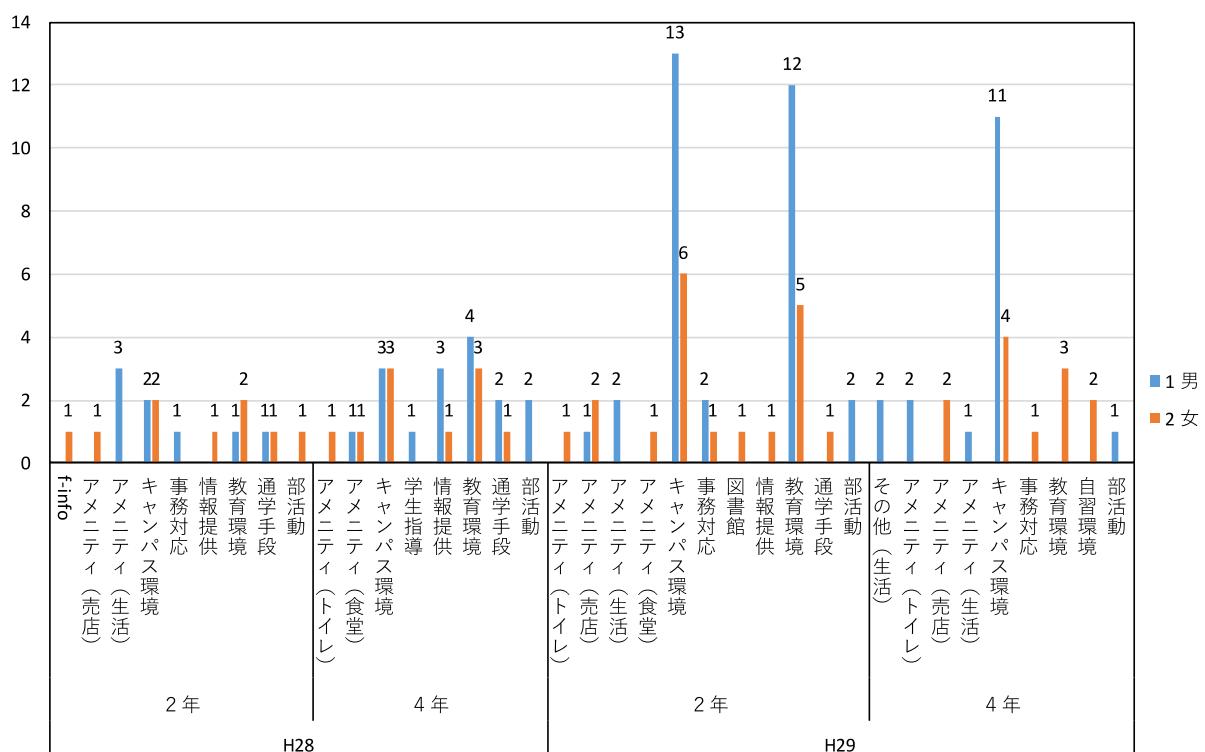
4年生については、臨地実習と就職活動が重なることに関する不満が多い。昨年度から運用されている新カリキュラムでは、臨床実習を3年後期に前倒しする予定であり、今後は改善の方向に向かうと予想される。教育指導方法についても、講義の進め方や教材、教室に関する不満がいくつかみられた。

3)生活環境

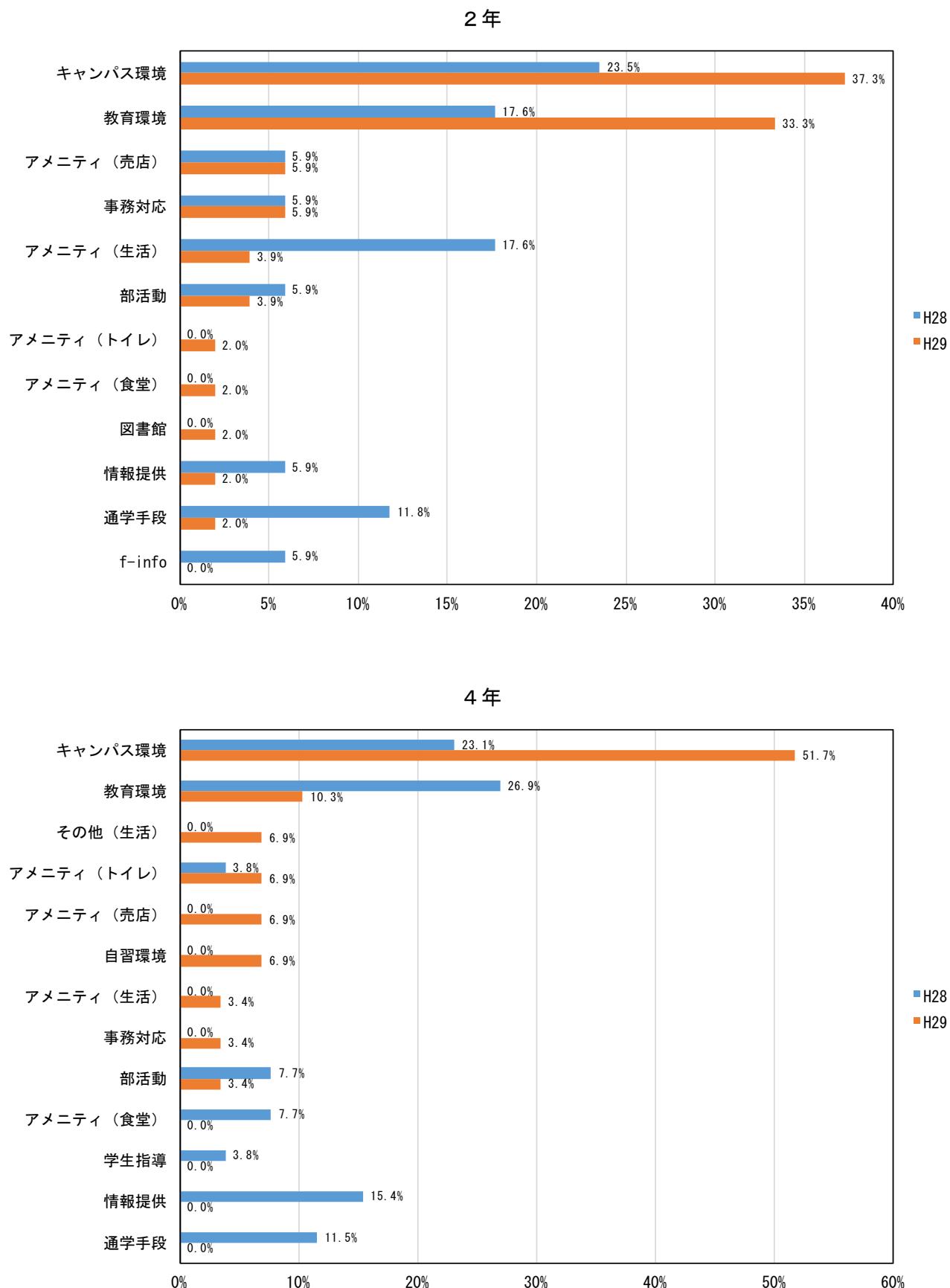
3-1)回答率

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	34	25	35	28	37	31	33	26
回答数	8	9	16	10	32	19	16	11
回答率	23.5%	36.0%	45.7%	35.7%	86.5%	61.3%	48.5%	42.3%
学年回答率	28.8%		41.2%		75.0%		45.8%	

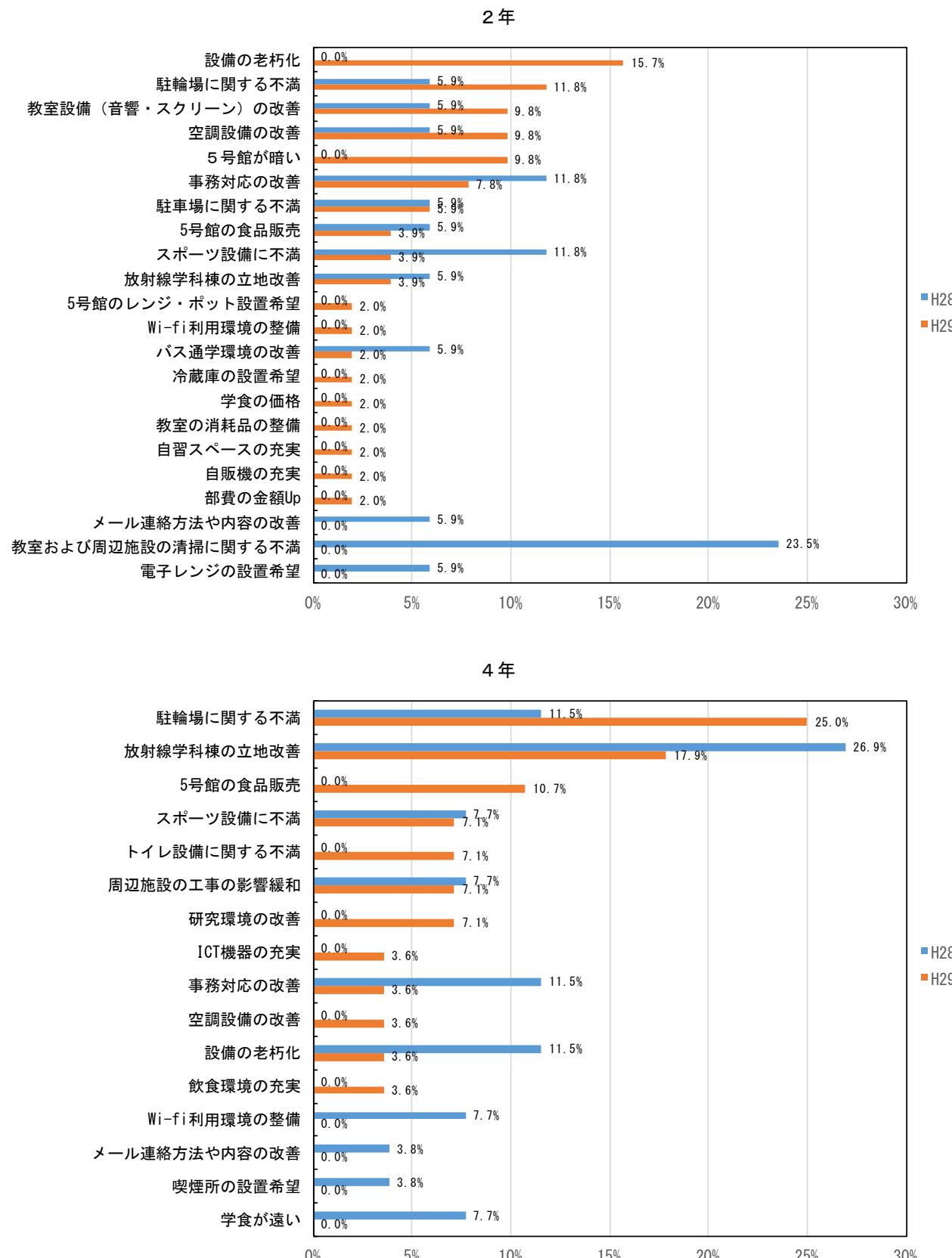
3-2)生活環境に関する回答内容の内訳



3-3) 生活環境に関する回答内容の平成 28 年度と平成 29 年度の比



3-4) 生活環境に関する詳細項目における平成 28 年度と平成 29 年度の比較



3-5) 小括

平成 29 年度の回答率は、2年生のみ回答率が平成 28 年度に比べ急増した。平成 28 年度の2年生は入学時

に使用していた古い医療科学部5号館(以下5号館)から新棟へ移動したため不満が出なかつたことが推察される。一方、平成29年度の2年生は新棟に加えて5号館も使用するようになったため、古い設備や立地に関する不満が増加したと思われる。

回答内容の内訳は、2年生ではキャンパス環境、教育環境、アメニティ、事務対応に関するものが多く、4年生ではキャンパス環境、教育環境に関する意見が多かった。

回答の詳細項目については、2、4年生ともに5号館に関する不満が多くみられた。2年生については5号館教室の什器やプロジェクターへの不満が多く、4年生は講義がほとんど無いため、駐輪場や学食・売店が遠いことなど、5号館の立地に関する不満が多い傾向にあった。このアンケート回収後、5号館教室の改修が行われたため、来年度は教室に関する不満の声は少なくなると予想される。また、事務部の対応についても、応対方法や事務員同士の連携などの問題が指摘されているため改善が必要である。昨年まで指摘されていたWi-Fi環境の整備や電波状況の改善については回答が極めて少数(1件はフジタホールのWi-Fi要望)であったため、昨年度末に行われたWi-Fi環境の整備で不満が解消したことがわかる。

4) 特色

4-1) 回答率

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	34	25	35	28	37	31	33	26
回答数	0	1	2	0	0	0	0	0
回答率	0.0%	4.0%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
学年回答率	1.7%		3.2%		0.0%		0.0%	

4-2) 回答内容

平成29年度は特色に関する回答者がゼロであった。

5) 総括

平成29年度の自由記載回答数は111件であり、平成28年度の78件と比較すると4割増加している。学年別に回答数をみると、4年生はほとんど変化がなく、2年生の回答数が急増している。

教育面では、教育指導方法に関する意見が多く、4年生は実習期間に関する不満が多い。平成30年度は旧カリキュラムの4年生が前期、新カリキュラムの3年生が後期に臨地実習を受けることとなり状況が変化するため、アンケート結果に注視してゆきたい。

生活環境では、5号館の立地や教室設備に関する不満の声が多く見られた。後者についてはアンケート後に教室の改修が行われたため、次年度以降のアンケート結果でどのように変化するか追跡が必要である。

少子化で受験人口は減少し続ける中、診療放射線技師を育成する大学は毎年新設されている。また医療技術の進歩や人工知能の実用化等により、診療放射線技師の働き方にも変化が訪れる可能性がある。良質な学生を確保し、優秀な人材を輩出するには、時代にマッチした魅力ある大学創りや学生教育が求められる。今回の調査で得られた教育内容、生活環境、特色に関する学生からの意見について、誠意を持って検討を行い、施設の改善や教育内容の充実を行っていく必要がある。

4.1. リハビリテーション学科 理学療法専攻

リハビリテーション学科理学療法専攻における平成 28 年度調査と平成 29 年度調査の概要及び比較

1) 対象学生について

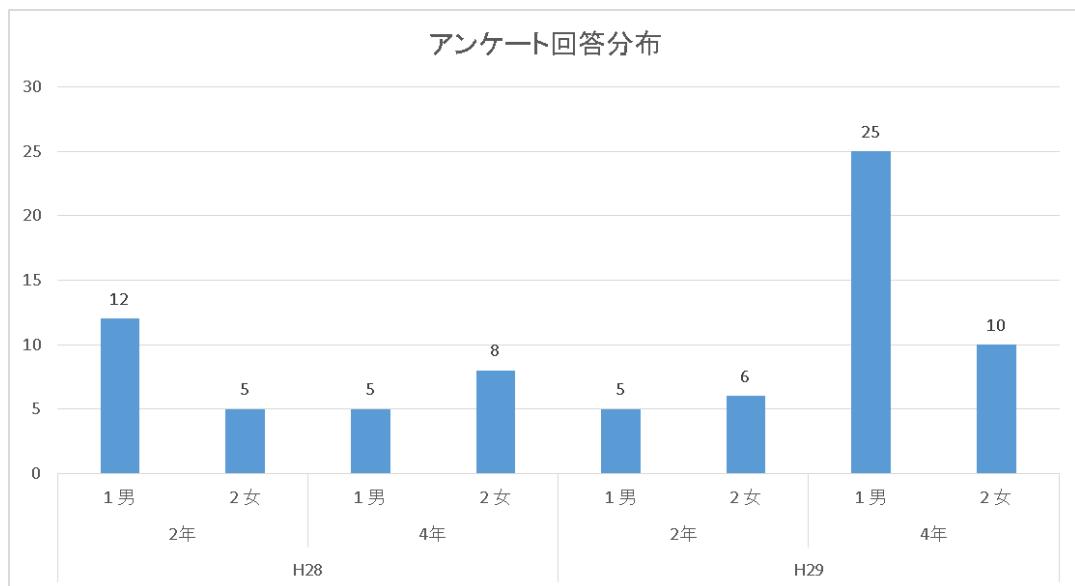
1. 学生数（単位：人）

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	36	26	20	35	32	30	34	23
計	62		55		62		57	

2) 教育内容

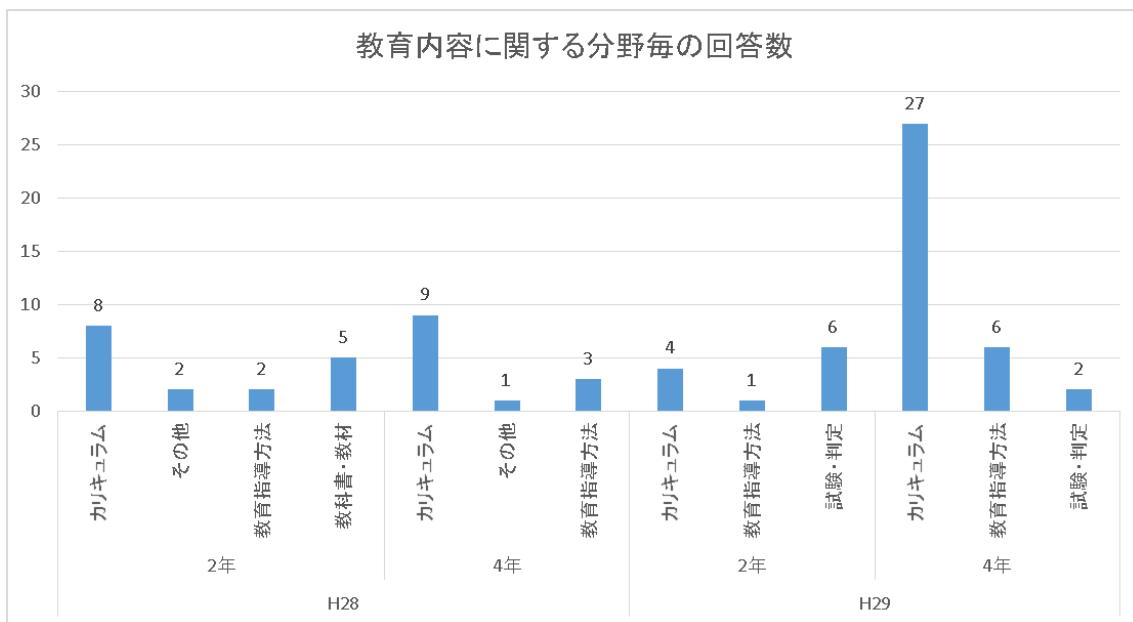
2-1) 回答率

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	36	26	20	35	32	30	34	23
回答数	12	5	5	8	5	6	25	10
回答率	33.3%	19.2%	25.0%	22.9%	15.6%	20.0%	73.5%	43.5%
学年回答率	27.4%		23.6%		17.7%		61.4%	

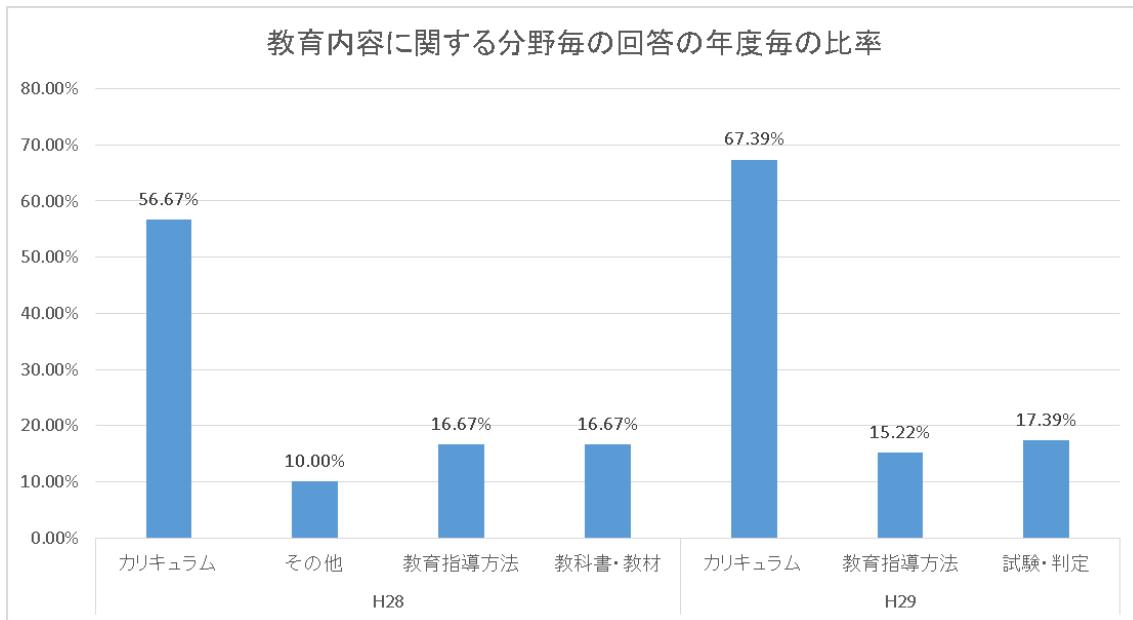


2-2) 教育内容に関する回答内容の内訳

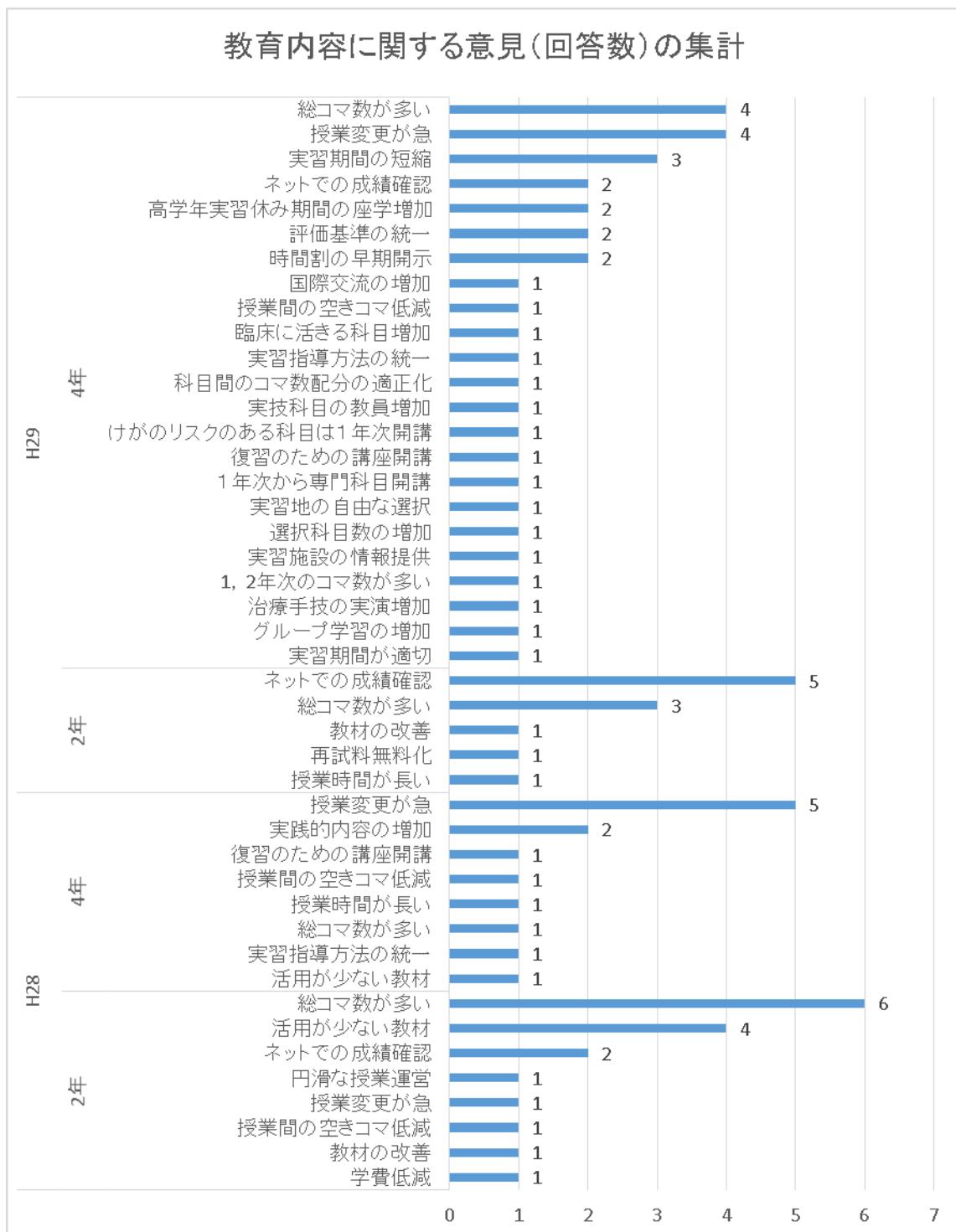
(単位：人)



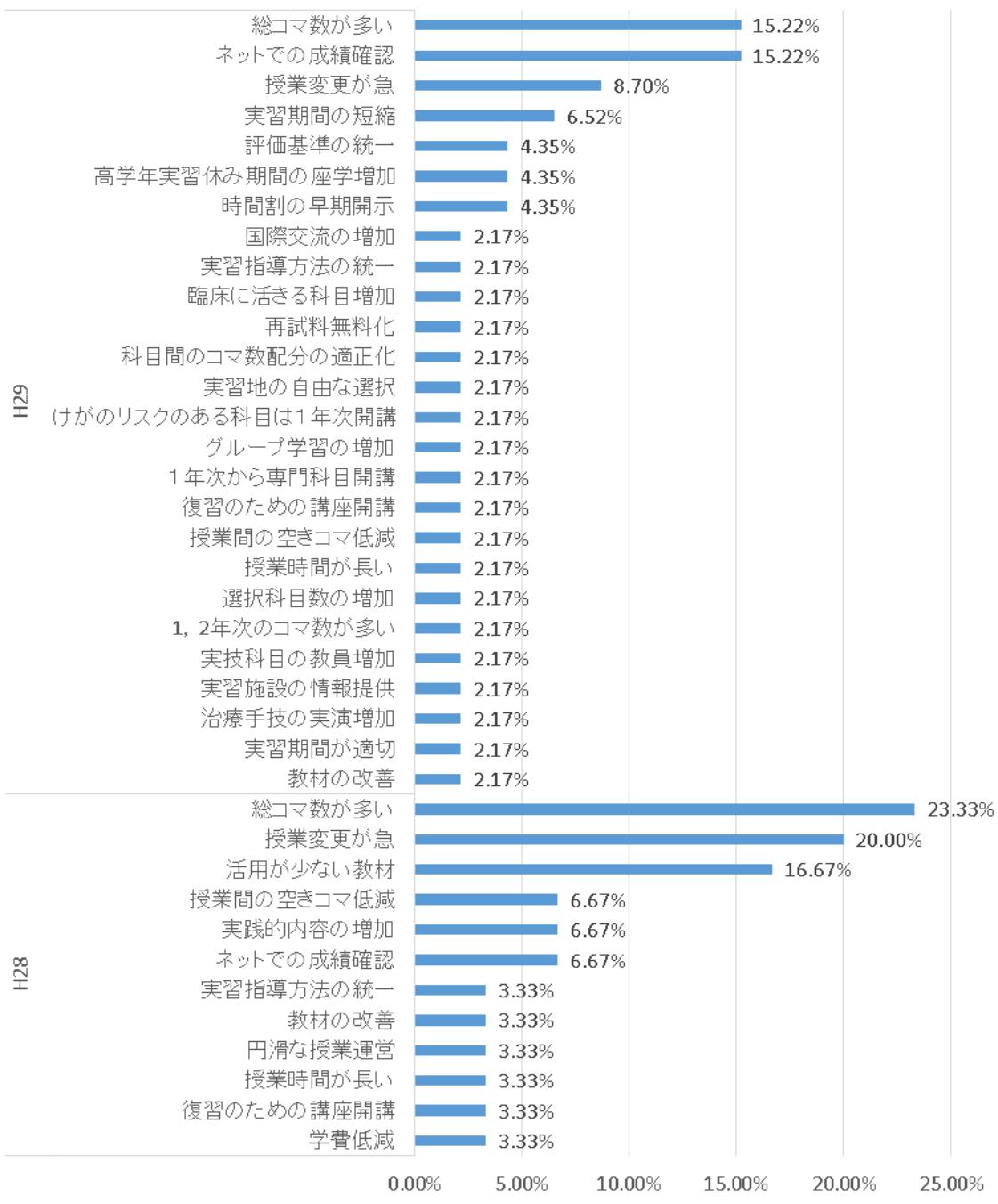
2-3) 教育内容に関する回答内容の平成28年度と平成29年度の比較



2-4) 教育内容に関する詳細項目における平成28年度と平成29年度の比較



教育内容に関する意見(年度毎の回答の比率)



2－5) 小括

今年度（29年度）、カリキュラムについては、23%が講義数に関連する要望であった。要望は総コマ数が多いのではないかとの意見で、学外活動や留学、勉学以外の活動が制限されるとの意見もあった。一方で、比重を高めてほしい科目としては、1年次の専門科目、復習の意味も含めた3、4年次実習休み期間の座学などが挙げられた。その他には、授業間の空きコマ低減、1コマを60分になどの時間割に対する要望、適切な実習時間、臨床に直接活きるような講義といった講義内容に対する要望が挙げられた。

教育指導方法については、実習における指導方法、評価方法を統一してほしいといった要望が主で、その他スライド以外の資料も欲しいといった教材に関する要望も挙げられた。

試験/判定については、テスト結果を掲示板だけでなくメール、ネットなどで配信・確認できるようにしてほしいといった成績確認の要望が挙げられた。

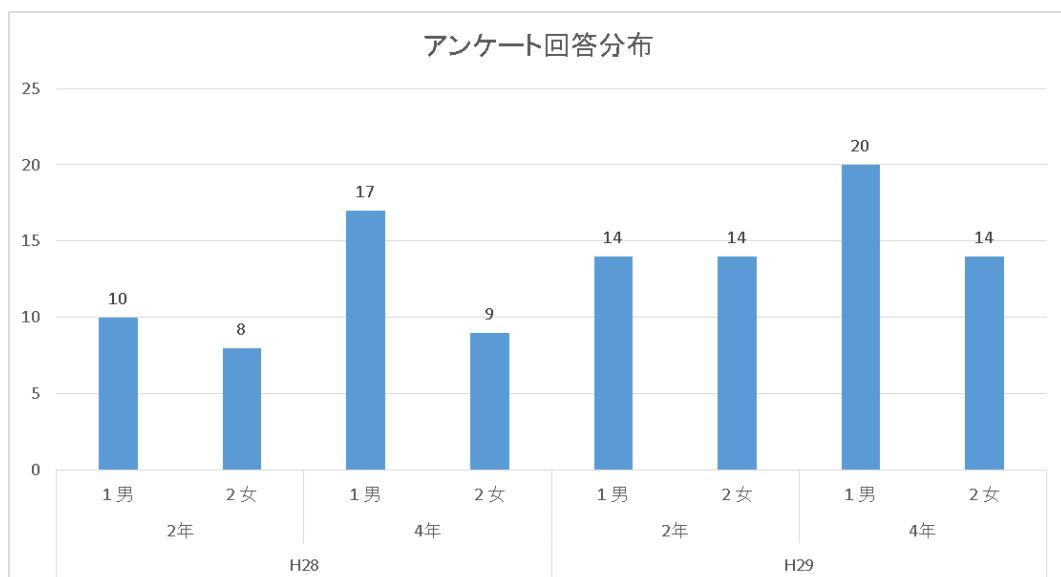
昨年度（28年度）について、理学は30件と今年度より16件少ない要望数であった。具体的な内容について、カリキュラムの41%が講義数に関連する要望で、5限および土曜での授業開講増加につながっているのではないかとの意見もあった。一方で、比重を高めてほしい科目としては、高学年での復習のための講座、実習・臨床に則した内容、画像診断についての講義が挙げられた。その他には、非効率な時間割、平日にもバイトできる日をといった時間割に対する要望、実習時間が長くメリハリがない、授業内でのフィードバック時間が長いといった講義内容に対する要望が挙げられた。教育指導方法/教科書/教材については、あまり活用されていない教材について購入の必要があるのか再度検討してほしいといった教材に関する要望が主で、その他レジメ中心での講義希望といった教育指導法に関する要望も挙げられた。試験/判定については記載がなかったが、教育指導方法およびその他の項目においてインターネット（Moodle）での成績確認の要望が挙げられた。

昨年度（28年度）と今年度（29年度）との比較について、29年度は授業変更が急、活用が少ない教材、の2項目について比率が低下しており、改善している傾向が認められた。一方で、ネットでの成績確認、実習における指導方法、評価方法の統一については継続して要望が挙げられており、対応が必要と考える。

3) 生活環境

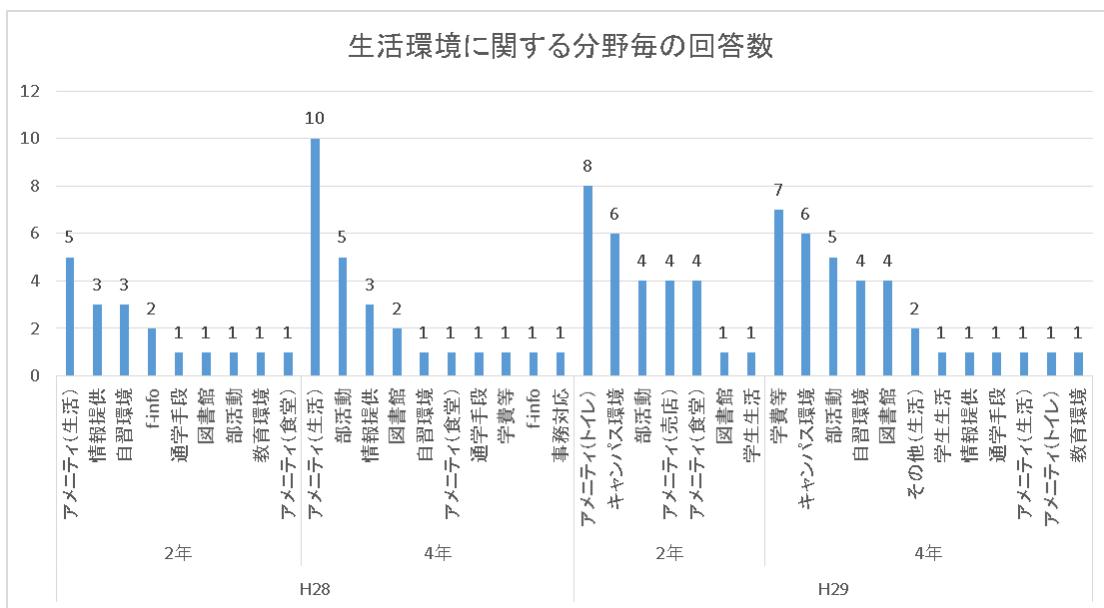
3-1) 回答率

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	36	26	20	35	32	30	34	23
回答数	10	8	17	9	14	14	20	14
回答率	27.8%	30.8%	85.0%	25.7%	43.8%	46.7%	58.8%	60.9%
学年回答率	29.0%		47.3%		45.2%		59.6%	

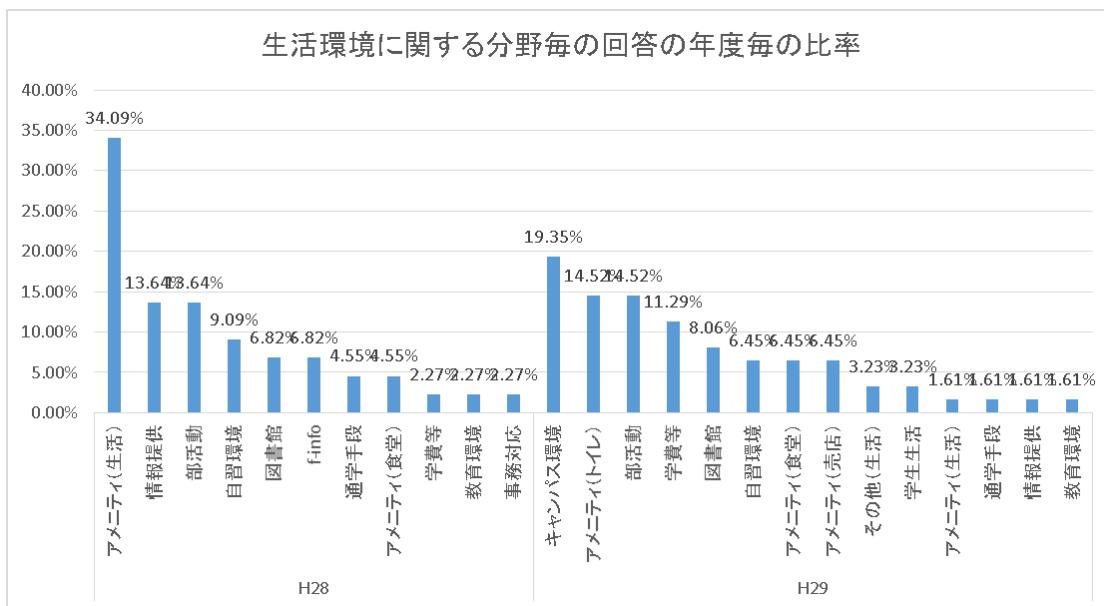


3-2) 生活環境に関する回答内容の内訳

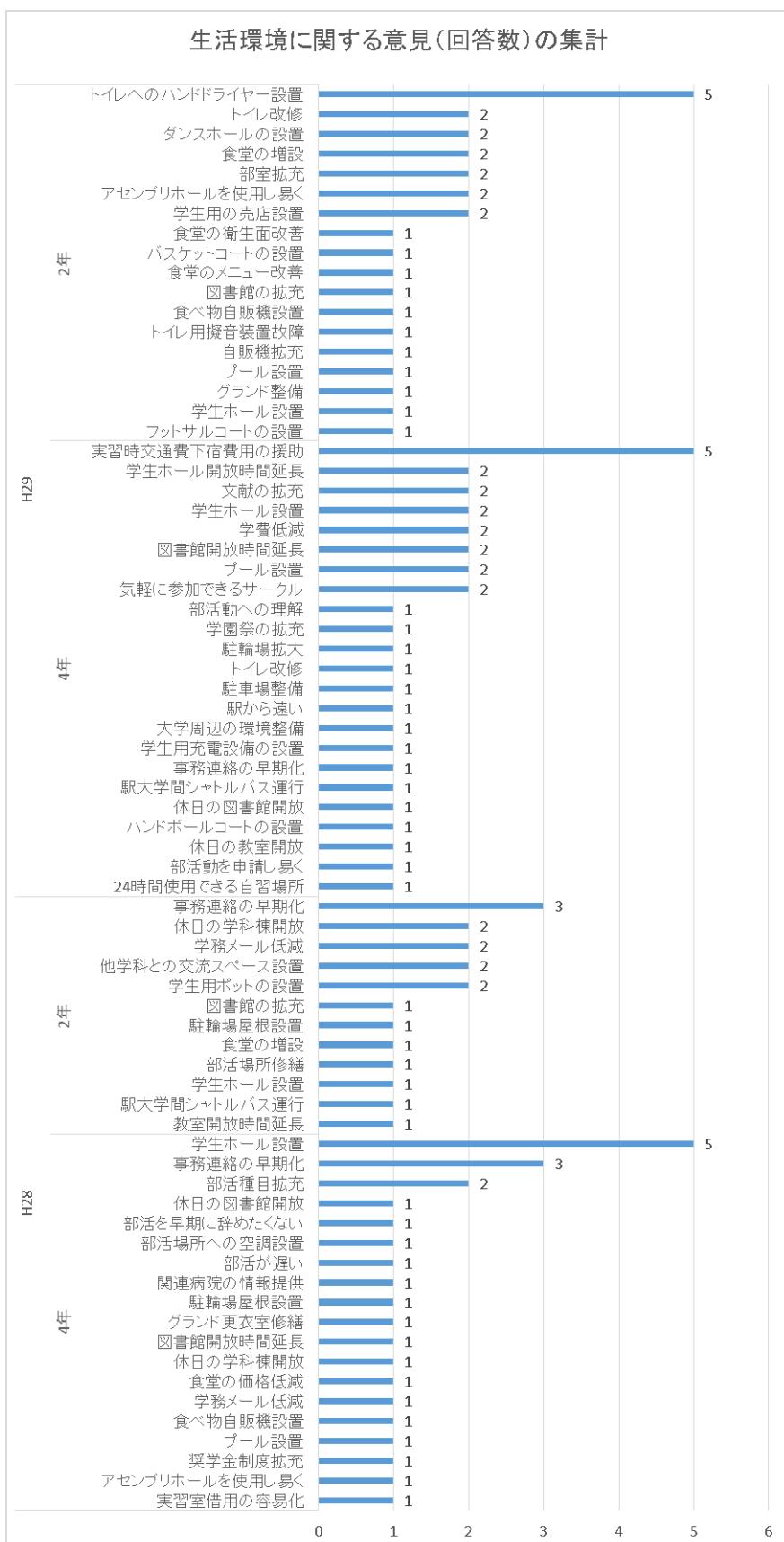
(単位：人)



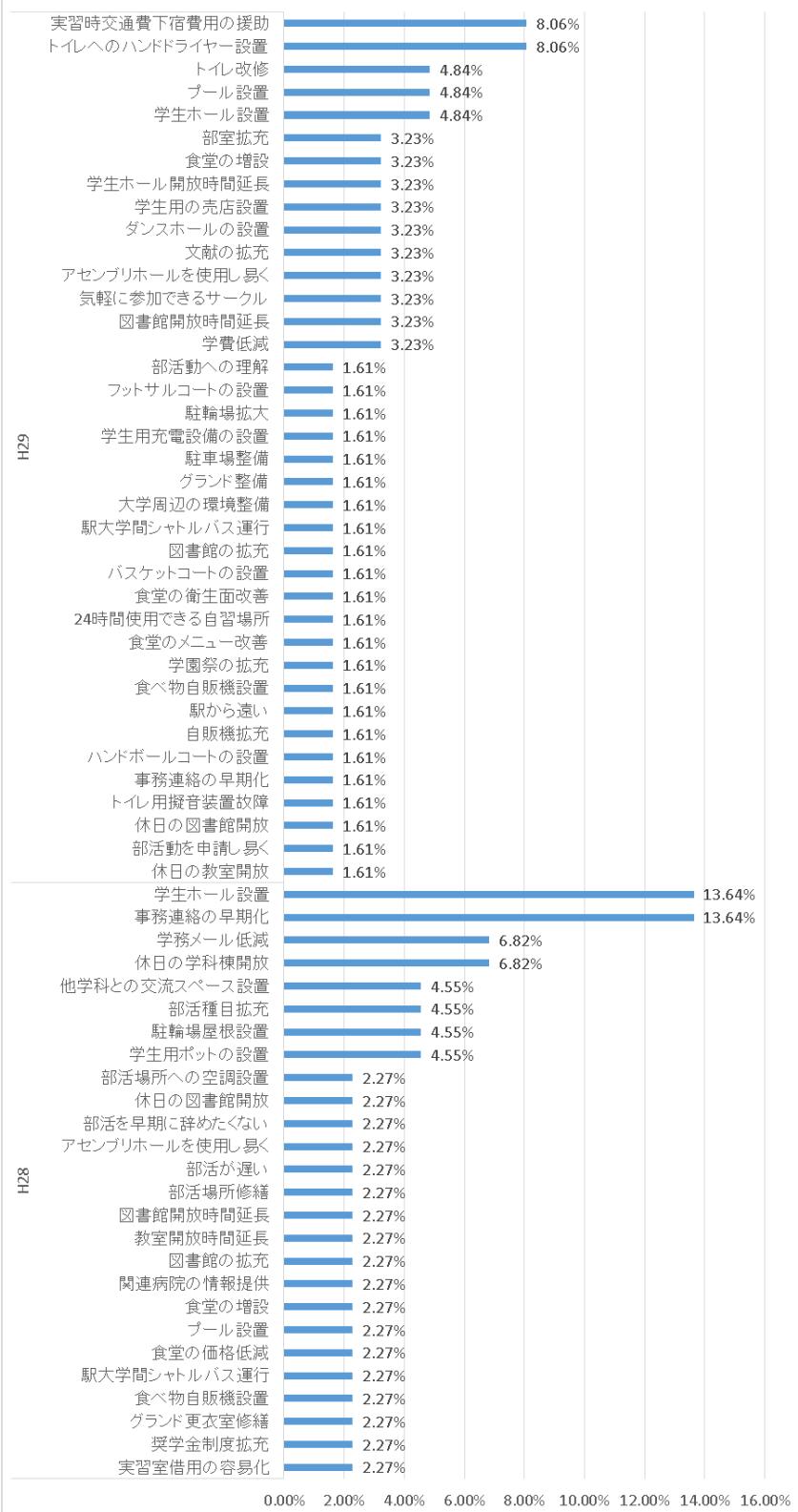
3-3) 生活環境に関する回答内容の平成28年度と平成29年度の比較



3-4) 生活環境に関する詳細項目における平成28年度と平成29年度の比較



生活環境に関する意見(年度毎の回答数の比率)



3 – 5) 小括

今年度（29年度）、キャンパス環境については、19%と最も要望が多かった。学生ホールを設置してほしいとの意見が多く、プール、フットサルコート、バスケットボールコートなどの設置についても要望が挙げられた。

アメニティ（トイレ）については、トイレへのハンドドライヤー設置、手洗い場の改修などの要望が挙げられた。

部活動については、気軽に参加できるサークルの設置、ダンスホールの設置、部室の拡充などの要望が挙げられた。

学費については、実習にかかる費用が大きいため、交通費や下宿費用について一部大学に負担してほしいとの要望が多く挙げられた。

図書館については、文献の拡充、開館時間の延長の要望などが挙げられた。

その他、自習環境として学生ホール開放時間の延長、アメニティ（食堂）としてカフェなど食堂の増設、アメニティ（売店）として自販機拡充や学生専用売店設置などが挙げられた。

昨年度（28年度）について、理学44件であり、今年度より18件少ない要望数であった。具体的な内容について、アメニティ（生活）が34%と最も要望が多かった。学生ホールを設置してほしいとの意見が多く、学生用ポット/食べ物自販機の設置、他学科との交流スペース設置などについても要望が挙げられた。事務対応（情報提供含む）については、ほぼすべてが予定変更連絡を出来るだけ早くしてほしいといった内容であった。部活動については、種目拡充、活動場所の修繕/空調設置といった要望が挙げられた。教育環境（自習環境含む）については、他学科との交流スペースの設置の要望が挙げられた。また、休日の教室/図書館の開放等、利用時間延長の要望も多かった。図書館については、図書拡充、自習スペース設置、7号館図書室の書籍貸出、開館時間の延長の要望が挙げられた。通学手段については、スクールバスの運行、アセンブリホール近くの自転車置場への屋根設置が挙げられた。その他f-infoについては学務メール低減、アメニティ（食堂）については食堂増設/価格低減が挙げられた。

昨年度（28年度）と今年度（29年度）との比較について、分野分類が変更されたため直接比較はできないものの、29年度はキャンパス環境、アメニティ（トイレ）の比率が高く対策が必要と考える。具体的には、学生ホール設置、トイレへのハンドドライヤー設置の要望が多い。また、部活動については気軽に参加できるサークルの設置の要望が継続して挙げられている。

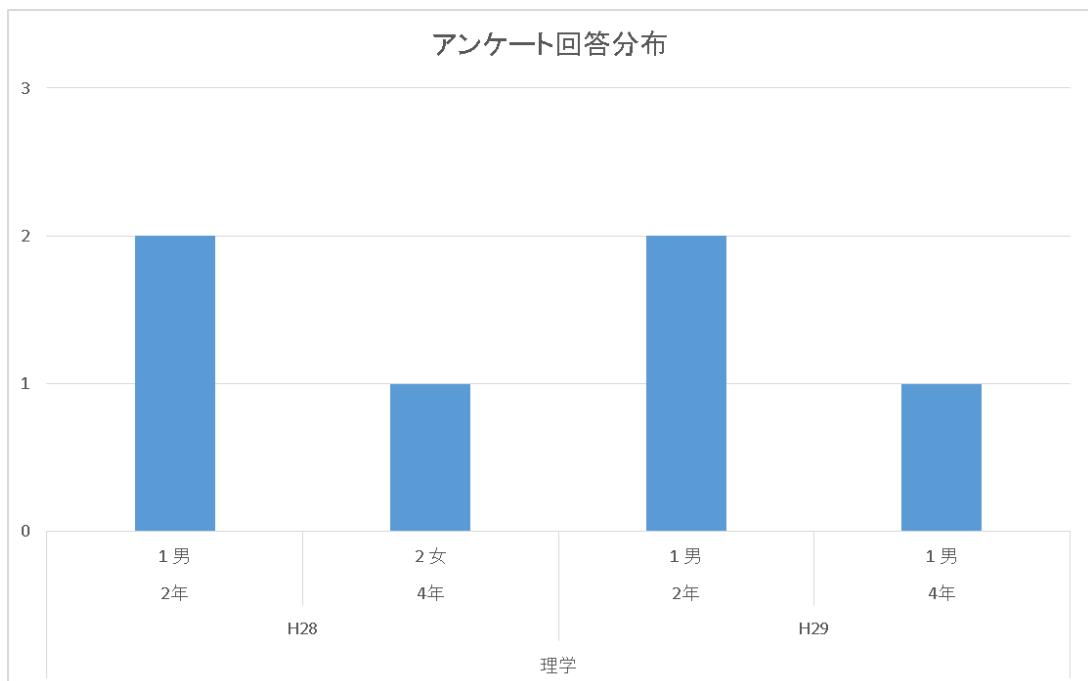
4) 特色

4-1) 回答率

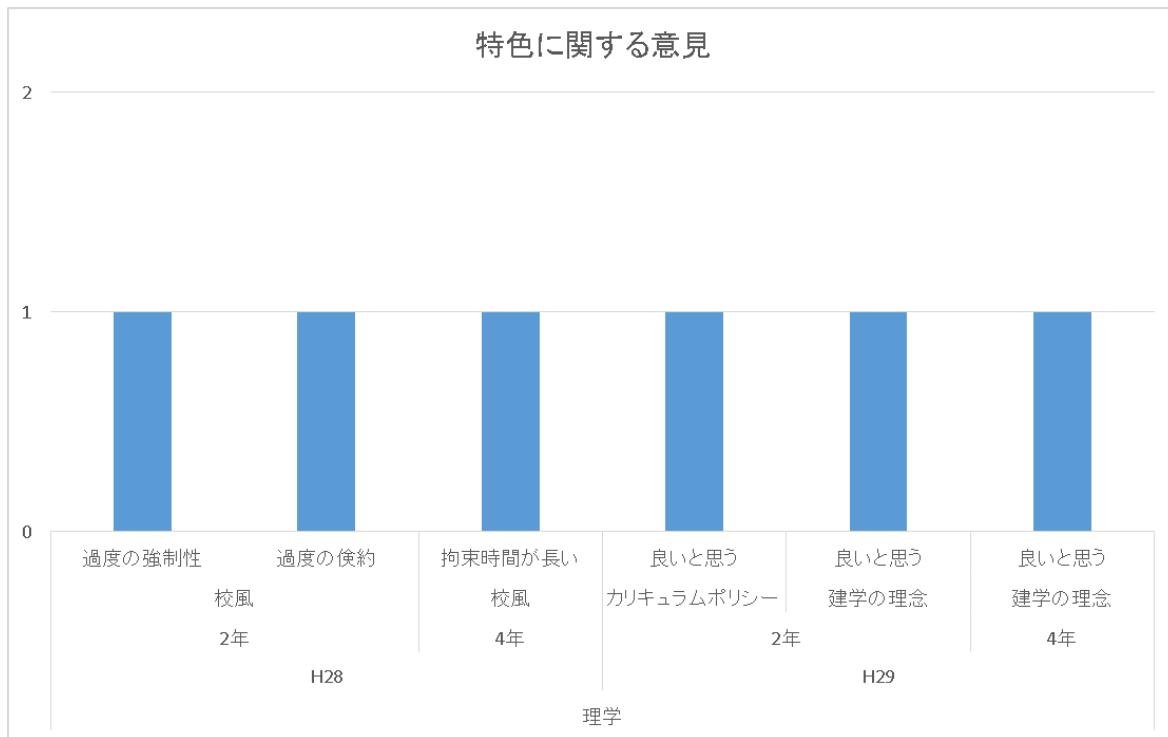
	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	36	26	20	35	32	30	34	23
回答数	2	0	0	1	2	0	1	0
回答率	5.6%	0.0%	0.0%	2.9%	6.3%	0.0%	2.9%	0.0%
学年回答率	3.2%		1.8%		3.2%		1.8%	

4-2) 特色に関する回答内容の内訳

(単位：人)



4-3) 特色に関する回答内容の詳細項目における平成28年度と平成29年度の比較



4-4) 小括

今年度（29年度）、カリキュラムポリシーや建学の理念について、とても良いや大変魅力的など、すべての回答が良い印象に関する内容であった。昨年度（28年度）との比較について、昨年度は3件であり、今年度と同数である。具体的な内容について、過度の僕約、過度の強制性、拘束時間が長いなど負の印象に対する改善要望が挙げられた。負の印象が改善している可能性もあり、引き続き建学の理念や本学の教育

方針（カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）を丁寧に説明する必要があると考える。

5) 総括

今年度（29年度）および昨年度（28年度）に行われた学生生活・学修実態調査について、自由記述部分の結果集計を行った。今年度（29年度）のリハビリテーション学科総数は168件であった。教育内容は72件で、そのうち理学療法専攻は46件（カリキュラム31件、教育指導方法7件、試験・判定8件）であった。生活環境は92件で、そのうち理学療法専攻は62件（キャンパス環境12件、アメニティ（トイレ）および部活動各9件、学費7件、図書館5件、自習環境およびアメニティ（食堂）、（売店）各4件、その他8件）であった。特色は4件で、そのうち理学療法専攻は3件（建学の理念2件、カリキュラムポリシー1件）であった。

昨年度（28年度）との比較において、昨年度のリハビリテーション学科総数は169件であった。そのうち教育内容は理学30件、作業34件の計64件であり、作業は減少傾向であったものの理学は若干要望数が増加する傾向であった。生活環境は、28年度では理学44件、作業57件の計101件であり、作業は大幅に減少する傾向であったものの理学は若干要望数が増加する傾向であった。特色の要望については、28年度は理学3件、作業1件の計4件であり、要望数は同じであった。

今後対処すべき項目について、教育内容ではカリキュラム関連の内容が重要と考える。特に「総コマ数が多いのではないか」との意見について、療法士養成校として厚生労働省が定めた指定規則、臨床実習教育の重要性、本学の教育方針（カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）などを丁寧に説明する必要があると考える。ネットでの成績確認については、事務部にその要望を伝え、実現可能性について検討する必要があると考える。実習における指導方法、評価方法の統一については、専攻教員、学内実習を担当する療法士に周知して改善を図る必要があると考える。生活環境では、トイレへのハンドドライヤー設置が優先課題であると考える。学生ホールの設置は建物の構造上困難と考えるが、他の棟でリハビリテーション学科学生が活用できる場所を示すなど検討する必要があると考える。特色については、すべてが良い印象的回答であり、引き続き建学の理念や本学の教育方針（カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）を丁寧に説明する必要があると考える。

4. 2. リハビリテーション学科 作業療法専攻

リハビリテーション学科作業療法専攻における平成 28 年度調査と平成 29 年度調査の概要及び比較

1) 対象学生について

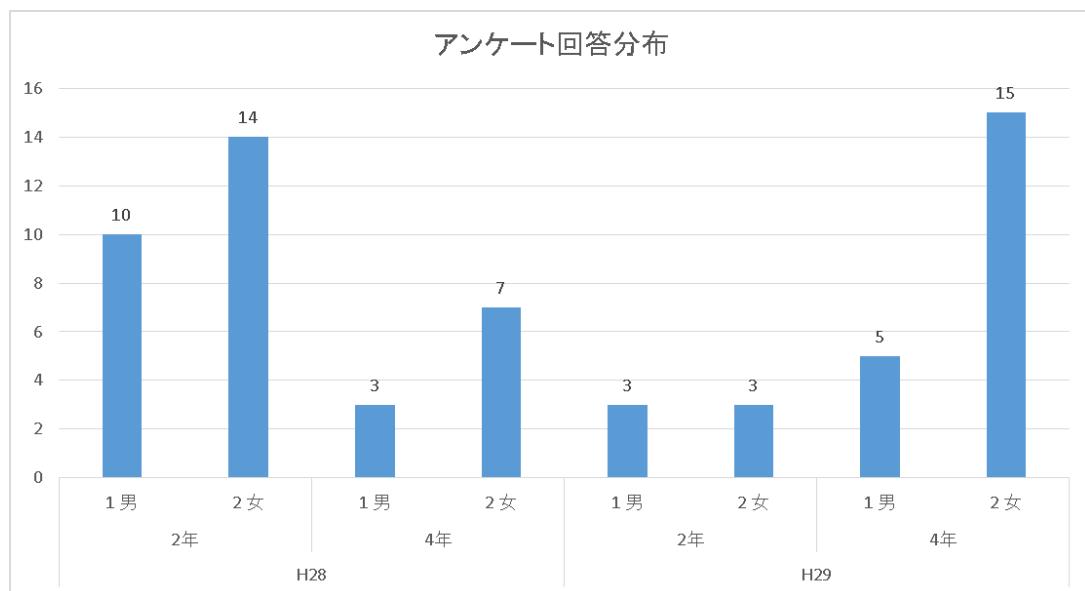
学生数（単位：人）

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	20	35	14	30	13	30	9	39
計	55		44		43		48	

2) 教育内容

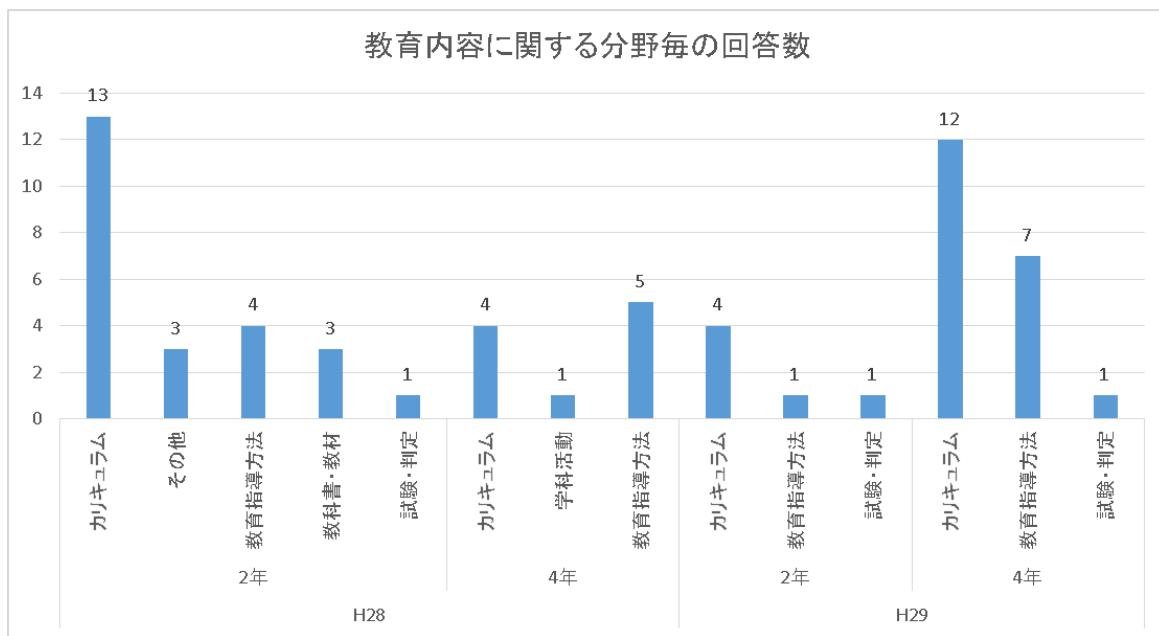
2-1) 回答率

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	20	35	14	30	13	30	9	39
回答数	10	14	3	7	3	3	5	15
回答率	50.0%	40.0%	21.4%	23.3%	23.1%	10.0%	55.6%	38.5%
学年回答率	43.6%		22.7%		14.0%		41.7%	

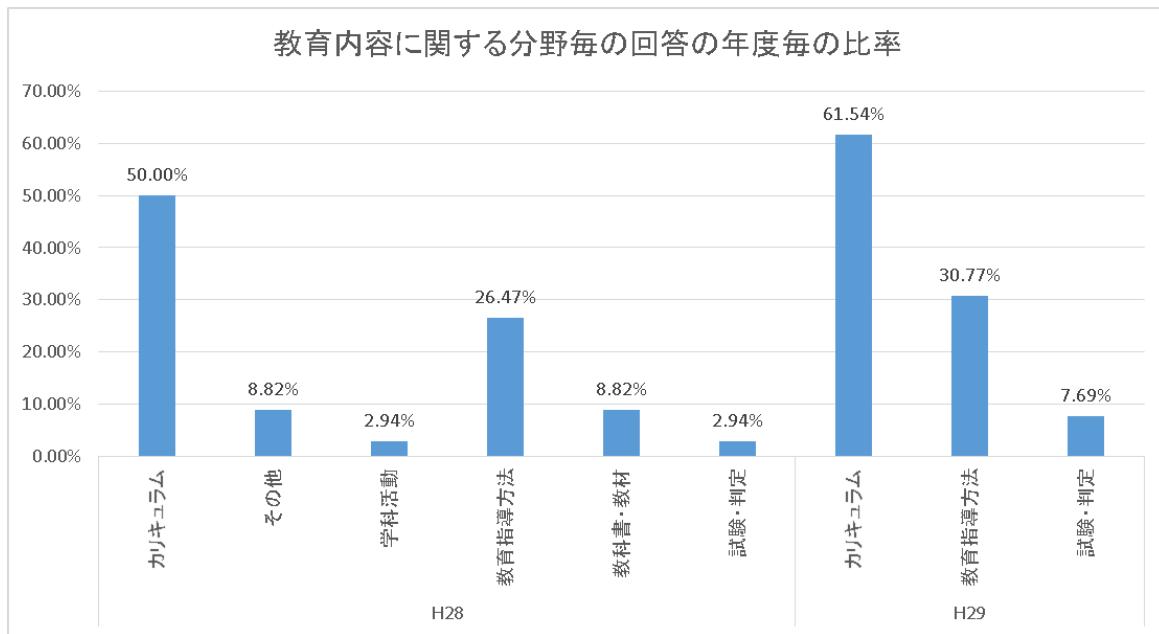


2-2) 教育内容に関する回答内容の内訳

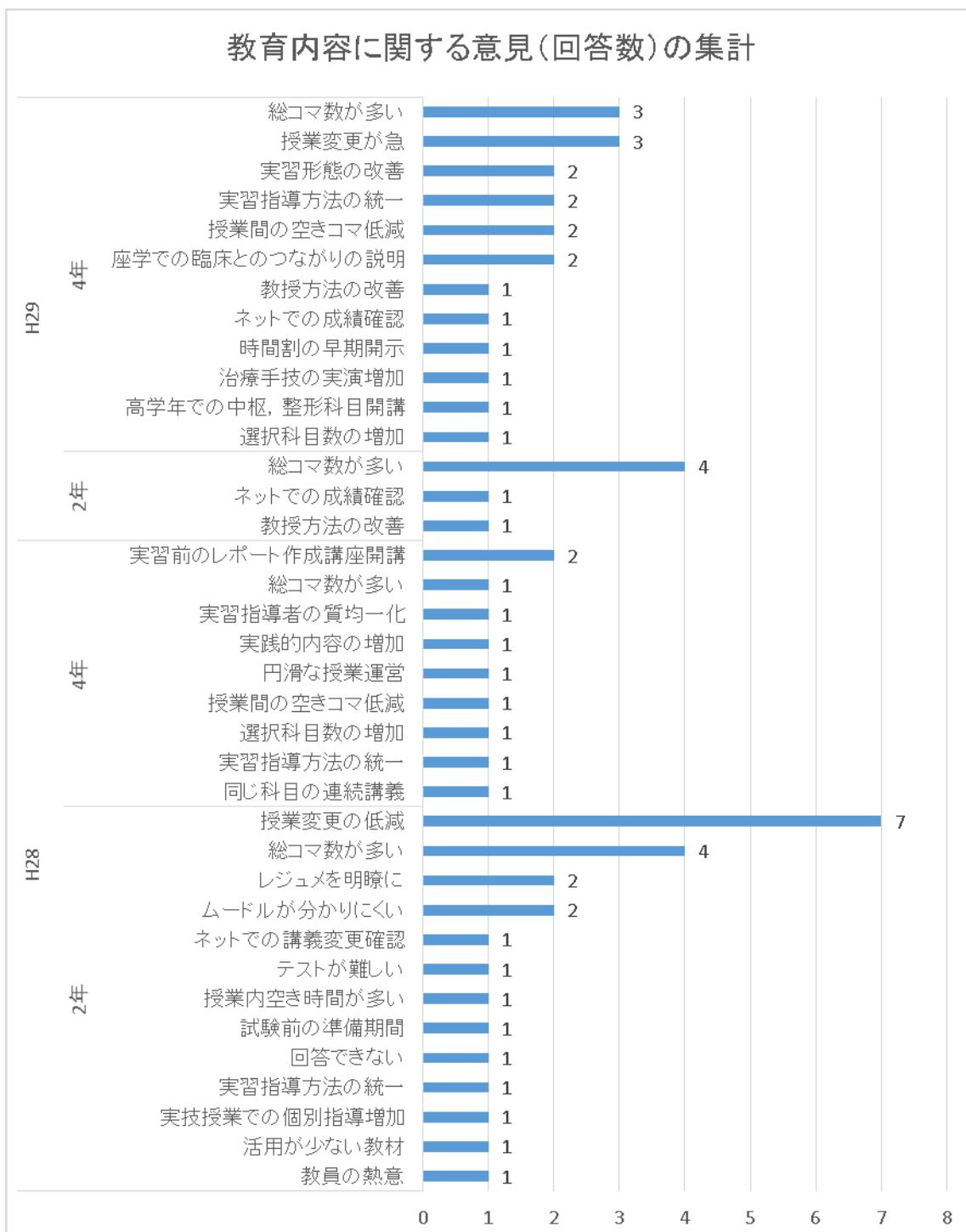
(単位：人)

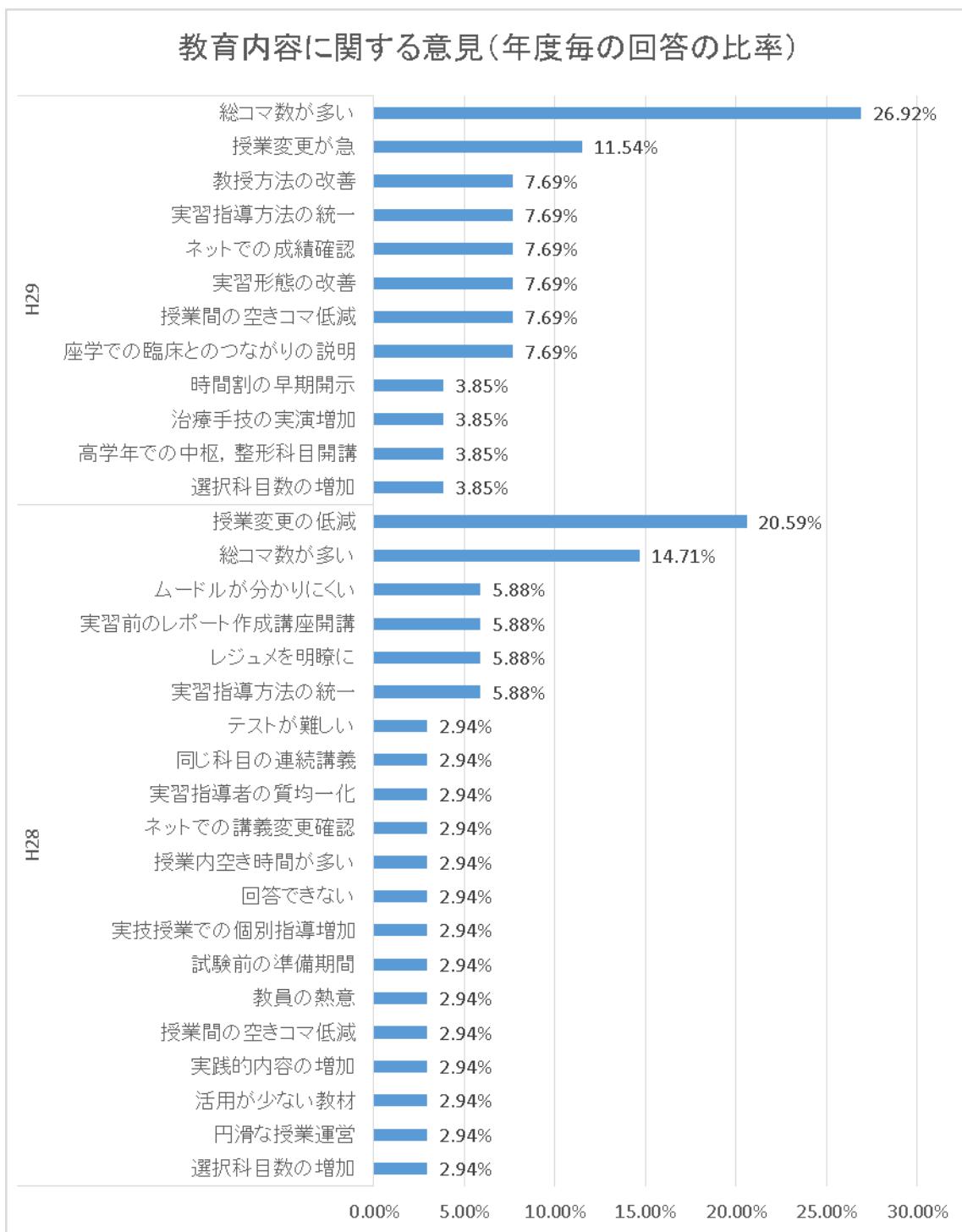


2-3) 教育内容に関する回答内容の平成28年度と平成29年度の比較



2-4) 教育内容に関する詳細項目における平成28年度と平成29年度の比較





2 – 5) 小括

今年度（29年度）、カリキュラムについては、その約半数は総コマ数が多いとの要望であった。また、授業変更を早めに知らせてほしいとの要望もあった。その他には、空きコマをつめて終了時間を早めてほしいといった時間割に関する要望、座学での臨床とのつながりの説明といった講義内容に関する要望が挙げられた。

教育指導方法については、臨床実習における指導方法の統一、症例担当方法など実習形態の改善、など臨床実習関連の要望が主であった。その他には、スライドやレジュメなどの教材を工夫してほしい、講義内で考える時間を設ける、など教授方法の改善に関する要望も挙げられた。

試験/判定については、テスト結果を掲示板だけでなくネットなどで配信・確認できるようにしてほしいといった成績確認の要望が挙げられていた。

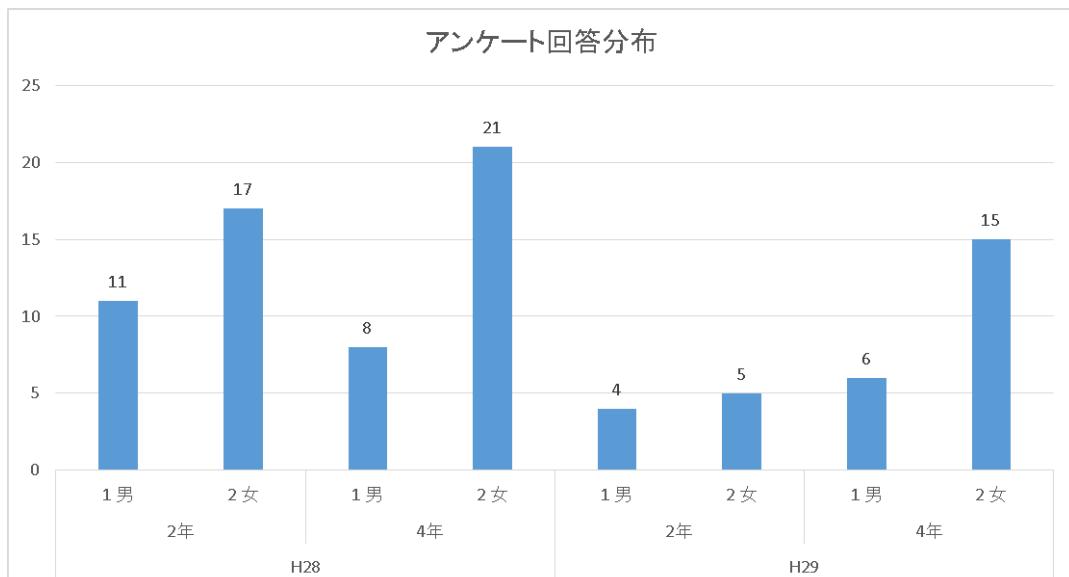
昨年度（28年度）について、作業は34件であり、今年度より8件多い要望数であった。具体的な内容について、カリキュラムについては、その半数において授業変更を減らしてほしいとの意見であった。また、総コマ数が多いとの意見も2番目に多かった。その他には、定期試験前にはまとまった勉強時間を確保したい、空きコマをつめて終了時間を早めてほしい、3限連続での同じ講義開講は集中力が続かないといった時間割の要望が挙げられた。教育指導方法/教科書/教材については、実習前にレポート作成講座を開講してほしい、実技指導について方法を統一してほしい、経験する機会を増やしてほしい、など実習関連の要望が主であった。その他には、レジュメを明瞭にしてほしい、あまり活用されていない教材について購入の必要があるのか再度検討してほしいとの要望であった。試験/判定については、試験の難易度が高いので特別再試3つのハードルを下げる要望であった。その他として、Moodleの使用方法が分かりにくいとの意見も複数挙げられた。

昨年度（28年度）と今年度（29年度）との比較について、29年度は授業変更が急という意見について比率が低下しており、改善している傾向が認められた。一方で、総コマ数が多い、実習指導における方法統一については継続して要望が挙がっており、対応が必要と考える。

3) 生活環境

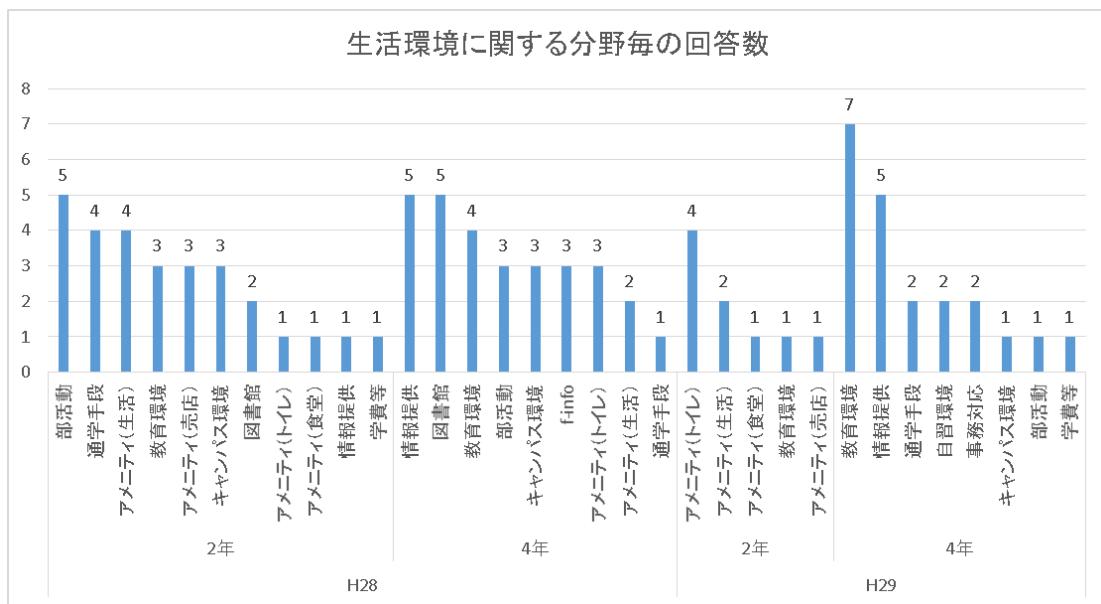
3-1) 回答率

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	20	35	14	30	13	30	9	39
回答数	11	17	8	21	4	5	6	15
回答率	55.0%	48.6%	57.1%	70.0%	30.8%	16.7%	66.7%	38.5%
学年回答率	50.9%		65.9%		20.9%		43.8%	

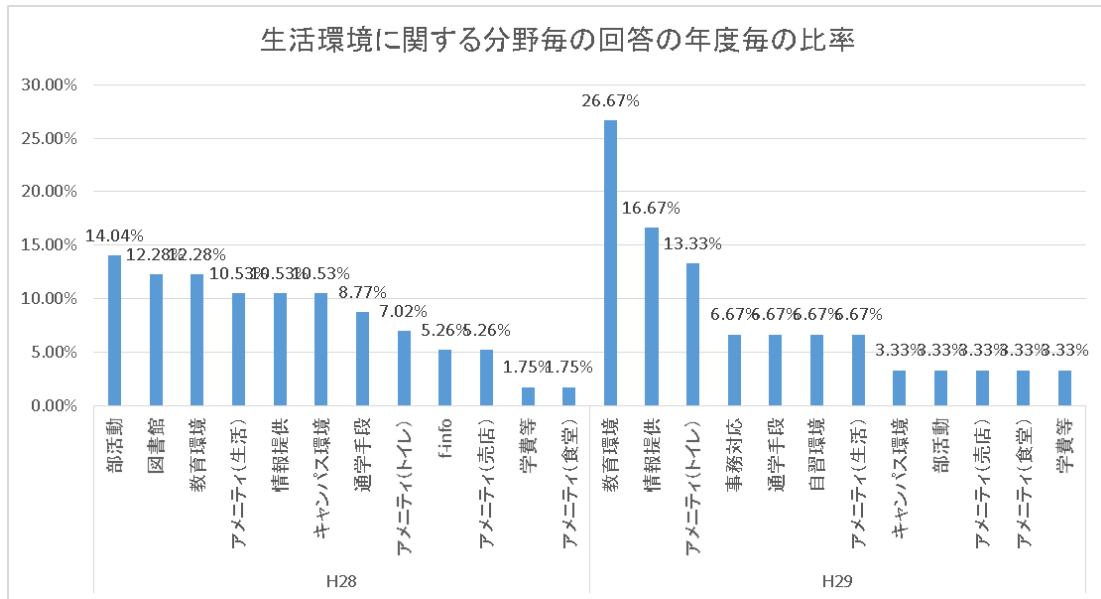


3-2) 生活環境に関する回答内容の内訳

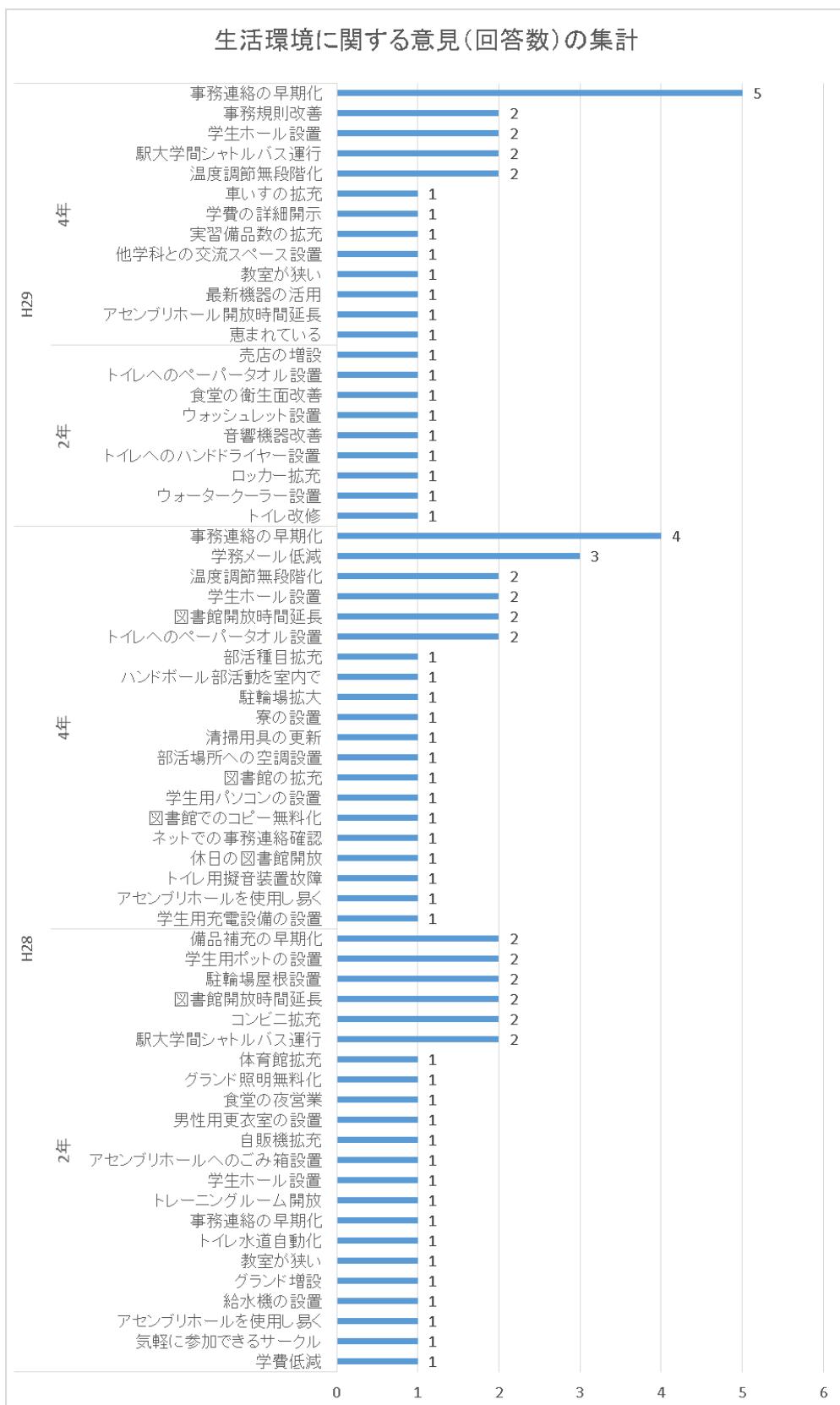
(単位：人)



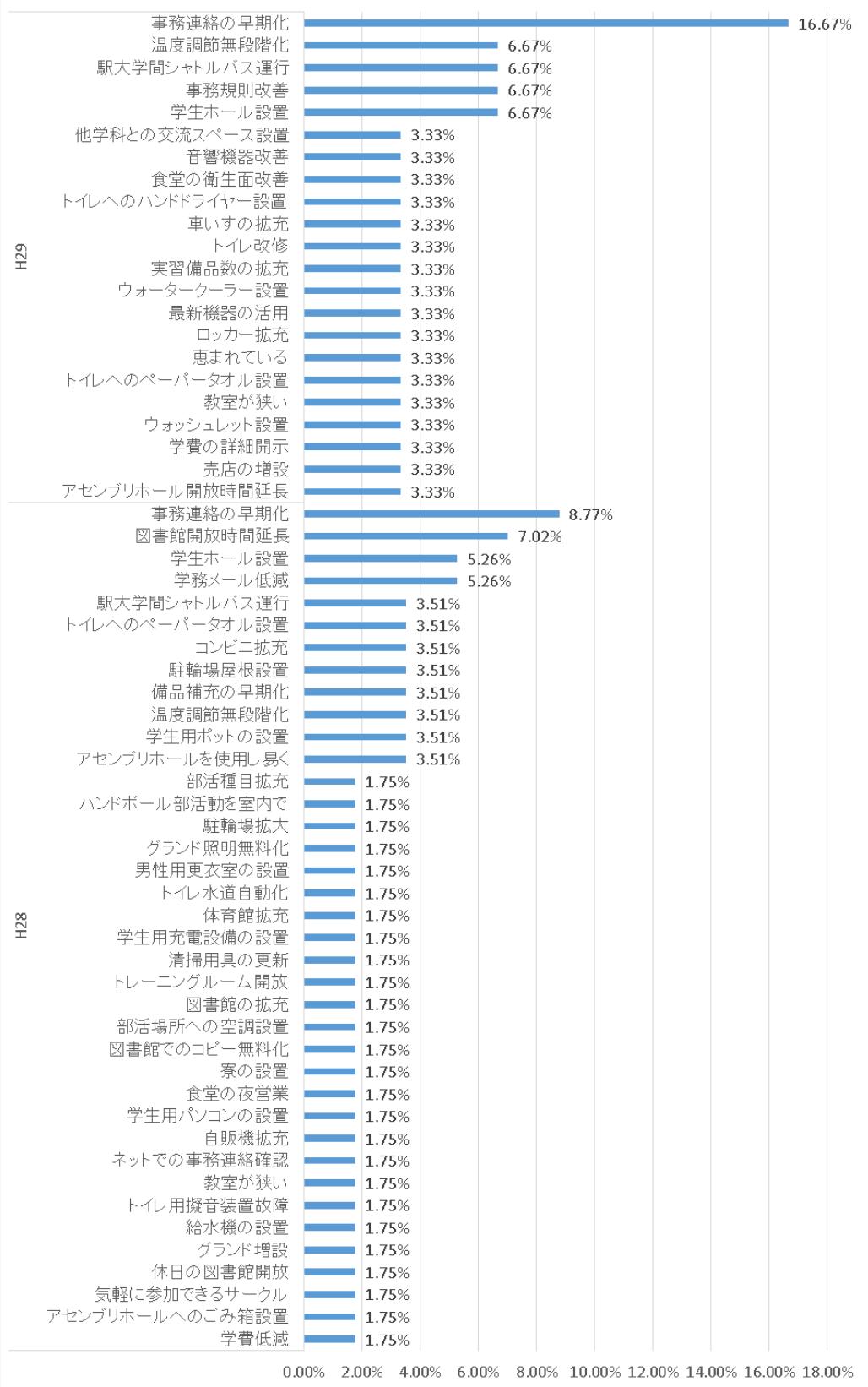
3-3) 生活環境に関する回答内容の平成28年度と平成29年度の比較



3-4) 生活環境に関する詳細項目における平成28年度と平成29年度の比較



生活環境に関する意見(年度毎の回答の比率)



3-5) 小括

今年度（29年度）、教育環境については、27%と最も要望が多かった。冷暖房温度の細かな調節、収容人数に対して教室が狭いとの要望に加えて、音響機器や実習備品の更新および拡充に関する要望も挙げら

れた。

情報提供については、そのすべてが事務連絡の早期化に関する要望であり、緊急連絡のメール配信が遅いとの意見も挙げられた。

アメニティ（トイレ）については、ペーパータオルやハンドドライヤーの設置、ウォッシュレットの設置について要望が挙げられた。

その他、自習環境については講義室以外に自由に勉強ができる学生ホールの設置、通学手段については駅大学間シャトルバス運行、また他学科と交流できるスペースを設置してほしいなどの要望が挙げられた。

昨年度（28年度）について、作業は57件であり、29年度と比較して2倍程度であった。具体的な内容について、部活動が14%と最も要望が多く、気軽に参加可能なサークルの設立など要望が挙げられた。図書館については、開放時間延長の要望が多かった。教育環境については、冷暖房温度の細かな調節、収容人数に対して教室が狭いとの要望に加えて、学生用PCの設置、備品の更新、消耗品の早期補充も挙げられた。アメニティについては、学生用ポット、給水機、学生用充電設備、男性用更衣室、コンビニ・自販機増設、ペーパータオル設置などが挙げられた。事務対応については、予定変更連絡を早くとの要望が多く、それに加えて、インターネットによる事務連絡確認をとの要望も挙がった。キャンパス環境については、学生ホール設置の要望が多かった。通学手段については、スクールバスの運行、二輪車用の駐輪場屋根増設、その他の駐輪場にも設置をとの要望が挙げられた。f-infoについてはすべてが学務メール低減に関する要望であった。

昨年度（28年度）と今年度（29年度）との比較について、分野分類が変更されたため直接比較はできないものの、29年度は教育環境、情報提供、アメニティ（トイレ）の比率が増加しており対策が必要と考える。具体的には、冷暖房温度の細かな調節、音響機器や実習備品の更新および拡充、トイレへのハンドドライヤー設置の要望が多い。また、事務連絡の早期化については継続して要望が挙がっており、対応が必要と考える。

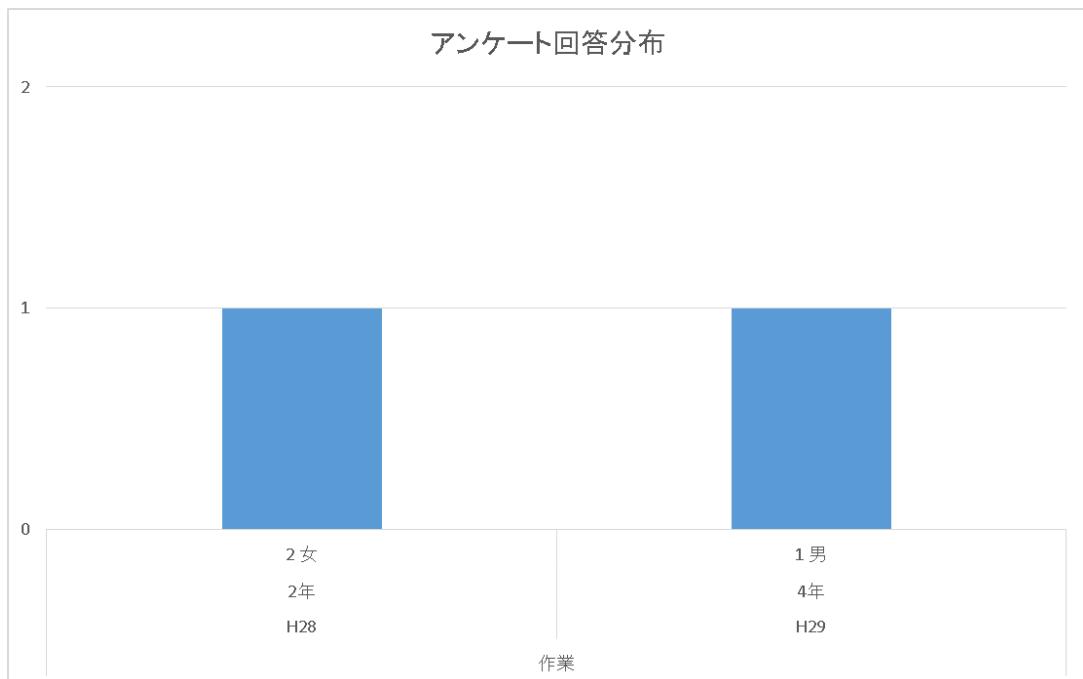
4) 特色

4-1) 回答率

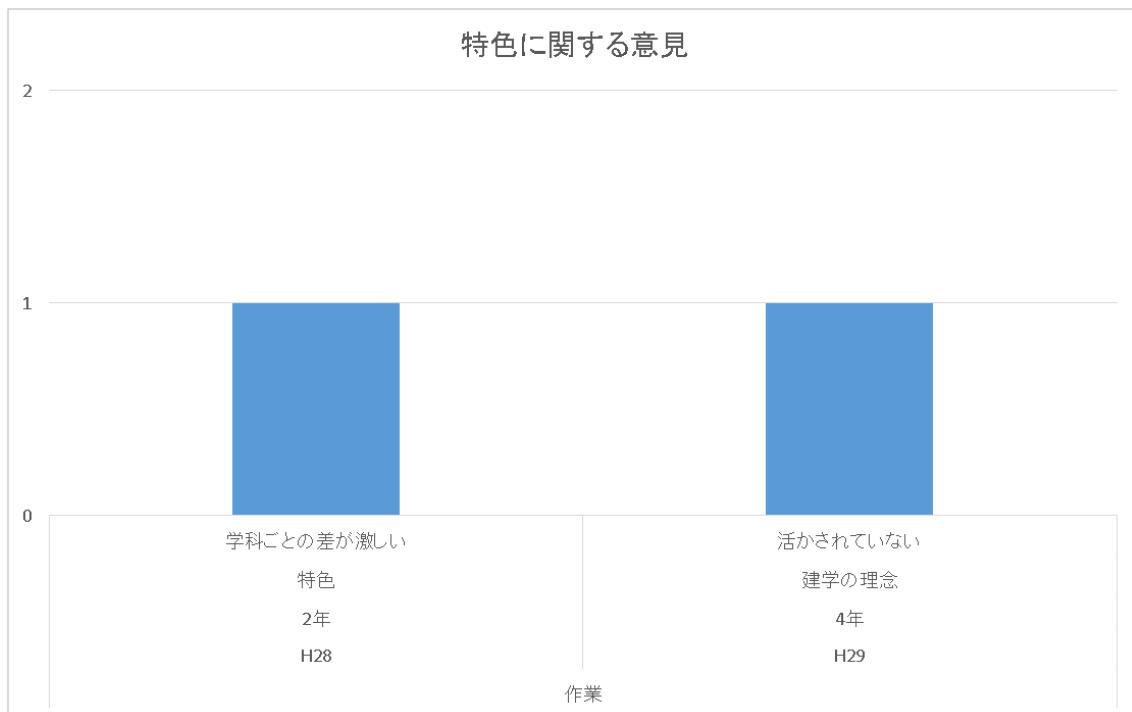
	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	20	35	14	30	13	30	9	39
回答数	0	1	0	0	0	0	1	0
回答率	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
学年回答率	1.8%		0.0%		0.0%		2.1%	

4-2) 特色に関する回答内容の内訳

(単位：人)



4-3) 特色に関する回答内容の詳細項目における平成28年度と平成29年度の比較



4-4) 小括

今年度（29年度）、特色について要望は1件であった。具体的な内容について、自ら意思を持って行動するという建学の理念が教育体制に活かされていないとの意見であった。昨年度（28年度）との比較について、昨年度は1件であり、同数である。具体的な内容について、学科ごとの差が激しいとの意見であった。回答数自体が少ないため十分に考察することは困難であるが、引き続き本学の教育方針（カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）を丁寧に説明する必要があると考える。

5) 総括

今年度（29年度）および昨年度（28年度）に行われた学生生活・学修実態調査について、自由記述部分の結果集計を行った。今年度（29年度）のリハビリテーション学科総数は168件であった。教育内容は72件で、そのうち作業療法専攻は26件（カリキュラム16件、教育指導方法8件、試験・判定2件）であった。生活環境は92件で、そのうち作業療法専攻は30件（教育環境8件、情報提供5件、アメニティ（トイレ）4件、事務対応、通学手段、自習環境、アメニティ（生活）各2件、その他5件）であった。特色は4件で、そのうち作業療法専攻は1件（建学の理念1件）であった。

昨年度（28年度）との比較において、昨年度のリハビリテーション学科総数は169件であった。そのうち教育内容は理学30件、作業34件の計64件であり、理学は若干要望数が増加する傾向であったものの作業は減少する傾向であった。生活環境は、28年度では理学44件、作業57件の計101件であり、理学は若干要望数が増加する傾向であったものの作業は大幅に減少する傾向あった。特色の要望については、28年度は理学3件、作業1件の計4件であり、要望数は同じであった。

今後対処すべき項目について、教育内容ではカリキュラム関連の内容が重要と考える。特に「総コマ数が多いのではないか」との意見について、療法士養成校として厚生労働省が定めた指定規則、臨床実習教育の重要性、本学の教育方針（カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）などを丁寧に説明する必要があると考える。実習における指導方法、評価方法の統一については、専攻教員、学内実習を担当する療法士に周知して改善を図る必要があると考える。生活環境では、冷暖房温度の細かな調節が継続して挙げられており、優先課題であると考える。また、音響機器や実習備品の更新および拡充、トイレへのハンドドライヤー設置の要望も多く、検討が必要であると考える。事務連絡早期化の要望は事務部に伝え、こちらも具体的な改善点について検討する必要があると考える。特色については、建学の理念をどのように教育体制に活かしているか、引き続き建学の理念や本学の教育方針（カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）を丁寧に説明する必要があると考える。

5. 臨床工学科

臨床工学科における平成 28 年度調査と平成 29 年度調査の概要及び比較

1) 対象学生について

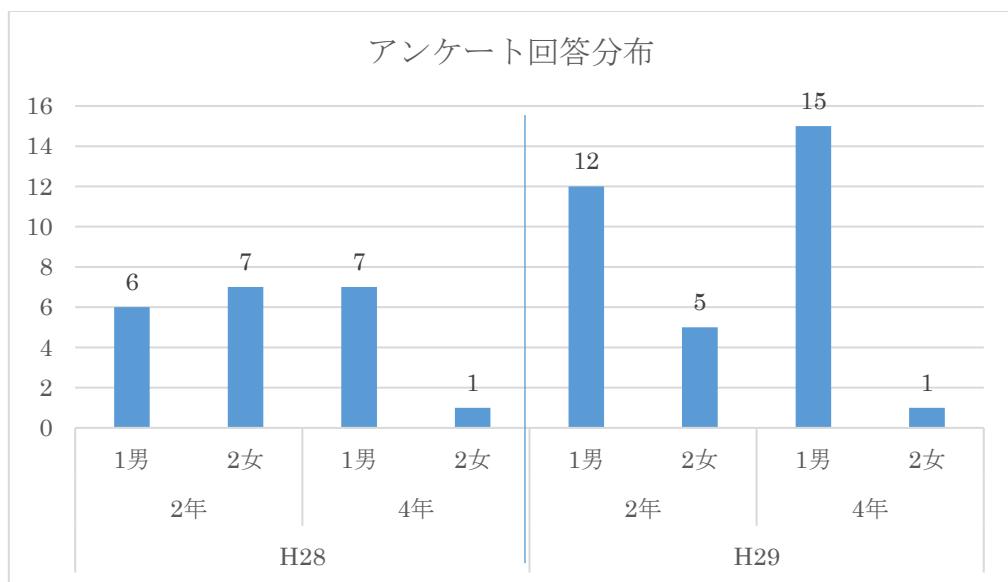
平成 28 年度、29 年度の学生数（単位：人）

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	36	25	26	19	34	21	29	16
計	61		45		55		45	

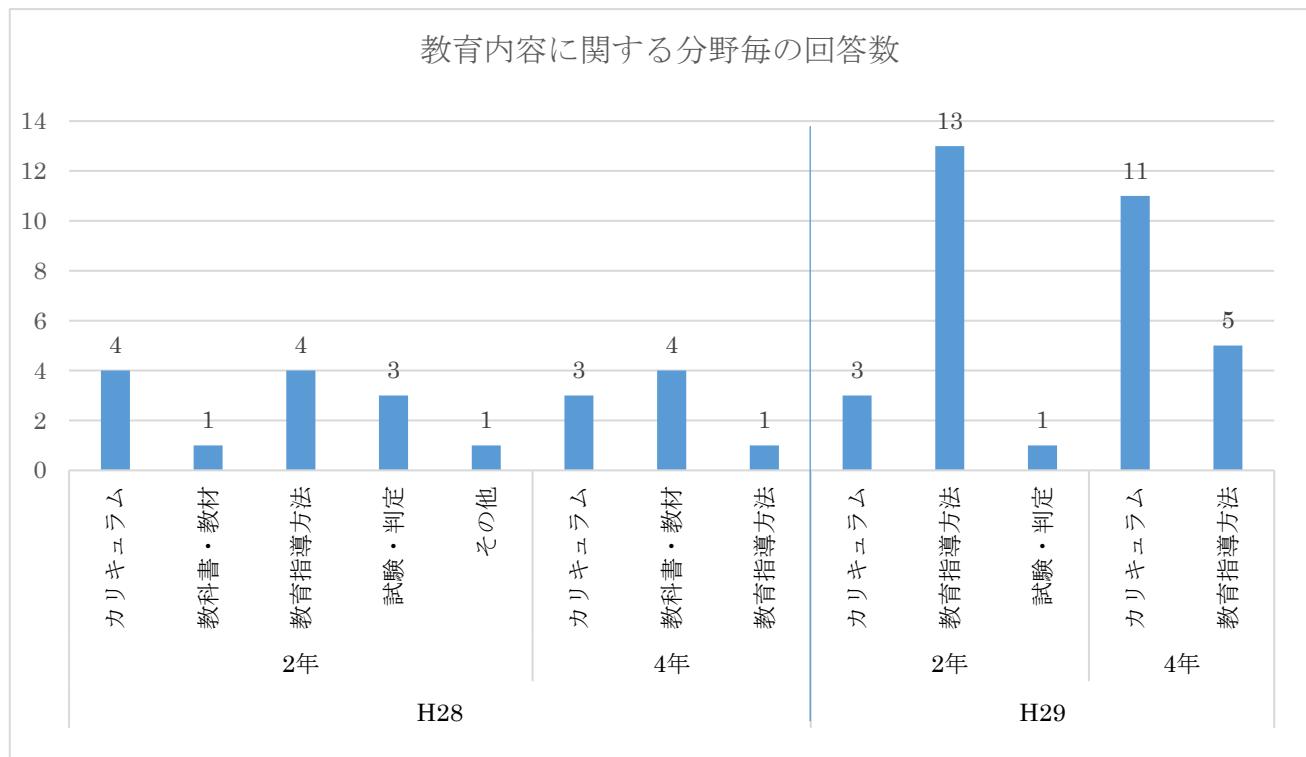
2) 教育内容

2-1) 回答率と回答の分布

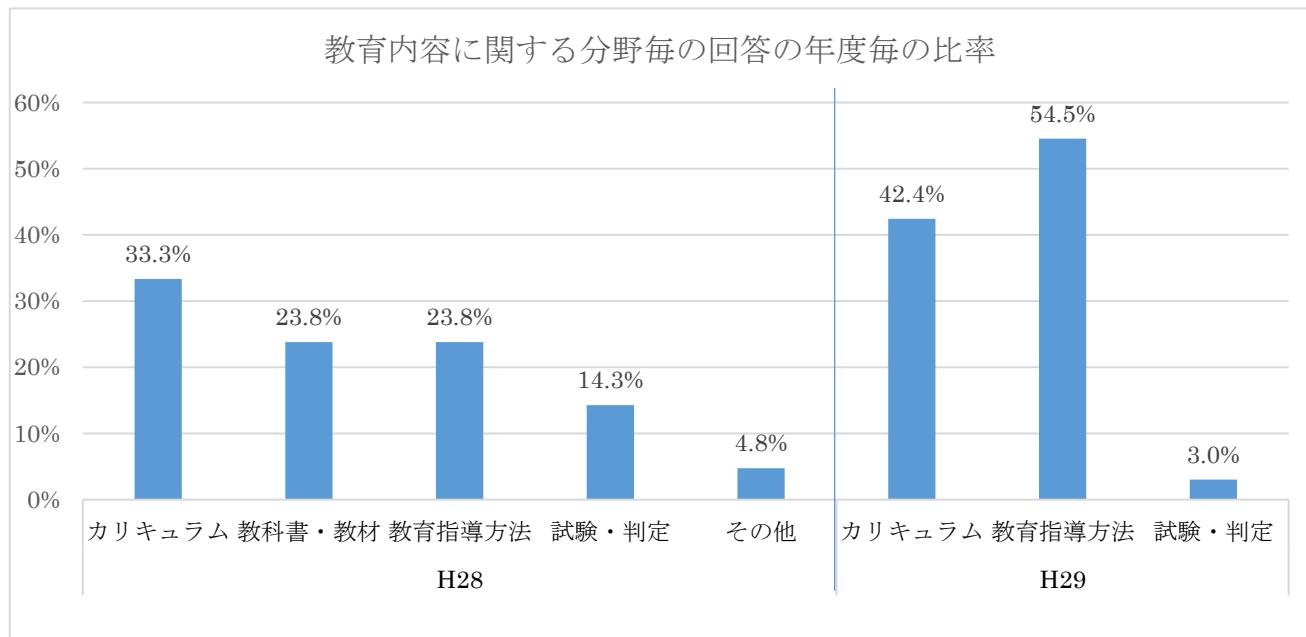
	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	36	25	26	19	34	21	29	16
回答数	6	7	7	1	12	5	15	1
回答率	16.7%	28.0%	26.9%	5.3%	35.3%	23.8%	51.7%	6.3%
学年回答率	21.3%		17.8%		30.9%		35.6%	



2-2) 平成28年度、29年度間における教育内容に関する意見の分野(項目数)の比較

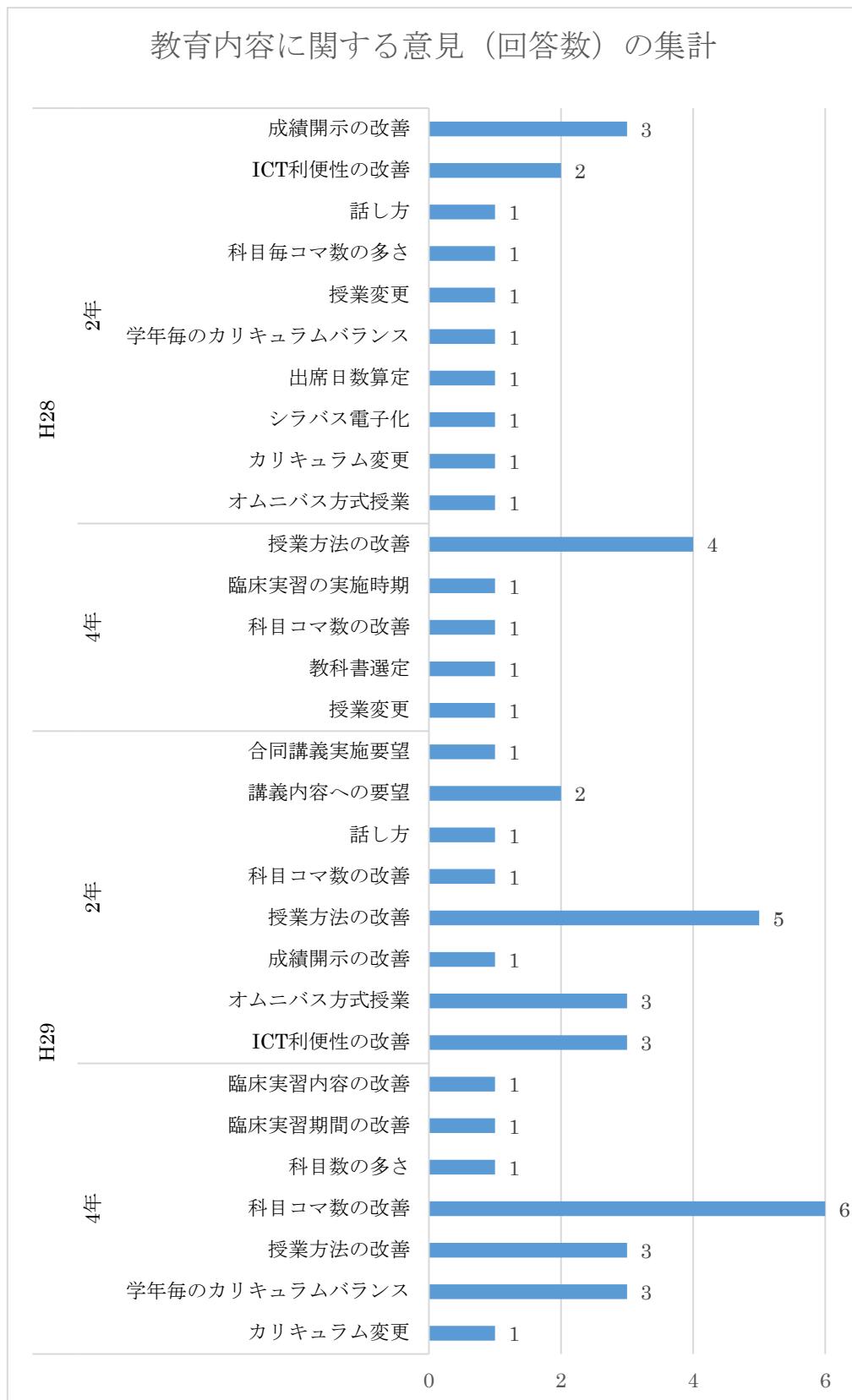


2-3) 平成28年度、29年度間における教育内容に関する意見の分野(項目の比率)の比較

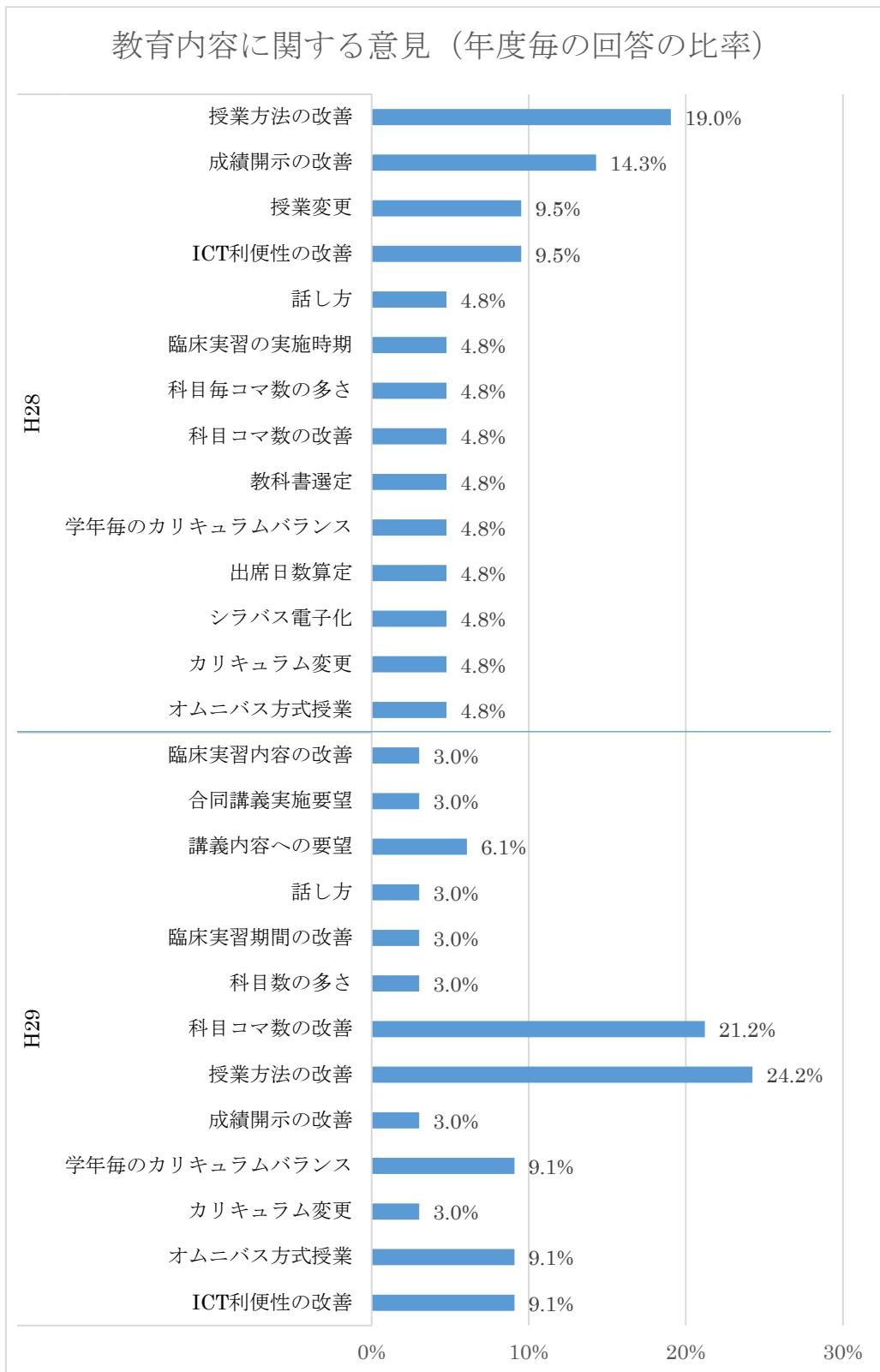


2-4) 平成28年度、29年度間における教育内容に関する意見の比較（回答数）

自由記載内容の主旨を要約し、その回答数の集計を求めた。



2-4') 平成28年度、29年度間における教育内容に関する意見の比較（回答の比率）



2-5) 小括

平成29年度の回答数は平成28年度から大幅に増え、回答率は平成29年で前年度のそれに比べ2年生で10%ほど、4年生で18%ほど上昇した。2年生・4年生共に回答率は男性が約2倍になったことが

大きな要因であった。(2-1)

平成28年度は2年生・4年生ともに教育内容に関する意見が多様で少なかった。平成29年度は回答分野が限られ、2年生・4年生ともにカリキュラムと教育指導方法に関する意見が多数出された。(2-2)

年度毎の比率では、平成28年度は、カリキュラム、教育指導と教科書・教材に関する意見が出され、それぞれ回答数割合の約1/4を占めた。平成29年度では、カリキュラムに関する意見割合が4割を超える、教育指導方法が5割を超えた。(2-3)

2年生は、平成28年度には、「成績の開示方法」と「ICT利便性の改善」といった電子デバイスの利便性を求める意見が複数あった。4年生は、各年度で講義・授業の改善要望が複数あった。平成29年度には「授業方法の改善」、「オムニバス方式授業」と「ICT利便性の改善」に対する意見が複数あった。(2-4)

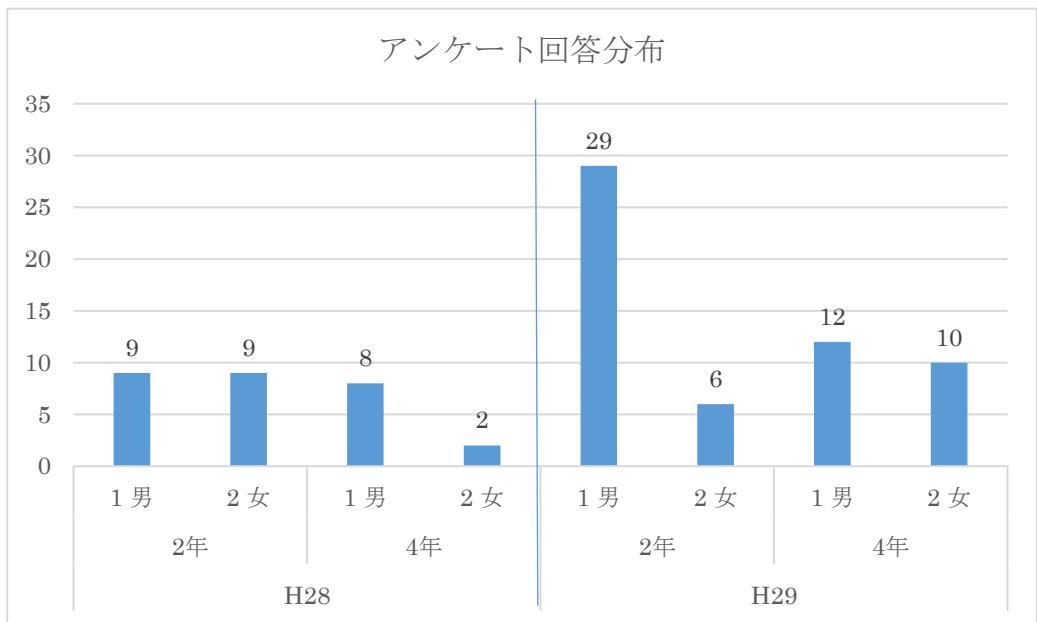
平成28年度の回答比率では、「授業方法の改善」が回答総数の2割近くに達し、「成績開示の改善」と「講義内容への要望」が続いた。授業（講義）では、学生が不得手とする項目に対して教員が工夫した内容を受け入れられない、あるいは理解が難しい状況を反映していると考えられる。平成29年度には「授業方法の改善」と「科目コマ数の改善」とが2割を超えた。

「授業方法の改善」は昨年に続き要望されている。また、講義が他の学年に比べ少ない4年生から「科目コマ数の改善」とともに要望されており、授業評価と合わせて検討する必要があると思われる。(2-4')

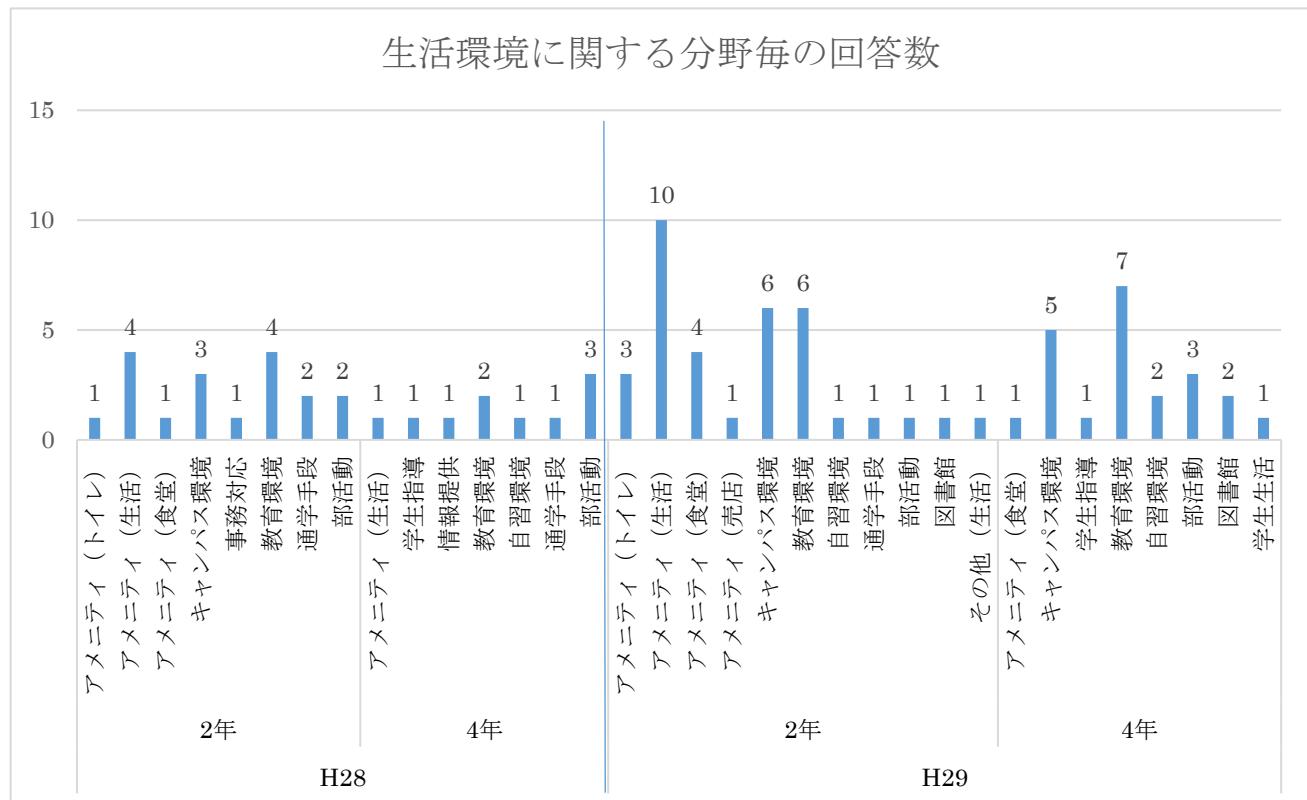
3) 生活環境

3-1) 回答数の分布

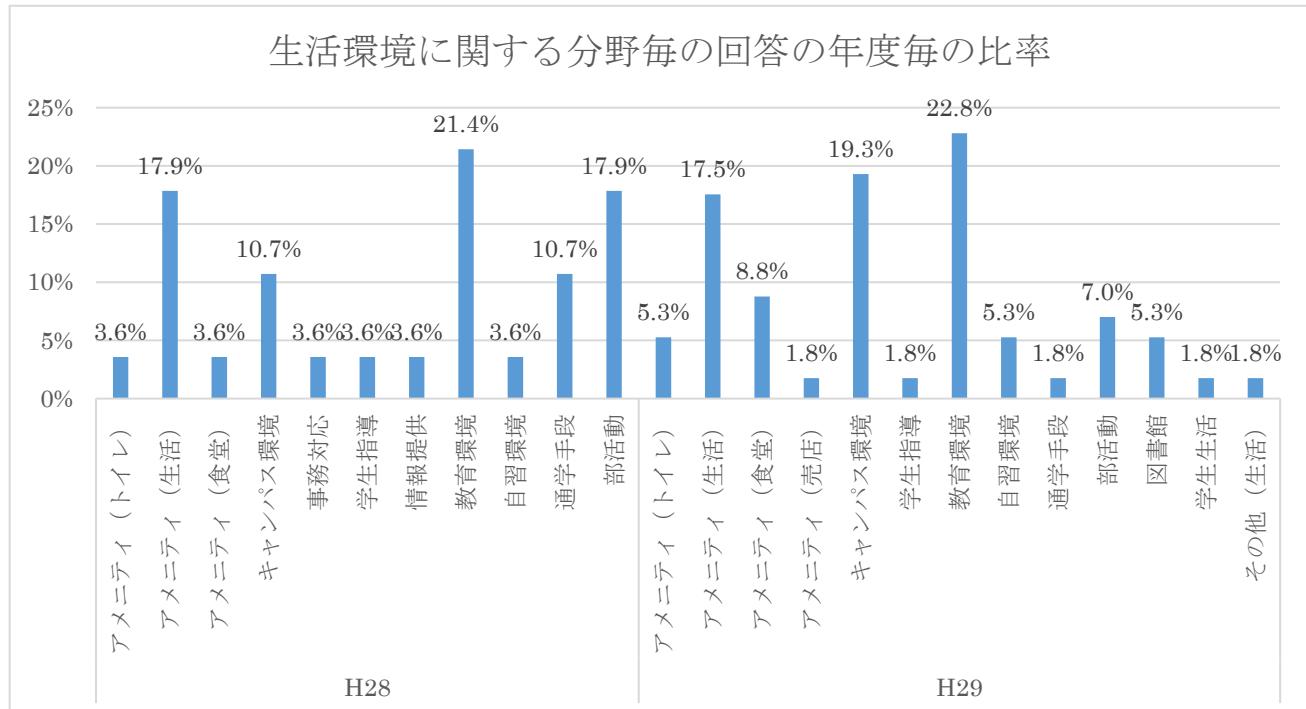
	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	36	25	26	19	34	21	29	16
回答数	9	9	8	2	29	6	12	10
回答率	25.0%	36.0%	30.8%	10.5%	85.3%	28.6%	41.4%	62.5%
学年回答率	29.5%		22.2%		63.6%		48.9%	



3－2) 平成28年度、29年度間における生活環境に関する意見の分野（項目数）の比較

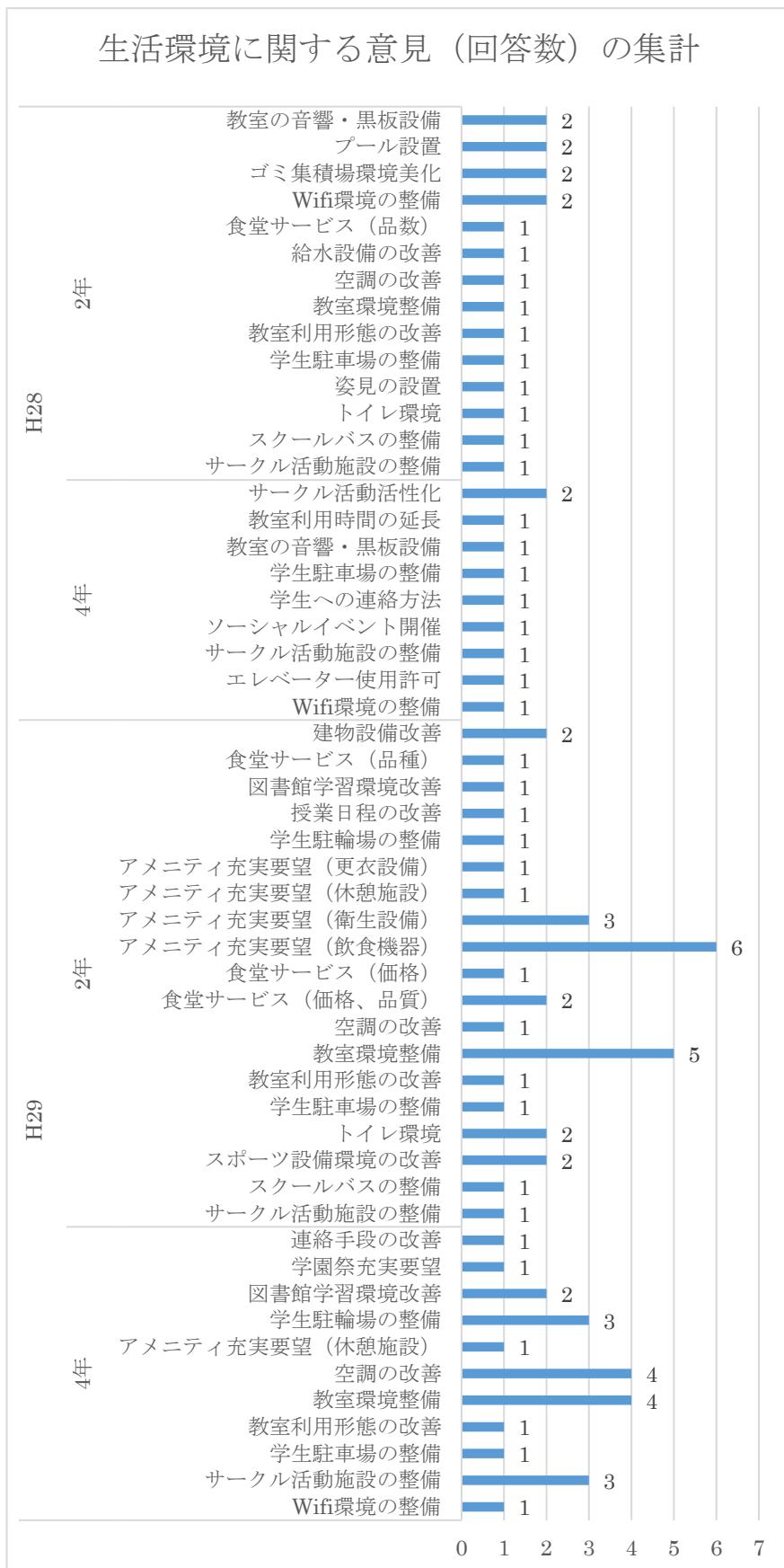


3-3) 平成28年度、29年度間における生活環境に関する意見の分野（項目の比率）の比較

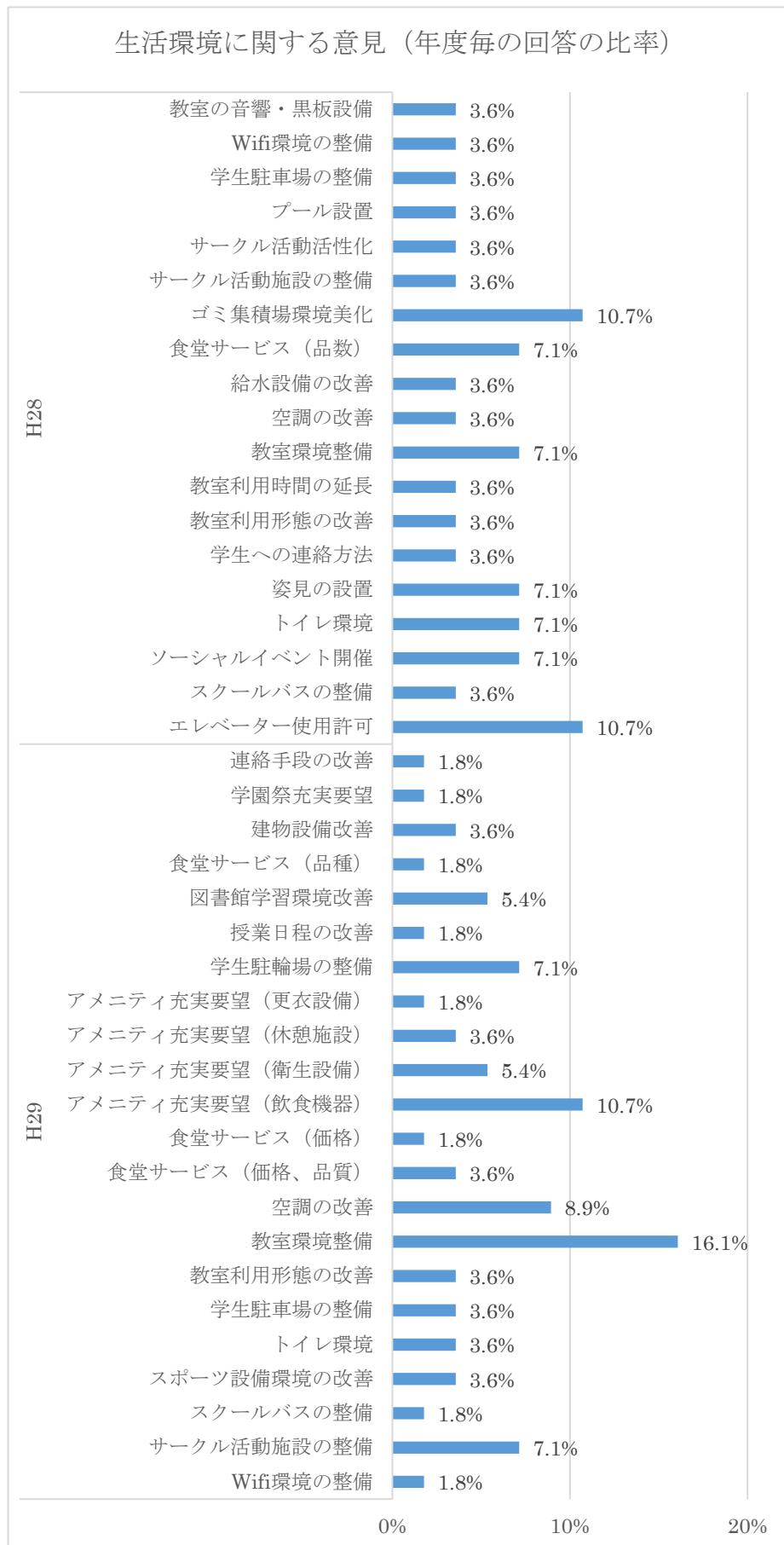


3-4) 平成28年度、29年度間における生活環境に関する意見(回答数)の比較

自由記載内容の主旨を要約し、その回答数の集計を求めた。



3-4') 平成28年度、29年度間における生活環境に関する意見（回答の比率）の比較



3－5) 小括

2年生および4年生の平成29年度のそれぞれの回答数は平成28年度に比べ倍増した。2年生男子の回答数の増加が顕著だった。(3－1)

回答分野は平成28年度に比べ平成29年度で多様化した。また、各年度、学年ともに「教育環境」、「キャンパス環境」、「アメニティ」に意見が多くなった。(3－3)

各年度、各学年で多様な意見があった。(3－4)

平成29年度は、校舎内の設備や教室の環境整備に関する意見が多くなった。これは、生涯研修センター2号館が会館し、これに整えられた設備や教室環境との比較から要望が増加した。(3－4')

4) 特色

4－1) 回答数と回答率

	H28				H29			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	36	25	26	19	34	21	29	16
回答数	1	0	0	0	1	1	2	0
回答率	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	4.8%	6.9%	0.0%
学年回答率	1.6%		0.0%		3.6%		4.4%	

4－2) 特色に関する回答の比較

回答が少ないため回答分布、意見分野と意見の比較グラフは割愛する。

4－3) 小括

建学の理念に関する回答は平成28年度は1件であったが、29年度は4件と少なかった。回答の分野はともに校風に関するものであったが内容は異なるものであった。

5) 総括

平成29年度の各テーマに対する回答数は平成28年度に比較して多くなった。各テーマの各分野において学生数に対する回答割合は高くなり、自由記載により課題が多様化している状況を示した格好になった。しかしながら、指摘されている内容は教育環境・生活環境とともに生涯研修センター2号館の環境との違いに由来する事項が多い。

教育を受ける環境、特に教室と授業環境に関する意見は、検討すべき点があると思われる。平等に教育を受ける権利を満足する環境を提供するための改善を継続するために大いに参考になる意見と考える。

アメニティや視聴覚の設備など計画的に改善が進められており、この調査が大いに役立っている。

6. 医療経営情報学科

医療経営情報学科における平成 28 年度調査と平成 29 年度調査の概要及び比較

1) 対象学生について

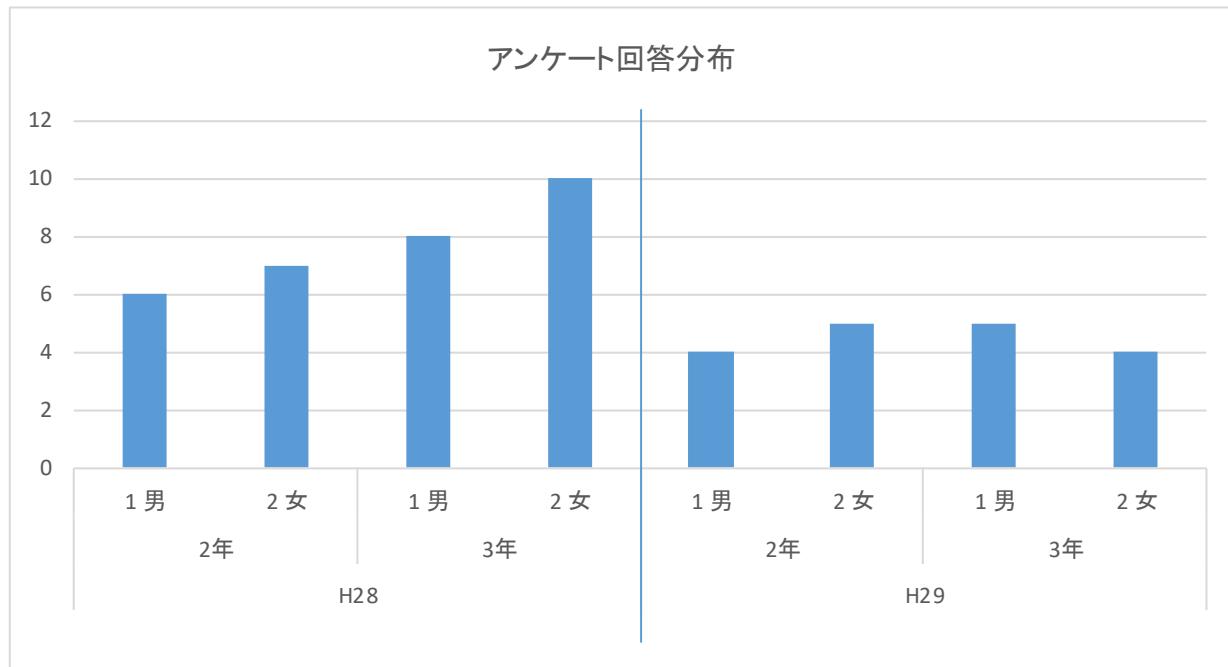
学生数（単位：人）

	H28				H29			
	2年		3年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	14	25	19	26	16	19	14	24
計		39		45		35		38

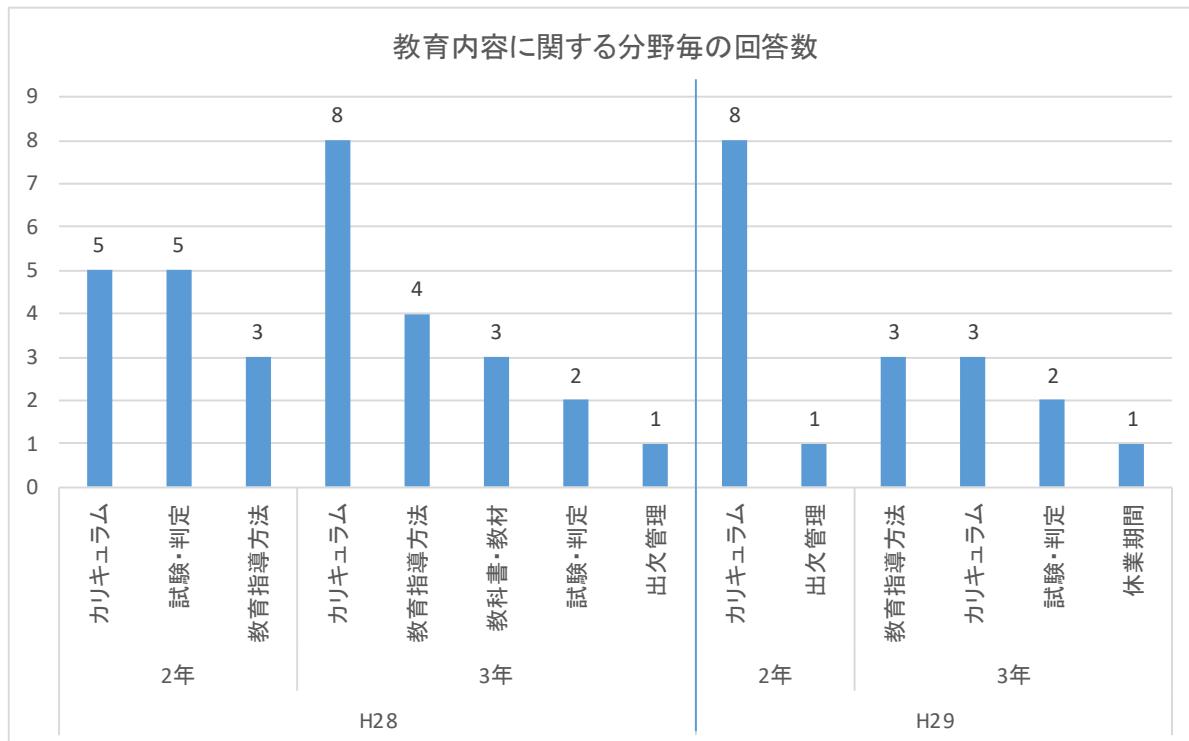
2) 教育内容

2-1) 回答率

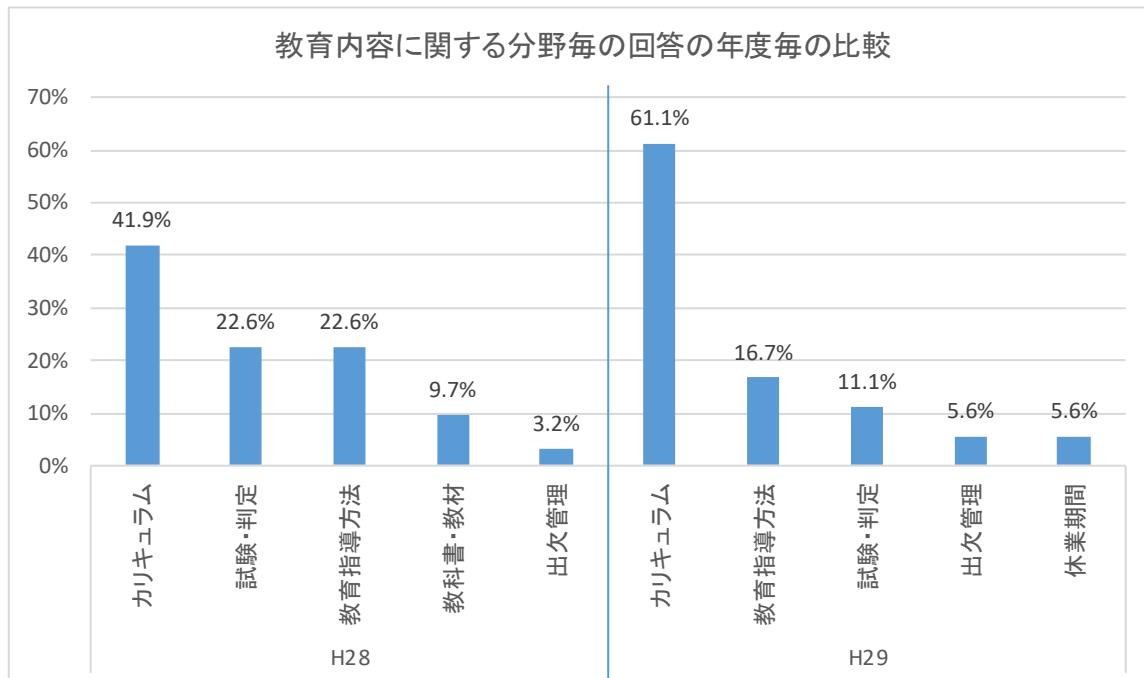
	H28				H29			
	2年		3年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	14	25	19	26	16	19	14	24
回答数	6	7	8	10	4	5	5	4
回答率	42.9%	28.0%	42.1%	38.5%	25.0%	26.3%	35.7%	16.7%
学年回答率	33.3%		40.0%		25.7%		23.7%	



2-2) 教育内容に関する回答のキーワード分類の年度、学年での回答数の比較

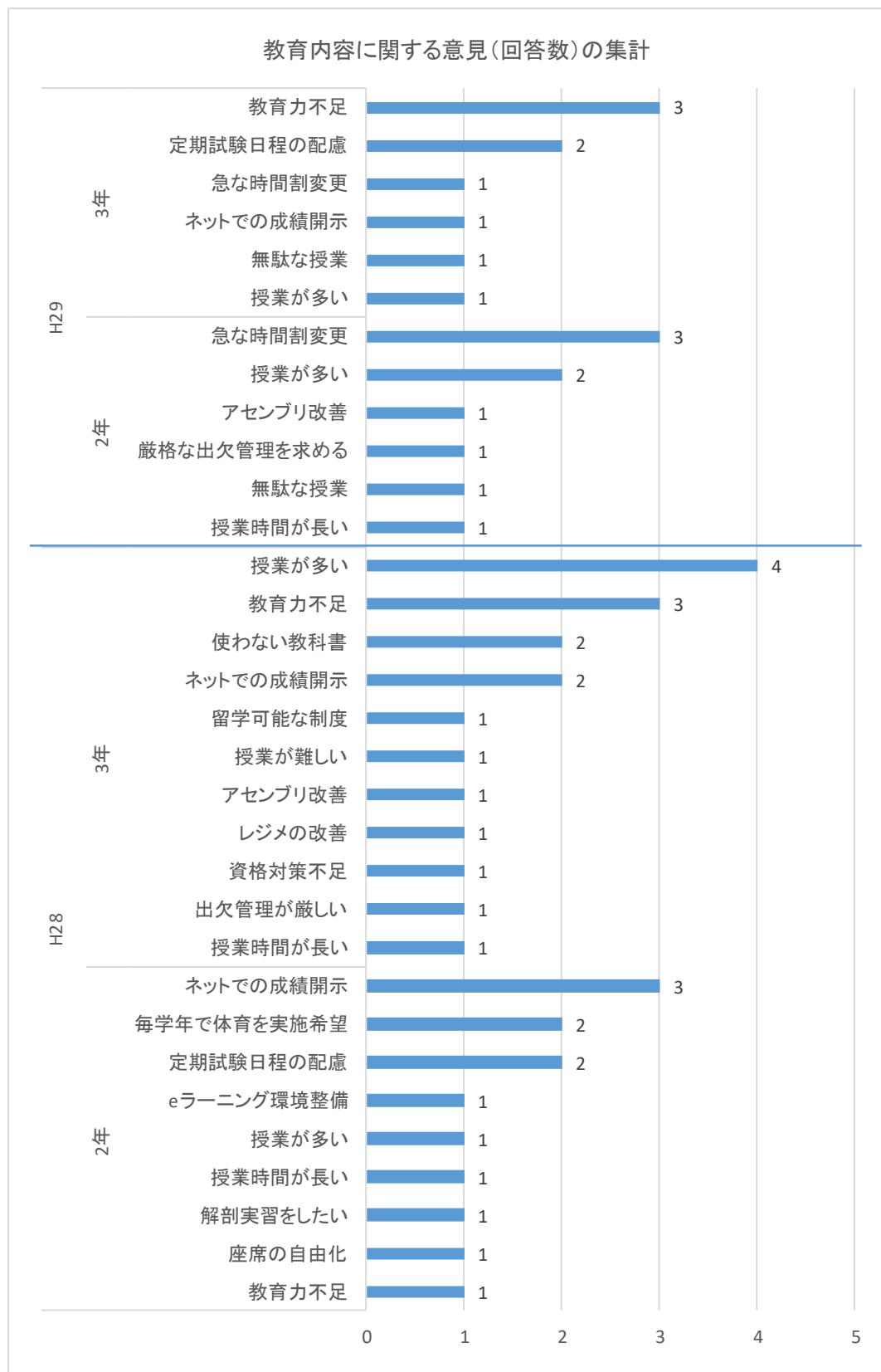


2-3) 教育内容に関する回答のキーワード分類の学年、年度での回答比の比較

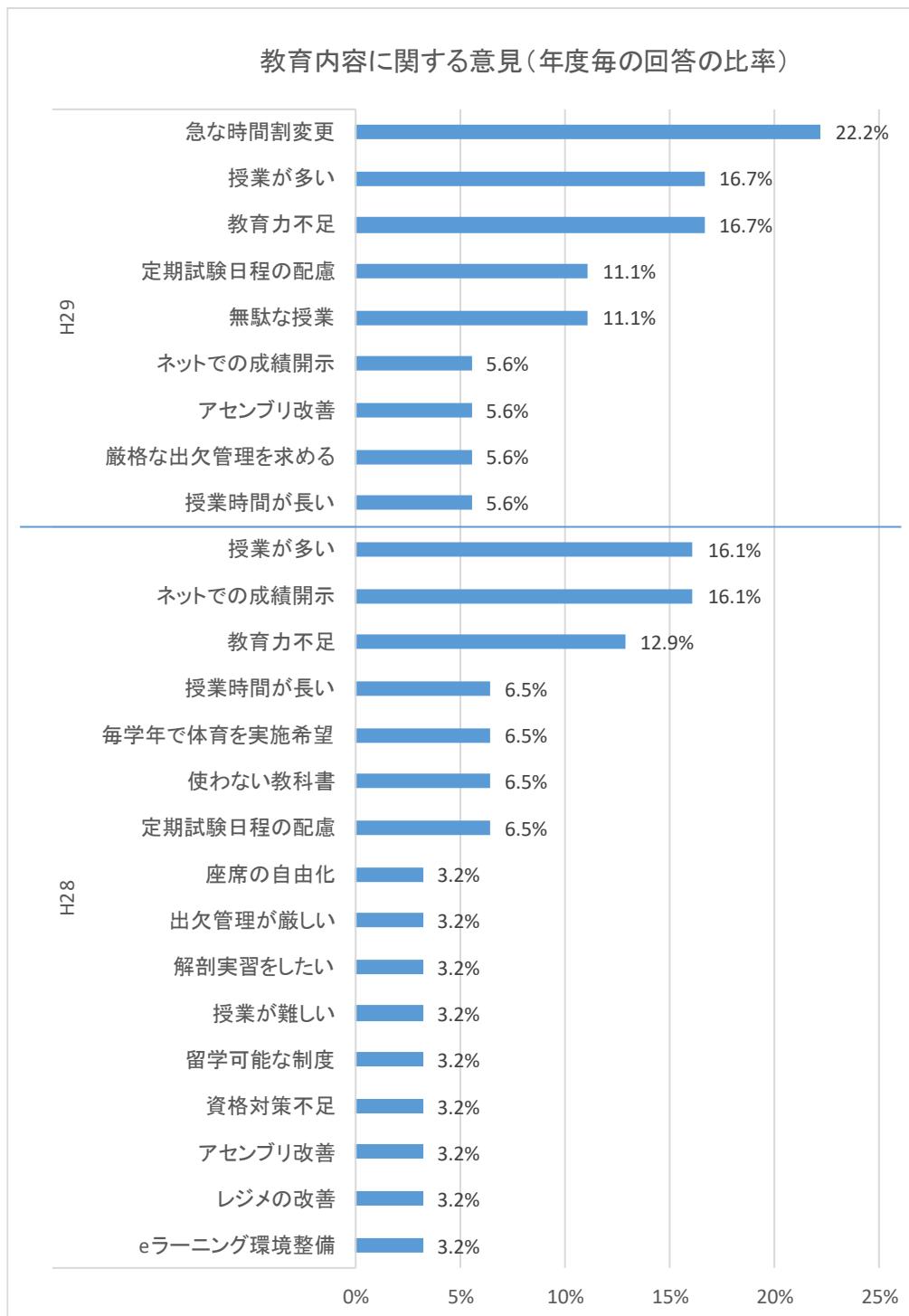


2-4) 教育内容に関する回答の詳細分類の年度、学年での回答数の比較

自由記載内容の主旨を要約し、その回答数の集計を求めた。



2-4') 教育内容に関する回答の詳細分類の年度、学年での回答の比率の比較



2-5) 小括

平成 28 年度 2 年生、平成 29 年度 3 年生は同一群。アンケートの回答数は重複を含み回答者数を意味しないが当該学年の学生数で除し回答率を求めるに、2 年次約 33%、3 年次約 24% と 9 ポイントあまり低くなっている。1 学年上の学生（平成 26 年度 2 年生、28 年度 3 年生）は前回の調査によると回答率は 15 ポイント程高くなっているが、逆の傾向となった。平成 29 年度 3 年生は昨年より学習環境に慣れ、いろいろな不満などが現れてくると予測されたが、本学科としての取り組みとして学習環境の改善が進ん

た結果が回答率の低下に現れたとも考えられる。(2-1)

回答数は、平成28年度では31、平成29年度では18とほぼ半減となった。2年生、3年生ともに回答数が減少している。年度間で比較すると、3年生はカリキュラムについての意見が相対的に29年度は減ったものの、その他についてはほぼ同様の意見が出されている状況である。2年生については29年度にカリキュラムに関する回答が突出する結果となった。平成29年度では教科書・教材に関する意見が無くなっている。教員側の対応が進んでいることの反映と考えられる。(2-2)

平成29年度もカリキュラムに対する意見の比率が多数となった。平成28年度と比べ、相対的に他の項目の回答の割合が減っていることから、カリキュラムについての意見が60%を超えることとなった。2年生は全体的に意見が少なかったものの、カリキュラムについては意見が出されており、本学科のカリキュラムポリシーやディプロマポリシーについての理解が進んでいないことが反映されている可能性がある。また2次志望で本学科に入学した学生が多いことから、カリキュラムの意義の理解が進んでいないことも考えられる。

昨年度まで「授業が多い」の意見が目立って多くあったが、29年度では比率が少なくなっている。本学科の医療系総合大学としての教育の特性、ディプロマポリシー達成のために必要なカリキュラムであることの周知が成功してきている可能性がある。平成28年度と同様に29年度3年生にて教育力不足の意見があり教員の教授法の改善に今後も学科として対応していく必要がある。今年度の調査で目立った意見としては、急な時間割や試験日程の変更についてのクレームがある。常々、時間割上の「ITH」は授業を実施しないことを表すのではなく、自学自習の時間枠であり授業が開催される可能性があることを説明してはいるが、アルバイトや遊興などの予定をITHの時間割のところで事前に組んでいる学生が多く存在しており、授業変更により自分の予定が狂わされることに不満を感じていると考えられる。近年、台風接近の事前の予報より登校を禁じて授業変更する事例もあり、急な変更が多くなっていることに不満が生じているものと考えられる。学科として、教員都合による授業変更はITHへの移動の前に教員間での授業交代を行うよう対処している。しかし、台風の対応等ではITHを利用せざるを得ない場合があり、学生への理解を求めていく必要がある。(2-3)

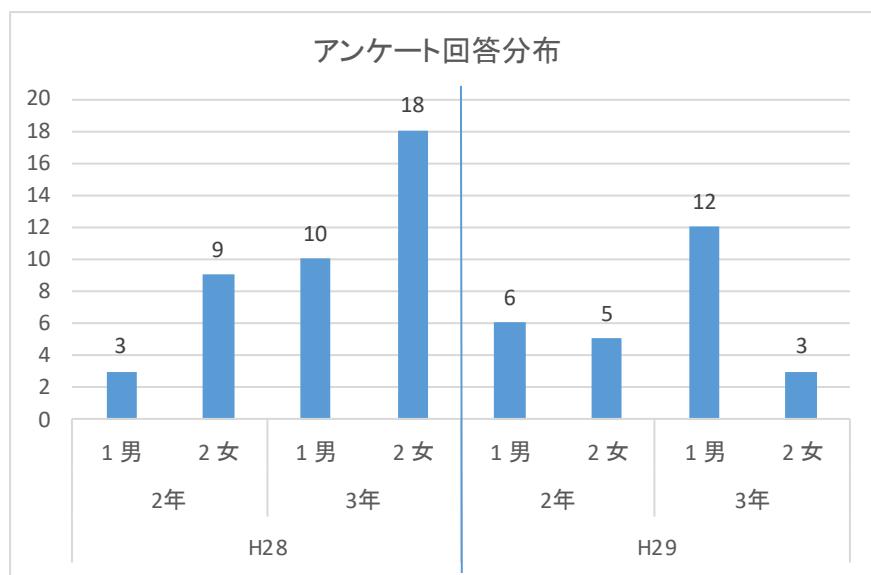
平成29年度でもネットでの成績開示を求める声があり、実現に向けて今後も検討していく必要がある。2年生で出欠について厳格さを求める意見があった。同じ状況であっても教員によって遅刻となる場合、出席となる場合があることが指摘されている。現状、授業担当教員の裁量により遅刻の取り扱いを決めており、その旨は学生にも周知している状況である。(2-4)

年度間で回答の比率で比較すると、「授業が多い」が約16%程度で維持されている状況となった。医療系大学の特徴でもある本学科の過密なカリキュラムについて、学生より一定程度の理解が得られるようになってきているが、やはりある程度の学生には理解が得難い状況と考えられる。大幅なカリキュラムポリシーの改訂を行い、大胆なカリキュラム改訂を検討しなければ、これ以上の改善は困難であろう。平成29年度では「急な時間割変更」が約22%と目立っており、台風等の対応を除いて、教職員から学生への情報伝達の円滑化を促進したい。また、各教員が年度末までに次年度の予定をより正確に把握する等の対応を継続し、それを活かして、より変更の少ない時間割編成に繋げていきたい。(2-4')

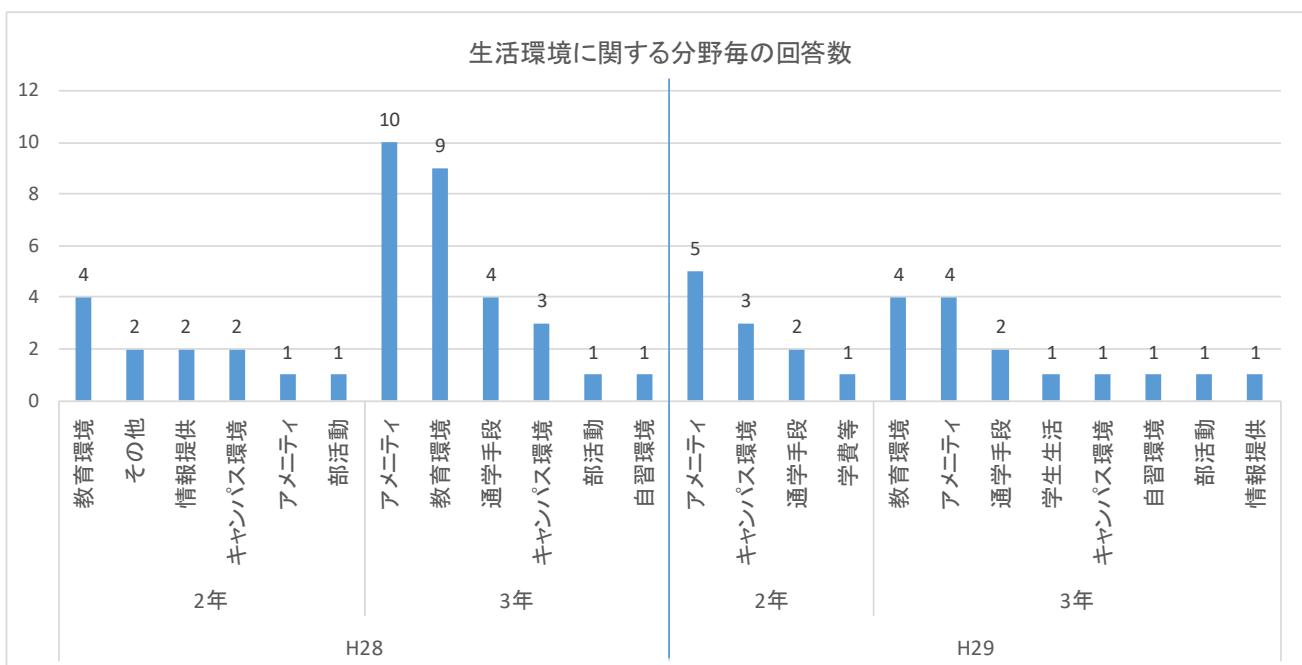
3) 生活環境

3-1) 回答数

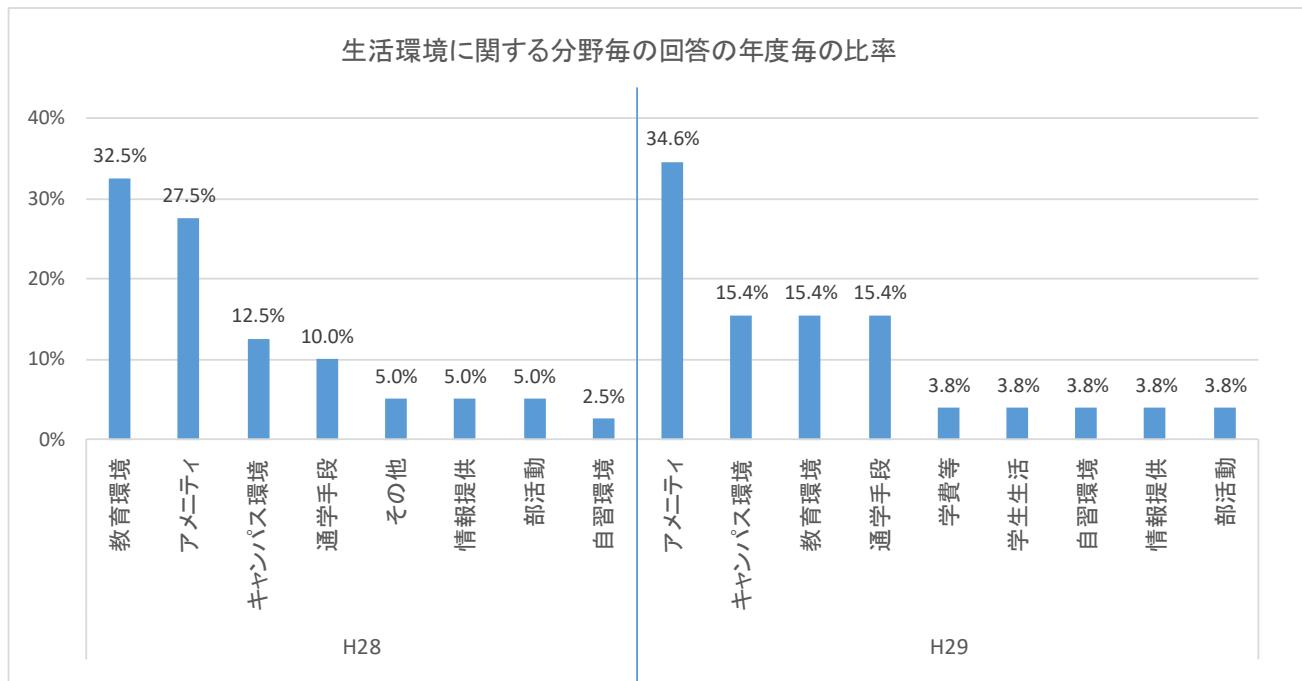
	H28		H29	
	2年	3年	2年	3年
	男子	女子	男子	女子
学生数	14	25	19	26
回答数	3	9	10	18
回答率	21.4%	36.0%	52.6%	69.2%
学年回答率	30.8%		62.2%	
			31.4%	39.5%



3-2) 生活環境に関する回答のキーワード分類の年度、学年での回答数の比較

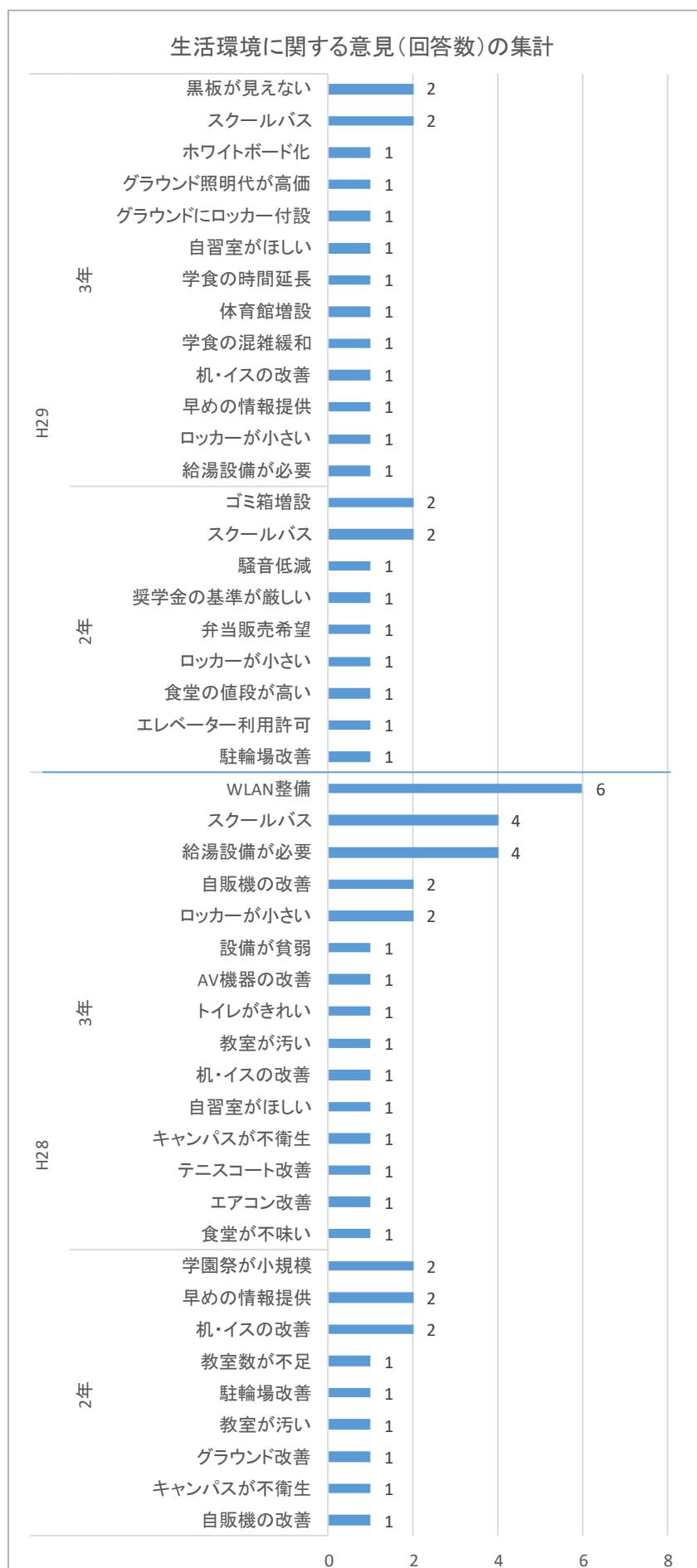


3-3) 生活環境に関する回答のキーワード分類の年度での回答比の比較



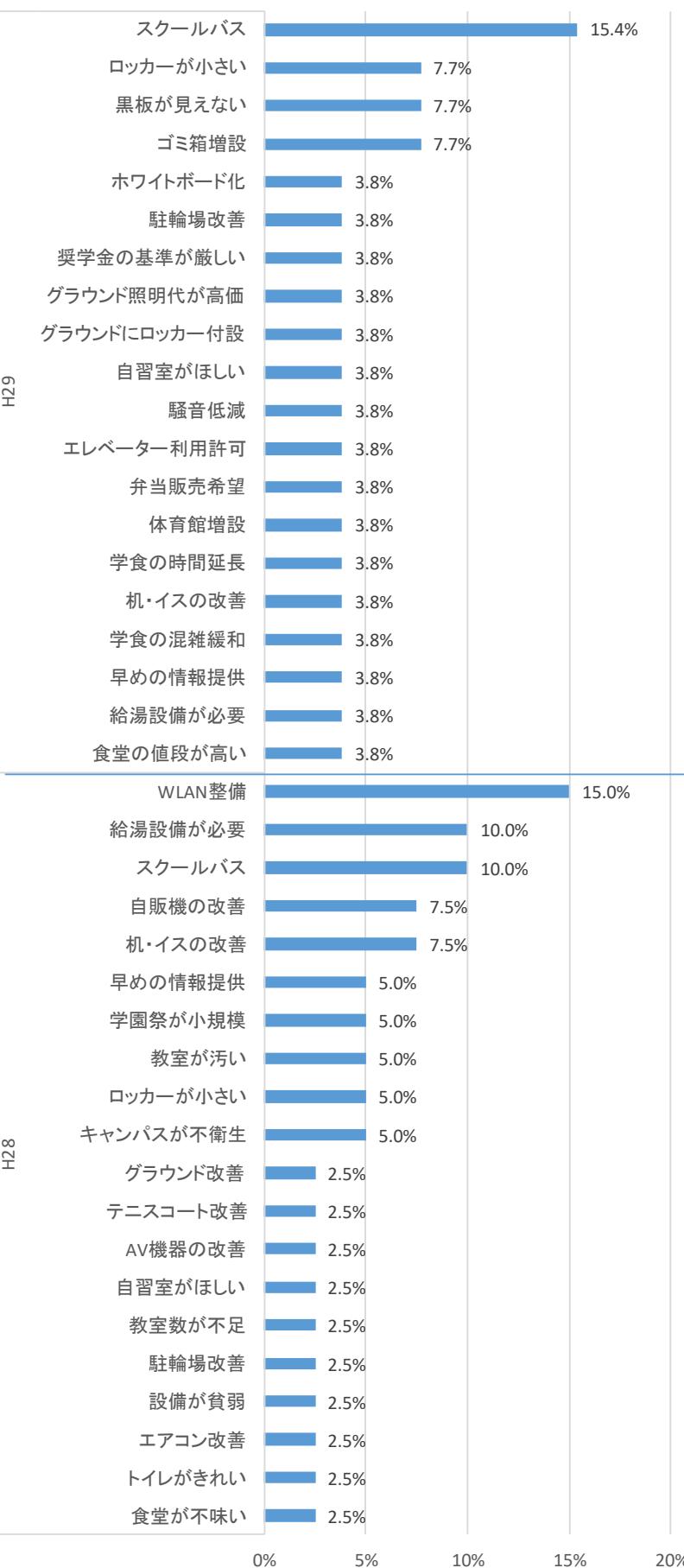
3-4) 生活環境に関する回答の詳細分類の年度、学年での回答数の比較

自由記載内容の主旨を要約し、その回答数の集計を求めた。



3-4') 生活環境に関する回答の詳細分類の年度での回答の比率の比較

生活環境に関する意見(年度毎の回答の比率)



3-5) 小括

同一群（平成28年度2年生、29年度3年生）の回答数を比較すると、2年次12、3年次15とほぼ同様の回答数となっている。平成28年度3年生の回答数は28、29年度3年生は15とほぼ半数の状況である。平成28年度2年生の回答数は12、29年度は11と同様の回答数となっている。平成29年度2年生では、回答数に男女差はなく、3年生は男子学生の回答が多くあり、生活環境改善についてより多く要望があることが伺える。（3-1）

平成28年度と29年度を比較すると、2年生で「教育環境」に対する意見が減り、「アメニティ」についての意見が増加、3年生では「アメニティ」、「教育環境」についての意見が多いが平成28年度より29年度ではその回答数は大きく低下した。（3-2）

平成28年度では「教育環境」が約33%、「アメニティ」が約28%と多かったが、29年度では「アメニティ」のみ約35%と回答が多くなった。平成28年度と同様に29年度も「キャンパス環境」約15%、「通学手段」約15%と、回答が多い傾向である。（3-3）

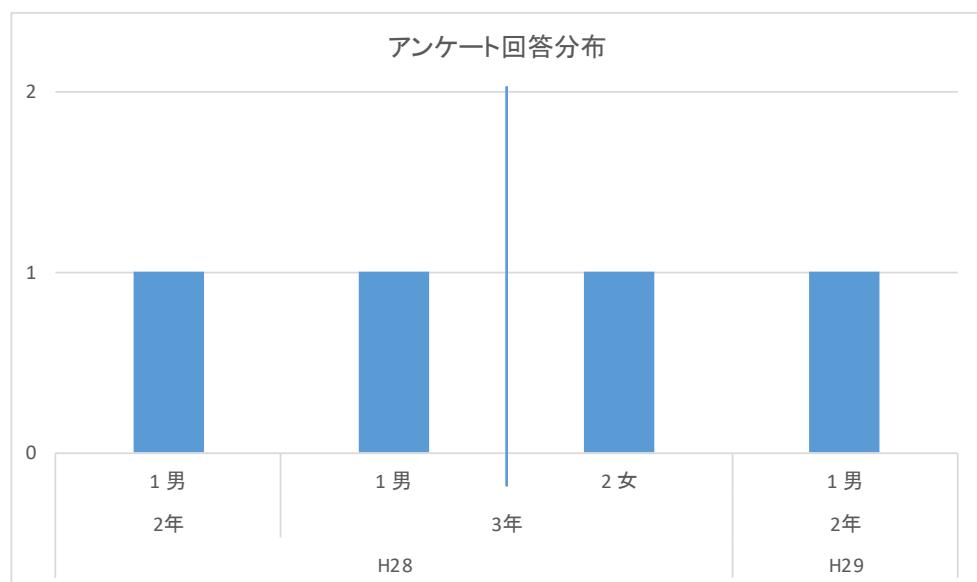
同一群からの意見では、「早めの情報提供」、「机・イスの改善」、「グランド改善」関連の意見が2年次に引き続き3年次でも回答されており、この1年間で学生に改善を感じられていない様子が伺われる。また、平成28年度3年生で強く要望されていた「WLAN整備」については、平成29年度に医療科学部キャンパスに全面的にFUJITA-NETのWLAN環境が整備されたことで解消され、29年度の回答にWLAN関連の意見は見られなくなった。「スクールバス」の要望も29年度の各学年で2位の希望であり、強く要望されている。「ロッカーが小さい」との不満は、意見の数としては平成29年度では少なくなっている。ロッカーについては学部統一の対応がなされており、本学科は独自にホーム教室後部に小規模ではあるがロッカーを設置している状況で他学科より改善策が取られている状況である。平成28年度に「キャンパスが不衛生」、「教室が汚い」との意見があったが、29年度では回答が無かった。教室内を清潔に保つことも学生自身で管理すべきところであり、指導が浸透してきたことの反映かもしれない。生涯教育研修センター2号館の運用開始にともない、平成28年度では「給湯設備が必要」の意見が多く回答されていたが、29年度は1件のみとなった。学生食堂について平成29年度にリニューアルされたにも関わらず「値段が高い」の意見や「弁当販売希望」の意見があった。また、リニューアルにより利用者が増えたため「混雑緩和」の要望や、自習スペースとしての利用が可能となったことでより開放の「時間延長」を希望する意見があった。（3-4）

年度間で比較すると、「WLAN整備」が平成28年度約15%から29年度では意見が無くなり、FUJITA-NETのWLAN環境整備の効果が現れている。「給湯設備が必要」約10%については29年度では約4%と減少している。9号館に給湯設備は整備されていないが、生涯2号館の設備の利用や教員居室の給湯機器の利用などで対処できているための減少と推察される。上述の2件が減少したことから、相対的に29年度では「スクールバス」の要望が28年度約10%から29年度約15%と微増し、1位の要望となっている。「スクールバス」の導入については学科での対処は困難な課題である。学食に対する不満は小さくなり29年度では「食堂がまずい」の意見は無くなった。教育環境については29年度でも「黒板が見えない」、「ホワイトボード化」など板書授業に対する要望が残り、AV機器利用等についての要望は無くなかった。同一群より、フジタグランドについての要望が引き続き出されている。フジタグランドについては学科としての対応は困難であり、学部としてクラブ活動関連事項として学生指導委員会あるいはPSA委員会を通じて学園へ要望すべき事項と考える（3-4'）

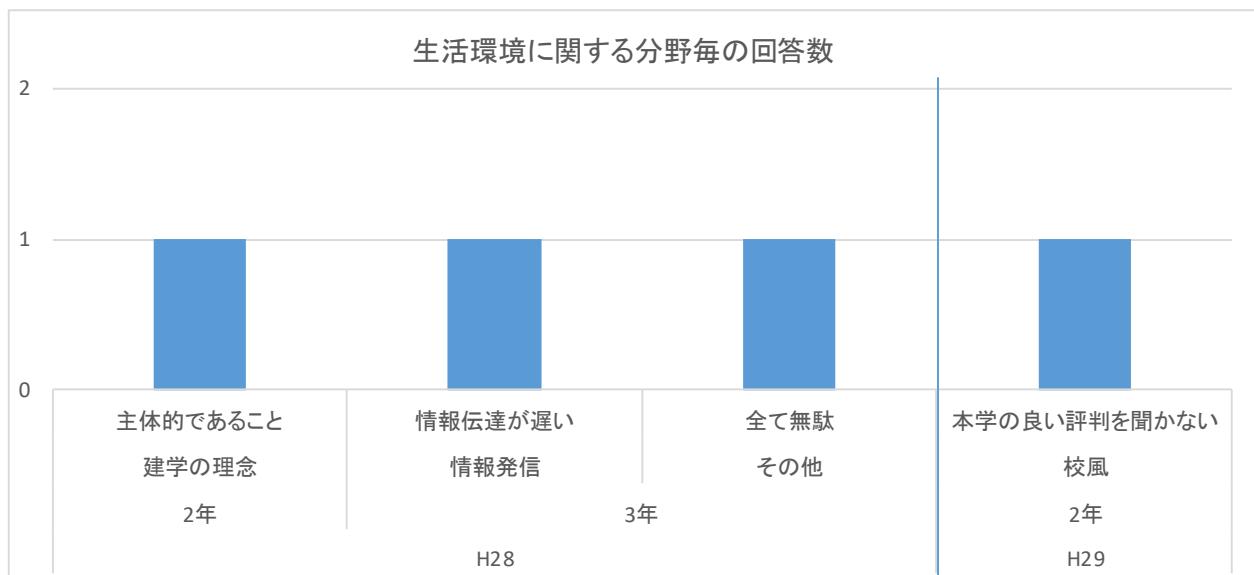
4) 特色

4-1) 回答数

	H28				H29			
	2年		3年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	14	25	19	26	16	19	14	24
回答数	1	0	1	1	1	0	0	0
回答率	7.1%	0.0%	5.3%	3.8%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
学年回答率	2.6%		4.4%		2.9%		0.0%	



4-2) 特色に関する回答のキーワード分類の年度、学年での比較



4－3）小括

特色についての回答は、平成 29 年度は 1 件と少ない結果となった。(4－1)

平成 28 年度の回答は特に意味が見いだせない回答ばかりで、「情報伝達が遅い」についても特色についての回答とは言い難く、分析できない状態である。平成 29 年度の回答は「本学の良い評判を聞かない」という辛辣なものであった。本学のイメージ、卒業生たちの社会での評価など、広報的にも調査が必要であると考える。(4－2)

5) 総括

アンケートの回答群は、平成 28 年度 3 年生（7 回生）、平成 29 年度 2 年生（9 回生）、平成 28 年度 2 年生と平成 29 年度 3 年生は同一（8 回生）、と 3 群で構成されている。

教育内容に関する回答について各群の回答率を比較する。3 年次の回答率としては 7 回生 40.0%、8 回生 23.7% とほぼ半減となった。2 年次の回答率では、8 回生が 33.3% に対し 9 回生は 25.7% と 6.6 ポイント低下した。8 回生については 2 年次の回答より 3 年次の回が 10 ポイント近く低下していた。同一群の回答率が低下した原因としては、教育内容について問題となる事項が解決され分、意見が少なくなったことが考えられる。教員の印象としては、8、9 回生は真面目な学生が多数を占める印象であり、その意味で平均的な学生群ととらえている。8 回生と 9 回生の意見の違いは、学習に慣れ資格試験が本格化してきている 3 年生と、その前段階である 2 年生との意見の違いと考えられる。8 回生の意見では「教育力不足」の比率が多くなり、カリキュラムそのものに対する不満は相対的に下がっていると考えられる。逆に 2 年生の 9 回生にはカリキュラムに対する不満がまだ相対的に多くなっている。「教育力不足」については、学科として今後も教員の教育力の改善に努めていきたい。29 年度の調査により判明した意見の特徴として、「急な時間割変更」、「定期試験日程の配慮」についての不満が 8、9 回生ともに相対的に大きくなっている点があげられる。この点については、台風に対する対応などで致し方ない面もあるが、学科として授業変更が生じにくい時間割編成や教員間の調整を行う努力を継続していくたい。また、教務情報提供サービスを希望する意見は 29 年度では「ネットでの成績開示」の意見のみとなつた。医療科学部として e ラーニングや学生ポータルサイトの充実を図ってきた効果と考えられ、今後は個々の学生に対して成績情報等を開示できるシステム等の整備を検討していくべきと考える。

生活環境に関する回答については、特に平成 29 年度に医療科学部にて全面的に導入された FUJITA-NET WLAN 環境により、平成 28 年度に約 15% と 1 位であった「WLAN 整備」の意見が、29 年度ではゼロとなり不満が解消された。また、平成 28 年度と比べ 29 年度は「教育環境」についての意見が少なくなつた。2 年生の回答が無かつたことが影響しているが、教育環境について継続的な改善が反映されているとも考えられる。回答数を比較すると、7 回生は 28 だったのと比較し、8 回生は平成 29 年度（3 年生）で 15 と、ほぼ半数の回答しか行っていない。また、8 回生の平成 28 年度（2 年次）の回答数は 12 であり、3 年次とほぼ同様の回答数であった。本学での生活が長くなる 3 年次にさまざまな意見の回答数が増える傾向があると考えられるが、本学として対応できる改善もなされていることから 7 回生に比べ、8 回生の要望が少なくなっていると考えられる。ただし、回生間の特性の違いも考えられるため、7 回生と比べ 8 回生は大人しいということが原因かもしれない。生活環境については「アメニティ」についての意見が平成 29 年度では相対的に高くなつた。例年要望の上がる、「ロッカー」、「机・椅子」については、今後も改善は難しい状況である。依然として「スクールバス」の要望も多くあるが、これも学科レベルでの対処は困難である。学食に関する要望は経年に少なくなっているが、29 年度でも「値段が高い」という意見があげられている。昨年度、気になる意見とした「キャンパスが不衛生」、「教室

が汚い」の意見は、29年度では見られなくなった。平成29年度の要望に「ゴミ箱増設」とあるが、これはホーム教室と同階の廊下に分別ゴミ箱が設置されているのにも関わらず、教室内にもゴミ箱の設置を求めているものであり、衛生上より対応すべきでないと考える。

特色に関する意見は少なかった。平成29年度の意見は「本学の良い評判を聞かない」という辛辣な1件のみであった。本学のイメージ、卒業生たちの社会での評価など、広報的に調査が必要な事項であると考えられ、調査結果をもとに全学的に対応を考えるべき事項と思われる。

アンケートの自由回答は、一昨年度調査で目立ったネガティブな意見は、昨年度から引き続き減少傾向にあり、回答数も減少傾向となった。しかし、生活環境面での不満の意見には昨年度と同様の意見もみられる状況となっている。これらの不満に対して、すべて直ちに改善すべきとは思われないが、継続して不満として上げられる意見に対して、大学側の対応姿勢や考えが学生に見えない状況は、さらに不満を募らせるものと考えられる。大学と学生との間で、思い・考えの交換を活性化させるために、すこしでも大学側が改善を努力し結果を学生に示していく必要があろう。